

神奈川県立 生命の星・地球博物館 年報

第 24 号 (2018 年度)

KPMNH Yearbook
No. 24

2018. 4–2019. 3

Web 版



神奈川県立 生命の星・地球博物館
Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Odawara, Kanagawa, JAPAN
Jun. 2019

ごあいさつ

日頃より、当館の活動と運営につきまして、ご理解とご支援、ご協力をいただいておりますこと、あらためてお礼申し上げます。

さて、当館の2018年度事業総括として本誌「神奈川県立生命の星・地球博物館年報第24号」を発行いたしましたので、ご一読いただければ幸いです。

当館ではその使命に基づき、「集める」「調べる」「伝える」を活動の基本において、諸処の活動を継続的に実践しております。博物館を取り巻く情勢は決して万全とは言えませんが、当館では職員だけでなく委託業者の方々も含めて、それぞれがその役割をしっかりと意識し、創意工夫と努力をして館の運営管理にあたっておりますことをご理解いただければと思います。

以下、昨年度の事業概要を簡単にご紹介します。「集める」（資料収集事業）では、約4万8千点の資料を登録しました。博物館の根幹となる資料は、時代とともに種類が多様となり、様々な形態の資料を収集保管しています。2018年度末までの総登録資料点数は84万点以上に達しました。また、収集した資料に学術的な価値を付加し、様々な利用に対応するための「調べる」（調査研究活動）では、学芸員の日頃の努力と研鑽により数多くの論文等が発表されました。そして、それらの活動成果を基にした「伝える」（展示・普及活動）では、特別展「植物誌をつくろう!」、企画展「日本最後の秘境 南硫黄島」や「箱根ジオパーク展」などの展示活動のほか、各種の普及行事、資料の外部利用やレファレンス等を通じて社会に伝え、様々なニーズに応えました。このような毎年の活動の積み重ねが、2018年10月の入館者700万人到達にもつながったものであると思います。

開館から24年が過ぎ、当然のことながら施設や設備の老朽化と収蔵スペースの狭隘化が益々進行しています。それ以外にも様々な課題がありますが、できることから解決していけるように職員一同努力してまいりますので、今後ともご支援、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

2019年6月
神奈川県立生命の星・地球博物館

館長 **平田 大二**

神奈川県立生命の星・地球博物館の使命

神奈川県立生命の星・地球博物館は、地球と生命・自然と人間がともに生きることをテーマに活動する自然史博物館として、地球全体の過去から現在にわたって幅広く、また、神奈川を中心に、自然科学に関する資料を収集・収蔵管理し、次の世代に引き継ぐ。あわせて、これらの資料を基にした調査・研究結果を原動力として、生涯学習や学校教育の支援ならびに社会的貢献を行うことにより、人々の心に地球の自然に対する愛着と感動を呼び起こすことを使命とする。



シンボルマークは、生命の根源（DNA）を表すスパイラル（らせん）をイメージしています。スパイラルとは「時の流れ」を現すものであり、脈々として

地球の営み、生命の進化の足跡をたどるものです。また同時に、私たちの銀河系、地球とそこに生きるものすべてが属している宇宙のかたちをシンボル化しているものです。

神奈川県立 生命の星・地球博物館

Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

ロゴタイプは、視覚的、感覚的に訴える力が強く、他との区別をはかるために設定しました。シンボルマークとの調和を保ち、ニュートラルで読みやすいものをめざしました。

目次

ごあいさつ		5. 6. 博物館のボランティア活動	73
神奈川県立生命の星・地球博物館の使命		5. 7. 広報	76
シンボルマーク・ロゴタイプ		6. 刊行物	77
I 沿革	4	6. 1. 定期刊行物	77
1. 沿革	4	6. 2. 刊行物販売状況	80
2. 2018 年度の主な出来事	5	7. 情報システム	81
II 機能	6	7. 1. システムの概要	81
1. 運営管理機能	6	7. 2. サブシステムの紹介	82
1. 1. 事業体系	6	7. 3. インターネットの利用	83
1. 2. 組織	7	7. 4. 情報提供	83
1. 3. 職員名簿	8	8. 連携機能	85
1. 4. 利用者	9	8. 1. 友の会	85
1. 5. 歳入歳出決算	9	8. 2. サロン・ド・小田原	87
2. 情報発信機能	10	8. 3. 神奈川県西部地域ミュージアムズ連絡会	88
2. 1. 常設展示	10	8. 4. 館内施設等の状況	91
2. 2. 特別展示	14	III 資料	92
2. 3. その他の展示	18	1. 条例・規則（抜粋）	92
2. 4. SEISA ミュージアムシアター	19	1. 1. 神奈川県立の博物館条例	92
2. 5. ミューズ・フェスタ 2019	21	1. 2. 神奈川県立の博物館組織規則	93
3. シンクタンク機能	23	1. 3. 神奈川県立の博物館の利用等に関する規則	94
3. 1. 調査研究事業	23	2. 館年表	96
3. 2. 研究助成金による研究	24	2. 1. 再編整備決定から開館まで	96
3. 3. 著作活動・学会発表等	25	2. 2. 開館から 2018 年度末まで	96
3. 4. レファレンス対応人数	38	3. 統計資料	98
3. 5. 各種委員・役員・非常勤講師	39	3. 1. 利用者状況	98
3. 6. 講師依頼等	42	3. 2. 年度別利用者数の推移	99
3. 7. 学術交流	44	3. 3. 特別展・企画展開催実績	100
3. 8. 他施設・団体への協力	44	3. 4. 資料登録実績	102
3. 9. 外部研究者の受け入れ	45	3. 5. ウェブサイトアクセス実績	104
3. 10. 名誉館員	46	3. 6. 魚類写真資料データベースのアクセス実績	104
4. データバンク機能	47	3. 7. FishPix のアクセス実績	105
4. 1. 資料概況	47	3. 8. WESKAMS ミュージアム・リレー開催記録	105
4. 2. 図書資料収集状況	56	3. 9. 来館者アンケート	109
4. 3. 資料利用状況	57	4. 調査研究関連資料	114
4. 4. 資料燻蒸	59	4. 1. 研究成果	114
5. 学習支援機能	59	4. 2. 研究成果（外部資金助成等・共同研究等）	122
5. 1. 生涯学習への対応	60	5. 施設概要	126
5. 2. 学校教育への対応	66	5. 1. 土地・建物	126
5. 3. 博物館実習	68	5. 2. 設備	127
5. 4. ミュージアムライブラリーにおける学習支援活動	70	5. 3. 面積表	129
5. 5. 学習指導員による学習支援活動	70	5. 4. 平面図	130

I 沿革

1. 沿革

1986 年	12 月	第二次新神奈川計画において、博物館の再編整備が決定
1988 年	7 月	神奈川県立自然系博物館（仮称）を小田原市入生田に建設することが決定
	12 月	神奈川県立博物館整備構想懇談会（座長：渡邊 格（慶應義塾大学名誉教授））から提言
1989 年	3 月	神奈川県立自然系博物館（仮称）整備計画策定
	4 月	教育庁社会教育部社会教育課に博物館建設準備班を設置
1990 年	3 月	自然系博物館の建設事業が、小田原市との協調事業となる
	10 月	建築基本設計着手
1991 年	3 月	自然系博物館（仮称）建設用地（小田原市入生田）取得
	4 月	組織改正により教育庁社会教育部社会教育課が、生涯学習部生涯学習課となる
	10 月	第一期造成工事着手
1992 年	4 月	組織改正により生涯学習部博物館開設準備室となり、企画調整班、自然系整備班、人文系整備班、展示・資料整備班の 4 班体制となる
	10 月	自然系博物館（仮称）建築工事着工 自然系博物館（仮称）展示工事着工
1994 年	12 月	自然系博物館（仮称）建築工事竣工
1995 年	1 月 1 日	神奈川県立生命の星・地球博物館が機関設置され、濱田隆士館長就任。管理部に管理課、経理課、企画情報部に企画普及課、情報資料課及び学芸部の 3 部 4 課を置く
	3 月	博物館法第 11 条の規定に基づく登録博物館となる
		生命の星・地球博物館展示工事竣工
	3 月 8 日	平成 6 年度第 1 回神奈川県博物館協議会（神奈川県立歴史博物館）
	3 月 20 日	開館記念式典実施
	3 月 21 日	一般公開開始
	5 月 7 日	入館者 10 万人到達（41 日目）
	9 月 24 日	入館者 30 万人到達（158 日目）
1996 年	4 月	シンボルマーク製作
	4 月 17 日	入館者 50 万人到達（321 日目）
1997 年	7 月 23 日	入館者 100 万人到達（705 日目）
1998 年	3 月 30 日	天皇皇后両陛下下行幸啓
	11 月 3 日	入館者 150 万人到達（1,090 日目）
2000 年	3 月 31 日	濱田隆士館長退任
	4 月 1 日	青木淳一館長就任
	8 月 6 日	入館者 200 万人到達（1,613 日目）
2001 年	3 月 27 日	神奈川県博物館協議会を廃止
2002 年	7 月 19 日	入館者 250 万人到達（2,206 日目）
2004 年	5 月 25 日	入館者 300 万人到達（2,770 日目）
2006 年	3 月 31 日	青木淳一館長退任
	4 月 1 日	管理課と経理課が統合され、管理課、企画情報部の企画普及課、情報資料課及び学芸部の 2 部 3 課となる。
		斎藤靖二館長就任
	7 月 8 日	入館者 350 万人到達（3,409 日目）
2008 年	8 月 12 日	入館者 400 万人到達（4,062 日目）
2010 年	10 月 21 日	入館者 450 万人到達（4,863 日目）
2012 年	8 月 3 日	入館者 500 万人到達（5,183 日目）
2013 年	10 月 8 日	天皇陛下下行幸
2014 年	1 月 13 日	入館者 550 万人到達（5,716 日目）
	3 月 31 日	斎藤靖二館長退任
	4 月 1 日	平田大二館長就任 斎藤靖二名誉館長就任
2015 年	8 月 29 日	入館者 600 万人到達（6,190 日目）
2017 年	5 月 3 日	入館者 650 万人到達（6,667 日目）
2018 年	10 月 26 日	入館者 700 万人到達（7,104 日目）

2. 2018 年度の主な出来事

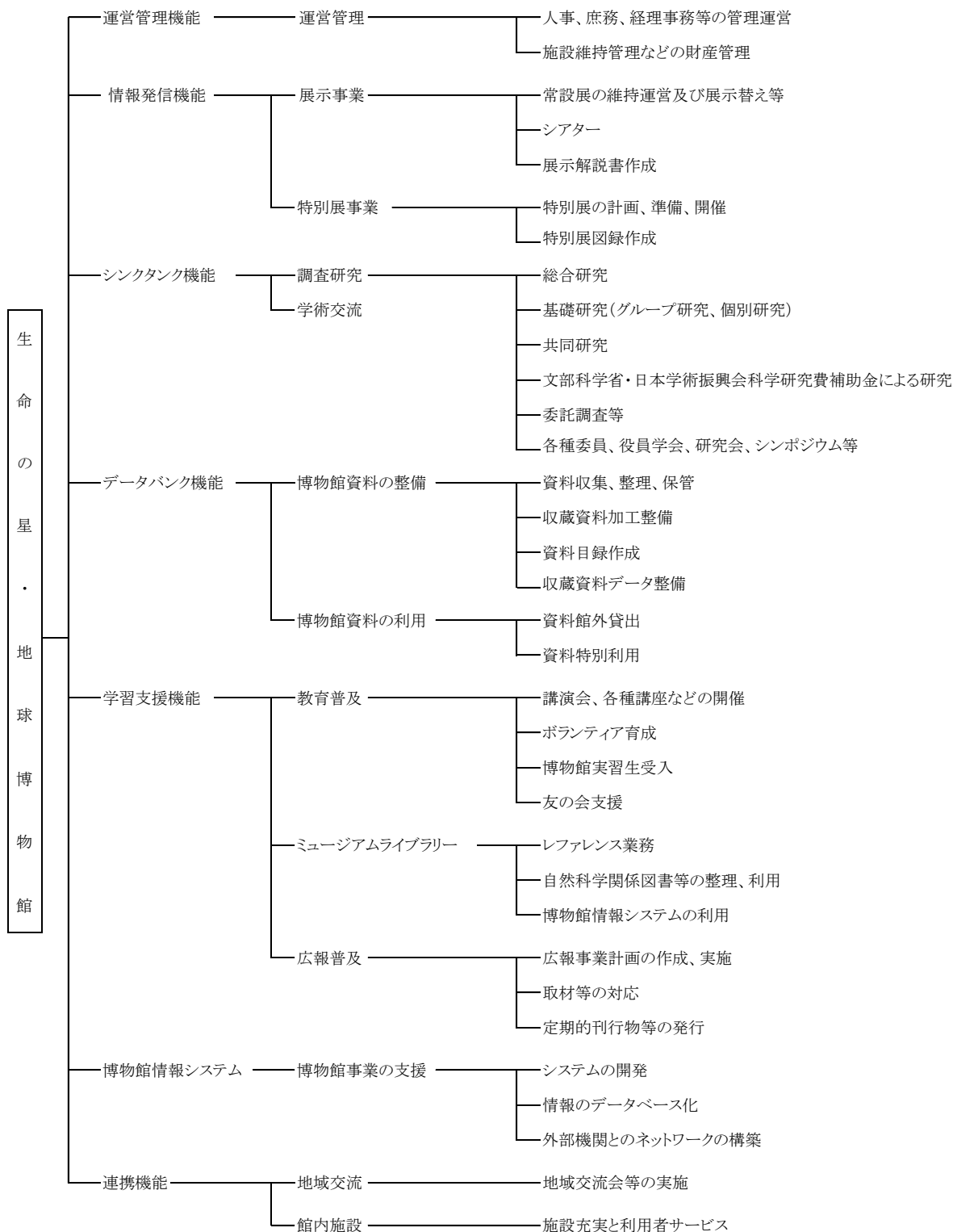
2018 年	4 月	1 日			定期人事異動
	4 月	14 日			第 129 回サロン・ド・小田原「石川県の桑島層（前期白亜紀）から発見された小さな両生類の化石」
	5 月	19 日			第 130 回サロン・ド・小田原「ヒゲクジラの“ヒゲ”の役割って何だろう？」
	6 月	12 日	～	15 日	燻蒸
	7 月	14 日	～	11 月 4 日	特別展「植物誌をつくろう！～『神奈川県植物誌 2018』のできるまでとこれから～」
	7 月	17 日	～	8 月 31 日	夏休み期間中無休開館期間
	9 月	8 日			第 131 回サロン・ド・小田原「『神奈川県植物誌 2018』でわかったこと」
	10 月	26 日			入館者 700 万人到達（7,104 日目）
	11 月	17 日			第 132 回サロン・ド・小田原「海中を彩るスターたち～フィールドの棘皮動物学～」
	11 月	17 日	～	12 月 9 日	企画展「日本最後の秘境 南硫黄島～10 年ぶりの学術調査から～」
	11 月	30 日			改訂新版 展示解説書の刊行
2019 年	12 月	22 日	～	1 月 14 日	子ども自然科学作品展
	2 月	23 日			第 133 回サロン・ド・小田原「活火山・箱根の発見」
	2 月	24 日			天皇陛下御在位三十年記念慶祝事業 無料公開
	3 月	2 日	～	5 月 12 日	企画展「箱根ジオパーク展～身近な火山と友だちになる～」
	3 月	16 日	～	17 日	ミューズ・フェスタ 2019

博物館の再編整備の決定以降、2018 年度までの出来事の概略
 に関しては、Ⅲ 資料の項（96～97 ページ）に掲載した。

Ⅱ 機能

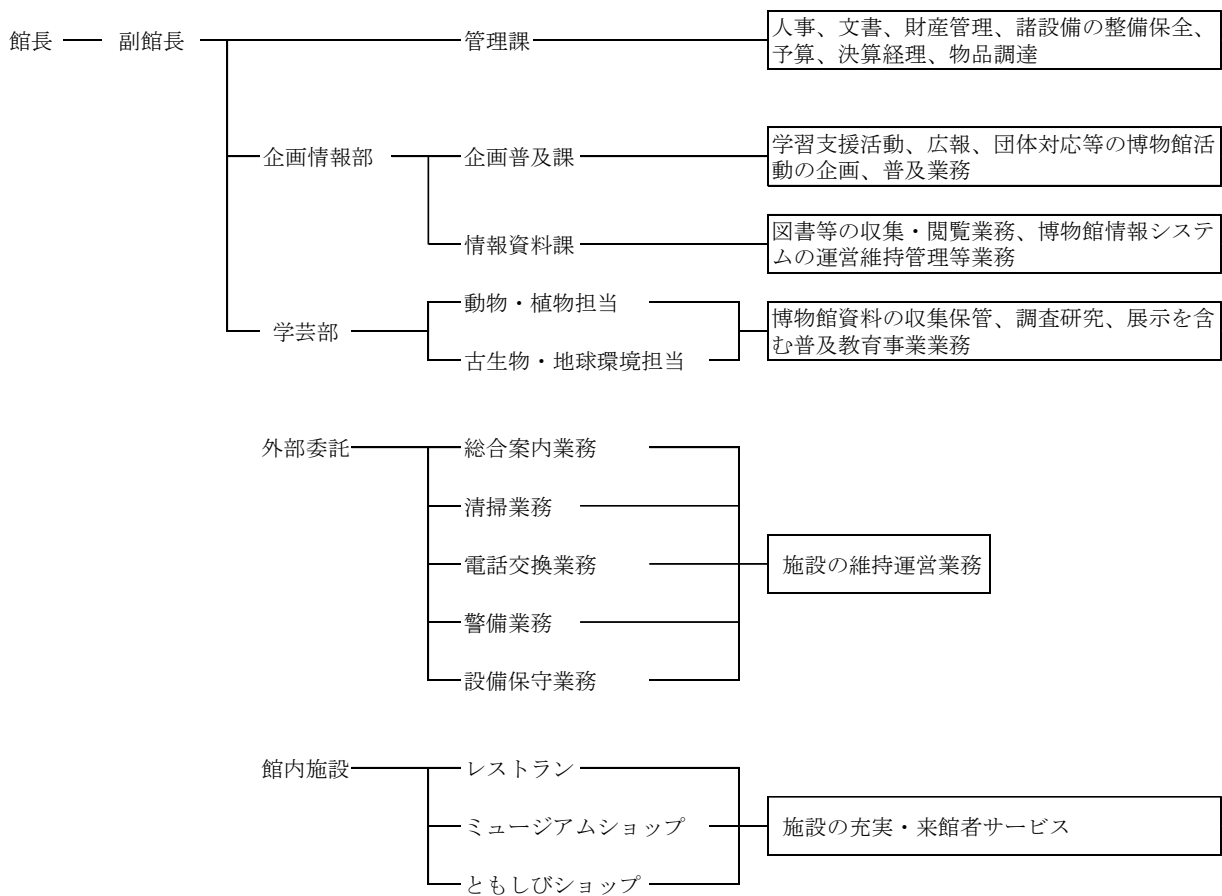
1. 運営管理機能

1.1. 事業体系



1.2. 組織

1.2.1. 組織および分掌



1.2.2. 職員構成

平成 30 年 4 月 1 日現在										
区分		常勤			非常勤				合計	
		事務職	学芸員	司書	事務職	技術職	学芸員	司書		指導員
名誉館長							1			1
館長			1							1
副館長		1								1
管理課		8			1	1				10
企画情報部	部長	1								1
	企画普及課	3	4		1				5	13
	情報資料課	1	2	1	1		1	1		7
	小計	5	6	1	2		1	1	5	21
学芸部	部長		1							1
	動物・植物		7							7
	古生物・地球環境		5							5
	小計		13							13
合計		14	20	1	3	1	2	1	5	47
		35			12					
指導員＝博物館学習指導員、再任用職員は常勤に含む										

1.3. 職員名簿

掲載省略

1.4. 利用者

2018 年度の博物館利用者数について、利用内容ごとに延べ人数を集計した。学芸員によるレファレンス対応人数の詳細は 38 ページ、それ以外の利用者状況詳細は 98～99 ページ、開館以来の入館者数統計は 99 ページを参照のこと。

◆博物館利用者 334,172 人

2018 年度の博物館総利用者数。「入館者」＋「講座・観察会・講演会・研修等参加者」＋「学芸員への質問・相談者」の合計。

◆入館者 313,533 人（1,081 人／開館日）

エントランスに設置したカウンターにより集計。

◆常設展入場者 239,320 人（825 人／開館日）

券売機による発券数に基づき集計。招待券については無料券と引き替えて算入。

◆ライブラリー利用者 98,136 人

ライブラリー出入口に設置したカウンターにより集計。書籍閲覧、学習指導員による学習支援、レファレンスなど。

◆講座・観察会・講演会・研修等参加者 16,513 人

講座・観察会、講演会、研修（館内で実施のもの）、サロン・ド・小田原、よろずスタジオ・共催よろずスタジオ、学芸ボランティア・ライブラリーボランティア・展示解説ボランティア、大学生の博物館実務実習の参加者数。

◆特別展・企画展等入場者 55,749 人

「特別展」と「企画展」を主とした特別展示室入場者数。特別展示室の出入口に設置したカウンターにより集計。

◆学芸員への質問・相談者 4,126 人

学芸員によるレファレンス対応人数。来館、電話、ファックス、手紙、電子メール、出前などを通じた延べ対応人数で、マスコミ取材、企業や自治体からの質問、相談等を含む。

1.5. 歳入歳出決算

平成 30 年度歳入

科目	金額(千円)	内訳
教育財産使用料	1,933	レストランほか建物使用料
博物館使用料	48,723	観覧料収入
		常設展 47,484
		特別展 1,239
立替収入	1,371	レストランほか電気・ガス・水道料
図書等売払収入	892	展示解説書等販売収入
雑入	21	ライブラリー複写代
合計	52,940	

平成 30 年度歳出(社会教育費のみ)

科目	金額(千円)	内訳
維持運営費	179,534	館の維持管理及び事業運営
博物館事業費	15,190	総合案内業務・特別展の開催 総合研究・基礎研究・調査研究報告書の作成・博物館資料収集・収蔵展示資料修繕、加工・各種講座・講演会等の開催・図書等資料整備・広報資料作成
情報システム整備費	2,040	データ入力等
合計	196,764	

2. 情報発信機能

当博物館は「生命の星・地球」を基本テーマとして、46 億年にわたる地球の壮大な歴史と生命の多様性、そして神奈川の自然について、実物資料を中心にストーリー性をもってわかりやすく展示している。

具体的には、4 つのサブテーマおよびジャンボブックで構成する常設展示と、特定テーマにより開催する特別展示、ハイビジョンやクイズ映像を上映する SEISA ミュージアムシアターなどで、来館者に情報を発信している。

2.1. 常設展示

常設展示は、基本テーマ「生命の星・地球」を解説する「常設展示室」と、実物百科展示「ジャンボブック展示室」のほか、ミュージアムライブラリー前に設置されている「情報コーナー」とエントランスホール「記念撮影コーナー」から構成される。

2.1.1. エントランスホール

エントランスホールには、過去の地球環境に生息していた生物の代表として、白亜紀の陸・海・空から、陸：恐竜（チンタオサウルス）、海：魚類（クシファクチヌス）、空：翼竜（アンハングエラ、トウプクサーラ）をシンボルとして展示している。また、これらを展示しているステージでは、ガイダンス映像（上映時間：3 分 20 秒）を繰り返し上映している。この映像では、開館当時から出演者による手話によって、聴覚障がい者への対応を行っているが、2006 年 7 月より日本語字幕を追加した。また、「記念撮影コーナー」として、ミュージアムシアター入り口付近にアラスカヒグマの剥製を 2005 年 11 月 3 日より展示している。

2.1.2. 常設展示室

基本テーマ「生命の星・地球」に沿ったストーリー展開を見せるため、常設展示を次の 4 つのサブテーマに分けて展示を行っている。

地球を考える展示室

「地球を考える」では、地球の形成過程や地球の仕組み、生命の誕生と生命の営みによって地球環境が変わってきた様子などを、岩石、鉱物、化石などの標本類と、画像、映像資料を活用して展示している。

生命を考える展示室

「生命を考える」では、約 4 億年前から現在まで、地球上のあらゆる環境に出現した多様な生物種と生命の進化の過程について、動植物化石、動物剥製、昆虫標本、植物標本などの実物資料を中心に展示している。

神奈川の自然を考える展示室

「神奈川の自然を考える」では、神奈川の大地の生い立ちと、神奈川の生物相や自然の現状について、岩石や化石、動物剥製、植物模型などで展示している。

自然との共生を考える展示室

「自然との共生を考える」では、生命を誕生させ育みつづけてきた地球環境が、人類の活動により様々な影響をうけ変化していることを、映像、画像資料を中心に展示している。

2018 年度の展示変更及び更新

①総合展示室 展示照明更新

[展示期間] 2018 年 9 月 10 日～

[展示概要] 展示資料を照らすスポットライトを、ハロゲン電球を使用したものから LED を使用したものに更新した。

[更新内容] 地球展示室「いん石のいろいろ」「地球の仕組」、生命展示室「鳥類の世界」「ゾウの進化」のスポットライト 19 基、生命展示室「恐竜の時代」「ゾウの進化」「森の開拓者・霊長類」の直付スポットライト 10 基。

[担当] 新井田秀一

[展示概要] 展示グラフィックパネルに表示されている点字が破損したものや誤字が 10 点あり、同じ内容のものを制作し更新した。また、マンボウからウシマンボウに種名学名が変更になった資料があるため、パネルと資料ラベル 2 点を同等の規格で制作し更新した。

[更新内容] 点字破損・誤字：展示協力者、地球の営みがつくった景観と岩石、Arbores vivorum、食虫類、昆虫の「大きさ」、生き物と DNA、アドマイアーいん石、枕状岩石(玄武岩)、ヒプセロサウルスの卵、プレートテクトニクス

種名学名修正：頭の上を泳いでいる魚たち、魚類の基本的な体形

[担当] 新井田秀一

②「地球を考える」および「生命を考える」展示室

展示グラフィックパネル等更新

[展示期間] 2019 年 3 月 26 日～

2.1.3. ジャンボブック展示室

博物館が所蔵する動物、植物、化石、岩石、鉱物など膨大な標本類の一部を、系統分類、コレクション、個別テーマなどに項目分けをして、巨大な本にみたてた展示ケースに収納し、「実物百科事典」として展示している。

2.1.4. ミュージアムライブラリー情報コーナー

博物館 2 階「ミュージアムライブラリー」入口にある情報コーナーは、最新の科学や研究情報、博物館に関連するタイムリーな話題などを、いち早く来館者に提供することを目的として設置されている。このコーナーには主に紙面による情報を提供する情報展示パネルと、標本や関連資料による情報をウォールケースにて展示するミニ企画展示コーナーがある。

情報展示パネル

① 友の会紹介コーナー

[展示内容] 生命の星・地球博物館友の会の活動紹介

[展示更新] 随時、とくに活動報告など

[担当] 生命の星・地球博物館友の会広報部

② 博物館周辺の身近な自然

[展示内容] 『自然を楽しむみち』のコースおよび解説 1～9 の紹介

ミニ企画展示コーナー

最長3ヶ月を目安に展示替えをしながら、最新の情報を提供することを目的としてつぎの「ミニ企画展示」を開催した。

① 『里蜂—さとばち—』 古民家とハチはともだち

[展示内容] 2017年に県内随一の古民家の保存施設である川崎市立日本民家園が、開園50周年を迎えた。この記念すべき年にあわせて、生命の星・地球博物館の学芸員とボランティアによる調査隊が、川崎市立日本民家園と川崎市青少年科学館の協力を得て、敷地内の建造物に住む里蜂を調査した。その結果、都市部に囲まれた地域であるにもかかわらず、驚くほど多種多様なハチたちが生き残っていることが判明した。本展示では、調査で得られたハチの標本と新発見を展示し、古民家とハチ、双方の切り口から里山の自然を紹介した。

[開催期間] 2018年1月11日～2018年4月8日

(好評につき期間延長した)

[担当] 渡辺恭平

② 『自然科学のとびら』から探索を楽しむ：アナログでハイパーコネクテッド!?

[展示内容] 2018年5月18日の「国際博物館の日」のテーマ“Hyperconnected museums: New approaches, new publics”(新次元の博物館のつながり—新たなアプローチ、新たな出会い—)を背景した展示を行った。当館刊行物の『自然科学のとびら』の拡大印刷した紹介に加えて、本展示では、「博物館からの情報をきっかけにして、自らの足で、探索・探検し、情報を紡ぎ、発見を楽しむプロセス」に重要なことがあることをメッセージとした。

[開催期間] 2018年5月1日～2018年6月19日

[担当] 田口公則・大島光春

③ アオバト—海辺で見られる緑色のハトたち

[展示内容] アオバトは日本に夏鳥、または留鳥として生息するハトの仲間で、神奈川県では主に夏鳥と

して丹沢山地や箱根山などの森林に渡来し、子育てを行う。ふだんは山地の森林でくらす、大磯町照ヶ崎海岸では5月初旬から11月初旬にかけて、毎朝のようにアオバトが観察され、数十羽から多いときには数百羽もの群れが見られるときもある。飛んできたアオバトは岩場で海水を飲んだ後、再び山へと飛んでいくことが知られている。本展示では、海辺で見られる緑色のハトたちの生態をはく製や写真による紹介のほか、照ヶ崎海岸でのアオバト観察のコツを紹介した。

[開催期間] 2018年6月30日～2018年7月29日

[担当] 加藤ゆき

④ 明治150年記念展示 明治日本の自然史科学の夜明け—生物学における標準和名の誕生と日本社会に与えた影響—

[展示内容] 標準和名とは、種や属、科といった生物の分類学上の単位に固有な日本語名で、対象となる生物を特定し、共通の理解を得るために欠かせないものとして、学問の進歩や普及、教育に大きく貢献してきた。図鑑や学術出版物、博物館や動物園、水族館で展示している生物のラベルはもちろんのこと、行政や法律の現場でも標準和名は活用されている。本展示では、学術研究の成果を社会に還元する役割を果たした標準和名の歴史を、江戸時代の本草書や明治初期の教科書など、当館所蔵の貴重書を通して紹介した。

[開催期間] 2018年8月11日～2018年9月24日

[担当] 瀬能 宏

⑤ 両生・爬虫類の標本工房

～ボランティア活動報告展～

[展示内容] 博物館の重要な仕事のひとつが、標本製作である。両生・爬虫類の担当学芸員は一人であり、年間に作製できる標本数に限りがあるが、強力な味方であるボランティアとの協働作業により、順調に標本を増やすことが可能になっている。本展示では、

ボランティアと学芸員が作製した、大きなヘビ、オオアナコンダの骨格や、モリアオガエルがオタマジャクシからカエルになるまでの透明標本など、3年間の活動を通して作製した「できたて標本」を紹介した。

[開催期間] 2018年10月2日～2018年11月11日

[担当] 松本涼子

⑥ 頭骨標本で見る哺乳類の多様性と変異

[展示内容] 哺乳類はさまざまな環境に生息しており、その頭骨の大きさや形もさまざまである。当館では現在、約270種約6000点の哺乳類標本を収蔵しており、それらを見て比べることによりそれぞれの種の生活を垣間見ることができる。また、当館の収蔵標本には同一種で100点以上標本があるものも少なくない。例えば、ニホンザルは約650点、タヌキは約450点の頭骨標本がある。同じ種の標本はお互いに似ているが、よく見ると1点1点異なる特徴を持っている（これを「変異」と呼ぶ）。本展示では、哺乳類の頭骨の多様性や変異を頭骨標本や3Dプリンターで作成した模型を使って紹介した。

[開催期間] 2018年11月14日～2018年12月16日

[担当] 鈴木 聡

⑦ 2018年度昆虫採集連続講座 活動報告展～講座受講者が作成した昆虫標本～

[展示内容] 2018年度に博物館で昆虫が好きな児童・生徒を対象に行われた、昆虫採集連続講座および活動報告を紹介したほか、講座の参加者が作成した300個体以上の昆虫標本のうち、70種127個体の標本を展示した。

[開催期間] 2018年12月22日～2019年2月17日

[担当] 渡辺恭平

⑧ 友の会会員430名と共に一学芸員や私たちといっしょに自然を楽しみませんかー

[展示内容] 生命の星・地球博物館友の会では、分野毎にグループ活動をすすめている。本展示では、つぎの8つの活動をパネルや標本で紹介した。『植物観察会』へのお誘い～友の会植物グループ～、「友の会地学グループ～2018活動から～」、「『菌学事始め自主勉強会』の紹介」、「『里山むしにくクラブ』の紹介～友の会昆虫グループ～」、「『よろずスタジオ』のご紹介」、「友の会『樹木観察基礎講座』のご紹介」、「変形菌を探してみよう!」、「友の会講座『地図を楽しもう』のご紹介」

[開催期間] 2019年3月3日～2019年5月6日

[担当] 生命の星・地球博物館友の会広報部

2.1.5. トータルサイン計画

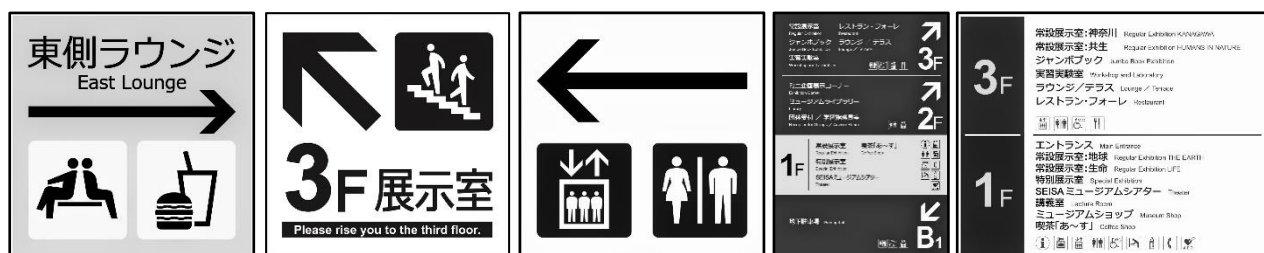
開館より20数年が経過し、当初に設置したサインは、経年劣化してきた。また、その後に追加されたサインは、規格等の不統一性など、必ずしも来館者にとって利用しやすいものではない状況が生じてきた。

そこで、来館者にわかりやすいデザイン構築を目指し、2017年度にひきつづき2018年度も「トータルサイン計画」として、主に誘導サイン等の改善および更新、整備をすすめた。

更新・整備したサイン

- ・エントランスホール北側階段（1階～3階）周り
- ・前庭エレベーター周り（エレベーター外、内）
- ・展示室内エレベーター周り（エレベーター外、内）
- ・生命展示室エスカレーター周り

- ・ラウンジ（西側・東側）案内
- ・地球展示室および生命展示室 順路表示
- ・エントランスホール 特別展示室へのライン（床面アルミテープ）



2.2. 特別展示

当館の持つシンクタンク機能としての調査研究や、データバンク機能としての資料収集などの成果を、広く県民に還元するため、当館特別展示室を使用して特別展・企画展を企画・開催している。2018 年度は特別展を 1 回、企画展を 2 回開催した。

2.2.1. 特別展

特別展 植物誌をつくろう！

～『神奈川県植物誌 2018』のできるまでとこれから～

〔開催期間〕 2018 年 7 月 14 日(土)～11 月 4 日(日)

103 日間

〔会場〕 1 階 特別展示室

〔共催〕 神奈川県植物誌調査会、愛川町郷土資料館、大磯町郷土資料館、神奈川県自然環境保全センター、かわさき宙と緑の科学館（川崎市青少年科学館）、相模原市立博物館、日本大学生物資源科学部博物館、平塚市博物館、横浜市こども植物園

〔後援〕 神奈川新聞社、テレビ神奈川

〔協力〕 厚木市郷土資料館、茅ヶ崎市文化資料館、横須賀市自然・人文博物館

〔展示担当〕 大西 亘、勝山輝男、田中徳久

〔資料点数〕 植物標本 58 点、文献等 47 点、調査用具等 21 点、植物模型 5 点、写真 85 点（野外植物写真・標本写真・調査風景写真・海外標本室外観および内部等）、図表等 34 点

〔展示内容〕

◎1 章 植物誌とは？（導入）

「植物誌」の一般的な説明とともに、神奈川県から地球規模にわたる植物誌のスケールの連続性についての概説。当館が編さんに関わった『神奈川県植物誌 1988』および『神奈川県植物誌 2001』とともに全国の都道府県単位や県内市町村、山域など小地域の植物目録・植物誌の刊行状況を紹介。

【展示物】 県内外および海外の植物目録・植物誌、関連図表。

◎2 章 神奈川県の植物調査史

『神奈川県植物誌 2018』に至る歴史を紐解くため、長崎出島とともに日本国内ではもっとも古く植物標本の記録が残る 17 世紀に遡り、神奈川県の植物調査史を、江戸時代（開国以前）、江戸時代（開国以後）～明治初期、明治中期～『神奈川県植物誌 1988』以前の期間に分けて、標本やそれぞれの時期に著された貴重書を含む文献とともに紹介。

【展示物】 ケンペル著 廻国奇観、海外標本室標本写真、県内の絶滅植物標本など。

◎3 章 『神奈川県植物誌 2018』のできるまで

『神奈川県植物誌 2018』の製作過程を、地域植物誌

の証拠となる「さく葉標本」の紹介、およそ 40 年にわたる「神奈川県植物誌調査会」の活動と地域植物誌の目標設定、全県の網羅的な調査を支えるシステムである「チェックリスト」、実際の野外調査の状況、博物館における標本整理やデータベースの作成、50 万点に及ぶ標本を確認するとともに学術的な知見に基づく記事の執筆に至るまでを、県内 12 の博物館・関連施設の役割とともに詳細に解説。

【展示物】さく葉標本、葉脈標本、『神奈川県植物誌 1988』製作時の資料、自然公園にかかる植物採取許可書、植物調査用具、標本作製用品など。

◎4 章 『神奈川県植物誌 2018』でわかったこと

『神奈川県植物誌 2018』の調査を経て、新たに明らかになりつつある事象を、「新たに記載された植物」、「神奈川県新産の在来植物」、「日本新産の帰化植物」、「分布を拡大、縮小させた在来植物」、「分布を拡大、縮小させた帰化植物」の 5 テーマに分けて解説。

【展示物】さく葉標本、植物模型、野外植物写真、県内記録地図

◎5 章 『神奈川県植物誌』のこれから

17 世紀を起源とする県内の標本に基づく植物調査史、また、1979 年より続く神奈川県植物誌調査のゴールではなく中継点として、『神奈川県植物誌 2018』に至る活動を「地域の植物コレクションの蓄積」、「博物館の標本公開」、「みんなで作る植物誌のこれから」の視点からまとめた。

【展示物】関連文献、関連図表等。

[特別展図録] 2018 年 7 月 13 日発行、84pp.

編集：大西亘

執筆：大西亘、勝山輝男、田中徳久

表紙デザイン原案：本杉弥生

[ポスター・チラシ・招待券]

本杉弥生（デザイン）

[入場者数] 20,084 人

[関連行事]

◎ワンポイント展示解説

《日時》 2018 年 7 月 16 日(月・祝)、8 月 5 日(日)、

9 月 2 日(日)、11 月 4 日(日)

各日とも 11 時～、13 時 15 分～の 1 日 2 回

《場所》 当館特別展示室

《講師》 勝山輝男、田中徳久、大西 亘

《参加者数》 各日 22 名、18 名、4 名、19 名

◎講座「ヒュとアカザ」

《日時》 2018 年 9 月 9 日(日)13 時 30 分～15 時 30 分

《場所》 当館実習実験室

《講師》 勝山輝男

《対象》 高校生、学生、大人

《参加者数》 29 名

◎講座「植物図鑑の使い方（樹木編）～この木なんの樹？～」

《日時》 2018 年 10 月 6 日(土)10 時～15 時

《場所》 当館実習実験室

《講師》 大西 亘

《対象》 小学 4 から 6 年生、中学生、高校生、学生、大人

《参加者数》 27 名

◎講座「秋の里山の植物（IGES 国際生態学センターとの共催）」

《日時》 2018 年 10 月 13 日(土)10 時～15 時

《場所》 横浜市（円海山）

《講師》 田中徳久

《対象》 小学 1 から 6 年生、中学生、高校生、学生、大人

《参加者数》 44 名

◎講演会

《日時》 2018 年 7 月 15 日(土)15 時～16 時

《場所》 当館 SEISA ミュージウムシアター

《講師》 勝山輝男

《演題》 地域植物誌のできるまで

《参加者数》 112 名

◎サロン・ド・小田原（友の会との共催）

《日時》 2018 年 9 月 8 日(土)14 時～16 時 20 分

《場所》 当館講義室および特別展示室

《講師》 田中徳久

《演題》『神奈川県植物誌 2018』でわかったこと

《参加者数》 47 名

〔新聞連載〕 神奈川新聞の紙面にて「神奈川県植物

誌のいま・昔・未来 緑の戸籍簿」と題して、全 4 回の連載を行った。

2.2.2. 企画展

日本最後の秘境 南硫黄島

～10 年ぶりの学術調査から～

〔開催期間〕2018 年 11 月 17 日(土)～12 月 9 日(日)

開催日数 19 日

〔会場〕1 階 特別展示室

〔協力〕小笠原自然文化研究所、牧野標本館、ふじのくに地球環境史ミュージアム、東京都、首都大学東京、NHK、ボニインタープリター協会、公益財団法人東京都公園協会、南硫黄島自然環境調査隊 2017

〔趣旨〕2017 年に実施された 10 年ぶりの南硫黄島の総合調査は、2018 年春に報告書が出版され、同年 9 月に NHK の番組でも取り上げられた。標本や写真等を用いてこの調査の成果を紹介した。

〔企画担当〕 荻部治紀

〔入場者数〕 8,330 人

〔展示内容〕南硫黄島は人が定住した歴史を持たない原生の島である。外来生物による深刻な影響を受けておらず、海洋島本来の進化の歩みがみられる。2007 年に東京都と首都大学東京により、戦後 2 回目の自然環境調査が実現し、四半世紀ぶりにヴェールを脱いだ島の姿に注目が集まった。それから 10 年が経ち、東京都、首都大学東京、NHK によって再び調査が行われた。今回の調査では、土壌動物や菌類など未調査の生物群を調べたほか、最新技術 UAV（ドローン）による島全体の撮影など、南硫黄島の自然の新たな側面に迫った。これら最新情報と過去の成果をわかりやすく対比し展示した。

◎パネル、機材等の展示

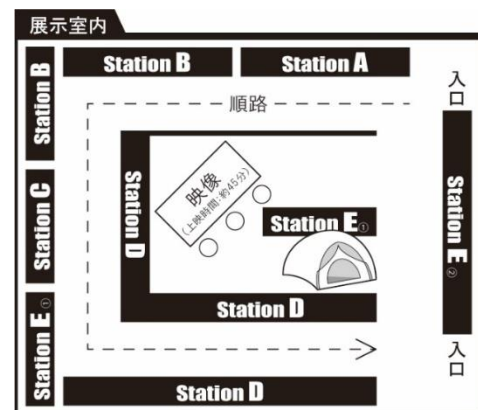
・Station A：南硫黄島ってどんな島？

・Station B：調査のための準備／検疫／ルート工作／南硫黄島の生活

・Station C：10 年の変化／生物相の起源／外来種／南硫黄島に“無いもの”、“にしか”無いもの

・Station D：昆虫／土壌動物／爬虫類／陸生甲殻類／陸産貝類／気象と植生／維管束植物／コケ・地衣類／菌類／海洋生物／鳥類

・Station E：こぼれ話①進化した機材／②10 年前の企画展の遺産



〔関連行事〕 企画展関連講演会

・「隊員は見た！10 年の島の変化の実態－原生自然も変わるのだ－」

日時：2018 年 11 月 18 日（日）

場所：SEISA ミュージアムシアター

講師：5.1 生涯学習への対応（60 ページ）に記載

参加者数：78 人

・「隊員は見た！10 年間の変化と明らかになってきた島での進化」

日時：2018 年 12 月 9 日（日）

場所：SEISA ミュージアムシアター

講師：5.1 生涯学習への対応（60 ページ）に記載

参加人数：75 人

企画展 箱根ジオパーク展

～身近な火山と友だちになる～

[開催期間] 2019 年 3 月 2 日 (土) ～5 月 12 日 (日)

開催日数 60 日 (年度内は 24 日)

[会場] 1 階 特別展示室

[共催] 箱根ジオパーク推進協議会

[後援] 日本ジオパークネットワーク、神奈川新聞社、
テレビ神奈川

[資料借用] 箱根ジオミュージアム、小田原市教育委員会、真鶴町立遠藤貝類博物館、神奈川県温泉地学研究所、陶研究会、箱根を守る会、パークボランティア、入生田なかよし子ども会、秋山英治氏

[展示協力] 木村洋子、市川真奈、金子早智子、庄司文子、田村恵補、中村千恵、長谷川洋子、匹田百合子、松井理作

[企画担当] 笠間友博、新井田秀一、山下浩之

[入場者数] 37,991 人 (2019 年 3 月 2 日～3 月 31 日までは、16,174 人)

[資料点数] 標本 64 点、解説パネル 75 点、秋山英治氏提供写真 5 点、入生田なかよし子ども会提供習字作品 23 点、第 4 回箱根ジオパークフォトコンテスト入賞作品 11 点

[展示内容] 箱根火山は、箱根町、小田原市、真鶴町、湯河原町の取り組みによって、2012 年に 1 市 3 町の地域が日本ジオパークに認定された。

その後、2016 年に南足柄市が加わった新しい箱根ジオパークが日本ジオパークに認定され、見どころであるジオサイトも 41 か所から 49 か所に増え、2020 年には日本ジオパークの再認定審査を迎える。一方、2015 年には大涌谷で小規模な火山灰の噴出や火山ガス噴出量の増加があり、活火山としての箱根を再認識させられた。

本展示では、南足柄市が加わった箱根ジオパークについて改めて広く周知するとともに、箱根火山の形成で重要な役割を果たした火山活動(溶岩と火山灰の噴出)に着目した展示を行い、日本列島に人が来る前から存在し、今後も活動を続ける箱根火山と「持続可能な関係を築く」

(=本企画展ではこれを友だちになると表現する)には、どうしたらよいのか、防災を含め来館者に考えていただく機会とした。

◎箱根火山と友だちになるために

- ・時間スケールの違いを理解するための、年表パネルを用いた箱根の歴史と日本人の歴史・火山活動の大小と人がもつ大小の感覚を比較した、火山活動規模の違いを理解するパネル

◎箱根火山の現在の姿 (ジオパーク紹介)

- ・ジオパーク紹介 (パネル): ジオパークとは、日本ジオパーク、世界ジオパークの紹介
- ・箱根ジオパークのジオサイト、ジオストーリーの紹介 (パネル)
- ・2 市 3 町 of 全ジオサイト詳細紹介

◎箱根火山の過去の姿 (火山活動及び周辺の大地の活動)

- ・2015 年の大涌谷の噴火活動
- ・箱根の地下構造 (神奈川県温泉地学研究所の成果展示)
- ・箱根と周辺地域の大地の活動
- ・箱根火山の火山灰 (剥ぎ取り標本: 三浦縦貫道 TP、芦之湯 TP、風で運ばれるテフラ (風船を使用した体験展示)、箱根火山の溶岩 (剥ぎ取り標本: 対岸溶岩、岩石標本)、周辺にある活断層等の紹介)

◎箱根火山との未来 (ずっと友だちであるために)

- ・箱根を守る会、パークボランティアらによる箱根の保全活動の紹介
- ・火山防災の紹介

◎ミニ体験展示

- ・風で運ばれる軽石
- ・疑似溶岩流

◎秋山英治氏提供写真

◎入生田なかよし子ども会提供習字作品

◎第 4 回箱根ジオパークフォトコンテスト入賞作品

[ポスター・チラシ] 橘 里奈 (神奈川県立産業技術短期大学校産業デザイン科2年) の作品を採用。採用作品を含め、応募があった12作品の原画をエントランスホールに展示した。

[関連行事] 関本丘陵の箱根火山火砕流堆積物 (野外観察会)

日時：2019年3月10日(日)

場所：南足柄市関本丘陵周辺

講師：笠間友博、新井田秀一、山下浩之

対象：小学4～6年生、中学生、高校生、教員

参加者数：8人

2.3. その他の展示

2.3.1. 子ども自然科学作品展

[開催期間] 2018年12月22日(土)～2019年1月14日(月・祝) 開催日数 13日

[会場] 1階 特別展示室

[企画担当] 石浜佐栄子、下出朋美 (企画普及課)

[展示担当] 高橋綾子、山田茂広、杉崎 均、
泉 在道、市川美紀子 (学習指導員)

[入場者数] 3,616人

[内容] 児童・生徒の自然科学への関心を高め、その取り組みを支援・奨励して発展させることを目的に、自然科学分野の研究作品 (夏休みの自由研究など) を集め展示を行った。作品の募集は、県西地

区の公立小・中学校に対して行うとともに、当館に夏休み小・中学生理科自由研究相談で来館した児童・生徒にも行った。応募作品数は、26校58名の57作品で、内訳は小学校16校34作品、中学校10校23作品であった。また分野別でみると動物18点、植物24点、古生物3点、地学8点、地球環境4点であった。各作品には当館学芸員からの講評コメントを添えて支援・奨励を図った。

なお、2018年4月1日～5月6日開催の前年度作品展については、年報第23号に記載済みのため省略した。

2.3.2. 子ども自然科学作品展交流会

[開催日] 2018年12月22日(土)

[会場] 1階 東側講義室及び特別展示室

[参加者数] 61人

[内容] 作品展初日に、出品した児童・生徒

及び保護者を含む関係者と当館学芸員が直接交流できる場を設けた。当館副館長の挨拶、企画普及課長の講評の後、出品者と学芸員が懇談し、作品についての助言や質疑応答を行った。

2.4. SEISA ミュージアムシアター

展示の理解をより深めるために、200 インチの大型ハイビジョンスクリーンを使い、ハイビジョン映像（番組）3 本と、子どもも大人も楽しめるインタラクティブ・クイズ映像（番組選びとクイズの回答をボタンで選ぶ参加型映像）を上映している。また、学会や講演会開催時には主会場としても利用されている。なお、シアターの名称はネーミングライツパートナー制度により、2011 年 4 月 1 日から「SEISA ミュージアムシアター」となった。

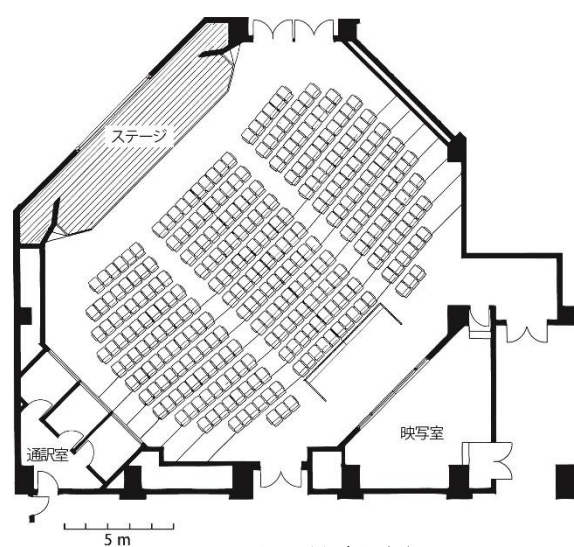
2.4.1. シアターの概要

座席は 308 席。車椅子用のスペースは 5 席。中央部にある 115 席（車椅子用 5 席を含む）に、インタラクティブ・クイズ回答用の 5 選択押しボタンスイッチを設置している。

照明設備は、場内の明るさを簡単にコントロールできるように、あらかじめコントロールパネルに設定してある。また、演者などステージ上を照らし出すためのスポット照明を用意している。

学会・講演会開催時には、パソコンなどデジタル機器の画面をスクリーンに投影できるように、ステージ上と映写室に設置した調整卓に接続できるようにしている。

なお、映像機器については 2013 年にデジタルハイビジョン対応機器に更新した。音響機器については 2016 年に更新した。



シアター見取り図

2.4.2. シアターの上映番組

SEISA ミュージアムシアターでは、ハイビジョン番組を 3 本と、インタラクティブ・クイズ映像を 1 本の計 4 種類を上映している。

ハイビジョン番組は、「生命の星・地球」という博物館の基本テーマと同じタイトルで常設展示の理解をより深めるストーリーを映像で紹介している。2 本の番組タイトルは、「生命の星・地球 奇跡の旅立ち」と「生命の星・地球 生命の輪舞」で、いずれも上映時間は 15 分である。

「奇跡の旅立ち」では、地球の誕生から、初期の生命の発生、そしてその生命との相互作用によって生命の星としての条件を整えてきた過程を説明している。「生命の輪舞」では、生物の上陸以降をフォローし、進化とともに動物と植物の間の密接な関係を説明することによって、私たち人類のあり方を問うている。

これらに加え、新たにハイビジョン映像「躍動する大地 花あふるる火の山 箱根」を製作し、2013 年 8 月 3 日から上映を行っている。温泉地として有名なこの地は、火山でもある。また、その地形の険しさから、古くから東西を結ぶ交通の難所としても知られている。さらに、日本を代表する自然として、江戸時代に訪れた外国人によって世界に紹介されてきた。火山活動の激しさは、関東平野にも影響を及ぼすほど大規模なものだ

ったとされている。このような箱根火山の生い立ちだけではなく、火山活動が生み出し、火山活動に強く影響を受けている自然とその環境を紹介した内容となっている。上映時間は 20 分である。

インタラクティブ・クイズ映像は、「怪人ネイチャーランドの挑戦」と題した子どもも大人も楽しめるクイズ番組である。これは、怪人ネイチャーランドが盗み出した水晶玉を、来館者がクイズに正解することにより一つずつ取り返していくストーリーで、来館者の答えがストーリーの展開を変えていくといった、インタラクティブ（相互作用）型の博物館オリジナル作品となっている。クイズのテーマは、「地球は生きている」、「植物は変身の天才だ！」、「魚のサバイバル」、「動物の足跡捜査隊」、「ヒトの謎を科学する！」の 5 種類である。最初に、どのテーマを行いたいかわき来館者が選択し、1 位になったテーマを上映している。インタラクティブ・クイズは、案内員がクイズの進行を行っている。

		選択者数	選択率	選択により 1 位になった数＝上映回数													上映割合
				合計	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
1	地球は生きている	3,760	15.8%	24	2	2	1	3	7	3	1	1	1	1	1	1	5.1%
2	植物は変身の天才だ！	2,231	9.4%	3	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0.6%
3	魚のサバイバル	6,495	27.3%	198	18	15	13	22	39	15	19	17	7	8	9	16	42.2%
4	動物の足跡捜査隊	6,522	27.4%	178	11	19	7	18	36	13	8	11	7	9	13	26	38.0%
5	ヒトの謎を科学する！	4,824	20.2%	66	5	5	0	12	11	6	5	2	8	2	3	7	14.1%
	合 計	23,832	100.0%	469	36	42	21	55	93	38	33	31	23	21	26	50	100.0%

※選択率は、小数点以下 2 位で四捨五入のため合計が 100%にならない場合がある。

2.4.3. シアターの上映回数

通常期は、ハイビジョン映像およびインタラクティブ・クイズ映像「怪人ネイチャーランド」を、午前、午後それぞれ 1 回ずつ、計 8 回上映している。

学校休業期と重なる多客期（2018 年 4 月 1 日～5 日、4 月 28 日～5 月 6 日、7 月 14 日～9 月 2 日、2019 年 3 月 23 日～31 日）についてはインタラクティブ・クイズ映像を午後に 1 回増やし、計 9 回の上映を行った。

SEISA ミュージアムシアター上映プログラム

	時間	タイトル		時間	タイトル
通常期	9:30～9:45	生命の星・地球 奇跡の旅立ち	多客期	9:30～9:45	生命の星・地球 奇跡の旅立ち
	10:00～10:15	生命の星・地球 生命の輪舞		10:00～10:15	生命の星・地球 生命の輪舞
	10:30～10:50	躍動する大地 花あふるる火の山 箱根		10:30～10:50	躍動する大地 花あふるる火の山 箱根
	11:30～11:50	インタラクティブ・クイズ映像		11:30～11:50	インタラクティブ・クイズ映像
	13:00～13:20	インタラクティブ・クイズ映像		12:30～12:50	インタラクティブ・クイズ映像
	14:00～14:15	生命の星・地球 奇跡の旅立ち		13:30～13:50	インタラクティブ・クイズ映像
	14:30～14:45	生命の星・地球 生命の輪舞		14:30～14:45	生命の星・地球 奇跡の旅立ち
	15:00～15:20	躍動する大地 花あふるる火の山 箱根		15:00～15:15	生命の星・地球 生命の輪舞
				15:30～15:50	躍動する大地 花あふるる火の山 箱根

2.4.4. その他の利用

ハイビジョン映像およびインタラクティブ・クイズ映像の通常上映のほか、講演会や学会等の会場として提供している。

2.5. ミューズ・フェスタ 2019

「開かれた博物館」としての活動の充実といっそうの発展を図るため、地元自治体や自治会、博物館友の会などとともに、地域との交流を深め、県民の参加型事業として開館記念日事業を 2002 年度から実施している。

2.5.1. 開催概要

[日時] 2019 年 3 月 16 日(土)、17 日(日)の 2 日間
[場所] 講義室、実習実験室、SEISA ミュージウムシアター、ラウンジ他
[運営体制] 小田原市入生田自治会、小田原市郷土文化館、生命の星・地球博物館友の会、当博物館

[関連会議] ミューズ・フェスタ 2019 実行委員会
2018 年 10 月 19 日(金) 西側講義室
参加団体の確認と各団体の取り組み、開催までのスケジュールなど

2.5.2. 催し物等の概要

1. オープニングセレモニー

[日時] 3 月 16 日(土) 9 時 30 分～10 時
[場所] SEISA ミュージウムシアター
[内容] フェスタ 2019 の開催を祝って、地元の「入生田山神社子供祭囃子」によるお囃子。
[参加人数] 90 人

郁美氏によるデュオコンサート。

[参加人数] 205 人

2. 童謡合唱

[日時] 3 月 16 日(土) 11 時～11 時 30 分
[場所] SEISA ミュージウムシアター
[内容] クレヨンの森保育園の園児たちによる合唱。
[参加人数] 127 人

5. 記念講演会

[日時] 3 月 17 日(日) 14 時～16 時 20 分
[場所] SEISA ミュージウムシアター
「学芸員の奮闘記～集めて・調べて・展示して～」
講演者：瀬能 宏(魚類)、笠間友博(地学)
[参加人数] 84 人

3. 日本の歌・世界の歌

[日時] 3 月 16 日(土) 13 時 45 分～15 時
[場所] SEISA ミュージウムシアター
[内容] 歌う仲間エーデルワイスによるイタリアの歌カンツォーネと日本・外国の愛唱歌などの合唱。
[参加人数] 80 人

6. 子ども自然科学ひろば

[日時] 3 月 16 日(土)・17 日(日) 10 時～15 時
[内容] 気軽に参加できる楽しいプログラム。
[参加人数] 延べ 4,499 人
・「動物たちの落としもの」(10 時から 13 時) 1 階 東側講義室
動物たちの落としもの(羽毛・ぬけがら・足あと)のプログラム。(428 人)
・「ほね? ホネ!? 骨! 縄文人は何を食べたの?」(10 時から 12 時、13 時から 15 時) 1 階 東側講義室
5000 年前の縄文人は何を食べていたのか、羽根尾貝塚で発掘された骨から紹介展示およびスタンプコーナー。(小田原市郷土文化館)
(620 人)

4. バイオリン・ピアノデュオコンサート

[日時] 3 月 17 日(日) 11 時～11 時 30 分
[場所] SEISA ミュージウムシアター
[内容] バイオリンの梅本加奈子氏とピアノの齋藤

- ・「化石発掘体験！」（10時30分から11時、14時から14時30分、各回30名抽選制 ※抽選券を各回30分前から配布）
発掘体験キットを用いてアンモナイト・恐竜の骨・サメの歯の化石を掘り出すプログラム。
（354人）
 - ・「折り紙広場～恐竜をつくろう～」(12時から13時) 1階 西側講義室
恐竜の折り紙づくり。(332人) エントランスホールでは10時15分と13時15分から折り紙プレゼントを実施。(1,154人)
 - ・「のぞいてみよう！ちっちゃな世界」(10時から12時、13時から15時 ※17日(日曜)は10時から12時まで) 3階 実習実験室
昆虫の目や足、魚のうろこ、花のつくり、キノコなどを実体顕微鏡で拡大して観察。(733人)
 - ・「ミクロな世界を記念撮影」(12時から13時) 3階 実習実験室
小さな小さな標本やモノの一部をデジタル顕微鏡で拡大観察。撮った写真をプレゼント。
（167人）
 - ・「『きのこスタンプ』ハガキづくり」(10時から15時) 2階 ライブラリー前
きのこスタンプをハガキに押してオリジナルハガキづくり。(友の会) (609人)
 - ・「昆虫切り絵をつくろう！」(10時から12時) 1階 東側講義室 ※17日(日曜)のみ実施。
いろいろな虫たちの切り絵づくり。(102人)
7. 博物館でインスタしちゃお！
[日時] 3月16日(土)・17日(日) 10時～15時
[場所] 3階 西側ラウンジ、ジャンボブック展示室入口
[内容] 記念写真コーナー（インスタバエ：ハエ、生き物フェイス：展示物の顔）を設置。写真を撮ってInstagramにアップしてくれた方に記念品プレゼント（各日先着100名様）。
[参加人数] 167人
8. 友の会コーナー
[日時] 3月16日(土)・17日(日) 10時～15時
[場所] 2階 情報コーナー（ライブラリー前）
[内容] 友の会の活動、作品や講座の紹介、「自然科学のとびら」の販売。
9. 地元農産物コーナー
[日時] 3月16日(土)・17日(日) 9時～13時
[場所] エントランスホール 講義室前
[内容] 地元で収穫された新鮮な野菜などを直売。
10. 手作り玩具などの販売コーナー
[日時] 3月16日(土)・17日(日) 10時～12時、13時～15時
[場所] エントランスホール 講義室前
[内容] 手工芸の玩具などを販売。
11. ミュージアムショップ
[日時] 3月16日(土)・17日(日)
[内容] 700円以上お買い上げの方（書籍・宙瞰図を除く）に、オリジナルグッズを進呈。
12. レストラン「フォーレ」
[日時] 3月16日(土)・17日(日)
[内容] 全メニュー10%割引し、その場で当たるスピードくじを実施。
13. ともしびショップ「喫茶あーす」
[日時] 3月16日(土)・17日(日)
[内容] 2日間の限定メニュー”パステウ”&”アイスドッグ”を販売。

3. シンクタンク機能

研究機関である博物館を支える学芸員は、県内はもとより、国内外のシンクタンクとして様々な活動を行っている。ここでは、それらの活動を項目ごとに取りまとめた。基本的には当館での活動を中心に項目分けし、各学芸員の自己申告に基づき掲載している。しかし、記録の困難性から取り上げなかった活動も多い。2018 年度に実施した研究のうち、当該年度に研究が終了したテーマについて、Ⅲ 資料の項（114～118 ページ）に成果報告書を掲載した。

3.1. 調査研究事業

調査研究活動に関する要項に基づき、総合研究 2 テーマ、個別研究 21 テーマに関する研究を行った。以下「研究担当者：研究テーマ」を掲載する。

総合研究

田口公則・笠間友博・新井田秀一・山下浩之・石浜
佐栄子・大島光春・樽 創・河尻清和・柴田健一
郎・野崎 篤・山口珠美・高橋直樹・川手新一：
現代的な視点による神奈川県地質史の構築
折原貴道・大坪 奏・出川洋介：『入生田菌類誌資
料 第 2 巻』刊行に向けた菌類調査

個別研究

瀬能 宏：相模湾およびその隣接海域における魚類
の分類および生物地理学的研究
広谷浩子：水辺の哺乳類相をもとにした早川水系の
環境評価
荻部治紀 1：神奈川県で確認された侵略的外来種ム
ネアカハラビロカマキリの現状
荻部治紀 2：神奈川県周辺のトンボ類における南方
種の分布拡大について 4
佐藤武宏：導入種サキグロタマツメタ *Euspira*
fortunei がイボキサゴ *Umbonium moniliferum*
に与えた影響について
加藤ゆき：神奈川県におけるサギ類集団営巣地の現
状
渡辺恭平：日本産ヒメバチ上科寄生蜂の分類学的研
究 (II)
松本涼子：後頭部の形態から読み解く四肢動物の首
の運動機能の進化

鈴木 聡：神奈川県の哺乳類相調査
勝山輝男：ザラツキシラスゲ（チチブシラスゲ）の
分布と生態
田中徳久：神奈川県の維管束植物相の長期的モニタ
リングとその変遷
大西 亘：博物館収蔵資料と引用研究成果における
相互参照システムの実践的構築
折原貴道：「空飛ぶ地下生菌仮説」の検証-無性胞子
に着目した、トリュフ型菌類の島嶼系統地理
樽 創：神奈川県産新生代脊椎動物化石チェックリ
スト（平成 29 年度まで）
大島光春：島根県の古浦層から産出したイノシシ科
臼歯化石の分類学的研究
田口公則：南関東域の新生代貝類化石群の概要 —
足柄層群産の貝化石 —
笠間友博：神奈川県東部三浦半島に分布する箱根三
色旗テフラの層位的意義
新井田秀一：デジタル標高モデル（DEM）や地球観
測衛星画像を用いた南関東地域の地形解析
山下浩之：輝石地質温度計による箱根火山後期中央
火口丘溶岩のマグマ温度解析
石浜佐栄子：大磯丘陵の新第三系～第四系層序と堆
積環境の復元に関する再検討
大坪 奏：今関コレクションのアーカイブ・システ
ムの確立

3.2. 研究助成金による研究

日本学術振興会科学研究費助成金をはじめ、外部助成金による研究と、共同研究や共同施設利用研究などについて、種類別に「研究代表者（研究代表者を除く当館の分担者*、研究協力者**）：研究テーマ」の順に掲載した。研究組織、研究内容と成果の詳細については、Ⅲ 資料の項（122～125 ページ）に掲載した。

3.2.1. 日本学術振興会科学研究費補助金による研究

基盤研究（A）海外学術調査

折橋裕二（平田大二*）：プレート境界沈み込みに伴う南部チリ弧火成作用の多様性とマグマ生成過程の全容解明

基盤研究（B）

鈴木寿志（田口公則*）：変動帯の文化地質学

基盤研究（C）

佐藤武宏（田口公則*）：学校・幼稚園の先生を自然観察の名人にする学習プログラムの開発研究

加藤ゆき（広谷浩子*・大島光春*・大坪 奏*）：外来生物問題を教える博物館－動物園ネットワークの構築に関する研究

山下浩之：地球を理解するための岩石観察プログラムの開発

大島光春（田口公則*・加藤ゆき*・石浜佐栄子*）：博物館体験の向上をめざす展示解説手法の研究－自然史博物館でおこなう UXD の試み－

松本涼子：後頭部の形態から読み解く四肢動物の頸の運動機能の進化

田中徳久（勝山輝男*）：博物館資料の潜在的価値の顕在化－海を渡った植物標本からの生物多様性情報の発掘－

広谷浩子（加藤ゆき*）：博物館で「自然財」をまも

る－哺乳類標本の作製技術・情報管理の体系化と継承－

田口公則（広谷浩子*・大島光春*）：感情と観覧行動からの展示文脈：何をどのように見て、感じ、思考しているのか

田上 響（松本涼子*）：脊椎動物における嘴の機能と進化

大和政秀（折原貴道*）：日本国内の林地にみられるアーバスキュラー菌根菌群集に関する研究

丹治雄一（田口公則*・山下浩之*）：岩石・石材を素材とした歴史系および自然系博物館による地域学習プログラムの協働開発

若手研究（B）

折原貴道：空飛ぶ地下生菌仮説の検証－菌類の分生子に着目した、島嶼系統地理の新たな展開

渡辺恭平：菌食性昆虫捕食寄生蜂の多様性と寄生蜂－キノコ相互作用系の解明

大西 亘：博物館収蔵資料と引用研究成果における相互参照システムの実践的構築

大坪 奏：自然史博物館に残された絵画資料「標本画」の活用と共通課題克服のための実践的研究

3.2.2. 各種助成金による研究

自然保護助成基金 プロ・ナトゥーラ・ファンダ助成

折原貴道：伊豆諸島の地下生菌はいつ、どこからやってきたのか－海洋島の大型菌類の多様性解明と保全に向けた基礎的研究

発酵研究所 一般研究助成

折原貴道：昭和期に記載された稀産シクエストレート菌の実体解明と保全対策の再検討

笹川科学研究助成

鈴木 聡：博物館標本の変異解析に基づいた哺乳類

の多様性を学習するための教材の開発

全国科学博物館振興財団

大西 亘（折原貴道**）：オープンサイエンスを拓く新しい自然史情報発信の実践的研究～地域植物誌の標本を軸に

多摩・島しょ広域連携活動助成

並木 心（樽 創*）：テチス獣類の歯のテクスチャーと安定同位体から見た水中索餌という環境適応戦略

神奈川大学総合理学研究所共同研究助成

岩崎貴也 (大西 亘*) : 標本 DNA というタイムカプセルで過去の遺伝的多様性をみる : シカ害や人為的攪乱が野生植物の遺伝子に与えた影響

東京大学大気海洋研究所 学術研究船白鳳丸・新青丸共同利用

小原泰彦 (山下浩之*) : 四国海盆下リソスフェアとアセノスフェアの物質的な解明

平成 30 年度日本大学文理学部人文科学研究所総合研究費

小笠原喜康 (大島光春*・田口公則*) : 科学系博物館におけるトランス・サイエンス問題の展示等の調査および改善提言の研究

環境農政局

動物・植物グループ (統括 : 加藤ゆき) : 生物多様性保全基盤整備事業

3.3. 著作活動・学会発表等

平田大二 (ひらた だいじ) 地学 (鉱物)

[著作・著書・調査報告書・資料等]

平田大二, 2018. 日本の博物学と自然史博物館の歴史. 地質学史懇話会会報, (50): 2-9.

[普及的著作等]

平田大二, 2018. 書評 白尾元理(写真)下司信夫(解説)「火山全景—写真でめぐる世界の火山地形と噴出物」, 地学雑誌, 127(4): N56-57.

平田大二, 2018. 書評 大野達也編「擬人化鉱物図鑑」. 地学雑誌, 127(3): N31-32.

平田大二, 2018. 書評 西本昌司著「地質のプロが教える 街の中で見つかる「すごい石」. 地学教育, 70(4): 165.

瀬能 宏 (せのう ひろし) 動物学 (魚類)

[論文]

瀬能 宏, 2018. 生物の標準和名とは何か?—その概念と課題、展望—. 海洋と生物, 40(2): 123-128.

瀬能 宏, 2018. 絶滅判断と著しく希少性が高い種の評価の問題点. 魚類学雑誌, 65(1): 106-109, 114-116 (in part). [in 木村清志編: 海産魚類レッドリストとその課題]

Murase, A., R. Miki, M. Wada, M. Itou, H. Motomura & H. Senou, 2018. Review of the Japanese records of an endangered grouper, *Epinephelus tukula*, with comments on its population status (Teleostei, Serranidae). ZooKeys, 772: 153-163.

<https://doi.org/10.3897/zookeys.772.24374>

Wada, H., H. Senou & H. Motomura, 2018. *Plectranthias maekawa*, a new species of perchlet from the Tokara Islands, Kagoshima, Japan, with a review of Japanese records of *P. wheeleri* (Serranidae: Anthiinae). Ichthyological Research,

<https://doi.org/10.1007/s10228-018-0674-z>

手良村知功・安田 慎・天野雄一・三井翔太・櫻井風汰・平瀬祥太郎・瀬能 宏, 2019. 駿河湾か

ら得られた北限記録の魚類 3 種とその分布特性. 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学), (48): 13-20.

澤井悦郎・瀬能 宏・竹嶋徹夫, 2019. 神奈川県立生命の星・地球博物館に展示されていたウシマンボウの剥製標本. 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学), (48): 37-42.

工藤孝浩・山田和彦・瀬能 宏, 2019. 三浦半島南西部沿岸の魚類—IX. 神奈川自然誌資料, (40): 49-58.

加登岡大希・崎山直夫・瀬能 宏, 2019. 相模湾および駿河湾で得られたフトツノザメ *Squalus mitsukurii* (ツノザメ目ツノザメ科) の成長に伴う形態変化について. 神奈川自然誌資料, (40): 59-65.

三井翔太・伊藤克哉・相川健志・一寸木肇・佐藤武宏・荻部治紀・松本涼子・瀬能 宏, 2019. 小田原城址公園内の堀から確認された水生動物. 神奈川自然誌資料, (40): 75-83.

[著作・著書・調査報告書・資料等]

本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典編著, 2018. 奄美群島の魚類. 414 pp. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島市, 横須賀市自然・人文博物館, 横須賀市, 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原市, 国立科学博物館, つくば市.

瀬能 宏, 2018. カエルアンコウ科. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典編著, 奄美群島の魚類, pp. 40-41. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島市, 横須賀市自然・人文博物館, 横須賀市, 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原市, 国立科学博物館, つくば市; ボラ科, *ibid.*, pp. 59-60; カマス科, *ibid.*, pp. 387-389.

Han, S.-Y., J.-K. Kim, Y. Kai & H. Senou, 2018. Corrigenda: "Seahorses of the *Hippocampus coronatus* complex: taxonomic revision, and description of *Hippocampus haema*, a new species from Korea and Japan (Teleostei, Syngnathidae). ZooKeys, 712: 113-139, <https://doi.org/10.3897/zookeys.712.14955>,

- ZooKeys, 753: 169-170.
- 瀬能 宏監修・吉野雄輔著, 2018. 山溪ハンディ図鑑 13. 改訂版日本の海水魚. 543 pp. 山と溪谷社, 東京.
- 瀬能 宏, 2018. 標準和名: 日本独自の命名体系. 日本魚類学会編, 魚類学の百科事典, pp. 12-13. 丸善, 東京; クラスター分析, *ibid.*, pp. 184-185; 地球温暖化による分布の変化, *ibid.*, pp. 534-535.
- 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典編著, 2019. 奄美群島の魚類図鑑. 436 pp. 南日本新聞開発センター, 鹿児島市.
- 瀬能 宏, 2019. カエルアンコウ科. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典編著, 奄美群島の魚類図鑑, pp. 42-43. 南日本新聞開発センター, 鹿児島市; ボラ科, *ibid.*, pp. 61-62; カマス科, *ibid.*, pp. 393-395.
- 下光利明・遠藤周太・瀬能 宏, 2019. 館山湾から得られたエリアカコショウダイ *Plectorhinchus unicolor* 幼魚の記録. 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学), (48): 115-119.
- 下光利明・遠藤周太・三井翔太・横地和正・瀬能 宏, 2019. 千葉県館山市坂田の東京海洋大学館山ステーション地先に出現する魚類. 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学), (48): 121-137.
- 村瀬敦宣・三木涼平・和田正昭・瀬能 宏編, 2019. 宮崎県のさかなのまち門川の魚図鑑. 207 pp. 宮崎大学農学部附属フィールド科学教育研究センター延岡フィールド, 延岡市.
- [普及的著作等]
- 瀬能 宏, 2018. 標本の蓄積が地域の自然を守る. 神静民報.
- 瀬能 宏, 2018. 自然保護委員会の設立. 魚類学雑誌, 65(1): 126-127.
- 瀬能 宏, 2018. 標準和名検討委員会の設立. 魚類学雑誌, 65(1): 127-128.
- 瀬能 宏, 2018. 楽園の向こう側. マリンダイビング, 50(6): 77.
- 瀬能 宏, 2018. 砂漠の価値. マリンダイビング, 50(8): 60.
- 瀬能 宏, 2018. 魚の形態変化. 磯・投げ情報, 26(9): 82.
- 瀬能 宏, 2018. なぜ長い: サヨリの下あご. マリンダイビング, 50(11): 23.
- 瀬能 宏, 2018. 魚類の世界. 神奈川県立生命の星・地球博物館編, 神奈川県立生命の星・地球博物館展示解説書, 改訂新版, pp. 60-61. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原; 相模湾に見られる魚類, *ibid.*, p. 118; 神奈川の淡水魚, *ibid.*, p. 188.
- 瀬能 宏, 2018. 日本海と太平洋の比較が面白い! マリンダイビング, 51(1): 69.
- 瀬能 宏, 2019. 天啓. マリンダイビング, 51(3): 33.
- 瀬能 宏, 2019. どれだけ必要? ~資料のコレクションポリシーと収蔵庫~. 自然科学のとびら, 25(1): 2-3.
- [学会発表等]
- 瀬能 宏, 2018年6月3日. 標準和名のルーツ. 相模湾海洋生物研究会第42回研究発表会. 横須賀市自然・人文博物館, 横須賀市.
- 和田英敏・瀬能 宏・宮本 圭・本村浩之, 2018年6月9日. 日本近海から得られたハタ科イヅハナダイ属の色彩多型. 日本動物分類学会第54回大会. 鹿児島大学郡元キャンパス理学部, 鹿児島.
- 瀬能 宏, 2018年8月25日. Vega号が収集した海産魚類標本が示唆する明治初期の沿岸環境. 平成30年度京都大学生態学研究センター研究集会: スウェーデンVega号採集による日本産標本にもとづく140年前の生物多様性復元—琵琶湖, 神戸, 関東, 長崎の水生生物・陸貝を中心に—. 大津市ふれあいプラザ, 大津市.
- 上城拓也・瀬能 宏・本村浩之, 2018年10月6日-7日. 西インド洋モーリシャスとセーシェルから得られたチョウチョウウオ科ゲンロクダイ属の1未記載種. 2018年度日本魚類学会年会(50周年記念大会). 国立オリンピック記念青少年総合センター, 東京.
- 村瀬敦宣・三木涼平・緒方悠輝也・和田正昭・瀬能 宏, 2018年10月23日. 魚類多様性から見た門川町の魅力発掘プロジェクトの紹介とその特異的な魚類相. 宮崎大学産学・地域連携センター第25回技術・研究発表交流会. 宮崎市民プラザ, 宮崎市.
- 瀬能 宏・滝川祐子, 2018年12月2日. ヴェガ号収集の日本産魚類標本調査に参加して: 明治初期の海水魚標本が語るもの. 相模湾海洋生物研究会第43回研究発表会. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原市.
- 村瀬敦宣・三木涼平・瀬能 宏, 2019年2月17日. 宮崎県のさかなのまち門川町の出版とそのコンセプト. 第30回魚類生態研究会. 水産大学校, 下関市.
- 佐藤武宏(さとう たけひろ) 動物学(無脊椎動物)
- [論文]
- 乾 直人・山川宇宙・丸山智朗・加藤柊也・酒井 卓・佐藤武宏, 2019. 相模湾およびその周辺地域の河川から採集された注目すべきカニ類 11 種. 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学), (48): 43-54.
- 三井翔太・伊藤克哉・相川健志・一寸木 肇・佐藤武宏・荻部治紀・松本涼子・瀬能 宏, 2019. 小

田原城址公園内の堀から確認された水生動物。
神奈川自然誌資料, (40): 75-83.

佐藤武宏, 2019. シール式アンケートを利用した
来館者動向調査と博物館マーケティング上の意
義. 神奈川県博物館協会会報, (90): 33-39.

[普及的著作等]

佐藤武宏, 2019. オーストンガニ. 自然科学の
とびら, 25(1): 1.

佐藤武宏, 2018. 相模湾の生きている化石. 神
奈川県立生命の星・地球博物館編, 神奈川県立生
命の星・地球博物館展示解説書, 改訂新版, p.
116. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原;
相模湾に生きる多様な生き物たち, *ibid.*, p.
117; 相模湾の貝, *ibid.*, p. 119; 相模湾のカ
ニ, *ibid.*, p. 119; 酒井コレクション, *ibid.*,
p. 182; 野村コレクション, *ibid.*, p. 182; 鹿
間コレクション, *ibid.*, p. 183; 日本のエビと
カニ, *ibid.*, p. 187.

[学会発表等]

田口公則・佐藤武宏, 2018年8月4日. 幼児向け
科学的遊びから発想した貝殻の教材開発. 日本
理科教育学会第68回全国大会. 岩手大学, 盛岡
市.

加藤ゆき (かとう ゆき) 動物学 (鳥類)

[論文]

石浜佐栄子・大島光春・田口公則・加藤ゆき, 2019.
特別展2017「地球を『はぎ取る』」における展示
の工夫と来館者による評価. 神奈川県博物館研
究報告 (自然科学), (48): 151-160.

加藤ゆき, 2018. 神奈川県真鶴町におけるクロサ
ギ *Egretta sacra* の幼鳥の観察記録. BINOS,
(25): 35-38.

[著作・著書・調査報告書・資料等]

広谷浩子・加藤ゆき, 2019. みんなで守ろう「自然
財」: 鳥獣標本の製作保管活用を進める地域ネッ
トワーク始動. 第26回全国科学博物館協議会
研究発表大会資料, 75-81. 全国科学博物館協
議会.

[普及的著作等]

加藤ゆき, 2018. 鳥類の世界. 神奈川県立生命の
星・地球博物館編, 神奈川県立生命の星・地球博
物館展示解説書, 改訂新版, pp. 66-67. 神奈川
県立生命の星・地球博物館, 小田原; 日本の水
鳥, *ibid.*, p. 186.

[学会発表等]

広谷浩子・加藤ゆき, 2019年2月15日. みんな
で守ろう「自然財」: 鳥獣標本の製作保管活用を
進める地域ネットワーク始動. 第26回第26回
全国科学博物館協議会 研究発表大会. 豊橋市
自然史博物館, 豊橋市.

加藤ゆき, 2018年11月3日. 神奈川県のクロサ
ギの繁殖について. 第17回BINOS研究発表会.

かながわ県民センター, 横浜市.

加藤ゆき・葉山久世, 2018年9月15日-16日. 神
奈川県におけるサギ類集団繁殖地の変遷. 日本
鳥学会2018年度大会. 新潟大学, 新潟市.

大島光春・石浜佐栄子・田口公則・加藤ゆき, 2018
年6月30日-7月1日. 特別展「地球を『はぎ
取る』」で試みた多層立体展示解説. 第37回日
本展示学会研究大会. 東京国立博物館, 東京.

加藤ゆき, 2018年9月15日. 標本を作って残す
ってどういうこと? -実物証拠としての標本.
日本鳥学会2018年度大会. 新潟大学, 新潟市.

苅部治紀 (かるべ はるき) 動物学 (昆虫類)

[論文]

Karube, H., & O. Kosterin, 2018. *Mattigomphus*
gen. nov., a new gomphid genus from
Indochina region, separated from
Anisogomphus (Odonata: Gomphidae). Tombo,
60: 61-65.

Karube, H., & K. Tom, 2018. Two new species
of the genus *Periaeschna* from northern
Vietnam, with additional notes on the genus
(Odonata: Aeshnidae). Tombo, 60: 71-78.

Phan, Q. T., H. Karube & A. Sasamoto, 2018.
Drepanosticta draco sp. nov., a new
damselfly from northern Sumatra, Indonesia
(Odonata: Platystictidae). Tombo, 60: 71-78.

Tom, K., & H. Karube, 2019. A new species of
Heliogomphus from Vietnam (Odonata:
Gomphidae). Zootaxa, 4555(1): 113-120.

苅部治紀・加賀玲子, 2019. 神奈川県におけるム
ネアカハラビロカマキリの新産地と分布拡大に
関する生態的知見. 神奈川県立博物館研究報告
自然科学, (48): 75-80.

加賀玲子・苅部治紀, 2019. ウマノオバチ
Euurobracon yokahamae (Dalla Torre, 1898)
(Insecta: Hymenoptera: Braconidae) の生活史
-工業用内視鏡を使った観察-. 神奈川県立博
物館研究報告自然科学, (48): 69-74.

三井翔太・伊藤克哉・相川健志・一寸木 肇・佐藤
武宏・苅部 治紀・松本涼子・瀬能 宏, 2019. 小
田原城址公園内の堀から確認された水生動物.
神奈川自然誌資料, (40): 75-83.

[著作・著書・調査報告書・資料等]

森英章・苅部治紀・岸本年郎, 2018. 南硫黄島の
昆虫相とその特殊性. 小笠原研究, 44: 251-288.
苅部治紀・村松 稔, 2018. 与那国島からコフキ
ショウジョウトンボを初確認. Tombo, 60: 127-
128.

苅部治紀・加賀玲子, 2018. 神奈川県西部のムネ
アカハラビロカマキリの拡散状況と在来種への
影響. 昆虫と自然, (712): 12-14.

櫻井 博・苅部治紀・加賀玲子, 2018. ムネアカ

ハラビロカマキリの侵入要因と拡散防止のための方策. 昆虫と自然, (712): 15-18.

苅部治紀, 2018. 小笠原諸島の固有トンボ類の現状-とくに 2016-2017 年の大規模干ばつの影響-, 昆虫と自然, 53(5): 18-21.

苅部治紀, 2018. 7. 外来昆虫類. 柏崎の外来生物, pp. 61-66. 柏崎市立博物館

苅部 治紀・渡辺恭平, 2018. 緒言. 神奈川県昆虫誌 2018. pp. 5-16. 神奈川昆虫談話会, 小田原.

苅部治紀・川島逸郎・岸一弘・石川一, 2018. トンボ目. 神奈川昆虫誌 2018. Pp45-81. 神奈川昆虫談話会, 小田原

[普及的著作等]

苅部治紀, 2018. マグソクワガタ. 自然科学のとびら, (91): 1.

渡辺恭平・苅部 治紀, 2019. 「神奈川県昆虫誌 2018」ができました. 自然科学のとびら, 25 (1): 6-7.

[学会発表等]

苅部治紀, 2018 年 7 月 29 日. ネオニコチノイド系農薬の環境影響の現状. 日本トンボ学会広島大会. 広島工業大学広島校舎, 広島市.

加賀玲子・苅部治紀, 2019 年 3 月 16 日. ついに明らかになった寄生蜂ウマノオバチの生活史—工業用内視鏡を使った観察—口頭発表. 第 66 回日本生態学会. 神戸国際会議場, 神戸市.

苅部治紀・戸田光彦・松本俊信・永野裕, 2019 年 3 月 19 日. 小笠原諸島兄島におけるグリーンアノールの拡大と顕在化が始まった在来昆虫相への影響 (口頭発表). 第 66 回日本生態学会. 神戸国際会議場, 神戸市

渡辺恭平 (わたなべ きょうへい) 動物学 (昆虫類)

[論文]

Watanabe, K., 2018. Discovery of the genera *Leptocampoplex* Horstmann, 1970, and *Macrulus* Horstmann, 1978 (Hymenoptera, Ichneumonidae, Campopleginae) from Japan. Japanese Journal of Systematic Entomology, 24(1): 49-54.

Watanabe, K., T. Taniwaki & D. Kasparyan, 2018. Revision of the tryphonine parasitoids (Hymenoptera, Ichneumonidae) of a beech sawfly, *Fagineura crenativora* Vikberg & Zinovjev (Hymenoptera, Tenthredinidae, Nematinae). Entomological Science, 21: 433-446. doi:10.1111/ens.12327

Watanabe, K. & S. Shimizu, 2018. New records of some ichneumonid species from Japan (Hymenoptera). Japanese Journal of Systematic Entomology, 24(2): 249-253.

Watanabe, K., 2018. Discovery of the genus *Terminator* Humala, 2007 (Hymenoptera,

Ichneumonidae, Orthocentrinae) from Japan. Japanese Journal of Systematic Entomology, 24(2): 254-256.

Watanabe, K., 2018. Taxonomic and zoogeographical notes of Japanese Cryptinae (Hymenoptera, Ichneumonidae), with description of five new species. Bulletin of the Kanagawa Prefectural Museum (Natural Science), (48): 81-113.

Broad, G. R. & Watanabe, K., 2019. *Dolichochoerus* Strobl 1904: a valid genus of Mesochorinae (Hymenoptera: Ichneumonidae: Mesochorinae). Zootaxa, 4555(4): 523-530.

[著作・著書・調査報告書・資料等]

天野 匠・渡辺恭平, 2018. ヒメバチの 1 種 *Aritranis pini* (Momoi, 1973) の採集記録. 月刊むし, (568): 53.

渡辺恭平・山内健生, 2018. 富山県においてマレーゼトラップにより採集されたヒメバチ科 (その 1). つねきばち, (32): 29-48.

渡辺恭平, 2018. 日本産フシダカヒメバチ族 Ephialtini の同定資料 (4) (ヒメバチ科, ヒラタヒメバチ亜科) *Scambus* と追記. 神奈川虫報, (196): 17-26.

宇津木滉生・渡辺恭平, 2018. 大井町でナガフトヒゲナガゾウムシを採集. 神奈川虫報, (196): 69.

渡辺恭平, 2018. 小田原市入生田でクロメンガタスズメを採集. 神奈川虫報, (196): 70.

渡辺恭平, 2018. ヨツモンカメノコハムシの綾瀬市からの記録. 神奈川虫報, (197): 40.

渡辺恭平, 2018. ヨツモンカメノコハムシを南足柄市でも確認. 神奈川虫報, (197): 44.

金子真紘・渡辺恭平, 2018. 小田原市でチャイロスズメバチを採集. 神奈川虫報, (196): 69-70.

苅部治紀・渡辺恭平, 2018. 緒言. 神奈川県昆虫誌 2018, pp. 5-16. 神奈川昆虫談話会, 小田原市.

渡辺恭平, 2018. シロアリ目 Isoptera. 神奈川県昆虫誌 2018, pp. 131. 神奈川昆虫談話会, 小田原市.

渡辺恭平, 2018. ヘビトンボ目・ラクダムシ目・アミメカゲロウ目 Megaloptera, Raphidioptera & Neuroptera. 神奈川県昆虫誌 2018, pp. 221-225. 神奈川昆虫談話会, 小田原市.

渡辺恭平, 2018. シリアゲムシ目 Mecoptera. 神奈川県昆虫誌 2018, pp. 642-643. 神奈川昆虫談話会, 小田原市.

長瀬博彦・渡辺恭平, 2018. ハチ目 Hymenoptera. 神奈川県昆虫誌 2018, pp. 934-1038. 神奈川昆虫談話会, 小田原市.

加藤 学・渡辺恭平, 2019. 伊藤芳明氏寄贈標本

の岡山県産および鳥取県産ヒメバチ科（ハチ目）
目録. すずむし, (154): 13-18.

関 悦子・渡辺恭平・川島逸郎, 2019. 「里蜂」の
視点から古民家を学ぶー自然科学×人文科学、異
分野の特長を超えた取り組みー. 神奈川県博物
館協会会報, (90): 21-25.

[普及的著作等]

渡辺恭平, 2018. 投稿原稿を書く時に心がけてほ
しいこと(図表編). 花蝶風月(神奈川県昆虫談話
会連絡誌), 168: 1-2.

渡辺恭平, 2018. 身近な昆虫を調べるおもしろさ.
神静民報 2018 年 5 月 19 日

渡辺恭平, 2018. 眠るツノトンボ. 自然科学のと
びら, 24(3): 17.

渡辺恭平, 2018. 失われていく生き物たち. 神奈
川県立生命の星・地球博物館編, 神奈川県立生命
の星・地球博物館展示解説書, 改訂新版, pp.
134-135. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小
田原市; 人の営みとギフチョウの盛衰, *ibid.*,
pp. 136-137; 雑木林の生き物たち, *ibid.*, pp.
138-139; 水田から林へ, *ibid.*, pp. 140-141;
都市に残ったもの, *ibid.*, pp. 142-143;
都市に進出してきた生き物たち, *ibid.*, pp.
144-145; 外国からやってきた生き物たち,
ibid., pp. 146-147; 日本のチョウ, *ibid.*, p.
187; 昆虫の後ろばね, *ibid.*, p. 194.

渡辺恭平, 2018. 質問にお答えします(タマムシ
の仲間について). 箱根を守る会会報 (20): 1.

渡辺恭平, 2018. キリギリス. 広報おおい(大井
町広報誌), 638: 16.

渡辺恭平, 2019. アオオサムシ. 広報おおい(大
井町広報誌), 641: 16.

渡辺恭平・荻部治紀, 2019. 「神奈川県昆虫誌 2018」
ができました. 自然科学のとびら, 25(1): 6-7.

[学会発表等]

Watanabe, K., 22-27. July 2018. The diversity
of subfamily Orthocentrinae (Hymenoptera,
Ichneumonidae) in Japan. 9th congress of
International Society of Hymenopterists.
Matsuyama, Japan.

渡辺恭平, 2018 年 9 月 8 日. 若手奨励賞受賞講演
ヒメバチ科を中心とする寄生蜂類(ハチ目)の分
類学的研究. 日本昆虫学会第 78 回大会, 名城大
学, 名古屋市.

渡辺恭平・向井裕美・北島 博, 2018 年 9 月 10
日. ナガマドキノコバエ類に寄生するヒメバ
チ科 2 種の分類学的検討. 日本昆虫学会第 78 回
大会, 名城大学, 名古屋市.

松本涼子(まつもと りょうこ) 動物学(両生・爬虫類)

[論文]

Matsumoto, R., Tsogtbaatar, K., Ishigaki, S.,
Tsogtbaatar, C., Enkhtaivan, A., & Evans, S.E.

2019. Revealing body proportions of the
enigmatic choristodere *Khurendukhosaurus*
from Mongolia. *Acta Palaeontologica Polonica*,
in press.

<https://doi.org/10.4202/app.00561>. 2018

Matsumoto, R., Dong, L., Wang, Y., & Evans,
S.E. 2019. The first record of a nearly
complete choristodere (Reptilia: Diapsida)
from the Upper Jurassic of Hebei Province,
People's Republic of China. *Journal of*
Systematic Palaeontology, online edition.
doi:10.1080/14772019.2018.1494220.

Urano, Y., Sugimoto, Y., Tanoue, K., Matsumoto,
R., Soichiro Kawabe, Tomoyuki Ohashi, and
Shin-ichi Fujiwara. 2019. The sandwich
structure of keratinous layers controls the
form and growth orientation of chicken
rhinotheca. *Journal of Anatomy*, in press.

[著作・著書・調査報告書・資料等]

松本涼子, 2019. 学芸員の仕事. 新版理科の世界 2.
大日本図書. 東京.

[普及的著作等]

松本涼子, 2018. 小さな化石の大きな発見〜東ア
ジア初の両生類アルバノペトン科の報告〜. 自然
科学のとびら, 24(2): 12-13.

松本涼子, 2018. 両生・爬虫類の標本工房. 自然
科学のとびら, 24(4): 26-27.

松本涼子, 2018. 陸上への適応. 神奈川県立生命
の星・地球博物館編, 神奈川県立生命の星・地球
博物館展示解説書, 改訂新版, pp. 56-57. 神
奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原市.

[学会発表等]

田上 響・大橋智之・浦野雪峰・河部壮一郎・藤原
慎一・松本涼子, 2019 年 3 月 2 日. 漸新統杵島
層群産骨質歯鳥類の下顎における嘴鞘の部分的
分布. 日本地質学会西日本支部第 170 回例会. 長
崎大学, 長崎市.

水上綾乃・松本涼子・和仁良二, 2019 年 1 月 26 日.
石川県白山市の下部白亜系手取層群桑島層より
産出したカエル類の化石について. 日本古生物学
会第 168 回例会, 小田原市.

Matsumoto, R., L. Dong, Y. Wang, & S.E. Evans,
2018 年 7 月 22 日. Choristoderan evolution
and distribution. 13th Symposium on Mesozoic
Terrestrial Ecosystems and Biota, Bonn,
Germany.

Evans, S.E., & R. Matsumoto, 2018 年 7 月 22 日.
The history of albanerpetontid amphibians in
Asia. 13th Symposium on Mesozoic Terrestrial
Ecosystems and Biota, Bonn, Germany.

鈴木 聡(すずき さとし) 動物学(哺乳類)

[論文]

- Wolsan, M., Suzuki, S., Asahara, M. and Motokawa, M., 2019. Dental integration and modularity in pinnipeds. *Scientific Reports* (2019) 9: 4184.
- 崎山直夫・鈴木 聡・石井雅之・藤原克則・加登岡大希・樽 創, 2019. 相模湾・東京湾沿岸で記録されたハナゴンドウ (クジラ目: マイルカ科) について. *神奈川自然誌資料* 40: 95-102.
- 鈴木 聡, 2019. 酒匂川水系の哺乳類-現状把握と保全に向けて. *酒匂川* 54: 9-18.
- [著作・著書・調査報告書・資料等]
- 鈴木 聡, 2018. ニホンイタチ-在来種と国内外来種. 増田隆一編, *日本の食肉類 生態系の頂点に立つ哺乳類*, pp. 135-153. 東京大学出版会, 東京.
- 金子弥生・鈴木 聡・渡辺茂樹・村上隆広・服部 薫, 2018. 日本産中小型食肉目をめぐる保護管理上の諸問題: 哺乳類学会における作業部会設立の必要性. *哺乳類科学* 58: 123-124.
- 鈴木 聡, 2019. 神奈川県博物館協会総合防災計画について. *全科協ニュース*, 49(2): 6-8.
- [普及的著作等]
- 鈴木 聡, 2018. たくさん標本を集め、哺乳類の変異を研究し、普及する. *自然科学のとびら*, 23(3): 22-23.
- 樽 創・崎山直夫・鈴木 聡・田島木綿子, 2018. 日本に初めて打ち上げられたシロナガスクジラ. *自然科学のとびら*, 24(4): 28-29.
- 鈴木 聡・広谷浩子, 2018. 恐竜から哺乳類へ. 神奈川県立生命の星・地球博物館編, *神奈川県立生命の星・地球博物館展示解説書*, 改訂新版, pp. 64-65. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原; 鈴木 聡・広谷浩子・樽 創, 再び海へ, *ibid.*, p. 68-69; 鈴木 聡・広谷浩子, 化石からのメッセージ, *ibid.*, p. 122-123; 鈴木 聡・広谷浩子・田中徳久, 氷河時代と生物の移動, *ibid.*, p. 124; 鈴木 聡, II 色と形の不思議-頭骨, *ibid.*, p. 195.
- 鈴木 聡, 2018. 書評: 『日本の動物法 第2版』. *哺乳類科学*, 58: 185-186.
- [学会発表等]
- 鈴木 聡, 2018年8月23日. 博物館標本に基づく哺乳類の変異研究-アロメトリーと個体変異-. 日本進化学会第20回大会. 東京大学駒場キャンパス, 東京.
- 鈴木 聡, 2018年9月7日. 日本固有種と近縁種の形態的多様性: ニホンイタチとシベリアイタチ. 日本哺乳類学会2018年度大会. 信州大学, 南箕輪村.
- 森 健人・鈴木 聡・守屋 恵・二木裕樹, 2018年9月7日. 博物館とフォトグラメトリー2018. 日本哺乳類学会2018年度大会. 信州大学, 南箕輪村.
- 広谷浩子(ひろたに ひろこ) 動物学(哺乳類)**
- [著作・著書・調査報告書・資料等]
- 広谷浩子・加藤ゆき, 2019. みんなで守ろう「自然財」: 鳥獣標本の製作保管活用を進める地域ネットワーク始動. 第26回全国科学博物館協議会 研究発表大会資料, 75-81. 全国科学博物館協議会.
- [普及的著作等]
- 広谷浩子, 2019. 学芸員と標本士-鳥獣標本を継承する2つの人材-. *自然科学のとびら*, 24: 30
- [学会発表等]
- 広谷浩子・加藤ゆき, 2019年2月15日. みんなで守ろう「自然財」: 鳥獣標本の製作保管活用を進める地域ネットワーク始動. 第26回第26回全国科学博物館協議会 研究発表大会. 豊橋市自然史博物館, 豊橋市.
- 田中徳久(たなか のりひさ) 植物学(植物生態)**
- [著作・著書・調査報告書・資料等]
- 勝山輝男・田中徳久, 2018. 『神奈川県植物誌2018』はしがき. 神奈川県植物誌調査会編, *神奈川県植物誌2018*, pp. i-ii. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原市.
- 田中徳久, 2018. フサザクラ科. 神奈川県植物誌調査会編, *神奈川県植物誌2018*, p. 651; ヤマグルマ科. *ibid.*, p. 697; ボタン科. *ibid.*, pp. 698-699; カツラ科. *ibid.*, p. 702; ヤマモモ科. *ibid.*, p. 912; フウチョウソウ科. *ibid.*, pp. 1083-1084; ツチトリモチ科. *ibid.*, p. 1122; ハマミズナ科. *ibid.*, pp. 1210-1211; ヤマゴボウ科. *ibid.*, pp. 1212-1213; オシロイバナ科. *ibid.*, pp. 1213-1214; ザクロソウ科. *ibid.*, pp. 1215-1216; ハゼラン科. *ibid.*, p. 1218; スベリヒユ科. *ibid.*, pp. 1218-1219; イワウメ科. *ibid.*, p. 1252; イワタバコ科. *ibid.*, pp. 1370-1371; ノウゼンカズラ科. *ibid.*, pp. 1402-1403; クマツヅラ科. *ibid.*, pp. 1405-1410; サギゴケ科. *ibid.*, p. 1462; ハエドクソウ科. *ibid.*, pp. 1463-1464; キリ科. *ibid.*, p. 1465; ハマウツボ科. *ibid.*, pp. 1466-1473; シオン属. *ibid.*, pp. 1570-1578; ホウキギク属. *ibid.*, pp. 1578-1582; シオン属. *ibid.*, p. 1582. ; あとがき. *ibid.*, pp. xvii-xviii. 神奈川県植物誌調査会, 小田原市.
- 金井和子・田中徳久, 2018. ケシ科. 神奈川県植物誌調査会編, *神奈川県植物誌2018*, pp. 652-659; ナデシコ科. *ibid.*, pp. 1158-1186; リョウブ科. *ibid.*, p. 1258; キツネノマゴ科. *ibid.*, pp. 1399-1401. 神奈川県植物誌調査会, 小田原市.
- 田中徳久・内山寛, 2018. アリノトウグサ科. 神奈川県植物誌調査会編, *神奈川県植物誌2018*,

- pp. 730-. 神奈川県植物誌調査会, 小田原市.
- 田中徳久・勝山輝男, 2019. 『神奈川県植物誌 2018』で新たに神奈川県植物相に加えられた植物. *Flora Kanagawa*, (86): 1016-1021.
- 田中徳久, 2019. 『神奈川県植物誌 2018』で標本が未確認の植物. *Flora Kanagawa*, (86): 1022.
- 田中徳久, 2019. 「博物館のまわり: ボランティアの活躍」に参加して. 神奈川県博物館協会会報, (90): 59-60.
- [普及的著作等]
- 田中徳久, 2018. 『神奈川県植物誌 2018』～40年間の植物誌調査の成果～. 自然科学のとびら, 24(2): 10-11.
- 田中徳久, 2018. 地域の植物を調べる. 神静民報. 2018年7月21日掲載.
- 大西 亘・勝山輝男・田中徳久, 2018. 植物誌をつくろう! ～『神奈川県植物誌 2018』のできるまでとこれから～. 83pp. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原市.
- 田中徳久, 2018. 帰化植物の盛衰を追う. 神奈川新聞 2018年10月6日
- 鈴木 聡・田中徳久, 2018. 氷河時代と生物の移動. 神奈川県立生命の星・地球博物館編, 神奈川県立生命の星・地球博物館展示解説書, 改訂新版, pp. 124-125. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原市.
- 田中徳久, 2018. 氷河時代を生き抜いたブナ帯の動植物. 神奈川県立生命の星・地球博物館編, 神奈川県立生命の星・地球博物館展示解説書, 改訂新版, pp. 126-127; 神奈川県を特徴づける生物, *ibid.*, p. 128-131; 神奈川県植物誌, *ibid.*, p. 190; 神奈川の植物, *ibid.*, p. 191; 溪岸の植物, *ibid.*, p. 191. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原市.
- 田中徳久, 2019. 『神奈川県植物誌 2018』刊行. *Flora Kanagawa*, (86): 1015-1016.
- 田中徳久, 2019. 高橋秀男氏, ご逝去. *Flora Kanagawa*, (86): 1026.
- [学会発表等]
- 支倉千賀子・勝山輝男・田中徳久・大西 亘・池田博, 2019年3月7日～9日. 神奈川県を基準産地とするセデンシノ (イネ科アズマザサ属) について. 日本植物分類学会第18回大会. 首都大学東京, 八王子市.
- 田中徳久・勝山輝男・大西 亘, 2019年3月7日～9日. 『神奈川県植物誌 2018』で新産とされた植物. 日本植物分類学会第18回大会. 首都大学東京, 八王子市.
- 大西 亘・田中徳久・勝山輝男, 2019年3月7日～9日. 地域フロラ作成を目標としたインターネットデータベースの有用性と課題. 日本植物分類学会第18回大会. 首都大学東京, 八王子市.

- 大西 亘 (おおにし わたる) 植物学 (維管束植物)
- [著作・著書・調査報告書・資料等]
- 大西 亘, 2018. コシヨウ科. 神奈川県植物誌調査会編, 神奈川県植物誌 2018, p. 236; ウマノスズクサ科. 同書, p. 237-243; キンボウゲ科. *ibid.*, pp. 699-727; ハマビシ科. *ibid.*, p. 753; イラクサ科. 同書, p. 918-934; ウリ科. *ibid.*, pp. 955-958; アブラナ科. *ibid.*, p. 1117-1153; ビャクダン科. *ibid.*, pp. 1155-1157; オオバヤドリギ科. *ibid.*, pp. 1158-1159. 神奈川県植物誌調査会, 小田原市.
- [普及的著作等]
- 大西 亘, 2018. 学芸 voice. 地域の歴史を語る大樹. 神静民報. 2018年6月30日掲載.
- 大西 亘・勝山輝男・田中徳久, 2018. 植物誌をつくろう! ～『神奈川県植物誌 2018』のできるまでとこれから～. 83pp. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原市.
- 大西 亘, 2018. 特別展「植物誌をつくろう! ～『神奈川県植物誌 2018』のできるまでとこれから～」の見どころ+α. 自然科学のとびら, 24(3): 18-19.
- 大西 亘, 2018. 神奈川県植物誌のいま・昔・未来 緑の戸籍簿 (1) 海を渡ったハコネシダ. 神奈川新聞. 2018年9月15日掲載.
- 大西 亘, 2018. 神奈川県植物誌のいま・昔・未来 緑の戸籍簿 (4) 求む「新時代の協力者」. 神奈川新聞. 2018年10月13日掲載.
- 大西 亘, 2018. 陸上植物の系統. 神奈川県立生命の星・地球博物館編, 神奈川県立生命の星・地球博物館展示解説書, 改訂新版, pp. 58-59. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原市; 被子植物の世界. *ibid.*, pp. 74-75; 多様性が生まれるしくみ. *ibid.*, pp. 86-88; 生き物どうしの関わり. *ibid.*, p. 89.
- [学会発表等]
- 大西 亘, 2018年11月29日. 時間と空間上の分布を考慮した、標本に基づくチェックリストシステム～神奈川県植物誌調査を事例として～. 第21回自然系調査研究機関連絡会議調査研究・活動事例発表会 (NORNAC21). ミュージアムパーク茨城県自然博物館, 坂東市.
- 大西 亘, 2018年12月7日～12月9日. 博物館で収集すべき“種生物学”的資料とは? ～多様な学術資料・データの円滑な流通のために～. 第50回種生物学シンポジウム. 大学セミナーハウス, 八王子市.
- 大西 亘・田中徳久・勝山輝男, 2019年3月7日～9日. 地域フロラ作成を目標としたインターネットデータベースの有用性と課題. 日本植物分類学会第18回大会. 首都大学東京, 八王子市.
- 海老原淳・総谷文清・大西 亘・片山なつ, 2019年3月7日～9日. 日本産シダ植物の分類学リソ

ースポータルサイト構築. 日本植物分類学会第 18 回大会. 首都大学東京, 八王子市.

小玉あすか・山本 薫・大西 亘・松尾 歩・陶山 佳久・岩崎貴也, 2019 年 3 月 7 日~9 日. 暖地性シダ植物マツバランの系統地理解析: 特に神奈川県産個体由来着目して. 日本植物分類学会第 18 回大会. 首都大学東京, 八王子市.

田中徳久・勝山輝男・大西 亘. 2019 年 3 月 7 日~9 日. 『神奈川県植物誌 2018』で新産とされた植物. 日本植物分類学会第 18 回大会. 首都大学東京, 八王子市.

支倉千賀子・勝山輝男・田中徳久・大西 亘・池田 博, 2019 年 3 月 7 日~9 日. 神奈川県を基準産地とするセデンシノ (イネ科アズマザサ属) について. 日本植物分類学会第 18 回大会. 首都大学東京, 八王子市.

折原貴道 (おりはら たかみち) 菌類学

[論文]

折原貴道・出川洋介, 2018. 御蔵島の地下生菌相の特徴. *Mikurensis* 7: 31-38.

Hosaka K., T. Kobayashi, M. A. Castellano & T. Orihara, 2018. The status of voucher specimens of mushroom species thought to be extinct from Japan. *Bulletin of the National Museum of Nature and Science. Series B, Botany*, 44(2): 53-66.

Yamamoto K., M. Ohmae & T. Orihara, 2019. First report of a hypogeous fungus, *Pachyphlodes nemoralis* (Pezizaceae) from subalpine forest in Japan. *Truffology*, 2: 1-5.

折原貴道・山本航平・保坂健太郎, 2019. オオシヨウロ (イグチ目シヨウロ科) の分布、系統および分類学的扱いについて. *Truffology*, 2: 10-17.

Hosen M. I., X. J. Zhong, G. Gates, T. Orihara & T. H. Li, 2019. Type studies of *Rossbeevera bispora*, and a new species description within *Rossbeevera* from south China. *Myckeys*, 51: 15-28.

[著作・著書・調査報告書・資料等]

折原貴道, 2018. 神奈川のコケ・地衣. 神奈川県立生命の星・地球博物館編, 神奈川県立生命の星・地球博物館展示解説書, 改訂新版, p. 189. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原市; 神奈川のきのこ, *ibid.*, p. 190.

折原貴道, 2019. トガサワラシヨウロ *Rhizopogon togasawariana* の和歌山県における初記録. *Truffology*, 2: 18-19.

折原貴道・山本航平・大場由美子・阿部晴恵 (島嶼菌類研究グループ), 2019. 伊豆諸島の地下生菌はいつ, どこからやってきたのか-海洋島の大型

菌類の多様性解明と保全に向けた基礎的研究. 自然保護助成基金成果報告書 25 周年特別記念号, pp. 181-190.

[普及的著作等]

折原貴道, 2018. あなたの知らない〇〇ワールド 第 2 回 地下生菌の世界-地中に潜った奇妙なきのこ. 文一総合出版ウェブサイト Bu-Na, 2018 年 7 月 9 日公開.

折原貴道, 2018. 学芸員ボイス『地域住民とともにつくり上げる菌類誌』. 神静民報, 2018 年 9 月 21 日付.

[学会発表等]

折原貴道, 2018 年 5 月 20 日. 伊豆諸島の地下生菌. 神奈川キノコの会総会・スライド会, 平塚市博物館, 平塚市.

折原貴道・保坂健太郎・川口泰史, 2018 年 5 月 26 日. 稀産トリュフ型菌, 「ニカワシヨウロ」の実体. 日本菌学会第 62 回大会, 信州大学農学部, 南箕輪村.

大前宗之・中島 稔・折原貴道, 2018 年 5 月 27 日. 背着生子実体を形成するチャワಂತケ目菌 *Karstenella vernalis* の国内初記録. 日本菌学会第 62 回大会, 信州大学農学部, 南箕輪村.

細野天智・升本 宙・大前宗之・山本航平・折原貴道・出川洋介, 2018 年 5 月 27 日. 日本初記録となる *Leucoscypha* 属 (チャワಂತケ目ピロネマキン科) について. 日本菌学会第 62 回大会, 信州大学農学部, 南箕輪村.

小竹ひとみ・原田 浩・坂田歩美・吹春俊光・折原貴道・清水公徳, 2018 年 5 月 27 日. ヒメレンゲゴケとナミガタウメノキゴケを構成する菌類の解明. 日本菌学会第 62 回大会, 信州大学農学部, 南箕輪村.

下野義人・大藪崇司・北出雄生・折原貴道・松田陽介・岩瀬剛二, 2018 年 5 月 27 日. 京都市の復元型ビオトープ「いのちの森」におけるイボセイヨウシヨウロの分布と消長. 日本菌学会第 62 回大会. 信州大学農学部, 南箕輪村.

Orihara T., M. Ohmae, K. Yamamoto & Y. Degawa, 16-21 July 2018. *Aspergillus* becomes a truffle - enigmatic, bright yellow, hypogeous ascomata found from Japan. 11th International Mycological Congress (IMC11), Puerto Rico Convention Center, San Juan, Puerto Rico.

小竹ひとみ・原田 浩・坂田歩美・吹春俊光・折原貴道・清水公徳, 2018 年 9 月 1 日. ヒメレンゲゴケとナミガタウメノキゴケから分離される担子菌酵母. 日本地衣学会第 17 回大会, 栃木県立博物館, 宇都宮市.

折原貴道, 2018 年 10 月 13 日. 昭和期に記載された謎の地下生菌の実態を探る. 日本菌学会関東支部第 32 回菌類観察会. いこいの村ヘリテージ

美の山, 秩父郡皆野町.

杉本 泉・渡辺 舞・折原貴道, 2018 年 12 月 8 日.
生命の星・地球博物館菌類ボランティアの活動.
日本菌学会・日本菌学会関東支部・中華民国真菌
学会共催 日台合同シンポジウム (一般発表), 神
奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原市.

Sato H., M. Suyama-Watanabe, T. Orihara & Y.
Degawa, 8 December 2018. Species of
Harpellales recorded in Iriuda, Odawara
Kanagawa Prefecture, Japan. MSA-MSA Kanto
Branch-MST joint symposium, KPM, Odawara.

Sugimoto I., M. Suyama-Watanabe & T. Orihara,
8 Dec 2018. Activities of the Volunteer
Group of Mycology, Kanagawa Prefectural
Museum of Natural History. MSA-MSA Kanto
Branch-MST joint symposium, KPM, Odawara.

Orihara T., 9 Dec 2018. Recent mycological
activities in Kanagawa Prefectural Museum of
Natural History (KPM). MSA-MSA Kanto Branch-
MST joint excursion, KPM, Odawara, Kanagawa.
折原貴道, 2019 年 2 月 3 日. 南方熊楠が遺した地
下生菌図譜に描かれた種の実体. 日本地下生菌研
究会第 3 回総会・講演会, 国立科学博物館植物
研究部棟, つくば市.

勝山輝男 (かつやま てるお) 植物学 (維管束植物)

[著作・著書・調査報告書・資料等]

勝山輝男, 2018. 日本のスゲ属植物の分類 10 年
の成果. 莎草研究, (20): 11-16.

勝山輝男, 2018. ヒロハサギゴケ, ミヤコジマソ
ウ, シノモドキ. 横浜植物会会報, (241): 1.

勝山輝男, 2018. バンレイシ科. 神奈川県植物誌
調査会編, 神奈川県植物誌 2018. p. 214; オモ
ダカ科. 同. pp. 236-239; シバナ科. 同. p.
249; アマモ科. 同. pp. 250-252; ヤシ科. 同. p.
366; ツユクサ科. 同. pp. 367-372; ガマ科 (科
の解説とガマ属). 同. pp. 378-381; カヤツリ
クサ科スゲ属. 同. pp. 448-493; イネ科スズメ
ノチャヒキ属. 同. pp. 576-582; カモノハシガ
ヤ属. 同. pp. 624-627; ツゲ科. 同. p. 698;
ユズリハ科. 同. pp. 703-704; ベンケイソウ科
アズマツメクサ属. 同. pp. 719-721; シュウカ
イドウ科. 同. p. 927; カタバミ科. 同. pp.
936-941; オトギリソウ科. 同. pp. 942-950;
ヤナギ科イイギリ属. 同. p. 989; トウダイグ
サ科. 同. pp. 990-1002; アマ科. 同. pp.
1003-1005; コミカンソウ科. 同. pp. 1005-
1007; キブシ科. 同. pp. 1036-1037; ジンチョ
ウゲ科. 同. pp. 1080-1082; タデ科. 同. pp.
1128-1156; モウセンゴケ科. 同. p. 1157; ヒ
ユ科. 同. pp. 1187-1209; ツルムラサキ科. 同.
p. 1217; アオキ科. 同. p. 1276; アカネ科. 同.
pp. 1277-1296; リンドウ科. 同. pp. 1297-

1302; ナス科. 同. pp. 1341-1360; オオバコ科
アワゴケ属. 同. pp. 1372-1374; ツノゴマ科.
同. p. 1398; キク科 (科の解説と亜科および連
への検索表). 同. pp. 1492-1493; センボンヤ
リ亜科 (亜科の解説と属への検索表). 同. p.
1493; ノブキ属. 同. pp. 1493-1494; コウヤボ
ウキ亜科 (亜科の解説と属への検索表). p.
1494; アザミ亜科 (亜科の解説と属への検索表).
同. p. 1498; ヤマボクチ属. 同. pp. 1498-
1499; ゴボウ属. 同. pp. 1498-1499; トウヒレ
ン属. 同. pp. 1499-1502; オケラ属. 同.
1502-1503; オオアザミ属. 同. p. 1515; キツ
ネアザミ属. 同. p. 1515; ヒレアザミ属. 同.
p. 1515-1516; タムラソウ属. 同. p. 1516; ヤグ
ルマギク属. 同. pp. 1516-1519; タンポポ亜科
(科の解説). 同. p. 1519; アフリカギク連 (連
の解説). 同. p. 1520; ワタゲハナグルマ属. 同.
p. 1520; タンポポ連バラモンジン属. 同.
1522-1524; キク亜科 (亜科の解説). 同.
p. 1546; サワギク連 (属への検索表). 同. pp.
1546-1547; ヤブレガサ属. 同. p. 1547; コウ
モリソウ属. 同. pp. 1547-1550; フキ属. 同.
p. 1550; タケダグサ属. 同. p. 1551; ツワブキ
属. 同. p. 1551; メタカラコウ属. 同. pp.
1551-1553; オオモミジガサ属. 同. p. 1553;
サワギク属. 同. p. 1553; オカオグルマ属. 同.
pp. 1553-1555; キオン属. 同. pp. 1556-1558;
ウスベニニガナ属. 同. pp. 1558-1559; ベニバ
ナボロギク属. 同. p. 1559; サンシチソウ属.
同. p. 1559; コンギク連 (属への検索表). 同.
pp. 1559-1562; イズハハコ属. 同. p. 1562;
アキノキリンソウ属. 同. pp. 1562-1563; イガ
ギク属. 同. p. 1563; アズマギク属. 同. pp.
1566-1570; キク連 (属への検索表). 同. pp.
1582-1583; ノコギリソウ属. 同. pp. 1583-
1584; カミツレモドキ属. 同. p. 1584; カミツ
レ属. 同. pp. 1584-1585; シカギク属. 同. p.
1585; シュンギク属. 同. pp. 1585-1587; フラ
ンスギク属. 同. p. 1588; ノースポールギク属.
同. p. 1588; キク属. 同. pp. 1588-1589; イ
ガトキンソウ属. 同. p. 1591; マメカミツレ属.
同. p. 1591; ニオイヨモギ属. 同. p. 1599;
ヨモギギク属. 同. p. 1599; モクビャッコウ属.
同. p. 1599; ハハコグサ連 (属への検索表).
同. p. 1601; キヌゲチチコグサ属. 同. p.
1601; ウスユキソウ属. 同. p. 1601; チチコグ
サ属. 同. p. 1601; チチコグサモドキ属. pp.
1601-1602; ハハコグサ属. 同. pp. 1602-1603;
ヤマハハコ属. 同. pp. 1603-1604; オグルマ連
(属への検索表). 同. p. 1604; オグルマ属.
同. pp. 1604-1608; 広義メナモミ連 (連の解説
と属への検索表). 同. pp. 1613-1615; トキン
ソウ属. 同. p. 1618; ヒヨドリバナ属. 同. pp.

1618-1620; マルバフジバカマ属. 同. p. 1620; アワユキギク属. 同. pp. 1620-1622; カッコウアザミ属. 同. pp. 1622-1623; スマダイコン属. 同. pp. 1623-1624; ミズヒマワリ属. 同. p. 1624; センジュギク属. 同. pp. 1624-1625; カラクサシユンギク属. 同. pp. 1625-1626; イトバギク属. 同. p. 1626; ダンゴギク属. 同. p. 1626; メナモミ属. 同. pp. 1626-1628; アメリカトゲミギク属. 同. p. 1628; コトブキギク属. 同. pp. 1628-1629; スマツルギク属. 同. p. 1629; ハマグルマ属. 同. 1629; センダングサ属. 同. pp. 1629-1633; タカサブロウ属. 同. pp. 1633-1636; コゴメギク属. 同. pp. 1636-1637; ヒマワリ属. 同. pp. 1637-1638; ジャノメギク属. 同. p. 1638; キヌガサギク属. 同. pp. 1639-1640; キクイモモドキ属. 同. p. 1640; ハネミギク属. 同. p. 1640; テンニンギク属. 同. p. 1642; コスモス属. 同. pp. 1642-1643; ハルシャギク属. 同. pp. 1643-1645. 神奈川県植物誌調査会, 小田原市.

勝山輝男・武智憲治, 2018. イチョウ科. 神奈川県植物誌調査会編, 神奈川県植物誌 2018. p. 182; マツ科, 同. pp. 183-189; マキ科, 同. p. 190; ヒノキ科, 同. pp. 91-195; イチイ科, 同. pp. 196-197. 神奈川県植物誌調査会, 小田原市.

勝山輝男・堀内 洋・北川淑子, 2018. カヤツリグサ科 (科の解説と属への検索表). 神奈川県植物誌調査会編, 神奈川県植物誌 2018. pp. 399-401. 神奈川県植物誌調査会, 小田原市.

勝山輝男・堀内 洋, 2018. カヤツリグサ科テンツキ属. 神奈川県植物誌調査会編, 神奈川県植物誌 2018. pp. 420-426; ハタガヤ属. 同. pp. 426-428; ワタスゲ属. 同. p. 446; ヒトモトススキ属. 同. pp. 446-447; ミカヅキグサ属. 同. p. 447; ノグサ属. 同. pp. 447-448; シンジュガヤ属. 同. p. 448. 神奈川県植物誌調査会, 小田原市.

長谷川義人・勝山輝男, 2018. アジサイ科アジサイ属. 神奈川県植物誌調査会編, 神奈川県植物誌 2018. pp. 1220-1226. 神奈川県植物誌調査会, 小田原市.

[普及的著作等]

勝山輝男, 2018. 箱根と其の周辺に分布が限られている植物⑩フジアカショウマ. 箱根を守る会会報ブナだより, (19): 2.

勝山輝男, 2018. 箱根と其の周辺に分布が限られている植物⑪ハンカイシオガマ. 箱根を守る会会報ブナだより, (20): 2.

大西 亘・勝山輝男・田中徳久, 2018. 植物誌をつくろう! ~『神奈川県植物誌 2018』のできるまでとこれから~. 83pp. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原市.

勝山輝男, 2018. 緑の戸籍簿 神奈川県植物誌のいま・昔・未来 2, 丹沢から消えるノブキ. 2018年9月29日 神奈川新聞.

勝山輝男, 2018. ホソスゲ. 自然科学のとびら, 24(4): 25.

勝山輝男, 2018. 箱根と其の周辺に分布が限られている植物⑩ウラハグサ. 箱根を守る会会報ブナだより, (21): 2.

[学会発表等]

勝山輝男, 2018年6月23日~24日. 釧路大会記念講演「スゲ属植物の魅力と北海道のスゲ」. 第27回すげの会全国大会 (北海道釧路大会), 釧路市立博物館, 釧路市.

織田二郎・山下 純・勝山輝男・布施静香・田村 実. 2019年3月7日~9日. ミヤマカンスゲ群の分子系統解析. 日本植物分類学会第18回大会, 首都大学東京南大沢キャンパス, 八王子市.

田中徳久・勝山輝男・大西 亘. 2019年3月7日~9日. 『神奈川県植物誌 2018』で新産とされた植物. 日本植物分類学会第18回大会. 首都大学東京南大沢キャンパス, 八王子市.

支倉千賀子・勝山輝男・田中徳久・大西 亘・池田博. 神奈川県を基準産地とするセデンシノ (イネ科アズマザサ属) について. 2019年3月7日 (木) ~9日 (土). 日本植物分類学会第18回大会, 首都大学東京南大沢キャンパス, 八王子市.

大西 亘・田中徳久・勝山輝男. 地域フロラ作成を目的としたインターネットデータベースの有用性と課題. 2019年3月7日 (木) ~9日 (土). 日本植物分類学会第18回大会. 首都大学東京南大沢キャンパス, 八王子市.

大島光春(おおしま みつはる) 古生物(哺乳類)

[論文]

石浜佐栄子・大島光春・田口公則・加藤ゆき, 2019. 特別展 2017「地球を『はぎ取る』」における展示の工夫と来館者による評価. 神奈川県博物館研究報告 (自然科学), (48): 151-160.

[著作・著書・調査報告書・資料等]

石浜佐栄子・山下浩之・大島光春・田口公則, 2018. 地球の現象を体感する新しい展示の実践的研究 ~地層の実物標本とハンズオン実験を軸に. 博物館活動の活性化をめざして - 科学博物館活動等事例集 -, pp. 53-58. 一般財団法人全国科学博物館振興財団.

[普及的著作等]

大島光春, 2018. エントランスホール. 神奈川県立生命の星・地球博物館編, 神奈川県立生命の星・地球博物館展示解説書, 改訂新版, pp. 4-5. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原; 恐竜の時代, *ibid.*, pp. 62-63; 歯のはなし, *ibid.*, p. 195; 田口公則・大島光春, 2018. 生命あふれる地球. *ibid.*, pp. 46-49.

大島光春, 2019. イノシシ類の化石が語る大地の
成り立ち. 地球博「学芸」voice, 神静民報,
2019年1月12日発行.

大島光春, 2019. 特集 災害を伝える. 全科協ニ
ュース, 49 (2), p. 2. 全国科学博物館協議会,
東京.

[学会発表等]

石浜佐栄子・田口公則・大島光春, 2018年5月20
日. 神奈川県立生命の星・地球博物館の特別展
「地球を『はぎ取る』」が目指した地質学と芸術
のコラボレーション. 日本地球惑星科学連合
2018年大会, 幕張メッセ, 千葉市.

田口公則・大島光春・石浜佐栄子・加藤恵美, 2018
年6月23日. 展示認知を促すための多面的展
開: キャラクターのつづきによる補足. 全日
本博物館学会第44回研究大会. 明治大学, 東
京.

大島光春・石浜佐栄子・田口公則・加藤ゆき, 2018
年6月30日-7月1日. 特別展「地球を『はぎ
取る』」で試みた多層立体展示解説. 第37回日
本展示学会研究大会. 東京国立博物館, 東京.

大島光春, 2018年12月23日. 撮ればつながる展
示解説システムによる博物館体験. 2018年度第
2回博物館教育研究会. 神奈川県立生命の星・
地球博物館, 小田原市.

大島光春・松本涼子・佐藤武宏, 2019年1月25日.
絶滅生物が生きていた当時の姿を復元するた
めの挑戦と課題 ~現在は過去を解く鍵~. 日本古
生物学第168回例会シンポジウム. 神奈川県立
生命の星・地球博物館, 小田原市.

樽 創(たる はじめ) 古生物(哺乳類)

[論文]

崎山直夫・鈴木 聡・石井雅之・藤原克則・加登岡
大希・樽 創, 2019. 相模湾・東京湾沿岸で記
録されたハナゴンドウ(クジラ目:マイルカ科)
について. 神奈川自然誌資料 (40): 95-102.

[著作・著書・調査報告書・資料等]

川田伸一郎・岩佐真宏・福井 大・新宅勇太・天野
雅男・下稲葉さやか・樽 創・姉崎智子・横畑
泰志. 2018. 世界哺乳類標準和名目録. 哺
乳類科学, 58: 1-53 (別冊).

[普及的著作等]

樽 創・崎山直夫・鈴木 聡・田島木綿子, 2018.
日本に初めて打ち上げられたシロナガスクジラ.
自然科学のとびら, 24(4): 28-29.

樽 創, 2018. ゴウの進化. 神奈川県立生命の星・
地球博物館編, 神奈川県立生命の星・地球博物館
展示解説書, 改訂新版, pp. 70-71. 神奈川県立
生命の星・地球博物館, 小田原; 飛べない鳥た
ち. *ibid.*, p. 67; 丹沢の海の時代. *ibid.*, p.
102; 第四紀の環境変遷. *ibid.*, p. 106-107;
縄文の海と森. *ibid.*, p. 110-111; 化石から

のメッセージ. *ibid.*, p. 122-123; メッセル化
石動物群. *ibid.*, p. 185.

樽 創, 2018年11月8日. 日本で生まれ、絶滅
したゴウ~アケボノゴウ~. 神奈川新聞.

[学会発表等]

小寺 稜・井上孝二・植草康浩・遠藤智子・小寺春
人・近藤圭佑・樽 創・千葉敏江・山本桂子・佐
藤哲二, 2019年3月17日. ハクジラの歯周組
織構造とその機能の検討. 勇魚会, 静岡産学交流
センター B-nest, 静岡市.

村上達郎・樽 創・鏑本武久, 2019年1月27日.
神奈川県に分布する鮮新統中津層群から産出
したサイ科の有鉤骨化石の再検討. 日本古生物学
会第168回例会. 神奈川県立生命の星・地球博
物館, 小田原市.

三井翔太・樽 創・大江文雄・Carlos Augusto
Strüssmann, 2019年1月26日. 神奈川県三浦
半島の中部更新統宮田累層から産出した魚類化
石に基づく古環境推定. 日本古生物学会. 神奈川
県立生命の星・地球博物館, 小田原市

宮田真也・樽 創・簗本美孝, 2018年10月7日.
神奈川県川崎市に分布する下部更新統飯室層か
ら産出したキダイ属魚類化石. 日本魚類学会.
国立オリンピック記念青少年総合センター, 東
京.

宮田真也・樽 創・簗本美孝, 2018年6月23日.
神奈川県川崎市に分布する下部更新統飯室層か
ら産出したタイ科魚類化石. 日本古生物学会.
東北大学, 仙台市

樽 創, 2018年6月23日. *Paleoparadoxia*
tabatai (Tokunaga, 1939) の咀嚼運動の推定.
日本古生物学会. 東北大学, 仙台市.

田口公則(たぐち きみのり) 古生物(貝類)

[論文]

石浜佐栄子・大島光春・田口公則・加藤ゆき, 2019.
特別展2017「地球を『はぎ取る』」における展示
の工夫と来館者による評価. 神奈川県博物館研
究報告(自然科学), (48): 151-160.

志澤泰彦・田口公則, 2019. 博物館との連携によ
る理科教育法の授業が教職課程学生に与える効
果. 日本大学生物資源科学部教職課程紀要,
(2): 5-11.

田口公則・清水玲子, 2019. 展示見学ポートフォ
リオづくりを用いた協調的ワークショップの試
み -博物館見学実習を事例として-. Museum
study 明治大学学芸員養成課程紀要, (29): 149-
154.

富田 進・田口公則・佐野勇人・門田真人, 2019.
伊豆半島松崎町の中中新統湯ヶ島層群産の蓋
付きヤベサザエ *Turbo yoshiharuyabei*. 東海
自然誌, (12): 1-4.

[著作・著書・調査報告書・資料等]

石浜佐栄子・山下浩之・大島光春・田口公則, 2018. 地球の現象を体感する新しい展示の実践的研究～地層の実物標本とハンズオン実験を軸に. 博物館活動の活性化をめざしてー科学博物館活動等事例集一, pp. 53-58. 一般財団法人全国科学博物館振興財団.

[普及的著作等]

田口公則・大島光春, 2018. 生命あふれる地球. 神奈川県立生命の星・地球博物館編, 神奈川県立生命の星・地球博物館展示解説書, 改訂新版, pp. 46-49. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原市.

田口公則, 2018, 博物館の来館者数を考えるー入館者 700 万人を迎えてー. 自然科学のとびら, 24(4): 31.

田口公則, 2019. 化石採集の最後の砦～工事現場への期待. 地球博「学芸」voice, 神静民報, 2019 年 2 月 16 日発行.

[学会発表等]

石浜佐栄子・田口公則・大島光春, 2018 年 5 月 20 日. 神奈川県立生命の星・地球博物館の特別展「地球を『はぎ取る』」が目指した地質学と芸術のコラボレーション. 日本地球惑星科学連合 2018 年大会. 幕張メッセ, 千葉市.

田口公則・大島光春・石浜佐栄子・加藤恵美, 2018 年 6 月 23 日. 展示認知を促すための多面的展開: キャラクターのつぶやきによる補足. 全日本博物館学会第 44 回研究大会, 明治大学, 東京.

大島光春・石浜佐栄子・田口公則・加藤ゆき, 2018 年 6 月 30 日-7 月 1 日. 特別展「地球を『はぎ取る』」で試みた多層立体展示解説. 第 37 回日本展示学会研究大会, 東京国立博物館, 東京.

田口公則・佐藤武宏, 2018 年 8 月 4 日. 幼児向け科学的遊びから発想した貝殻の教材開発. 日本理科教育学会第 68 回全国大会, 岩手大学, 盛岡市.

石浜佐栄子・田口公則, 2018 年 8 月 25-26 日. 地層が諸現象を記録する仕組みを実感する“日縞”堆積実験. 日本地学教育学会第 72 回全国大会. 筑波大学, つくば市.

田口公則, 2018 年 12 月 2 日. 足柄平野周辺の校歌にみる身近な自然景観. 日本地質学会第 125 年学術大会 (2018 年つくば特別大会). 産業技術総合研究所 つくば本部, つくば市.

田口公則, 2018 年 12 月 23 日. 展示室で何を撮っているのだろう～生命展示室. 2018 年度第 2 回博物館教育研究会. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原市.

新井田秀一 (にいだ しゅういち) 環境科学

[著作・著書・調査報告書・資料等]

新井田秀一, 2019. 神奈川県立生命の星・地球博物館における LED 展示照明の導入. 神奈川県博

物館協会会報, (90): 44-49.

[普及的著作等]

新井田秀一, 2018. 地球をおおうバリア. 神奈川県立生命の星・地球博物館編, 神奈川県立生命の星・地球博物館展示解説書, 改訂新版, pp. 9. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原市; 地球の環境, *ibid.*, p. 155-161; 地球と人類, *ibid.*, p. 163-173; 地球と生命, *ibid.*, p. 175-177.

新井田秀一, 2018. 箱根火山と足柄平野の地形. 地球博「学芸」voice, 神静民報社, 2018 年 12 月 8 日発行.

笠間友博 (かさま ともひろ) 地学 (火山)

[論文]

笠間友博・塩井宏幸, 2019. 三浦半島第四系宮田層中の不整合と挟在する“船久保タフ(Fn)”の Ft, U-Pb, K-Ar 年代. 神奈川県立博物館研究報告(自然科学), (48): 1-12.

[普及的著作等]

笠間友博, 2018. 菊川支流探訪 1 大きな石は隆起の証し. 広報おおい, 2018 年 12 月号, 大井町.

笠間友博, 2018. 火山ジオパークと共に見てほしいプリニー式噴火の軽石層. 自然科学のとびら, 24(3): 20-21.

[学会発表等]

笠間友博・塩井宏幸, 2018, 神奈川県三浦半島宮田層中の不整合とテフラの年代について～工事露頭が示唆する宮田層形成に関する制約～. 2018 年 8 月 24 日, P3, 日本第四紀学会, 首都大学東京, 八王子市.

山下浩之 (やました ひろゆき) 地学 (岩石学)

[論文]

山下浩之・川手新一・山口珠美, 2019. 岩石薄片の作製と観察を取り入れた学習プログラムの開発と実践. 神奈川県立博物館研究報告自然科学, 48: 139-150.

[著作・著書・調査報告書・資料等]

石浜佐栄子・山下浩之・大島光春・田口公則, 2018. 地球の現象を体感する新しい展示の実践的研究～地層の実物標本とハンズオン実験を軸に. 博物館活動の活性化をめざしてー科学博物館活動等事例集一, pp. 53-58. 一般財団法人全国科学博物館振興財団.

山下浩之, 2019. 箱根火山と石材. 佐々木健策著, シリーズ「遺跡を学ぶ」132 戦国時代を支えた石 小田原の石切と生産遺跡, pp. 12-14. 新泉社, 東京.

[普及的著作等]

山下浩之, 2019. 3. 大井町にも火山があった?. 広報おおい, 2019 年 3 月 1 日.

山下浩之, 2019. 岩石薄片を簡単に作り観察す

る。自然科学のとびら, 26 (1): 4-5.

[学会発表等]

山下浩之・川手新一・山口珠美, 2018 年 9 月 5 日.
岩石観察プログラムの開発と実践～岩石プレパ
ラートを簡便につくり、観察するための試行. 日
本地質学会第 125 学術大会, 北海道大学, 札幌
市.

小原泰彦・秋澤紀克・針金由美子・平野直人・平内
健一・道林克禎・沖野郷子・Alessio Sanfilippo・
Jonathan E. Snow・山下浩之・KH18-2 研究者一
同, 2018 年 9 月 7 日. 白鳳丸 KH18-2 航海速報:
四国海盆のリソスフェアとアセノスフェアの組
成. 日本地質学会第 125 学術大会, 北海道大学,
札幌市. (震災のため講演は中止).

松本優吾・藤本光一郎・萬年一剛・山下浩之, 2018
年 12 月 1 日. 箱根外輪山北東部外側斜面のボー
リング地質. 日本地質学会つくば特別大会,
産業技術総合研究所つくば本部, つくば市.

藤岡換太郎・山下浩之・平田大二・高橋直樹, 2018
年 12 月 2 日. 相模湾の相模海丘の玄武岩礫層
と沖ノ山堆列の成因についてー伊豆弧北端のテ
クトニクス序説 その 2ー. 日本地質学会つくば
特別大会, 産業技術総合研究所つくば本部, つ
くば市.

Ohara, Y., K. Okino, N. Akizawa, M. Fujii, Y.
Harigane, N. Hirano, K. Hirauchi, S. Machida,
K. Michibayashi, A. Sanfilippo, J. E. Snow
and H. Yamashita, 12 December 2018. A new
tectonic window into the backarc basin lower
oceanic crust and upper mantle: Mado
Megamullion in the Shikoku Basin. Abstract
T32C-05B, 2018 Fall Meeting, AGU, Washington
D. C..

石浜佐栄子 (いしはま さえこ) 地学 (堆積学)

[論文]

石浜佐栄子・大島光春・田口公則・加藤ゆき, 2019.
特別展 2017「地球を『はぎ取る』」における展示
の工夫と来館者による評価. 神奈川県博物館研
究報告 (自然科学), (48): 151-160.

[著作・著書・調査報告書・資料等]

石浜佐栄子・山下浩之・大島光春・田口公則, 2018.
地球の現象を体感する新しい展示の実践的研究
～地層の実物標本とハンズオン実験を軸に. 博
物館活動の活性化をめざしてー科学博物館活動
等事例集ー, 53-58. 一般財団法人全国科学博
物館振興財団.

[普及的著作等]

石浜佐栄子, 2018. 流れが作り出すリップル.
理科教育ニュース (少年写真新聞社), 2018 年 4
月 28 日発行第 1040 号付録, 1.

石浜佐栄子, 2018. プレート境界にある足柄平野.
地球博「学芸」voice, 神静民報社, 2018 年 10

月 13 日発行.

[学会発表等]

石浜佐栄子・田口公則・大島光春, 2018 年 5 月 20
日. 神奈川県立生命の星・地球博物館の特別展
「地球を『はぎ取る』」が目指した地質学と芸術
のコラボレーション. 日本地球惑星科学連合
2018 年大会, 幕張メッセ, 千葉市.

田口公則・大島光春・石浜佐栄子・加藤恵美, 2018
年 6 月 23 日. 展示認知を促すための多面的展
開: キャラクターのつぶやきによる補足. 全日
本博物館学会第 44 回研究大会, 明治大学, 東京.
大島光春・石浜佐栄子・田口公則・加藤ゆき, 2018
年 6 月 30 日-7 月 1 日. 特別展「地球を『はぎ
取る』」で試みた多層立体展示解説. 第 37 回日
本展示学会研究大会, 東京国立博物館, 東京.

石浜佐栄子・田口公則, 2018 年 8 月 25 日-26 日.
地層が諸現象を記録する仕組みを実感する“日縞”
堆積実験. 日本地学教育学会第 72 回全国大会,
筑波大学, つくば市.

大坪 奏 (おおつば かなで) アーカイブズ

[論文]

大坪 奏, 2019. 生命の星・地球博物館におけるアー
カイブズ保存のための温湿度管理に関する検討.
神奈川県博物館研究報告 (自然科学), (48): 161-
169.

Cvetomir M. Denchev, Tomomi Masaki, Kanade
Otsubo, Teodor T. Denchev, 2018. Notes on
some Japanese smut fungi. 6. *Macalpinomyces*
arundinellae-setosae and *Sporisorium doidgeae*
newly recorded, and new hosts of *Anthracoidea*
microsora. *Mycotaxon*, 133: 211-218.

3.4. レファレンス対応人数

2018年度の学芸員のレファレンス業務について、件数の表記が可能なものを分野別に、問い合わせの手法によって分類し、表に示した。

レファレンス対応人数・マスコミに掲載された件数

	研究者						研究者以外						レファレンス合計	同定標本数	マスコミ掲載数	マスコミ放送・放映
	メール	電話	手紙	来館	出張	小計	メール	電話	手紙	来館	出張	小計				
昆虫類	156	18	7	15	132	328	273	84	29	310	393	1,089	1,417	2,933	2	0
魚 類	271	10	0	29	1	311	589	64	0	81	3	737	1,048	4,848	4	9
両生・爬虫類	26	0	0	2	1	29	43	8	1	12	0	64	93	99	3	2
鳥 類	15	11	0	0	0	26	72	58	1	25	7	163	189	185	1	0
哺乳類	1	0	0	1	0	2	95	8	0	7	30	140	142	346	1	0
その他動物	24	2	0	4	1	31	69	25	2	69	21	186	217	206	0	3
植 物	35	14	7	4	0	60	145	49	2	76	0	272	332	540	0	13
菌 類	87	13	13	53	33	199	47	25	11	70	24	177	376	330	1	0
古生物	7	1	0	5	0	13	17	13	2	35	0	67	80	46	1	0
地 学	9	0	0	2	2	13	38	47	3	85	3	176	189	298	1	2
地球環境	5	3	2	1	0	11	7	12	0	13	0	32	43	11	0	1
合 計	636	72	29	116	170	1,023	1,395	393	51	783	481	3,103	4,126	9,842	14	30

マスコミ等の問い合わせの元（掲載未確認のものを含む）

	主な問合せ元(放送局・出版社等)	主な番組等
昆虫類	NHK/神奈川新聞/PHP出版	
魚 類	NHKテレビ/日本テレビ/テレビ朝日/TBSテレビ/フジテレビ/テレビ東京/東京MXテレビ/北海道テレビ/BS朝日/BS日テレ/毎日放送 神奈川新聞/読売新聞/西日本新聞/朝日新聞 共同通信社	地球メシ/すいせんサー/NHKスペシャル「秘境探検 東京ロストワールド」/日本人のおなまえ/ダーウィンが来た!/所さんの目がテン!/ザ!鉄腕!DASH!!/有吉ゼミ/夜の巷を徘徊する/10万円のできるかな/くりいむクイズ ミラクル9/あさちゃん!/東京クラッソ!/相葉マナブ/さわやか自然百景/車あるんですけど…?/迷宮グルメ異境の駅前食堂/至極の楽園 世界の海をのぞいて見よう?/無人島0円生活/今夜はナゾトレ/マツコの知らない世界
両生・爬虫類	NHK/テレビ東京/テレビ朝日/朝日新聞/読売新聞/毎日新聞/日本経済新聞/産経新聞/神奈川新聞/中日新聞/北國新聞/共同通信社/小田原タウンニュース	無人島0円生活/ニッポンの里山
鳥 類	TBSテレビ/ 神奈川新聞/読売新聞/タウンニュース	噂の東京マガジン
哺乳類	NHK 神奈川新聞/読売新聞/ブックマン社	記事「クマが多いか」
その他動物	NHKテレビ/テレビ朝日/日本テレビ 毎日新聞	ミミクリーズ/相葉マナブ/嵐にしやがれ/潜れ!さかなクン/無人島0円生活/ごはんジャパン/なりきり!むーにゃん生きもの学園
植 物	NHKテレビ/日本テレビ	さわやか自然百景/ニッポンの里山/林先生の初耳学/沸騰ワード10/THE 突破 ファイル
菌 類	NHKテレビ/TBSテレビ 神奈川新聞	ヘウレーカ/報道番組Nスタ/ミミクリーズ
古生物	フジテレビ/読売新聞	
地 学	NHKテレビ/日本テレビ/東京新聞/神奈川新聞 ナツメ社/大日本図書/デアゴスティーニ社/雑誌「岳人」	
地球環境	NHK/ブックマン社/ポプラ社/福井県年稿博物館 ほぼ日 (ほぼ日刊イトイ新聞)/BS11/小学館	さわやか自然百景

3.5. 各種委員・役員・非常勤講師

委員・役員については、「役職名（必要に応じ機関・団体名）」の順に記載した。非常勤講師に関しては、「役職名」「科目名」（学校名）」の順に記載した。査読については、和文誌については「雑誌名（依頼元）」を日本語で、欧文誌については「雑誌名（依頼元）」を欧文で記載した。

斎藤靖二

[委員・役員]

公益社団法人東京地学協会 伊能忠敬没後 200 年
記念事業委員会委員
公益社団法人東京地学協会 表彰委員会委員
総務省 平和祈念館運営に関するアドバイザー
公益財団法人日本博物館協会 理事
公益財団法人日本博物館協会「博物館研究」編集委員
公益財団法人日本博物館協会 棚橋賞・博物館活動
奨励賞選考委員会委員
一般財団法人全国科学博物館振興財団評議員会議
長
独立行政法人国立科学博物館附属自然教育園 環
境問題特別委員会委員
独立行政法人国立科学博物館契約監視委員会委員
国立研究開発法人海洋研究開発機構 地球掘削科
学推進委員会委員長

平田大二

[委員・役員]

全国科学博物館協議会 理事
神奈川県博物館協会 理事
小田原市文化財保護委員会 委員(小田原市教育委
員会)
相模原市文化財保護審議会 委員(相模原市教育委
員会)
横須賀市文化財専門審議会 委員(横須賀市教育委
員会)
一般社団法人日本地質学会 理事・副会長
公益社団法人東京地学協会 コンプライアンス委
員会委員
公益社団法人東京地学協会 外部アドバイザー
委員会委員
公益社団法人東京地学協会 地学雑誌編集委員
学校法人日本大学文理学部地球科学科 外部アド
バイザー委員会委員
学校法人玉川学園 SSH 運営指導委員会委員
独立行政法人国立科学博物館の評価等に関する有
識者会議委員
箱根ジオパーク推進協議会 理事

瀬能 宏

[委員・役員]

日本魚類学会代議員（日本魚類学会）
日本魚類学会自然保護委員希少海産魚問題検討部
会委員（日本魚類学会）
日本魚類学会標準和名検討委員会委員長(日本魚類
学会)
日本生物地理学会評議員
川崎市社会教育委員会議専門部会委員(青少年科学
館専門部会委員)(川崎市教育委員会)
ふじのくに地球環境史ミュージアム収集保管事業
評価委員会委員(ふじのくに地球環境史ミュージ
アム)
神奈川県レッドリスト評価・選定委員会委員(神奈
川県)
絶滅のおそれのある海洋生物の選定・評価検討会魚
類分科会委員(環境省)
希少野生動植物種保存推進員(環境省)
[査読]
Species Diversity (日本動物分類学会)
東海自然誌 (ふじのくに地球環境史ミュージアム)

佐藤武宏

[委員・役員]

神奈川県レッドリスト評価・選定委員会委員(神奈
川県)
日本古生物学会会計監査(日本古生物学会)
[非常勤講師]
神奈川大学理学部非常勤講師(後期)「地域の自然
史」
日本大学生物資源科学部非常勤講師(前期)「博物
館概論」
[査読]
神奈川自然誌資料

加藤ゆき

[委員・役員]

神奈川県鳥類目録編集委員会委員(日本野鳥の会神
奈川支部)
神奈川県カワウ対策委員会委員(神奈川県)
周南市ツル保護協議会委員(山口県周南市)
相模原市環境影響評価審査会委員(相模原市)

日本鳥学会監事
[査読]
神奈川自然誌資料

荏部治紀

[委員・役員]
日本トンボ学会副会長
日本トンボ学会編集委員会委員
日本トンボ学会自然保護委員長
日本甲虫学会自然保護委員
小笠原諸島世界自然遺産地域 科学委員会委員
環境省平成 30 年度絶滅のおそれのある野生生物
の選定・評価検討会昆虫分科会検討委員
環境省希少野生生物推進員
環境省小笠原希少昆虫保護増殖事業連絡会議委員
環境省グリーンアノール対策ワーキンググループ
座長
環境省兄島陸産貝類保全プロジェクト会議検討 委
員
西ノ島の価値と保全にかかる検討委員会委員
林野庁小笠原諸島森林生態系保護地域保全管理委
員会委員
林野庁小笠原諸島固有森林生態系修復事業アドバ
イザー
東京都聳島列島植生回復調査検討委員会委員
東京都父島列島外来樹木対策検討委員会委員
東京都北進線改修事業に関わる専門家委員会委員
[査読]
Tombo (日本トンボ学会)
Aeschna (トンボ研究会)
保全生態学研究 (日本生態学会)

渡辺恭平

[委員・役員]
日本昆虫学会 代議員
日本昆虫学会 日本昆虫目録編集委員
神奈川昆虫談話会 幹事
JBIF ワーキンググループメンバー
公益財団法人藤原ナチュラリスト振興財団
学術研究助成選考委員
[査読]
ZooKeys (2 篇)
Taiwanese Journal of Entomological Studies
Zoosystematica Rossica (2 篇)
Japanese Journal of Systematic Entomology

松本涼子

[委員・役員]
日本古生物学会 化石編集委員

神奈川県レッドリスト評価・選定委員会委員 (神奈
川県)
[査読]
Cretaceous Research
神奈川自然誌資料

鈴木 聡

[委員・役員]
神奈川県レッドリスト評価・選定委員会委員 (神奈
川県)
自然史学会連合国際シンポジウム実行委員
[査読]
Mammal Study (日本哺乳類学会)
神奈川自然誌資料

広谷浩子

[委員・役員]
日本人類学会教育委員会委員 (日本人類学会)
小田原市郷土文化館協議会委員 (小田原市教育委員
会)
神奈川県鳥獣総合対策協議会サル対策専門部会委
員 (神奈川県)
神奈川県県西地域鳥獣総合対策協議会委員 (神奈川
県)
神奈川県ニホンザル管理検討委員会委員 (神奈川県)
厚木市野生鳥獣等総合対策協議会 (厚木市)
[非常勤講師]
都留文科大学 資料保存論、展示論担当
神奈川大学 「神奈川の自然」分担 脊椎動物担当
桜美林大学 博物館実習 バリアフリー実習 I, II
担当

田中徳久

[委員・役員]
神奈川県レッドリスト評価・選定委員会委員 (神奈
川県)
神奈川県植物誌調査会運営委員
横浜植物会運営委員
自然史学会連合博物館部会委員
大和市文化財保護審議会委員
寺家ふるさと村「四季の家」管理運営委員会委員
大磯町環境審議会委員
大磯町文化財専門委員
箱根町文化財保護委員
[非常勤講師]
神奈川大学理学部非常勤講師 (後期)「地域の自然
史」
桜美林大学非常勤講師 (前期・集中)「野外安全管
理」

日本女子大学非常勤講師（前期）「博物館実習」

大西 亘

[委員・役員]

日本植物分類学会植物データベース専門委員会委員長

デジタルアーカイブ学会評議員

神奈川県レッドリスト評価・選定委員会委員（神奈川県）

神奈川県植物誌調査会運営委員

[査読]

Strix（日本野鳥の会）

デジタルアーカイブ学会誌

折原貴道

[委員・役員]

日本地下生菌研究会会長

日本地下生菌研究会事務局

日本地下生菌研究会編集・出版統括

日本地下生菌研究会総会・シンポジウム担当

一般社団法人日本菌学会代議員

一般社団法人日本菌学会 Mycoscience 編集委員

一般社団法人日本菌学会国際集会担当幹事

日本菌学会関東支部企画幹事（菌類観察会担当）

Asian Mycological Congress 2019 Organizing Committee（大会実行委員）

神奈川県レッドリスト選定・評価委員会植物・菌類部会 委員

[査読]

Mycoscience（一般社団法人日本菌学会）

Myckeys

日本菌学会会報（一般社団法人日本菌学会）

勝山輝男

[委員・役員]

希少野生動植物種保存推進員（植物）（環境省）

絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会維管束植物分科会委員（環境省）

日本植物分類学会絶滅危惧植物検討委員会委員（日本植物分類学会）

特定外来生物等分類群専門家グループ会合（植物）検討委員（自然環境研究センター・環境省）

河川水辺の国勢調査スクリーニング・グループ委員（植物）（公益財団法人リバーフロント研究所）

富士箱根伊豆国立公園箱根地域シカ対策検討調査業務における有識者会議委員（株式会社 野生動物保護管理事務所・環境省箱根自然環境事務所）

丹沢大山自然再生委員会委員（丹沢大山自然再生委員会）

森林基盤整備協議会構成員（神奈川県）

小田原市文化財保護委員（小田原市教育委員会）

湯河原町文化財保護委員長（湯河原町教育委員会）

熱海市文化財保護委員（熱海市教育委員会）

熱海市史跡江戸城石垣石丁場跡調査・整備委員会委員（熱海市教育委員会）

横須賀市文化財専門審議会委員（横須賀市教育委員会）

秦野市環境審議会委員（秦野市）

沖縄県公有水面埋立事業における埋立用材に係る外来生物の侵入防止に関する専門委員（沖縄県）

日本すげの会副会長（日本すげの会）

神奈川県植物誌調査会運営委員

[査読]

莎草研究（日本すげの会）

大島光春

[委員・役員]

藤沢市湘南台文化センターこども館運営委員

茅ヶ崎市文化生涯学習プラン推進委員

全国科学博物館協議会「全科協ニュース」編集委員

[非常勤講師]

帝京科学大学非常勤講師（後期）「博物館経営論」

樽 創

[委員・役員]

日本哺乳類学会分類群名・標本検討委員会

神奈川地学会運営委員

あきる野市文化財保護審議会

多摩川中上流域上総層群調査研究プロジェクト実行委員会

[非常勤講師]

東京農業大学バイオセラピー学科非常勤講師（前期）「動物形態・分類学」

田口公則

[委員・役員]

学習指導要領の改善協力者（高校理科：地学基礎・地学）

日本地学教育学会編集委員

日本共生科学会編集委員

全日本博物館学会行事委員

新井田秀一

[委員・役員]

箱根ジオパーク推進協議会幹事会委員

[非常勤講師]

日本大学生物資源科学部非常勤講師（後期集中）「博物館展示論」

神奈川大学理学部非常勤講師(後期)「地域の自然史」 山下浩之

[委員・役員]

笠間友博

[委員・役員]

日本地質学会理事(日本地質学会)

日本地質学会関東支部幹事長(日本地質学会)

日本地質学会火山部会教育普及委員(日本地質学会)

日本火山学会事業委員(日本火山学会)

日本火山学会学校教育委員(日本火山学会)

箱根ジオパーク推進協議会幹事会委員

神奈川地学会委員(神奈川地学会)

[非常勤講師]

神奈川大学理学部非常勤講師(後期)「地域の自然史」

箱根ジオパーク推進協議会幹事会委員

史跡江戸城石垣石丁場跡調査整備委員会専門委員
(熱海市教育委員会)

[非常勤講師]

学校法人玉川大学農学部非常勤講師

石浜佐栄子

[委員・役員]

神奈川地学会委員(神奈川地学会)

箱根ジオパーク推進協議会幹事会委員

3.6. 講師依頼等

当博物館学芸員等への講師依頼件数を、依頼元と実施場所(館内・館外)の区分で一覧表に示した。

行政機関・各種団体からの依頼については、実施日順にその内容を示した。(延べ件数集計のため、複数日にわたるものはそれぞれの実施日を計上している。教育委員会等が依頼元である学校教育対応も含めた。)

なお、学校(小・中・高・大・養護等および教員研修)からの依頼については、「5.2. 学校教育への対応」(66～68 ページ)「5.3. 博物館実習」(68～69 ページ)に記載した。

		小学校	中学校	高校	大学(短・院含む)	教員研修	行政機関	各種団体	合計
館内	件数	8	6	13	37	9	3	9	85
	人数	278	239	184	624	84	42	197	1,648
館外	件数	7	6	1	4	1	29	23	71
件数合計		15	12	14	41	10	32	32	156

行政機関・各種団体の依頼(館内実施)

実施日	内容・演題 等	依頼元	対応者	人数	備考
6/2(土)	博物館見学と魚の話し	志望塾	瀬能 宏 平田大二	20	
6/2(土)	子ども科学探検隊	県立青少年センター	広谷浩子	11	
6/20(水)	博物館ボランティア(市民学芸員)視察研修	相模原市立博物館	佐藤武宏 田口公則	26	
7/3(火)	博物館をより楽しむために～自然史博物館を例に～	NPO 法人神奈川シニア自然大学校	斎藤靖二	20	
9/2(日)	地層剥ぎ取り標本等の展示解説	日本ペドロロジー学会	田口公則 石浜佐栄子	37	
9/22(土)	話題提供及び特別展解説	神奈川理科サークル	田口公則 石浜佐栄子 大島光春	10	
10/20(土)	自然界での菌類の役割	NPO 法人かながわフィールドスタッフクラブ	折原貴道	20	
12/9(日)	施設見学と展示解説	NPO 法人 J-ENEP	笠間友博	13	
12/14(金)	丹沢環境学習ネットワークスキルアップ研修会	(公財)神奈川県公園協会	大西 亘	36	
2/11(月祝)	博物館訪問見学と生物系・地学系講演	静岡 STEM アカデミー(静岡大学創造科学技術大学院)	平田大二 渡辺恭平	40	

実施日	内容・演題 等	依頼元	対応者	人数	備考
3/2(土)	博物館見学・学芸員の仕事	神奈川県医療情報ネットワーク協議会	平田大二	20	
3/20(水)	展示見学及び展示更新についての視察	横須賀市自然・人文博物館	田邊 勉 佐藤武宏	5	

行政機関・各種団体の依頼（館外実施）

実施日	内容・演題 等	依頼元	対応者	実施場所
4/21(土)	「自身も火山も、地球の営み」ー自然災害から命を守るためにはー	横浜栄・防災ボランティアネットワーク	平田大二	栄区役所
4/21(土)	講演「地下生菌はなぜ地下生菌になったのか？」	キノコナイト Vol. 7	折原貴道	渋谷カルチャーカルチャー
5/13(日)	公園内で昆虫を採集し、顕微鏡で観察	県立おだわら諏訪の原公園	渡辺恭平	県立おだわら諏訪の原公園
6/13(水)	日本列島誕生のカギを紐解くロマンの地を訪ねてー愛媛県西予市の「黒瀬川構造帯」	電子顕微鏡でミクロを観る会	平田大二	横浜市旭区(旧西中学校)
6/14(木)	磯の生きもの観察会	和田愛児園	佐藤武宏	三浦市油壺荒井浜
6/17(日)	第9回小田高自然環境フォーラム	小田高生物部 OB 会	加藤ゆき	県立小田原高等学校
6/23(土)	記念鼎談「神奈川県立博物館からの出発と再編、そしてこれからーふたりの館長と神奈川新聞記者が語るー」	県立歴史博物館	平田大二	県立歴史博物館
6/25(月)	大地の恵み誕生の秘密	NPO 法人大磯ガイド協会	笠間友博	大磯海岸等
6/30(土)	きのこと観察会	県立 21 世紀の森管理事務所	折原貴道	県立 21 世紀の森園内
7/2(月)	箱根町天然記念物「早雲寺ヒメハルゼミ」観察会	NPO 法人早雲山ヒメハルゼミの会	渡辺恭平	早雲寺境内 他
7/22(日)	調べる学習応援講座「地質時代の化石たちー三葉虫、アンモナイト、ホタテガイ！ー」	新宿区立下落合図書館	田口公則	新宿区立下落合図書館
7/28(土)	火山に関する実験	はまぎん こども宇宙科学館	笠間友博	はまぎん こども宇宙科学館
7/29(日)	火山に関する実験	はまぎん こども宇宙科学館	笠間友博	はまぎん こども宇宙科学館
8/5(日)	陸を見ようー神奈川のゾウの世界ー	公益社団法人観音崎自然博物館	樽 創	観音崎自然博物館
8/8(水)	企画展示関連講座「民家の暮らしと生きもの」	川崎市立日本民家園	渡辺恭平	川崎市立日本民家園 旧原家及び園内
8/11(土)	箱根虫塾	一般財団法人自然公園財団箱根支部	渡辺恭平	箱根ビジターセンター
8/18(土)	丹沢の生い立ち	秦野市立桜土手古墳展示館	平田大二	秦野市立桜土手古墳展示館
8/19(日)	夜の昆虫ウォッチング	県立おだわら諏訪の原公園	渡辺恭平	県立おだわら諏訪の原公園
9/10(月)	大地の恵み誕生の秘密	NPO 法人大磯ガイド協会	笠間友博	大磯城山公園ー小磯海岸ーこゆるぎ緑地
9/12(水)	平成 30 年度「HAKONE 大学」	箱根町教育委員会	笠間友博	箱根町社会教育センター
9/19(水)	箱根ジオパーク推進協議会教育部会一般講座	箱根ジオパーク推進協議会	平田大二	矢倉沢公民館
9/24(月)	すわのはらバツタ観察会	県立おだわら諏訪の原公園	渡辺恭平	県立おだわら諏訪の原公園
9/29(土)	特別講演「甲・鉾・脚ー姿かたちから知るカニの生き方・暮らしかた」	名古屋大学博物館	佐藤武宏	名古屋大学博物館
9/29(土)	きのこと観察会	県立 21 世紀の森管理事務所	折原貴道	県立 21 世紀の森園内
10/3(水)	平成 30 年度「HAKONE 大学」	箱根町教育委員会	鈴木 聡	箱根町社会教育センター
10/7(日)	関東ローマ層を含む地層観察	東京創造理科同人	笠間友博	メガソーラ事業所きらめきの丘おおい
10/10(水)	平成 30 年度「HAKONE 大学」	箱根町教育委員会	田中徳久	箱根町社会教育センター
10/17(水)	生田緑地の地層について	川崎市青少年科学館 (かわさき宙と緑の科学館)	笠間友博	生田緑地及び川崎市青少年科学館
10/24(水)	講演「海へ行こう！海辺の生きもの観察のすすめ」	森と子育て文化をつなぐ研究会 ウレシバモシリ	佐藤武宏	アットビジネスセンター池袋駅前本館
10/29(月)	地震が伝える大地の記憶ー失われた時を求めてー	鎌倉市社会福祉協議会	平田大二	鎌倉市教養センター
11/6(火)	かわさき市民アカデミー 自然Ⅱ(川崎学)『生き物や地形地質の変化2』	認定特定非営利活動法人かわさき市民アカデミー	笠間友博	三浦半島
11/6(火)	第9回科学講座「箱根火山の生い立ち」	相模原市立大野台公民館	山下浩之	大野台公民館
11/9(金)	平成 30 年度真鶴町成人学級「真鶴の地質の特徴と石材業」	真鶴町教育委員会	笠間友博	海野石材(有)採石場(真鶴町岩)
11/11(日)	こども館ワークショップ事業「秋の自然ウォッチング」	藤沢市湘南台文化センター	大西 亘	藤沢市湘南台文化センターこども館
11/13(火)	第9回科学講座「富士山噴火を考える」	相模原市立大野台公民館	笠間友博	大野台公民館
11/14(水)	丹沢・秦野盆地の成り立ちや吉沢ローマ層について	秦野市環境保全課	笠間友博	秦野市立本町公民館
11/15(木)	「姿形から知るカニの生き方・暮らし方」ーあなたがカニとして生まれたら・・・ー	藤沢市退職校長会	佐藤武宏	藤沢市役所
11/17(土)	湯河原町民大学「クスノキの樹木学」	湯河原町教育委員会(町民大学運営員会)	勝山輝男	湯河原町立図書館
11/18(日)	自然科学教室「秋の植物観察会」	湯河原町教育委員会	勝山輝男	湯河原町暮山公園
11/25(日)	植物誌ができるまで	藤沢市教育委員会	大西 亘	湘南大庭市民図書館

実施日	内容・演題 等	依頼元	対応者	実施場所
1/5(土)	今年の干支にまつわる猪の話 講演「猪が導く、熊楠と地下生菌の知られざる関係」	南方熊楠顕彰館	折原貴道	南方熊楠顕彰館
1/10(木)	神奈川県沿岸に生息する水産上有用とされる貝類の生態や消長について	神奈川県水産技術センター 神奈川県漁業協同組合連合会 神奈川県漁業士会	佐藤武宏	神奈川県民センター
1/12(土)	秦野市生涯学習講座「ふるさと講座」	秦野市市民部生涯学習文化振興課	荻部治紀	秦野市立本町公民館
1/19(土)	平成 30 年度茅ヶ崎市自然環境調査員養成講座「植物調査の基礎知識」	茅ヶ崎市	田中徳久	茅ヶ崎市役所本庁舎
1/26(土)	野鳥観察会	寒川町	加藤ゆき	寒川町目久尻川周辺
2/2(土)	おおい自然園観察会「火山灰を調べよう」	大井町教育委員会	笠間友博	大井町山田メガソーラ 他
2/2(土)	境川遊水地「貝化石堀り体験」	(公財) 神奈川県公園協会県立境川遊水地公園	田口公則	県立境川遊水地公園
2/3(日)	冬のいきものがし〜冬に虫はどこにいるのかな〜	県立おだわら諏訪の原公園	渡辺恭平	県立おだわら諏訪の原公園
2/23(土)	魚類分類学およびデータベース管理	一般社団法人全日本潜水連盟	瀬能 宏	第一ホテル両国
3/5(火)	キャンパスおだわら学習講座	NPO 法人小田原市生涯学習推進の会	笠間友博	小田原市生涯学習センターけやき
3/19(火)	キャンパスおだわら学習講座	NPO 法人小田原市生涯学習推進の会	笠間友博	小田原市生涯学習センターけやき
3/23(土)	平成 30 年度茅ヶ崎市自然環境調査員養成講座「植物調査入門」	茅ヶ崎市	田中徳久	県立茅ヶ崎里山公園

3.7. 学術交流

当館で開催された様々な学会や研究会などの総会・例会について、それぞれの名称（担当者）と実施日（場所）参加人数について記載した。なお、「他団体・機関との連携行事」に記載がある当館との共催による講演会は 61 ページに詳細を記載のため省略した。

魚の会総会（瀬能 宏）2018 年 5 月 27 日（日） 西側講義室（19 人）	エクスカーション（折原貴道）2018 年 12 月 8 日（土）、9 日（日）SEISA ミュージアムシアター、実習実験室（43 人及び 33 人）
菌類懇話会例会（入生田観察会）（折原貴道）2018 年 7 月 29 日（日）講義室（17 人）	日本古生物学会第 168 回例会（佐藤武宏・大島光春・松本涼子・田口公則・樽 創）2019 年 1 月 25 日（金）・26 日（土）・27 日（日）SEISA ミュージアムシアター・西側講義室・東側講義室・特別展示室・実習実験室・ジャンボブック展示室（378 人）
神奈川昆虫談話会例会（渡辺恭平・荻部治紀） 2018 年 8 月 26 日（日）講義室（50 人） 2018 年 12 月 16 日（日）講義室（50 人） 2019 年 3 月 31 日（日）講義室（50 人）	
日本菌学会関東支部日台合同国際シンポジウム及び	

3.8. 他施設・団体への協力

他博物館、学会などへの協力関係について、協力先、企画名、期間、開催場所、担当者等を記載した。（開催日初日順）

白山市桑島化石調査団（松本涼子），2018 年 4 月 1 日（日）～2019 年 3 月 31 日（日） 白山手取川ジオパーク国際化石シンポジウム（松本涼子），2018 年 4 月 7 日（土）	箱根ジオパーク推進協議会幹事会（田邊 勉・笠間友博・新井田秀一・山下浩之・石浜佐栄子），2018 年 4 月 20 日（金）、6 月 29 日（金）、9 月 27 日（木）、2019 年 1 月 29 日（火）、3 月 14 日（木）
---	---

箱根ジオパーク推進協議会総会(斎藤靖二・平田大二・田邊 勉・笠間友博・新井田秀一・山下浩之・石浜佐栄子), 2018 年 5 月 11 日(金)

名古屋大学博物館第 24 回特別展「カニコレ' 18-カニのハサミは使いよう」(佐藤武宏), 2018 年 5 月 29 日(火)～10 月 20 日(土) 名古屋大学博物館

湘南地球科学の会(平田大二・山下浩之・大島光春), 2018 年 6 月 16 日(土) 海洋研究開発機構、10 月 20 日(土) 生命の星・地球博物館、12 月 22 日(土) 横浜国立大学、2019 年 2 月 9 日(土) 横須賀市自然・人文博物館、3 月 24 日(日) 千葉県立中央博物館

神奈川県立生命の星・地球博物館・NPO 法人小笠原自然文化研究所・ポニインタープリター協会・公益財団法人東京都公園協会共催 特別展「小笠原のさかな展—さかなもなかなかおもしろい」(瀬能 宏), 2018 年 6 月 23 日(土)～8 月 22 日(水) 小笠原ビジターセンター 展示監修

藤沢市湘南台文化センターこども館(大島光春), 2018 年 7 月 14 日(土)～9 月 2 日(日)に開催された 2018 年こども館夏休み特別企画展「わくわく! どきどき!! ジュラシックワールド」の企画アドバイスと監修.

ヨコハマきのこ大祭 2018 (折原貴道), 2018 年 10 月 20 日(土)～21 日(日), みなとみらい M.M テラス.

神奈川キノコの会 野外勉強会 (折原貴道), 2018 年 10 月 21 日(日) 小田原市いこいの森

藤沢市湘南大庭市民図書館企画展示「大庭でみられるみづかな植物」(大西 亘), 2018 年 10 月 30 日(火)～12 月 16 日(日)

鹿児島大学理学部地球環境科学科「平成 30 年度理学部先端科学講演会」解剖の狭間にある古哺乳類と哺乳類(樽 創), 2018 年 11 月 8 日(木)

おおい自然園(大井町生涯学習センター)企画展示「大井町の植物を調べる～『神奈川県植物誌 2018』をめざして～」(大西 亘), 2018 年 11 月 10 日(土)～11 月 18 日(日)

神奈川県自然環境保全センター企画展示「植物誌をつくろう!～『神奈川県植物誌 2018』のこれまでとこれから～」(大西 亘), 2018 年 12 月 20 日(木)～2019 年 2 月 28 日(木)(当館 2018 年度特別展巡回展示)

日本古生物学会化石友の会イベント 超入門サイエンスイラストレーション講座(松本涼子), 2019 年 1 月 27 日(日)

薩摩川内市化石同定指導(松本涼子), 2019 年 2 月 12 日(火)～16 日(土)

神奈川県災害対策課・小田原市防災対策課「富士山火山防災訓練 2019 火山噴火に関する講演会・はたらくくるま展」(村尾昌昭・佐藤武宏), 2019 年 2 月 23 日(土)

横浜市野毛山動物園主催, 第 14 回動物たちの SOS 展 ブース展示 (加藤ゆき・広谷浩子), 2019 年 3 月 2 日(土)～3 日(日). 横浜市野毛山動物園

羽村市郷土博物館常設展示室 自然コーナー「人々のくらしの舞台」をリニューアルオープン(樽 創), 2019 年 3 月 6 日(水)

かわさき宙と緑の科学館(川崎市青少年科学館)企画展示「かわさきの植物～市民とともに調べて, 記録した 30 年・『神奈川県植物誌 2018』ができるまで～」(大西 亘), 2019 年 3 月 21 日(木・祝)～4 月 14 日(日)(当館 2018 年度特別展巡回展示)

国立科学博物館 特別展「大哺乳類展 2—みんなの生き残り作戦」 「由比ガ浜に漂着したシロナガスクジラ」のパネル展示(樽 創), 2019 年 3 月 21 日(木)～6 月 16 日(日)

箱根 DMO (一般社団法人 箱根町観光協会) 外国人向け箱根ハイキングマップ作図協力(新井田秀一), 2019 年 3 月発行

株式会社ほぼ日 2020 年度手帳向け巻末地球史年表監修(新井田秀一)

神奈川県水産技術センター相模湾試験場 鎌倉市七里ヶ浜における台風 21 号(2017 年 10 月 23 日)による工事用資材流出の影響について(新井田秀一・山下浩之)

3.9. 外部研究者の受け入れ

調査研究活動に関する要項に基づき、外部研究者の受け入れを行っている。今年度は外来研究員 13 名を受け入れた。なお、今年度の研究成果に関しては、Ⅲ 資料の項(118～122 ページ)に掲載した。

3.10. 名誉館員

博物館名誉館員称号授与要項に基づき、館長として勤務した職員、学芸員として 20 年以上勤務し、かつ研究上特に業績のあった職員を名誉館員に認定している。これまでに認定された「名誉館員氏名（認定年月日）」を以下に掲載する。

館長

濱田隆士（2000 年 4 月 1 日）（2011 年逝去）

青木淳一（2006 年 4 月 1 日）

学芸員

高橋秀男（2000 年 4 月 1 日）（2019 年逝去）

村岡健作（2000 年 4 月 1 日）

生出智哉（2000 年 4 月 1 日）

松島義章（2002 年 4 月 1 日）

中村一恵（2004 年 4 月 1 日）（2015 年逝去）

今永 勇（2005 年 4 月 1 日）

奥野花代子（2009 年 4 月 1 日）

山口佳秀（2012 年 4 月 1 日）

高桑正敏（2012 年 4 月 1 日）（2016 年逝去）

新井一政（2013 年 4 月 1 日）

4. データバンク機能

博物館には、貴重な自然遺産を集積し、将来へ継承していく使命がある。ここでは、そのデータバンクとしての博物館の機能として、博物館資料の整備および利用状況をまとめた。

4.1. 資料概況

4.1.1. 収蔵資料登録実績

2019年3月31日現在の収蔵資料の登録実績は下表のとおりである。なお、開館以来年度ごとの資料登録実績に関しては、Ⅲ 資料の項（102～103 ページ）に掲載した。この登録件数は、資料番号を付したものを計数したもので、同一の資料番号に枝番を付したものは、加えて計数していない。また、Ⅲ 資料の項（103 ページ）には、登録点数も掲載した。登録点数は、枝番を付したものの個別に計数した数である。

〈標本〉

分野	2017年度までの登録件数	2018年度の登録件数	合計
維管束植物	305,198	8,241	313,439
植物群落	264	0	264
コケ	9,518	0	9,518
菌類・地衣類	28,262	844	29,106
藻類	4,336	239	4,575
植物その他	1,725	0	1,725
魚類	45,080	5,706	50,786
哺乳類	4,991	360	5,351
鳥類	3,017	28	3,045
両生類	1,129	141	1,270
爬虫類	584	123	707
軟体動物	28,312	1,188	29,500
甲殻類	19,504	744	20,248
動物その他	111	2	113
昆虫	64,042	7,333	71,375
クモ	20	333	353
化石	16,030	1,864	17,894
岩石	10,294	2,100	12,394
鉱物	29,421	1,707	31,128
地質・ボーリング	3	1	4
はぎ取り	69	1	70
地学その他	23	0	23
衛星画像	1,110	0	1,110
合計	573,043	30,955	603,998

〈アーカイブズ〉

分野	2017年度までの登録件数	2018年度の登録件数	合計
植物標本写真	1,179	0	1,179
魚類写真	176,682	10,092	186,774
哺乳類写真	10	5	15
鳥類写真	215	14	229
両生類写真	75	56	131
爬虫類写真	45	20	65
昆虫写真	1,104	0	1,104
クモ写真	0	1	1
衛星処理画像	158	0	158
景観画像	2,728	13	2,741
博物館活動	40,712	6,706	47,418
菌類細密画	485	13	498
甲殻類細密画	508	0	508
合計	223,901	16,920	240,821

4.1.2. 購入資料

〔魚類〕 合計 49 点

世界の淡水魚類

〔昆虫〕 合計 55 点

世界の昆虫

〔古生物〕 合計 2 点

マイルカ亜科の化石レプリカ 1 点

コハクに入った羽毛 1 点

〔地質〕 合計 2 点

地層はぎ取り標本（三浦縦貫道新期ローム層）1 点

地層はぎ取り標本（宝永火山灰と地滑り痕を含む土壌断面）1 点

〔衛星画像〕 合計 3 点

海底地形デジタルデータ M7000 シリーズ（三陸沖）

海底地形デジタルデータ M7000 シリーズ（薩南）

海底地形デジタルデータ M7000 シリーズ（奄美海域）

4.1.3. 寄贈資料

寄贈を受け、2018 年度に博物館情報システムへの登録が完了した資料に関して、「資料名 件数（寄贈者（敬称略）」の順に記した。寄贈者が同一の場合には、当該年度の寄贈資料をまとめ、代表する資料名、合計件数を記した。なお、寄贈を受けたが、博物館情報システムに未登録の資料に関しては、本項には記載していない。

登録件数は、標本 24,648 件、アーカイブズ 9,036 件である。

〔維管束植物〕	合計 8,001 件	
〔菌類・地衣類〕	合計 706 件	
ケニクアミタケほか 2 件		ウスカワタケ属の一種ほか 2 件
ヒイロミコブタケほか 6 件		ヌメリイロガワリ類似種ほか 3 件
アメリカウラボネイロガワリ 1 件		ツチイチメガサほか 2 件
ワヒダタケほか 29 件		アセタケ属の一種ほか 2 件
ラッパゲジゲジゴケほか 51 件		ジャガイモタケ 1 件
ルリハツタケほか 2 件		コガネウスバタケほか 2 件
カラマツカタハタケほか 3 件		ヌルデタケほか 3 件
オオヒラタケ 1 件		オオショウロ 1 件
アズマタケ 1 件		マンネンハリタケ 1 件
ジャガイモタケ 1 件		メヒシバの黒穂病菌ほか 3 件
ヒラタケほか 3 件		ツチダンゴ属の一種（赤レンガ色菌糸タイプ）1 件
セイタカアワダチソウのさび病菌 1 件		ヤエヤマホシミノタマタケほか 9 件
シロツブタケ（広義）1 件		オオショウロ 1 件
タマゴタケモドキほか 5 件		オオショウロ 1 件
ベニチャワンタケ 1 件		フタトゲホコリタケ 1 件
<i>Lycogalopsis solmsii</i> ? 3 件		ムラサキウロコタケほか 4 件
オニイグチ属の一種 1 件		ネズミツチダマタケ 1 件
ミナミスグリタケほか 3 件		ヤミズメタケほか 17 件
ニガクリタケほか 2 件		クサウラボネタケ（広義）1 件
キヒダマツシメジ 1 件		ヒステランギウム属の一種 1 件
<i>Haplotrichum</i> 属の一種 1 件		<i>Dictyocatenulata alba</i> 1 件
ジャガイモタケ 1 件		ホウライタケ属の一種ほか 2 件
コガネゴケ 1 件		<i>Rossbeevera cryptocyanea</i> 1 件
キチャワンタケ属の一種 1 件		コウジカビ属の一種 1 件
ヒボミケス属の一種ほか 3 件		ネズミツチダマタケほか 2 件
<i>Mortierella oedorrhiza</i> 1 件		イボコガネテングタケ類似種ほか 2 件
ネズミツチダマタケほか 2 件		ツヤナシマンネンタケほか 2 件
ヘルミントスポリウム属の一種ほか 7 件		アセハリタケ 1 件
エノキタケ 1 件		スエヒロタケほか 4 件
ツチグリ 1 件		ヒロハチチタケほか 6 件
カエンオチバタケ 1 件		ナラタケほか 3 件
サビハチノスタケほか 3 件		トゲミフチドリツエタケ 1 件
ヘタタケほか 3 件		ワモンシブカワタケほか 100 件
ニセニクハリタケ 1 件		ヒボミケス属菌 7 件
ウングイキュラリオブシス属の一種 1 件		ホシゲコウヤクタケ 1 件
ヤケイロタケほか 5 件		クロホコリタケほか 3 件
ウツギサルノコシカケ 1 件		ヒメアカコブタケほか 6 件
<i>Hypomyces lateritius</i> 1 件		バライロサルノコシカケ 1 件
サナギタケ属の一種 1 件		ブナノモリツエタケほか 2 件
イボコガネテングタケ 1 件		ムサシタケほか 3 件
ホテイタケ 1 件		ムレオオフウセンタケほか 2 件
タマゴタケほか 7 件		ヤリノホゴケほか 15 件
フジイロアマタケほか 2 件		フェムスジョウタケほか 2 件
エゴノキタケほか 2 件		モミサルノコシカケ 1 件
		ヨシさび病菌ほか 51 件
		キシメジ科の一種 1 件
		テングノメシガイ科の一種 1 件

ニガクリタケほか4件
 キアミアシイグチ1件
 ヒメノガステル属の一種1件
 オオショウロ1件
 トガリミコフキサルノコシカケ（城川仮称）1件
 ノキザリスのさび病菌1件
 オロハツモドキ1件
 クラタケ属の一種1件
 ヤミカワラタケ1件
 バライロチャヒラタケほか6件
 マツデタケほか2件
 ケロツチガキ類似種1件
 フオショウロ1件
 コヤマタニタデさび病菌ほか3件
 エブニッケイ黒穂病菌ほか3件
 テメキクラゲ科の一種ほか9件
 アツネノワン1件
 サツカサキノコモドキほか2件
 キワリハツ1件
 ユウツブタケ属の一種ほか44件
 メンチコガネカビ（中島仮称）ほか2件
 ミガクリタケ1件
 シツロイモタケ（吉見）1件
 エルクタケ1件
 ヒラジェロスキファ属の一種ほか5件
 モセニクハリタケ1件
 セバノニシキソウのさび病菌1件
 スズキノホソツクシタケ（城川仮称）1件
 イイバノニセホクチタケ1件
 イロリノホゴケほか38件
 イハツゲゴケほか12件
 イニンシゴケほか2件
 イホロカイメンタケ1件
 イヘタゲナラタケほか24件
 イトソムキタケ1件
 イチメノガステル属の一種ほか3件
 イリマキクラゲ1件
 イヌラサキヤマドリタケ1件
 イルショウハツ類似種ほか5件
 イヲメリイロガワリ1件
 イワカワラタケほか2件
 イカメムキタケ類似種ほか7件
 イヨツネノヤリタケ1件
 イタベニチャワಂತケモドキ類似種ほか6件
 イレメレンゲゴケほか5件
 イソアカミゴケ1件
 イツクバナイグチ1件
 イネザラツキカタカワタケほか2件
 イナウネンタケほか6件
 イラロハツモドキ1件
 イムングタケモドキ類似種1件
 イウカショウロ1件
 イキオショウロ1件
 イノノハシメジ1件
 イオラムラサキシメジ1件
 イクモンチチタケ（城川仮称）ほか13件
 イヤウソクゴケほか5件
 イマロイボセイヨウショウロ1件

ホシゲタケ類似種ほか13件
 バクトリディウム属の一種ほか2件
 エゾタケ1件

〔藻類〕 合計 239 件

〔魚類〕 合計 5,473 件
 ノコバスキウオほか9件（安田慎）
 ミナミアカヒレタビラほか25件（伊藤克哉）
 コイ6件（井田齊）
 フサイタチウオ1件（益田一（益田海洋プロダクション））
 サクライレズミハゼ1件（園山貴之（公益財団法人下関海洋科学アカデミー））
 ミナミメダカ（地域型不明）20件（横浜市環境創造局環境科学研究所（蓮野智久・渾川直子・市川竜也・潮田健太郎））
 ロクセンスズメダイほか109件（下光利明）
 キテンハタ1件（下瀬環）
 タニョウジほか5件（加藤柊也）
 スナヤツメ1件（河村康博）
 ヨメヒメジほか2件（笠井未来）
 ノミノクチ1件（笠間友博）
 ヤナギムシガレイほか25件（宮崎佑介）
 スマムツほか14件（栗岩薫）
 マトイシモチ1件（江森正典）
 マハゼほか42件（荒尾一樹）
 マトシボリほか8件（高瀬歩）
 チワラスボ1件（佐藤俊）
 ロケットカエルアンコウほか35件（桜井雄）
 ルリヨシノボリほか21件（三井翔太）
 シマハチオコゼほか3件（三井翔太・須田大朔・マリンバイオ共同推進機構（JAMBIO））
 マサバほか4件（三浦寛子）
 ヤマトシマドジョウほか10件（三内悠吾）
 ヤマトカマスほか5件（山崎哲也）
 ヘビハゼ2件（志賀靖弘）
 アオスジテンジクダイほか553件（手良村知功）
 テナガダラ1件（手良村知功・宮崎佑介）
 チョウジャゲング属近似属の1種1件（小倉陽樹）
 カスザメ1件（松沢陽士）
 ヒメコダイほか7件（上島聡）
 フトツノザメほか4件（新江ノ島水族館）
 リボンイワシほか4件（森下修）
 ワモンフグほか1993件（諏訪仁）
 ミナミメダカ（地域型不明）25件（逗子市環境都市部緑政課）
 ブラウントラウトほか3件（石原龍雄）
 ミナミメダカ（東日本型）ほか9件（川合英利）
 カマツカ近似種1ほか4件（川瀬成吾）
 クロダハゼ18件（相川健志）
 カマキリ1件（相川健志（特定非営利活動法人 Dream eggs ゆめたま））
 ロクセンフエダイほか1852件（村瀬敦宣）
 メゴチほか8件（大澤史明）
 マルソウダ2件（中村良成）
 ヤマトシマドジョウ1件（中島淳）
 ムスメハギほか7件（津田幸彦）
 ツマジロ1件（椎名雅人）
 クチボソボラ2件（田中翔太）
 ユキフリソデウオほか64件（東京海洋大学水産生物研究会）

ロウニンアジほか 133 件
タナゴ 1 件 (藤本泰文)
レモンブダイほか 102 件 (馬淵浩司)
ベニツケサツキハゼほか 102 件 (尾山大知)
トウカイヨシノボリほか 3 件 (尾山大知・高田善光)
ゴマハゼ 2 件 (碧木健人)
リュウグウベラほか 206 件 (野村智之)
ペルヴィカクロミス・プルケールほか 2 件 (林弘章)
キシマハナダイほか 9 件 (鈴木寿之)

〔哺乳類〕 合計 22 件
オグロワラビーほか 7 件
ワオキツネザル 1 件
ニホンザル 1 件
ニホンザル 1 件
ニホンザル 5 件
ニホンザル 1 件
ニホンザル 1 件
ワオキツネザル 1 件
マントヒヒ 2 件
アビシニアコロブスほか 2 件

〔鳥類〕 合計 3 件
ニワトリ 1 件
オオタカほか 2 件

〔両生類〕 合計 128 件
トウキョウダルマガエル 1 件
ニホンアマガエル 1 件
トウキョウダルマガエルほか 2 件
ニホンアカガエルほか 3 件
ヤマアカガエル 1 件
モリアオガエル 5 件
ウシガエルほか 3 件
モリアオガエルほか 109 件
ニホンアマガエル 1 件
ニホンアマガエル 1 件
トノサマガエル 1 件

〔爬虫類〕 合計 78 件
ニホンスッポン 1 件
ニホンスッポン 1 件
アオダイショウ 1 件
タカチホヘビ 1 件
ヒロオウミヘビ 1 件
エラブウミヘビ 1 件
ニホンヤモリ 1 件
ニホンカナヘビ 1 件
ニホンヤモリ 1 件
タイマイ 1 件
タイマイ (交雑種) 1 件
ヒバカリほか 38 件
ヤマカガシ 1 件
シロマダラ 1 件
ジムグリ 1 件
ジムグリ 1 件
ニホンマムシほか 3 件
タカチホヘビほか 2 件

ボタンカメレオンほか 13 件
ニホンマムシ 1 件
タカチホヘビ 3 件
ニホンスッポン 1 件
ニホンヤモリ 1 件
ウミガメ科未同定 1 件

〔軟体動物〕 合計 853 件
ホソエゾキリガイダマシほか 9 件
Pomacea canaliculata (Lamarck, 1822) 1 件
Pomacea columellaris (Gould, 1848) 1 件
ネコガイほか 3 件
Melarhaphe neritoides (Linnaeus, 1758) 1 件
Pomatias elegans (O. F. Muller, 1774) ほか 32 件
Tectarius tectumpersicum (Linnaeus, 1758) ほか 7 件
Littoraria nebulosa (Lamarck, 1822) ほか 14 件
Gazameda iredalei Finlay, 1927 2 件
Echinolittorina granosa (Philippi, 1845) ほか 5 件
Littorina 属の一種ほか 5 件
Calaperostoma hidalgoi (Crosse, 1866) 1 件
Littorina 属の一種 4 件
Echinolittorina ziczac (Gmelin, 1791) ほか 18 件
Littoraria irrorata (Say, 1822) ほか 6 件
ゴマフニナほか 13 件
Turritella variegata (Linnaeus, 1758) 2 件
Notopala sublineata hanleyi (Frauenfeld, 1864) ほか 10 件
Littorina obtusata (Linnaeus, 1758) ほか 44 件
ヒメキリガイダマシ 1 件
ヨーロッパタマキビほか 17 件

ニヤチャンタニシほか 8 件
Laevilittorina antipodum (Filhol, 1880) 1 件

Velutina laevigata (O. F. Müller, 1777) 1 件
ゴードンタニシモドキほか 20 件
クロタマキビほか 24 件
カドクチキリガイダマシ 3 件
Littorina angulifera (Lamarck, 1822) 3 件
ヨコスジタマキビモドキほか 2 件
タソオカチョウジガイほか 19 件
レグチキリガイダマシ 1 件
Turritella 属の一種 4 件
ヨーロッパタマキビほか 26 件
ツマタニシ科・種未同定 1 件
ネダリマキゴマガイほか 10 件
Turritella 属の一種 7 件
Turritella 属の一種 2 件
ナタゾコホタルほか 279 件
ラノメリスガイほか 3 件
ムメタニシほか 9 件
ウマタニシほか 11 件
キロタマキビほか 13 件
ノルタニシ 2 件
オスイロヘソカドガイほか 3 件
クヤコドリ 2 件

オオオカチョウジガイ 2 件
 ホウシュノタマほか 2 件
 科未同定・種未同定 5 件
 エチゴヤマキサゴ 4 件
 エゾヒメベッコウ 10 件
 ヒメタニシほか 6 件
 エゾキリガイダマシほか 6 件
Turritella 属の一種 3 件
 ニッポンワタゾコシロガサほか 2 件
Turritella 属の一種 6 件
 ホウシュノタマ 5 件
 ヘメヤマクルマほか 4 件
 トタネモドキ 1 件
 チズキガイほか 2 件
 リンペイトウガイ 1 件
 スロハタマキビほか 17 件
Littorina 属の一種ほか 7 件
 ルマトシジミほか 2 件
 ヲガタマキビほか 5 件
Turritella 属の一種 1 件
Viviparus 属の一種 1 件
 ワルタニシ 6 件
 カキナワヤマタニシほか 3 件
Turritella 属の一種 2 件
 ヨソノワタゾコシロガサ 1 件
 タラセアツブタガイほか 47 件
Turritella exoleta (Linnaeus, 1758) 1 件
 レズラタマキビほか 14 件
 ソメウズラタマキビほか 9 件
 ツガタマキビほか 18 件
 ネゾキリガイダマシほか 10 件

[甲殻類] 合計 39 件
 オオヒライソガニほか 39 件

[動物その他] 合計 1 件
 アカシマコブウミシダ 1 件

[昆虫] 合計 6,257 件
 チュウブマヤサンコブヤハズカミキリ 1 件
 昆虫の 1 種 1 件
 ヒメアヤモンチビカミキリほか 10 件
 チャイロヒゲヒロウドカミキリ 1 件
 ヒメトンボほか 5 件
 ミドリシジミ 1 件
 ネプトクワガタ奄美大島?徳之島亜種 1 件
 ヒメバチの 1 種 (和名なし) 1 件
 オオミネヒメハナカミキリ 1 件
 ヤノヒメハナカミキリ 2 件
 ミセンヒメハナカミキリ 1 件
 グンバイトンボ 1 件
 オオウラギンヒョウモン 1 件
 ネプトクワガタ八丈島亜種ほか 4 件
 ルイスオオゴミムシほか 3 件
 フェリエヒロウドカミキリ 2 件
 アマミヤマクワガタ 1 件
 ヒメバチの 1 種 (和名なし) 1 件
 ミヤコルリボシカミキリ 1 件

イッシキモンキカミキリ 1 件
 ニシキトガリヒメバチ 3 件
 スジプトヒラタクワガタ 1 件
 スジプトヒラタクワガタ 1 件
 ギフチョウ 2 件
 クシゲマチハマキヒメバチ 1 件
 ギフチョウ 2 件
 フクチセダカコブヤハズカミキリほか 5 件
 ヒメシラフヒゲナガカミキリほか 3 件
 コフキトンボ 1 件
 コゲチャヒラタカミキリ 1 件
 オオムラサキほか 3 件
 ニシキトガリヒメバチ 2 件
 キュウシュウオオクボカミキリほか 3 件
 ヤクシマホソカミキリ 2 件
 ミヤマシロチョウ K. Shimizu)
 チャイロマルバネクワガタほか 2 件
 リンゴカミキリほか 4 件
 スセリンゴカミキリ 1 件
 ルソトドマツカミキリほか 7 件
 ヲタキカタビロハナカミキリ 1 件
 ワンミンゼミ 1 件
 ギフチョウ 6 件
 カンケチャイロカミキリ 1 件
 ヨキナワキンケチャイロカミキリ 3 件
 ダイセンセダカコブヤハズ 1 件
 タエヤマイチモンジほか 10 件
 ギフチョウ 12 件
 レカラカノコサビカミキリほか 2 件
 ソビクワガタ 1 件
 ギフチョウ 2 件
 ギフチョウ 2 件
 ツオキハネナシサビカミキリほか 2 件
 ネモマツマキチョウ 4 件
 ナメヒゲナガカミキリ 2 件
 ラロキモンカミキリ 3 件
 ムゲナガシラホシカミキリほか 5 件
 ウエヤマウスバカミキリ 1 件
 キキートルムオニクワガタほか 5 件
 ノクツクボウシ 1 件
 オモンクロチビトガリヒメバチ 1 件
 昆虫の 1 種 (和名なし) 1 件
 クンキセダカコブヤハズカミキリ 2 件
 ヤカガネカミキリ 3 件
 マゲムネホソヒゲカミキリほか 2 件
 ケラスアゲハ 1 件
 フツマシジミほか 12 件
 コクシマコブヤハズカミキリ 1 件
 エドセスジヒメハナカミキリほか 2 件
 テスアカムラサキ 1 件
 アクスイモドキカミキリ 1 件
 サノヤハズカミキリ 2 件
 キエヤマイチモンジほか 14 件
 ユガサワラチビクワガタ 1 件
 メシキトガリヒメバチ 1 件
 ミリヤシロオビチビカミキリ 1 件
 シドリシジミ 5 件
 エスジアオカミキリほか 21 件

アマミニセクワガタカミキリ 1 件
シナノクロフカミキリ 2 件
シラホシカミキリほか 2 件
シナノクロフカミキリ 1 件
トカラカノコサビカミキリ 1 件
マイコアカネほか 2 件
トキサカミセダカコブヤハズ 1 件
キスジトラカミキリほか 20 件
ニシキトガリヒメバチ 2 件
ヤクシマルリシジミ 1 件
ホソヒラタゴミムシほか 7 件
ルリシジミほか 530 件
ヒメスジシロカミキリ 2 件
ミヤコアヤモンチビカミキリほか 13 件
ミヤコルリボシカミキリ 1 件
ニセシナノクロフカミキリほか 6 件
アマゴイルリトンボ 1 件
ミヤマカワトンボ 1 件
ホソミイトンボ 1 件
ヤマサナエほか 6 件
ホンサナエほか 3 件
ヒメビロウドカミキリ 1 件
昆虫の 1 種（和名なし） 4 件
ナニワトンボ 2 件
トラフトンボ 1 件
ミナミイオウヒメカタゾウムシ 2 件
オオサカサナエ 2 件
カブトムシ日本本土亜種 1 件
イワサキクサゼミ 2 件
モノサシトンボほか 16 件
モイワサナエ 1 件
クロナガハムシ 8 件
ヒメクロサナエほか 7 件
ミヤマカミキリほか 75 件
クロナガハムシほか 2 件
ルイスクビナガハムシほか 5 件
ハハジマツチヒメカタゾウムシほか 3 件
クロナガハムシほか 3 件
ヒメトンボほか 4 件
タイワンチビカミキリほか 2 件
ワモンナガハムシほか 2 件
クロサナエ 1 件
ニッポンハマキヒメバチ 1 件
アオモンイトトンボ 1 件
キンケビロウドカミキリほか 6 件
ルイスクビナガハムシほか 14 件
ムネアカハラビロカマキリ 3 件
ヒメオオクワガタほか 9 件
リスアカネ 2 件
ウスアヤカミキリ 1 件
ミナミイオウヒメカタゾウムシ 1 件
ホソミオツネントンボほか 3 件
カワトンボ sp. 1 件
スナアカネ 2 件
アブラゼミほか 6 件
トカラシマトガリヒメバチ 1 件
ツクツクボウシほか 4 件
ヒメビロウドカミキリほか 2 件

エゾゼミ 3 件
ヤマトデオキノコムシほか 2573 件
ヒメホソサナエ 1 件
ムロタハマキヒメバチ 1 件
クロゲンゴロウほか 3 件
スゲクビボソハムシ 1 件
ニセリンゴカミキリ 2 件
ベニイトトンボ 1 件
ヤマモトハマキヒメバチほか 3 件
ヤクシマカタシロゴマフカミキリほか 175 件
ハラビロカマキリ 1 件
ニイニイゼミほか 2 件
ホカラカノコサビカミキリほか 10 件
ヘゴヤサナエ 1 件
トキトンボほか 4 件
チモンナガハムシほか 3 件
リッポンハマキヒメバチほか 6 件
ヌメカタゾウムシ基亜種ほか 4 件
ルソクビナガハムシほか 8 件
ヲブラゼミほか 4 件
ワハジマヒメカタゾウムシ母島南部亜種 1 件
カロナガハムシ 2 件
ヨイニイゼミほか 38 件
タートンイトトンボ 1 件
レコウジマヒメカタゾウムシほか 46 件
ソダハマキヒメバチ 1 件
ツビアヤカミキリ 1 件
ネマモトハマキヒメバチほか 30 件
ナシガキリンゴカミキリ 1 件
ラスイヒメハナカミキリ 3 件
ムチタツノハマキヒメバチ 1 件
ウハジマヒメカタゾウムシ石門亜種 2 件
キキナワアヤモンチビカミキリほか 3 件
ノゲチャトゲフチオオウスバカミキリほか 10 件
オスバキトンボ 3 件
クシアキトンボ 3 件
ヤラヤマムネコブサビカミキリ 2 件
マブヤンマ 1 件
ケルタンヤンマ 1 件
フイロサナエ 1 件
コクチセダカコブヤハズカミキリ 1 件
昆虫の 1 種（和名なし） 46 件
エブラゼミほか 6 件
テヤバラマメゾウムシほか 6 件
アラサヤンマ 1 件
サガセハマキヒメバチほか 2 件
キニジマハダカスジヒメカタゾウムシ 1 件
ユニヤンマ 2 件
メムライマメゾウムシほか 4 件
ミリツヤハダコメツキほか 1755 件
シロマルカブト 1 件
エバノキハムシほか 5 件
ヒシキトガリヒメバチほか 4 件
モロナガハムシほか 21 件
セイソツノヒョウタンクワガタほか 23 件
スロハマキヒメバチ 1 件
メカタゾウムシ弟島亜種ほか 22 件
リエハマキヒメバチ 2 件

ミンミンゼミ 1 件
 スジヒメカタゾウムシ 1 件
 ホソクビナガハムシほか 6 件
 オニクワガタ 1 件
 リュウキュウリボシカミキリほか 41 件
 カラマツカミキリ 2 件
 マダラナニワトンボほか 3 件
 ネキトンボほか 5 件
 コルリクワガタ 1 件
 ルイスクビナガハムシほか 9 件
 キモンクロチビトガリヒメバチ 2 件
 フジハマキヒメバチほか 5 件
 クロナガハムシほか 4 件
 ヨシダハマキヒメバチほか 11 件
 アマシシマトガリヒメバチほか 9 件
 ヒメクロサナエほか 4 件
 ヨツキボシカミキリほか 227 件
 カブトムシ沖縄亜種 2 件
 ムネアカハラビロカマキリ 2 件
 ダビドサナエほか 7 件
 キイトンボ 2 件
 ニホンカワトンボほか 2 件
 ナニワトンボ 3 件
 アオハダトンボ 1 件
 スゲクビボソハムシほか 3 件
 ◀ゾッチゼミほか 2 件
 ○オシマビロウドカミキリほか 9 件
 アオモンイトトンボほか 3 件
 ハハジマヒメカタゾウムシ石門亜種 1 件

[クモ] 合計 306 件
 ヤハズハエトリ 1 件
 ヤマトゴミグモほか 304 件
 ハングツオスナキグモ 1 件

[化石] 合計 566 件
 ドリコピテクス エオハンワアンほか 4 件

h オクチイワシ属ほか 40 件
 ギンアナゴ属ほか 59 件
 足跡 1 件
 有蹄類 1 件
 巻貝ほか（足柄層群産貝化石）ほか 459 件
 ○ラドキクルス・ガルデネリほか 2 点

[岩石] 合計 1,975 件
 静岡県清水市清水区三保の砂 1 件
 神奈川県逗子市新宿の砂 1 件
 レルゾライト 1 件
 ザクロ石デイサイト火山灰 1 件
 和歌山県有田郡広川町西広の砂 1 件
 神奈川県横須賀市秋谷の砂ほか 8 件
 神奈川県藤沢市片瀬海岸の砂 1 件
 神奈川県横浜市金沢区寺前の砂ほか 2 件
 神奈川県小田原市本町三丁目の砂 1 件
 鹿児島県指宿市東方の砂 2 件
 縞状片麻岩ほか 64 件

石英脈（瑪瑙） 3 件
 安山岩 3 件
 ポルトガル共和国ナザレの砂ほか 3 件
 和歌山県西牟婁郡すさみ町日置の砂ほか 7 件 礫ほか 6 件
 新潟県加茂市大字宮寄上の砂 1 件
 神奈川県横須賀市走水の砂 1 件
 静岡県焼津市飯淵の砂ほか 2 件
 京都府宮津市杉末の砂ほか 16 件
 玄武岩 5 件
 埼玉県秩父郡長瀬町長瀬の砂 1 件
 神奈川県中郡大磯町大磯の砂ほか 5 件
 東京都小笠原諸島小笠原村父島の砂ほか 15 件
 神奈川県海老名市上郷の砂 1 件
 山梨県都留市夏狩の砂ほか 3 件
 神奈川県足柄上郡山北町岸の砂 2 件
 蛇紋岩 1 件
 溶結凝灰岩ほか 4 件
 神奈川県小田原市東町四丁目の砂 1 件
 アイスランド共和国の砂 1 件
 神奈川県平塚市土屋の砂 1 件
 集塊岩ほか 16 件
 玄武岩（火山弾） 7 件
 静岡県熱海市東海岸町の砂 1 件
 神奈川県足柄上郡山北町川西の砂 1 件
 富山県下新川郡入善町芦崎の砂 1 件
 鹿児島県大島郡与論町与論の砂ほか 43 件
 神奈川県小田原市東町二丁目の砂 1 件
 東京都調布市小島町の砂 1 件

♪ キシコ合衆国ユカタン半島カンクンの砂ほか 4 件
 和歌山県東牟婁郡串本町くじの川の砂ほか 19 件

† 京都府宮津市文殊の砂 1 件
 香川県香川郡直島町琴弾地の砂ほか 3 件
 玄武岩（枕状溶岩）ほか 9 件
 堇青石超高温グラニュライトほか 1,007 件
 優白質珪質片麻岩ほか 157 件

斑状カリ長石花崗岩ほか 72 件
 普通角閃石花崗岩ほか 160 件
 変砂岩ほか 56 件
 白雲母片麻岩ほか 89 件

ハンレイ岩質片麻岩ほか 41 件

インド ケララ州の砂 1 件
 アメリカ合衆国ハワイ州の砂ほか 120 件

[地質・ボーリング] 合計 1 件
 大涌谷ボーリングコア 1 件

[魚類写真] 合計 8,983 件
 ヤマブキベラほか 17 件（さかなクン）
 オオカズナギほか 15 件（マリンバイオ部（横岡和典））
 マハタモドキ 1 件（阿部貞治）
 リボンイワシほか 2 件（安藤光代）
 キシマハナダイほか 4 件（安部肯治）

モチノウオ属未同定種ほか 15 件（益田一）
 ニューカレドニア・シュリンプゴビーほか 21 件（益田智史）
 サクライレズミハゼ 1 件（園山貴之）
 ワカウウジほか 72 件（遠藤周太）
 ツッパリサギ 1 件（岡田理成）
 オイランハゼ近似種ほか 2 件（屋本恵子）
 トラウツボ 1 件（下光利明）
 ツボダイ 1 件（加藤昌一）
 トウシノボリ（型不明） 1 件（加藤仁宏）
 ハマダイほか 3 件（加藤智晴）
 タニウウジほか 3 件（加藤悠也）
 ヤリガレイほか 3 件（河田正隆）
 マツバスズメダイほか 5 件（笠井雅夫）
 ヒゲソリダイほか 3 件（釜井昌二）
 タネギンボほか 2 件（岩舟輝一）
 マハタモドキ 1 件（吉村光太郎）
 ハナザメほか 5 件（吉田俊司）
 スズメダイ科未同定種 1 件（久間部準一）
 ヤマメほか 5 件（宮崎佑介）
 オオクチイシナギ 1 件（宮田昌輝）
 ミツクリザメほか 2 件（共同テレビジョン）
 未同定 1 件（橋本和幸）
 ウナギギンボ 1 件（栗原雅直）
 スズメダイ属未同定種 1 件（恵利川昌樹）
 ホワイトドットィド・グルーパー 1 件（古波蔵勇太）
 ムラソイほか 6 件（戸井田静）
 ローランズ・デムワーゼルほか 188 件（御宿昭彦）
 ゴテンアナゴほか 2 件（恒木奈緒子）
 フエダイほか 14 件（江藤幹夫）
 アンコウ・キアンコウ未確定種 1 件（高山優美）
 ヘコアユほか 4 件（高瀬渉）
 ヒトミハタほか 6 件（高田菜穂子）
 サケガシラ 1 件（高嶺春夫）
 ヒメジ属未同定種 1 件（黒田かおり）
 ミゾレブダイほか 8 件（黒柳都夫）
 シラスウオほか 3 件（今井寛治）
 ナガハナダイ属未同定種ほか 4 件（今関真二郎）
 ヒメホシハゼほか 5 件（今川郁）
 オオニベ 1 件（根岸伸之）
 ヘビギンボほか 2 件（佐々木則行）
 テンジクダツ 2 件（佐藤俊）
 ハゼ科未同定属未同定種 1 件（佐野利枝）
 トサカギンボ 1 件（阪本竜也）
 ヒトミハゼほか 4 件（三井翔太）
 ウナギギンボ 1 件（三浦寛子）
 イッテンアカタチほか 2 件（三宮重徳）
 ホソヒラアジほか 17 件（三木涼平）
 ウロハゼ 1 件（山下孝道）
 クロイトハゼ 1 件（山口明男）
 ムレハタタテダイほか 22 件（山崎公裕）
 マハタモドキ 1 件（山田和博）
 スズメダイ科未同定種 1 件（山内泉）
 ヒレナガカエルウオ 1 件（山崎裕太）
 カムルチー 1 件（寺岡礼）
 クロホシマンジュウダイ 1 件（寺川鷹司）
 ホシイッセンヨウジほか 4 件（寺田雄祐）
 チワラスボ 1 件（芝田純子）
 ワニトカゲギスほか 38 件（手良村知功）

ヒモハゼ 1 件（重永明生）
 ヤマドリほか 8 件（緒方悠輝也）
 リュウキュウヨロイアジほか 66 件（小枝圭太）
 ロウニンアジほか 5 件（小杉正則）
 タナバタウオ 1 件（小倉直子）
 モヨウフグほか 8 件（小野均）
 モンツキスズメダイほか 3 件（小林颯）
 ユキフリソデウオほか 10 件（小林修一）
 トサカギンボ 1 件（小林優也）
 ムラサメハゼほか 12 件（松野清伯）
 ナガハナダイ属の 1 種 5 1 件（植田浩彰）
 マンザイウオ 1 件（新倉真二）
 トビササウシノシタ属未同定種ほか 3 件（森下修）
 ヒメタツほか 20 件（森下誠）
 トゲカワハギほか 5 件（森山敦）
 ハダカイワシ科の 1 種ほか 6 件（森田康平）
 メイタガレイほか 26 件（神奈川県水産技術センター相模湾試験場
 （撮影者：西村竜雄））
 ワキグロアカフエダイほか 6 件（諏訪仁）
 ハチほか 2 件（諏訪誉）
 ミナミメダカ（地域型不明）ほか 4 件（逗子市環境都市部緑政課）
 ヤミクモハゼほか 30 件（世古徹）
 ヤエギス科未同定属未同定種ほか 4 件（星野修）
 タマカイ 1 件（星野和夫）
 レモンズズメダイ 1 件（清野輝）
 マルヒウチダイほか 3 件（西潟正人）
 ツキチョウウオ 1 件（西森樹）
 アゴアマダイ属未同定種 2 件（石崎宏人）
 フリソデウオほか 9 件（浅田亘裕）
 リュウキュウヒメジほか 1169 件（浅野勤）
 ロクセンフエダイほか 1304 件（惣道敬子）
 カワイイソギンボ 1 件（増子均）
 ロウソクギンボほか 167 件（村瀬敦宣）
 ハナイシモチ 1 件（大橋尊之）
 マルクチヒメジほか 7 件（大川雅治）
 カワイイソギンボ 1 件（大村健）
 シロカジキ 1 件（谷口幸司）
 オグロブダイ 1 件（池田光敏）
 ワカウツボほか 90 件（中村国雄）
 ミナミイソハゼほか 5 件（中島明子）
 ヒメタツほか 22 件（中野誠志）
 クダリボウズギス 1 件（仲祐介）
 バケミミズハゼほか 8 件（長谷川稜太）
 スミツキハタ 1 件（長嶋祐成）
 ヤマドリ 1 件（長友伸二郎）
 ワスケトラギスほか 10 件（津田幸彦）
 ムラサメハゼほか 21 件（津波古健）
 レプトジュリス属未同定種ほか 5 件（鶴巻隆佳）
 ヤセハリセンボンほか 24 件（田中宏幸）
 イッテンホシハゼ 1 件（田中信哉）
 クチボソボラ 2 件（田中翔太）
 フリソデウオ 1 件（渡辺洋一）
 マトウトラギス 1 件（渡辺隆太）
 ボンボリイソハゼほか 12 件（渡邊浩昭）
 ルズニクティス・タエニアタスほか 16 件（渡邊美雪）
 シマヨシノボリほか 16 件（都倉浩）
 キリアナゴ 1 件（度会裕子）
 ヒラスズキ 1 件（土屋勝）

コバンアジ 1 件（土田治一）
 ヒメクサアジ 1 件（藤原有平）
 ゴテンアナゴ 1 件（徳永圭史）
 キホウボウ科未同定属未同定種 1 件（内山博之）
 タヌキメバルほか 2 件（内田真一）
 ロクセンスズメダイほか 1829 件（内野啓道）
 レッドフィン・エンペラーほか 1560 件（内野美穂）
 ヤミハタほか 14 件（任賢治）
 ロウニンアジほか 142 件（梅野朝年）
 パルモプス属未同定種 1 件（白石拓己）
 メアジほか 5 件（白川直樹）
 ミナミフトスジイシモチほか 2 件（八木克憲）
 ヒレグロスズメダイ 1 件（飯田淳一）
 モヨウフグ属の 1 種ほか 2 件（尾山大知）
 クエ 1 件（尾川泰将）
 レンテンヤッコほか 45 件（不明）
 イボダイ 1 件（富田晃司）
 テンジクハナダイ 1 件（武藤義則）
 ヨメヒメジほか 43 件（福原友広）
 ナガタチカマス 1 件（平山正嘉）
 アナハゼ 1 件（平尾隆之）
 ベニハナダイ 1 件（平野正浩）
 フタスジアカヒレイシモチ 1 件（豊川健人）
 オオウミウマ 1 件（名津井博一）
 リュウキュウイシモチほか 459 件（野村智之）
 ミヤケベラ 1 件（矢島澄江）
 ミエハタンボ 1 件（有馬啓人）
 トビイトギンボほか 4 件（立崎憲一）
 カメレオンブダイ 1 件（林友子）
 スナビクニン 1 件（林庭弘征）
 アカグツ属未同定種 1 件（鈴木香里武）
 リュウキュウナミノコハゼほか 1133 件（鈴木寿之）
 ヒメクサアジ 1 件（鈴木秀和）
 ギンブナほか 2 件（鈴木彰）
 キララハゼ属未同定種ほか 3 件（鈴木直司）
 ハナタツほか 3 件（鈴木美智代）

ヨコスジフエダイほか 25 件（和田俊章）
 ヤノスソビキハゼほか 9 件（和田純子）
 ワニエソ 1 件（和田正昭）
 ムサシトミヨほか 11 件（濱田拓未）

[哺乳類写真] 合計 5 件
 ニホンアナグマほか 4 件
 ムササビ 1 件

[鳥類写真] 合計 4 件
 アヒル 1 件
 カンムリウミスズメほか 2 件
 クロサギ 1 件

[両生類写真] 合計 19 件
 カジカガエルほか 2 件
 モリアオガエル 3 件
 ウシガエル 2 件
 アズマヒキガエル 8 件
 モリアオガエル 3 件
 トノサマガエル 1 件

[爬虫類写真] 合計 5 件
 ハナガメほか 2 件
 ニホンヤモリほか 2 件
 ホホントカゲ 1 件

[景観画像] 合計 7 件
 仙石原すすき草原火入れほか 7 件

[菌類細密画] 合計 13 件
 オオキノボリイグチほか 13 件

[魚類文書] 合計 193 件

4.1.4. 採集その他による資料（新たに登録されたもの）

<標本>

分野	登録件数	分野	登録件数
維管束植物	240	昆虫	1,076
植物群落	0	クモ	27
コケ	0	化石	1,298
菌類・地衣類	138	岩石	125
藻類	0	鉱物	1,707
植物その他	0	地質・ボーリング	0
魚類	233	はぎ取り	1
哺乳類	338	地学その他	0
鳥類	25	衛星画像	0
両生類	13	合計	6,307
爬虫類	45		
軟体動物	335		
甲殻類	705		
動物その他	1		

<アーカイブズ>

分野	登録件数
植物標本写真	0
魚類写真	1,109
哺乳類写真	0
鳥類写真	10
両生類写真	37
爬虫類写真	15
昆虫写真	0
クモ写真	1
衛星処理画像	0
景観画像	6
博物館活動	6,706
菌類細密画	0
甲殻類細密画	0
合計	7,884

4.2. 図書資料収集状況

2018 年度受入した和書の冊数は、購入が 79 冊、寄贈が 1273 冊、編入が 4 冊、管理換が 0 冊であった。洋書については、購入が 0 冊、寄贈が 109 冊であった。受入図書の合計は 1,465 冊である。そのほか CD-ROM の寄贈が 3 タイトルであった。

2018 年度受入図書(冊)

	購入	寄贈	編入	管理換	合計
和書	79	1,273	4	0	1,356
洋書	0	109	0	0	109
合計	79	1,382	4	0	1,465

2019 年 3 月 31 日現在の所蔵資料総数は次のとおりである。

分野	登録数	
国内刊行図書	28,829	(冊)
国外刊行図書	4,586	(冊)
購入国内雑誌	14	(タイトル)
購入国外雑誌	10	(タイトル)
寄贈国内雑誌	3,191	(タイトル)
寄贈国外雑誌	672	(タイトル)
ビデオソフト	332	(巻)
CD-ROM	66	(タイトル)
マイクロフィルム	34	(リール)

4.3. 資料利用状況

4.3.1. 資料特別利用

博物館資料について、特に学術上の研究のため利用する場合、「資料の特別利用」の制度にて資料の利用を可能にしている。特別利用を受ける際は、特別利用承認申請書を提出し、承認を受け、博物館の資料を閲覧、計測、撮影、掲載などの利用が可能である。2018年度について、特別利用の件数は次のとおりである。

分野別の特別利用の件数

利用について通常の閲覧利用は「閲覧」とし、特に撮影を伴うものを「撮影」、データ解析を目的とするものを「解析」、「その他」には、学術発表利用（学会等発表、論文発表での画像掲載等）を含めた。

標本：実物標本、レプリカ等

画像：フィルム・プリントなどの画像、デジタルカメラやスキャン等によるデジタル画像

属性データ：標本情報

種別			利用	閲覧			撮影			解析			その他			合計		
			人数	件数	点数	人数	件数	点数	人数	件数	点数	人数	件数	点数	人数	件数	点数	
動物	哺乳類	標本				1	1	1	3	28	34				4	29	35	
		画像																
		属性 小計				1	1	1	3	28	34				4	29	35	
	鳥類	標本																
		画像																
		属性 小計																
	両生類 爬虫類	標本				6	6	32	1	1	1	4	4	16	11	11	49	
		画像																
		属性 小計				6	6	32	1	1	1	4	4	16	11	11	49	
	魚類	標本	11	468	560	5	54	54	34	985	1,370	1	1	1	51	1,508	1,985	
		画像							27	4,863	4,955	6	59	176	33	4,922	5,131	
		属性 小計	11	468	560	5	54	54	65	6,015	6,555	7	60	177	88	6,597	7,346	
	昆虫	標本	8	563	1,544	4	110	110	23	3,112	3,160				35	3,785	4,814	
		画像																
		属性 小計	8	563	1,544	4	110	110	23	3,112	3,160				35	3,785	4,814	
	軟体動物 甲殻類 その他動物	標本				2	7	14	9	35	207				11	42	221	
		画像																
		属性 小計				2	7	14	9	35	207				11	42	221	
	植物		標本				4	16	21	1	1	1				5	17	22
			画像															
			属性 小計				4	16	21	2	1,301	1,301				1	1,301	1,301
										2	1,302	1,302				6	1,318	1,323
	菌類		標本							4	4	125				4	4	125
			画像				2	7	7							2	7	7
属性 小計						2	7	7	4	4	125				6	11	132	
古生物		標本	1	927	927	2	41	41	2	5	9	1	7	7	6	980	984	
		画像																
		属性 小計	1	927	927	2	41	41	2	5	9	1	7	7	6	980	984	
地球環境		標本																
		画像																
		属性 小計																
博物館		画像																
		属性 小計																
合計			20	1,958	3,031	26	242	280	109	10,502	11,393	12	71	200	167	12,773	14,904	

4.3.2. 資料館外貸出

博物館資料について、資料を借用し普及・教育などに利用する場合、「資料の館外貸出し」の制度にて資料利用を可能にしている。資料の貸出しを受ける際は、館外貸出承認申請書を提出し、承認を受け、博物館資料を借用利用することができる。主な利用は、展示、掲載・放映などである。ただし、研究に関する利用であっても、館外貸出として申請のあったものは本項目の『その他』に含めた。2018 年度について、館外貸出しの利用数は次のとおりである。

分野別の館外貸出の件数

標本：実物標本等

画像：フィルム・プリントなどの画像、デジタルカメラやスキャン等によるデジタル画像

属性データ：標本情報

利用 種別			展示			教材			掲載・放映			その他			合計		
			人数	件数	点数	人数	件数	点数	人数	件数	点数	人数	件数	点数	人数	件数	点数
動物	哺乳類	標本				6	21	77	1	6	6				7	27	83
		画像							1	1	7				1	1	7
		属性															
		小計				6	21	77	2	7	13				8	28	90
	鳥類	標本	1	1	2				2	2	2				1	1	2
		画像													2	2	2
		属性															
		小計	1	1	2				2	2	2				3	3	4
	両生類 爬虫類	標本															
		画像							1	3	3				1	3	3
		属性															
		小計							1	3	3				1	3	3
	魚類	標本	1	8	8	4	15	19	3	533	533				8	556	560
		画像	3	82	82	4	21	31	35	596	637	1	1	2	43	700	752
		属性															
		小計	4	90	90	8	36	50	38	1,129	1,170	1	1	2	51	1,256	1,312
	昆虫	標本	5	667	667										5	667	667
		画像	1	4	4										1	4	4
		属性															
		小計	6	671	671										6	671	671
	軟体動物 甲殻類 その他動物	標本	1	27	32				4	12	13				5	39	45
		画像							4	721	730				4	721	730
		属性															
		小計	1	27	32				8	733	743				9	760	775
植物		標本							1	2	2				1	2	2
		画像															
		属性															
		小計							1	2	2				1	2	2
菌類		標本															
		画像	1	1	40										1	1	40
		属性															
		小計	1	1	40										1	1	40
古生物		標本	5	86	91	2	46	178	4	11	12				11	143	281
		画像															
		属性															
		小計	5	86	91	2	46	178	4	11	12				11	143	281
地球環境		標本	12	98	152				1	5	5				13	103	157
		画像	3	4	4	3	8	8	18	60	67				24	72	79
		属性															
		小計	13	100	154	1	6	6	15	61	68				29	167	228
博物館		画像							1	1	1				1	1	1
		属性															
		小計							1	1	1				1	1	1
合計			33	978	1,082	19	111	313	76	1,953	2,018	1	1	2	129	3,043	3,415

4.4. 資料燻蒸

博物館資料を良好な状態で保存するために燻蒸を行った。

大収蔵庫の燻蒸

2018 年 6 月 11 日から 15 日まで、酸化エチレン・テトラフルオロエタンの混合ガス（混合比、酸化エチレン 15%、テトラフルオロエタン 85%）による殺虫、殺卵、殺カビを目的とした燻蒸を行った。これに伴い博物館展示室も、同期間閉館とした。

燻蒸装置を使った燻蒸

標本製作室に設置されている燻蒸装置を使用し、酸化エチレン・テトラフルオロエタンの混合ガスによる殺虫、殺卵、殺カビを目的とした燻蒸を行った。鳥獣はく製や昆虫標本、書籍などを対象とし 7 回実施した。

5. 学習支援機能

県民の生涯学習活動を様々な場面で支援することは、博物館の社会的使命の一つである。当館ではこれに応えるために企画情報部を組織し、事務職員と研究職員（学芸員）とが協力態勢をとっている。この中で、県民の生涯学習支援を多種多様な場面で数多く進めるとともに、学校教育支援にも取り組んでいる。

近年、県民の学ぼうとする意欲が高まる中で、生涯学習ニーズに応えるため、自然史博物館である当館の特質をいかした自然科学講演会、各種の講座などの学習支援事業を展開している。

また、学校教育における支援要請、理科等の教科学習、総合的な学習の時間、インターンシップの受け入れ、教員の各種研修の受け入れ、教材開発の支援などに応えた。

さらに、一般の方々や児童・生徒の自学自習の場として、ミュージアムライブラリーを設けている。ここには博物館学習指導員が配置され、種々の学習相談に応じている。特に学校を中心とする団体での利用者には、要請に応じて学習指導員によるガイダンスの便宜もはかっている。

県民のボランティア活動等を受け入れ支援することは、広く生涯学習の機会を確保することであるとともに、博物館の社会的使命として重要な柱である。そのためボランティア活動の受け入れや養成講座の実施、博物館実習等の受け入れ、博物館友の会の運営支援などの活動を通じて、県民・地域とともにある博物館を目指している。

5.1. 生涯学習への対応

5.1.1. 自然科学講演会等

本年度開催された、自然科学に関する館主催・共催の講演会・シンポジウム、学会の開催に関連して一般公開のかたちで実施された講演会等の行事について、次表に記した。

自然科学講演会(博物館主催行事に関連した一般の方々向け講演会)

講演名と内容	実施日	実施場所	対象者	講師	所属	受講数
特別展関連講演会 「地域植物誌のできるまで」	7/15(日)	SEISA ミ ュージア ムシアタ ー	一般	勝山輝男	当館学芸員	112
企画展「日本最後の秘境 南硫黄島～ 10年ぶりの学術調査から～」関連講 演会① 「隊員は見た！10年の島の変化の実 態－原生自然も変わるのだ－」 ・10年ぶりの調査、かく行ないし ～南硫黄島調査隊2017について～ ・Forest in the mist 南硫黄島に浮 かぶ島の中の島 ～霧によって育まれる雲霧林の10 年間～ ・海から空へ 吹き上がれ ～南硫黄 島のオガサワラオオコウモリ～ ・10年前は悪夢だった？まだまだ深 い南硫黄の昆虫たち	11/18(日)	SEISA ミ ュージア ムシアタ ー	一般	鈴木 創 朱宮丈晴 鈴木 創 苅部治紀 森 英章	南硫黄島調査隊2017 隊長 オオコウモリ班 小笠原自然文化研究所 副理事長 南硫黄島調査隊2017 登山班 気象班 日本自然保護協会 南硫黄島調査隊2017 昆虫班 当館学芸員 南硫黄島調査隊2017 昆虫班 自然環境研究センター	78
企画展「日本最後の秘境 南硫黄島～ 10年ぶりの学術調査から～」関連講 演会② 「隊員は見た！10年間の変化と明ら かになってきた島での進化」 ・10年ぶりの調査、かく行ないし ～南硫黄島調査隊2017について～ ・南硫黄島の植物相とそのルーツを 探る ・ここにもこだまがいるのか？ ・10年前は悪夢だった？まだまだ深 い南硫黄の昆虫たち ・君らも奇跡でできている～ビュア でヤングな島の昆虫たち～	12/9(日)	SEISA ミ ュージア ムシアタ ー	一般	鈴木 創 加藤英寿 千葉 聡 苅部治紀 森 英章 森 英章 苅部治紀	南硫黄島調査隊2017 隊長 オオコウモリ班 小笠原自然文化研究所 副理事長 首都大学東京 野標本館 植物班 東北大学 陸産貝類班 当館学芸員 昆虫班 自然環境研究センター 昆虫班	75
合 計						265

他の団体・機関との連携行事（博物館をとりまく諸機関との連携による講演会・シンポジウム・研究会等）

講座名	実施日	実施場所	講師	所属等	受講数
魚の会（うおのかい） 平成 30 年度第 1 回講演会 「日本のフナはこんなフナー どこにでもいる普通の魚が難しく面白い！」	5/27(日) 14:30-15:30	西側講義室	高田未来美	元東京大学大気海洋研究所 特任研究員	33
一般財団法人大隅基礎科学創成財団との共催 小中高生と最先端研究者とのふれ合いの集い 「生き物ふしぎに迫る ～動植物はどうやって重力を感じるのだろう～」	6/3(日) 13:00-16:00	SEISA ミュージアムシアター	大隅良典 瀬原淳子 森田（寺尾）美代	一般財団法人大隅基礎科学 創成財団理事長 京都大学再生医科学研究所 教授 名古屋大学大学院生命農学 研究科教授	79
魚の会（うおのかい） 平成 30 年度第 2 回講演会 「ミミズハゼ類は何種いるのだろうか？」	8/19(日) 14:00-15:00	西側講義室	渋谷浩一	ふじのくに地球環境史ミュージアム研究員	41
日本菌学会との共催 高校生のための菌類講座 博物館で学ぶ菌類学入門	8/26(日) 10:00-16:00	実習実験室	折原貴道	当館学芸員	5
箱根ジオパーク推進協議会主催 シンポジウム「箱根火山とともに生きる」 ・「箱根火山 2015 年噴火で分かってきたこと」 ・「こんなにすごい、日本の火山ーマグマの恵みと災害とー」 ワークショップ ・「キッチン火山実験」	9/16(日) 13:00-14:30 15:00-16:00	SEISA ミュージアムシアター 西側講義室	萬年一剛 林 信太郎 林 信太郎	神奈川県温泉地学研究所主 任研究員 秋田大学教育文化学部教授	94 26
魚の会（うおのかい） 平成 30 年度第 3 回講演会 「ウシマンボウ～世界一重い硬骨魚としてギネス記録に認定されるまで～」	11/24(土) 14:00-15:00	西側講義室	澤井悦郎	マンボウなんでも博物館	26
全日本博物館学会との共催 2018 年度第 2 回博物館教育研究会 「シャッターボタンが展示情報をつなげる」 ・撮ればつながる展示解説システムによる博物館体験 ・被写体認識技術の展示解説事例と可能性 ・展示室で何を撮っているのだろう～生命展示室体験 ・被写体認識システムによる解説の体験	12/23(日)	西側講義室	大島光春 村上弘晃 田口公則	当館学芸員 NEC ネクサソリューションズ 当館学芸員	28
神奈川昆虫談話会との共催 『神奈川昆虫誌 2018 出版記念シンポジウム』 神奈川県の昆虫相を語る ・神奈川県の昆虫相について、各分類分野の専門家から ・総合討論	1/20(日) 13:00-16:15	SEISA ミュージアムシアター	吉田篤人 菊部治紀 高橋和弘 槐 真史 松本浩一 林 正美 松原 豊 鈴木 裕 中島秀雄 中村進一 長瀬博彦 渡辺恭平	カマアシムシ目他 トンボ目 イシノミ目他 バッタ目他 カメムシ目 カメムシ目 コウチュウ目 ハエ目 チョウ目 チョウ目 ハチ目 ハチ目	114
日本古生物学会第 168 回例会 普及講演会 ・「砂漠に眠るクジラたちーインカクジラの語ることー」 展示室・収蔵庫 見学	1/27(日) 12:30-13:15 13:15-14:00	SEISA ミュージアムシアター 展示室 収蔵庫	甲能直樹 甲能直樹 当館学芸員	国立科学博物館	80 (15)
国立研究開発法人海洋研究開発機構(JAMSTEC)との共催 「第 7 回海と命と地球をめぐる公開講演会」 ・骨から見た食肉類の進化と多様な生存戦略 ・深海のトップ・プレデターに挑む	2/16(土) 13:30-15:15	SEISA ミュージアムシアター	鈴木 聡 河戸 勝	当館学芸員 海洋研究開発機構技術主任	51
魚の会（うおのかい） 平成 30 年度第 4 回講演会 「琵琶湖に残った日本在来のコイ：わかっていること、今調べていること」	2/17(日) 14:00-15:00	西側講義室	馬淵浩司	国立環境研究所・琵琶湖分 室 主任研究員	32
酒匂川水系の環境を考える会との共催 「第 18 回 自然環境シンポジウム」 ・自然保護と環境教育 ・両生類からみる豊かな水辺環境とは ・淡水魚の保全と復元～川の生物多様性はなぜ必要か ・昆虫類の多様性と生態系管理	2/17(日) 13:00-16:30	SEISA ミュージアムシアター	近藤正樹 天白牧夫 勝呂尚之 上妻信夫	近藤蟻蜘蛛研究所 NPO 法人三浦半島生物多様 性保全理事長 神奈川県水産技術センター 内水面試験場専門研究員 元自然公園指導員	210
神奈川県災害対策課・小田原市との共催 富士山火山防災訓練 2019「火山噴火に関する講演会」 ・「活火山・富士山の将来」 ・「実験でわかる富士山の形」	2/23(土) 11:15-12:30	SEISA ミュージアムシアター	萬年一剛 笠間友博	神奈川県温泉地学研究所主 任研究員 当館学芸員	250
神奈川地学会との共催 第 7 回神奈川の地学広場 ・基調講演 「君は台風列島で生き延びることができるか？」 ・ポスター発表	3/21(木祝) 12:50-16:20	西側講義室	筆保弘徳	横浜国立大学准教授	50
合 計					1,119

5.1.2. 講座等

博物館が実施した講座を当日受付の講座と事前申し込みが必要な講座に分け記載した。

(同名講座でも、募集・受付の異なるものは別講座とした。神奈川県総合教育センターの研修として受講した人数は研修欄にその人数を記載した。)

【当日受付の講座】

2 講座のべ 2 日間実施、参加者 580 名

通 No	講座名	実施日	実施場所	対象者	講師	参加 者数
1	夏休み昆虫ひろば	8/4(土)	博物館	幼児～成人	渡辺恭平 荻部治紀	308
2		8/25(土)	西側講義室			272

【事前申込が必要な講座】

募集 44 講座のうち、雨天・荒天等による中止 8 講座、実施は 36 講座、参加者延べ数 771 名

通 No	講座名		実施日	実施場所	対象者	講師	定 員	応 募 数	受 講 数	研 修 者
1	春の里山の植物 ※IGES 国際生態学センターとの共催		4/14(土)	円海山 (横浜市)	小学生と保護者、 中学生～成人	田中徳久 大西 亘 勝山輝男	40	50	38	-
2	植物図鑑の使い方 (春の花編) ～気になる花しらべ～		4/21(土)	博物館	小学 4 年生～成人	大西 亘	30	35	19	-
3	昆虫採集連続講座 ～めざせ昆虫博士～		4/22(日)	博物館及び小 田原市内の緑 地	小学 5 年生～高校 生 保護者は、初回の み参加可	渡辺恭平 荻部治紀	10	14	23	-
			5/6(日)						13	
			5/27(日)						13	
			6/24(日)						13	
			9/23(日祝)						12	
			10/14(日)						11	
			12/16(日)						10	
			2/24(日)						11	
4	春の地形地質観察会 ～秦野盆地をめぐる～		5/3(木祝)	秦野盆地 (秦野市)	小学 4 年生～成人	新井田秀一 笠間友博 山下浩之	30	101	中止	-
5	おやこで貝がらを知ろう	午前	5/5(土祝)	博物館	小学生と保護者	佐藤武宏 田口公則	20	34	11	-
6		午後					20	20	20	-
7	オタマジャクシを顕微鏡で観察してみよう		5/13(日)	博物館	小学 1 年生～成人	松本涼子	15	119	13	-
8	磯の生きものウォッチング		5/19(土)	三ツ石海岸 (真鶴町)	小学生と保護者	佐藤武宏 田中徳久 加藤ゆき	40	81	中止	-
9	※IGES 国際生態学センターとの共催		6/2(土)				40	96	38	-
10	昆虫観察会		5/20(日)	県西部緑地	小学 4～6 年生と 保護者、中学生～ 成人	渡辺恭平 荻部治紀	20	41	18	-
11			9/30(日)				20	23	中止	-
12	化石講座 ～ゾウ化石を調べよう～		5/20(日)	博物館	中学生～成人	樽 創	10	9	7	-
			7/15(日)						6	
			9/16(日)						6	
			11/25(日)						3	
			1/13(日)						2	
13	ノジュール割りに挑戦 ～ボリビア産の化石を調べよう～		5/26(土)	博物館	小学 4～6 年生と 保護者、中学生～ 高校生	田口公則	18	46	15	-
14	博物館の展示解説をつくってみよう ～能動的に展示を楽しむ～		7/7(土)	博物館	学生、成人	大島光春	10	10	10	4
15	貝殻のふしぎを調べよう	ホタテ	7/21(土)	博物館	小学 4 年生～成人	田口公則	12	28	11	-
16		アワビ	7/28(土)			佐藤武宏	12	24	中止	-
17		いろいろな巻貝	8/4(土)				12	48	11	-

通 No	講座名	実施日	実施場所	対象者	講師	定 員	応 募 数	受 講 数	研 修 者
18	なぞり絵を楽しむ ～生きものスケッチで観察力アップ～	7/24(火)	博物館	教員・保育士など 幼児教育に携わる 方	田口公則	12	2	中止	－
19	保育園・幼稚園で 貝がらを使って楽しく遊ぼう	7/24(火)	博物館	教員・保育士など 幼児教育に携わる 方	佐藤武宏	12	2	中止	－
20	先生のための岩石プレパラートの作製と観察 講座	7/25(水)	博物館及び周 辺の河原	教員	山下浩之	12	16	12	6
21	きのこさがし	7/27(金)	博物館及びそ の周辺	小学 1～3 年生と 保護者、小学 4 年 生～中学生	折原貴道 大西 亘 勝山輝男	20	119	20	－
22	展示見学ポートフォリオづくり ～デジカメでこんなに変わる博物館見学～	7/30(月)	博物館	教員	田口公則	10	10	8	3
		7/31(火)						7	2
23	あなたのパソコンで地形を見る（教員向け）	8/7(火)	博物館	教員	新井田秀一	12	6	6	6
24	岩石プレパラートの作製と観察講座	8/25(土)	博物館	中学生～成人	山下浩之	12	44	11	－
25	海辺の野鳥観察会	9/8(土)	照ヶ崎海岸 (大磯町)	小～中学生と保護 者	加藤ゆき 広谷浩子	20	30	18	－
26	植物分類講座「ヒユとアカザ」	9/9(日)	博物館	高校生～成人	勝山輝男	24	35	29	－
27	外来種「ムネアカハラビロカマキリ」調査！	9/9(日)	博物館	小学生～成人	荻部治紀	50	17	15	－
		11/18(日)						9	－
28	本当は怖いアメリカザリガニ	9/15(土)	麻生区はるひ 野(川崎市)	小学生と保護者 中学生～成人	荻部治紀	20	41	中止	－
29	川と用水路の生き物を調べよう	9/29(土)	吉田島周辺 (開成町)	小学生と保護者、 中学生～成人	荻部治紀 瀬能 宏 渡辺恭平	25	62	中止	－
30	植物図鑑の使い方（樹木編） ～この木なんの樹？～	10/6(土)	博物館	小学 4 年生～成人	大西 亘	30	43	27	－
31	きのこの観察と同定	10/7(日)	博物館とその 周辺	中学生～成人	折原貴道	20	29	19	－
32	秋の里山の植物 ※IGES 国際生態学センターとの共催	10/13(土)	円海山 (横浜市)	小学生と保護者、 中学生～成人	田中徳久 大西亘 勝山輝男	40	46	44	－
33	アニマルトラッキング入門	10/20(土)	博物館とその 周辺	小学生と保護者	加藤ゆき 松本涼子 広谷浩子	20	21	15	－
34	秋の地形地質観察会 ～西丹沢の岩石～	11/3(土祝)	西丹沢方面 (山北町)	小学 4 年生～成人	山下浩之 新井田秀一 笠間友博	30	115	25	－
35	先生のための地層と化石入門 2018 ～飯室層の化石観察～	11/10(土)	博物館	教員	田口公則	10	4	3	2
		11/11(日)	生田緑地(狛江 市及び川崎市)					3	2
36	あなたのパソコンで地形を見る（一般向け）	11/18(日)	博物館	学生、成人	新井田秀一	8	23	7	－
37	軟体動物のからだのつくりを知ろう	12/2(日)	博物館	学生、成人	佐藤武宏	12	14	10	6
38	比べてみよう哺乳類の骨 ～四肢骨編～	12/8(土)	博物館	学生、成人	鈴木 聡 広谷浩子 大島光春	10	23	10	4
39	中学生火山講座 ～箱根外輪山をめぐる～	12/16(日)	箱根外輪山西 側(箱根町)	中学生、教員 保護者付添可	笠間友博 山下浩之 松本涼子	30	14	13	－

通 No	講座名		実施日	実施場所	対象者	講師	定 員	応 募 数	受 講 数	研 修 者
40	魚をもっと知りたい人のための魚類学講座		1/19(土)	博物館	中学生～成人	瀬能 宏	10	17	9	-
			1/20(日)						9	
41							2/2(土)	8	-	
							2/3(日)	8		
42	ボランティア入門講座	全体講座	1/20(日)	博物館	中学生～成人	瀬能 宏 佐藤武宏 田中徳久 大西 亘 勝山輝男 折原貴道 鈴木 聡 広谷浩子 松本涼子 田口公則 樽 創 大島光春	37	28	27	-
		分野別講座 1月実施分	1/22(火)						2	
			1/23(水)						2	
			1/25(金)						2	
			1/29(火)						3	
		分野別講座 2月実施分	2/2(土)						18	
			2/3(日)						14	
			2/7(木)						2	
43	はく製で学ぼうぶつのかたちとくらし		2/9(土)	博物館	小学生と保護者 中学生	鈴木 聡 広谷浩子	20	45	14	-
44	企画展関連観察会 ～関本丘陵の箱根火山火砕流堆積物～		3/10(日)	関本丘陵 (南足柄市)	小学4～6年生、中 学生、高校生、教員	笠間友博 新井田秀一 山下浩之	30	15	8	-
合 計									771	

5.1.3. よろずスタジオ

毎月第3日曜日を除く日曜日およびミュージズ・フェスタ期間に学習指導員による「よろずスタジオ」を開催した。テーマは、恐竜の折り紙ひろば他8講座。また、子どもの日、クリスマス、ミュージズ・フェスタに対応した折り紙プレゼントを実施した。第3日曜日には、友の会との共催による「よろずスタジオ」を開催した。

講座名	実施回数	実施場所	対象者	担当者	定員	参加者数	子どもの数
恐竜の折り紙ひろば	14	東側講義室ほか	子どもと保護者	【学習指導員】 【企画普及課】 【ボランティア】 博物館教育プログラムボランティア 小田原短期大学 学生	制限なし	2,355	1,146
博物館のぬり絵広場	6					813	416
そらとぶたね	3					462	216
生きものフェイスブック	2					156	84
けんぴきょうで大発見！	3					733	351
博物館検定	3					282	135
生きものパズル	6					889	442
ハコフグ帽子のぬり絵	3					484	235
生きものスケッチ	2					311	149
計 9 講座	42					6,485	3,174

講座・イベント名	実施日	実施場所	対象者	担当者	定員	参加人数
こどもの日 折り紙プレゼント	5/5(土祝)	エントランスホール	子どもと保護者	学習指導員	制限なし	811
クリスマス 恐竜、トナカイ等折り紙プレゼント	12/24(月祝)	エントランスホール	子どもと保護者	学習指導員	制限なし	425
ミュージズ・フェスタ 2019 折り紙プレゼント	3/16 (土)	エントランスホール	子どもと保護者	学習指導員	制限なし	539
	3/17 (日)					615
計 3 イベント (延べ4日間)						2,390

友の会との共催 よろずスタジオ

講座名	実施日	実施場所	対象者	講師	定員	参加者数	子どもの数
巻貝の中はらせん階段？	4/15(日)	東側講義室	子どもとその保護者 その他一般	佐藤武宏	制限なし	164	73
アンモナイトを作ろう！	5/20(日)	東側講義室		田口公則		119	57
作ってみよう！葉脈標本	6/24(日)	実習実験室		友の会スタッフ		108	50
いろんな菌類を見てみよう	9/16(日)	東側講義室		友の会スタッフ		170	57
動物の足の裏に注目！	10/21(日)	東側講義室		鈴木 聡		80	43
木の実・草の実で楽しい工作	11/18(日)	東側講義室		友の会スタッフ		64	30
生きている化石“ミツクリザメとラブカ”をみてみよう！	12/16(日)	東側講義室		瀬能 宏		280	90
砂であそぼう	1/20(日)	東側講義室		笠間友博		184	93
昆虫の体を見てみよう	2/17(日)	東側講義室		渡辺恭平		165	80
計 9 講座						1,334	573

5.1.4. 夏休みの自由研究を支援する催し物

学習指導員が対応する、夏休みの小・中学生理科自由研究の相談を集計した。

講座名	実施期間	相談場所	対象者	講師	相談件数
夏休み自由研究なんでも相談 「テーマの決め方・調べ方・まとめ方」	7/14(土) ～8/19(日)	ミュージアムライブラリー	小・中学生	学習指導員	85

[相談者の地域]

県内				県外	
市町村	件数	市町村	件数	都道府県	件数
小田原市	11	大和市	1	東京都	13
湯河原町	2	平塚市	1	静岡県	3
大井町	1	大磯町	3	埼玉県	1
中井町	1	二宮町	1	富山県	1
山北町	1	茅ヶ崎市	3	不明	2
秦野市	4	藤沢市	5	小 計	20
厚木市	4	横須賀市	2		
相模原市	1	横浜市	9		
海老名市	2	川崎市	9		
鎌倉市	1	葉山町	3		
		小 計	65		

[学年別]

学年	件数
小学1年	3
小学2年	5
小学3年	14
小学4年	9
小学5年	19
小学6年	6
中学1年	13
中学2年	7
中学3年	6
不明	3
合 計	85

[分野別]

相談分野	件数
物理化学分野	7
生物分野	26
地学分野	25
その他	27
合 計	85

5.1.5. 特別展・企画展に関する講座・イベント

講座等名	実施日	実施場所	対象者	講師	定員	応募数	参加数
特別展 ワンポイント展示解説	7/16(月祝)	特別展示室	対象制限なし	大西 亘 田中徳久 勝山輝男	—	—	22
	8/5(日)				—	—	18
	9/2(日)				—	—	4
	11/4(日)				—	—	19
特別展 関連講座 植物分類講座「ヒユとアカザ」 植物図鑑の使い方(樹木編) 秋の里山の植物	9/9(日)	実習実験室	高校生～成人	勝山輝男	24	35	29
	10/6(土)	実習実験室	小学4年～成人	大西 亘	30	43	27
	10/13(土)	円海山(横浜市)	小学生～成人	田中徳久	40	46	44
第131回サロン・ド・小田原 『神奈川県植物誌2018』でわかったこと	9/8(土)	西講義室	対象制限なし	田中徳久	—	—	47
企画展 関連講座 企画展開連観察会 ～関本丘陵の箱根火山火砕流堆積物～	3/10(日)	関本丘陵 (南足柄市)	小学4年～6年生、中学生、高校生、教員	笠間友博 新井田秀一 山下浩之	30	15	8
計 9 日							218

※ 特別展開連講座及び企画展開連講座は、14～18 ページにも記載。第131回サロン・ド・小田原は、87 ページにも記載。
ワンポイント展示解説の参加者数合計 63 人

5.2. 学校教育への対応

5.2.1. 理科等の教科学習・講義および総合的な学習の時間への対応

【博物館内で対応したもの】

実施日	区分	内容・演題 等	依頼元	対応者	人数	備考
4/11(水)	大学	地学実験(2単位)	横浜薬科大学教職課程センター	笠間友博	9	
5/11(金)	大学	森林資源科学科 1 年次「森林資源科学実習」の見学実習	日本大学生物資源科学部	渡辺恭平	19	
5/19(土)	大学	野生動物フィールド実習と博物館見学	日本大学生物資源科学部	広谷浩子	22	
5/27(日)	大学	地学教育実践論演習	東京学芸大学大学院	佐藤武宏	6	
6/2(土)	大学	「景観論」関連の箱根の地形や地質、土地利用について	首都大学東京	新井田秀一	22	
6/23(土)	大学	博物館・情報メディア論	北里大学海洋生命科学部	瀬能 宏 大坪 奏	46	
7/1(日)	大学	博物館展示および標本庫の見学解説	横浜国立大学都市科学部環境リスク共生学科	田口公則	68	都市科学部45名 理工学部23名
7/23(月)	中学校	中学科学部夏期合宿 箱根の地質・生物等について	法政大学第二中学校	平田大二	16	
7/23(月)	高校	箱根火山の成因と地形について	千葉県立長生高等学校	笠間友博	48	昼間は、館内にて講義 夕方より大観山方面巡検
8/1(水)	小学校	博物館見学及び火山実験学習	八王子市教育委員会	笠間友博	120	小学 6 年生
8/1(水)	大学	地質学野外実習	国際基督教大学	山下浩之	13	
8/3(金)	小学校	岩石標本づくりと観察、バックヤード見学	茅ヶ崎寒川地区小学校 教育研究会	山下浩之	23	小学生対象
8/18(土)	大学	化石掘り出しに関する体験実習と博物館見学	星槎大学	田口公則	19	
8/21(火)	高校	箱根火山の成り立ち・地形	県立生田高等学校	笠間友博	13	博物館及び箱根一帯
9/14(金)	小学校	地層のできかたを理解させるための実習と見学	函嶺白百合学園小学校	石浜佐栄子	26	6 年生
9/14(金)	小学校	流れる水のはたらきを理解させるための実習	函嶺白百合学園小学校	石浜佐栄子	18	5 年生
9/19(水)	大学	菌類研究の紹介	東京農工大学応用生物科学部醸造科学科	折原貴道	22	
9/21(金)	小学校	昆虫のからだのつくりを理解させるための実習	函嶺白百合学園小学校	渡辺恭平	18	3 年生
9/26(水)	大学	「植物学講義」の見学実習	横浜国立大学大学院 教育学研究科	田中徳久	12	
10/2(火)	高校	1 学年理数科「サイエンスツアー」	千葉県立匝瑳高等学校	笠間友博	43	箱根外輪山巡検含む
10/4(木)	大学	教職課程(理科)学生の博物館利用教育の実践	日本大学生物資源科学部	田口公則	16	
10/14(日)	大学	地球科学野外実習	国際基督教大学	平田大二	12	
10/24(水)	小学校	化石について調べよう	小田原市下府中小学校	田口公則	33	
10/31(水)	小学校	理科「流れる水のはたらき」	箱根町立湯本小学校	笠間友博	17	5 年生
11/7(水)	高校	生命の進化を学ぶ	相洋高等学校	広谷浩子	6	3 年生
11/14(水)	高校	生命の進化を学ぶ	相洋高等学校	広谷浩子	6	3 年生
11/17(土)	大学	真菌学特論Ⅰ 菌類の分類と生態について	関東学院大学理工学部	折原貴道	17	野外実習含む (大学院)
11/23(金祝)	高校	Scuola セミナー「博物館で学ぼう！①植物の仕組みと不思議～」	県立希望ヶ丘高等学校	田中徳久	6	
11/28(水)	高校	生命の進化を学ぶ	相洋高等学校	広谷浩子	6	3 年生
11/30(金)	大学	地球化学ゼミ「地球史と岩石、およびキュレーション」	東邦大学理学部	平田大二	8	
12/12(水)	中学校	博物館見学と箱根巡検	武蔵中学校	笠間友博 山下浩之	186	1 年生 AM:館内見学 PM:巡検
12/15(土)	高校	Scuola セミナー「博物館で学ぼう！②動物を対象とした調査、観察等」	県立希望ヶ丘高等学校	鈴木 聡	5	
12/24(月休)	高校	ハワイ島研修における事前学習	神奈川大学付属中・高等学校	山下浩之	22	
1/18(金)	小学校	人の体の作りと運動を理解させるための実習	函嶺白百合学園小学校	広谷浩子	23	4 年生
2/1(金)	高校	未来の夢講座「博物館・温泉地学研究所訪問」	県立大磯高等学校	山下浩之	18	

実施日	区分	内容・演題 等	依頼元	対応者	人数	備考
2/15(金)	中学校	中学校理科学習まとめ	函嶺白百合学園中学 高等学校	笠間友博	30	

【依頼元等へ出向いての対応】

実施日	区分	内容・演題 等	依頼元	対応者	実施場所
5/9(水)	大学	「市民科学プロセスの授業および実習補助」	白梅学園短期大学・保育課	大西 亘	白梅学園短期大学
5/19(土)	中学校	生物多様性について	横浜女学院中学校	鈴木 聡	横浜女学院中学校
6/1(金)	中学校	防災教育について	鎌倉女学院中学校	平田大二	横浜女学院陸奥ホール
9/20(木)	小学校	理科「大地のつくりと変化」	海老名市立柏ヶ谷小学校	笠間友博	海老名市立柏ヶ谷小学校
10/16(火)	小学校	大地のつくりと変化	小田原市立報徳小学校	笠間友博	小田原市立報徳小学校 6 年生
10/23(火)	小学校	箱根火山の学習巡検	自由学園初等部	山下浩之	箱根火山巡検
10/25(木)	中学校	中学 1 年総合体験学習「火山の恵みと災害について」	函嶺白百合学園中学高等学校	笠間友博	函嶺白百合学園中学高等学校 (事前学習)
10/26(金)	中学校	中学 1 年総合体験学習「火山の恵みと災害について」	函嶺白百合学園中学高等学校	笠間友博	一夜城公園
10/26(金)	大学	自然系博物館の展示	明治大学	田口公則	明治大学駿河台校舎
11/11(日)	高校	磯の生物の多様性について	東京成徳学園中等高等学校	佐藤武宏	三浦市油壺荒井浜
11/14(水)	大学	博物館の学芸員の仕事	日本大学生物資源科学部 森林資源科学科	渡辺恭平	日本大学生物資源科学部
11/19(月)	小学校	化石について調べよう	小田原市立下府中小学校	田口公則	大磯海岸
12/6(木)	小学校	理科「大地のつくりと変化」	横浜市立東俣野小学校	笠間友博	横浜市立東俣野小学校
12/13(木)	大学	教職課程「地学実験」	横浜薬科大学	笠間友博	横浜薬科大学
1/22(火)	小学校	理科授業「大地のつくりと変化」	小田原市立下中小学校	笠間友博	小田原市立下中小学校
1/24(木)	小学校	総合的な学習「土地のつくりと変化」	茅ヶ崎市立浜須賀小学校	山下浩之	茅ヶ崎市立浜須賀小学校
2/7(木)	中学校	箱根中学校 1 年「火山噴火実験」	箱根町教育委員会	笠間友博 山下浩之	箱根町立箱根中学校
2/15(金)	中学校	キャリア教育「職業講話」	海老名市立今泉中学校	大西 亘	海老名市立今泉中学校

5.2.2. 職場体験およびインターンシップ受け入れ

職業体験やインターンシップは、総合学習の一環とした取り組みも含まれ、区別することが難しい。進路学習的な取り組みとしての博物館体験を抽出し記載した。活動内容は、学芸員の仕事や資格を得るための進路および展示室、収蔵庫などの見学、行事等への参加を行った。

実施日	区分	内容	依頼元	対応者	人数
7/24(火)	高校	県西地区インターンシップ（職業体験活動）	県立小田原高等学校 県立吉田島高等学校	石浜佐栄子 広谷浩子 加藤ゆき	3
7/25(水)	高校	職業体験	函嶺白百合学園中学高等学校 森村学園中等部	石浜佐栄子 鈴木 聡 加藤ゆき	5
8/8(水)	中学校	職業体験	函嶺白百合学園中学高等学校（中止） 二宮町立二宮中学校	石浜佐栄子 山田茂広 市川美紀子 泉 在道	1
8/10(金)	高校	県西地区インターンシップ（職業体験活動）	県立小田原高等学校 県立吉田島高等学校	石浜佐栄子 高橋綾子 山田茂広 杉崎 均	3
8/28(火)	大学	インターンシップ	桜美林大学リベラルアーツ学群	田中徳久	1
8/29(水)	大学	インターンシップ	桜美林大学リベラルアーツ学群	田中徳久	1
8/30(木)	大学	インターンシップ	桜美林大学リベラルアーツ学群	田中徳久	1
8/31(金)	大学	インターンシップ	桜美林大学リベラルアーツ学群	田中徳久	1
8/31(金)	中学校	職業体験	二宮町立二宮西中学校	石浜佐栄子 山田茂広 杉崎 均	3
9/4(火)	大学	インターンシップ	桜美林大学リベラルアーツ学群	田中徳久	1
11/7(水)	中学校	職業体験	開成町立文命中学校	大島光春 下出朋美	3
2/3(日)	大学	インターンシップ	桜美林大学リベラルアーツ学群	田中徳久	1
2/5(火)	大学	インターンシップ	桜美林大学リベラルアーツ学群	田中徳久	1
2/6(水)	大学	インターンシップ	桜美林大学リベラルアーツ学群	田中徳久	1
2/7(木)	大学	インターンシップ	桜美林大学リベラルアーツ学群	田中徳久	1
2/8(金)	大学	インターンシップ	桜美林大学リベラルアーツ学群	田中徳久	1

5.2.3. 教員の各種研修受け入れ

総合教育センター研修枠として実施した博物館講座は、62～64 ページに記載したため、表より除いた。

【博物館内で対応したもの】

実施日	内容	依頼元	対応者	人数	備考
7/21(土)	教員社会体験研修	湯河原町立湯河原小学校	田口公則	1	
7/25(水)	教員社会体験研修	県立茅ヶ崎西浜高等学校	山下浩之	1	
7/28(土)	教員社会体験研修	湯河原町立湯河原小学校 藤沢市立辻堂小学校 小田原市立桜井小学校	佐藤武宏	3	
7/30(月)	教員社会体験研修	藤沢市立辻堂小学校 小田原市立桜井小学校 県立平塚江南高等学校	田口公則	3	
7/31(火)	教員社会体験研修	藤沢市立辻堂小学校 小田原市立桜井小学校 県立平塚江南高等学校	田口公則	3	
8/4(土)	教員社会体験研修	県立松陽高等学校	佐藤武宏	1	
8/7(火)	教員社会体験研修	湯河原町立湯河原小学校 県立茅ヶ崎西浜高等学校 県立松陽高等学校	新井田秀一	3	
8/21(火)	流れる水のはたらきと地層標本の観察	小田原市小学校教育研究会・理科部会	石浜佐栄子	48	
9/29(土)	平成 30 年理科の授業づくり研修講座 ～博物館・研究所を訪ねて～	県総合教育センター	田口公則	21	

【依頼元等へ出向いての対応】

実施日	内容	依頼元	対応者	実施場所
5/16(水)	人と動物の骨格の比較、出前授業の実践例	横浜市緑区小学校教育研究会	広谷浩子	横浜市立山下小学校

5.2.4. その他の取り組み

県立吉田島高等学校（草花部）との研究連携を行い、当館で高校生による一般来館者向けバイオテクノロジー教室を計画したが、台風の接近・荒天により中止となった。（2018 年 8 月 8 日（水））

5.3. 博物館実習

5.3.1. 博物館実務実習

当館では自然科学系分野を専攻し、学芸員資格の取得をしようとする学生を、博物館実習生として受け入れている。2018 年度は、大学・学部から 21 名の実習生を受け入れた。

実習は、企画情報部企画普及課が担当する 2 日間と学芸部が担当する 7 日間の実習からなり、その詳細は以下のとおりであった。（7 月受入延人数：67 人 8 月受入延人数：122 人）

実習日と主な実習内容

全員共通日程（2 日間）

〔担当〕企画普及課職員

〔期日〕7 月 26 日（木）、7 月 27 日（金）

〔内容〕オリエンテーション、館長講話、常設展示見学、収蔵庫など館内諸施設見学、管理課長、企画普及課長、学芸部長による館の概要・展示内容・研究状況などの説明。

グループ別実習（7 日間）

〔担当〕学芸部各グループ（詳細は以下の通り）

◎植物・菌類グループ（2 名）

〔担当〕田中徳久・大西 亘・折原貴道・勝山輝男

〔期間〕7 月 30 日～8 月 3 日、8 月 6 日、8 日

〔内容〕植物・菌類標本の製作、配架、菌類の野外調査など

◎動物グループ（5名）

[担当] 佐藤武宏・加藤ゆき・松本涼子・鈴木 聡・
広谷浩子

[期間] 7月29日～8月2日、8月7日、8日

[内容] 標本製作、標本整理、標本情報登録など

◎魚類グループ（4名）

[担当] 瀬能 宏

[期間] 8月3～8日、10日

[内容] 魚類標本の製作、撮影、登録、配架、メンテ
ナンスなど

◎昆虫グループ（4名）

[担当] 荻部治紀・渡辺恭平

[期間] 8月4日、19～22日、24日、25日

[内容] 昆虫標本の製作、標本ラベルの取り付け、講
座の補助など

◎古生物グループ（2名）

[担当] 大島光春・田口公則

[期間] 7月28日、30日～8月1日、9～11日

[内容] 古生物標本の整理、化石レプリカ作り、ミニ
企画展示の企画と展示、講座の補助

◎地球環境グループ（4名）

[担当] 新井田秀一・笠間友博・山下浩之・
石浜佐栄子

[期間] 8月6～8日、10日、21日、22日、24日、
25日、29日、31日

[内容] 岩石標本整理、ワークショップの実施、講座
の補助など

博物館実務実習受け入れ状況

大学・学部等	人数
日本女子大学	1
神奈川大学	2
法政大学	1
桜美林大学	1
東京学芸大学	2
首都大学東京	1
北海道大学	1
帝京科学大学	1
北里大学	3
日本大学文理学部	1
弘前大学	1
神奈川工科大学	1
日本大学生物資源科学部	3
東京農業大学	2
合 計	21

5.3.2. 博物館見学実習

当館では大学における学芸員養成課程のうち、博物館学の見学実習の一環として、専攻・専門分野を問わず実習を受け入れている。一般向けの展示のみならず、館施設全体の見学を通して、大学生に博物館の機能や社会的意義を深く理解させることが目的である。2018年度は9大学12件303名の見学実習を受け入れた。

実施日	内容	依頼元	対応者	人数
6/1(金)	博物館見学実習	明治大学	田口公則	26
6/30(土)	博物館資料保存論・博物館展示論の見学実習	都留文科大学	広谷浩子	30
7/14(土)	博物館見学実習	桜美林大学リベラルアーツ学群	佐藤武宏	7
9/16(日)	博物館見学実習	日本大学生物資源科学部	佐藤武宏	29
10/20(土)	学芸員課程「博物館資料論」の博物館見学実習	神奈川大学	佐藤武宏	26
10/27(土)	「博物館資料論」の見学実習	横浜国立大学教育学部	大西 亘	17
10/28(日)	「博物館資料論」の見学実習	横浜国立大学教育学部	大西 亘	9
11/10(土)	博物館見学実習	桜美林大学リベラルアーツ学群	佐藤武宏	4
11/24(土)	「博物館資料保存論」における見学等	北里大学海洋生命科学部	佐藤武宏	71
11/25(日)	博物館実習	玉川大学農学部	山下浩之	28
12/2(日)	博物館実習	東海大学海洋学部	新井田秀一	28
12/16(日)	博物館実習	東海大学海洋学部	新井田秀一	28
合 計				303

5.4. ミュージアムライブラリーにおける学習支援活動

ミュージアムライブラリーでは、来館者の学習意欲に応えられるよう、自然誌関係の図書、雑誌等を揃え、自由に閲覧できる開架式環境と、閉架式図書資料等の閲覧が行える環境を整備している。また、博物館情報システムによる情報検索ができるほか、学芸員による学習相談や学校現場での豊かな経験を生かした学習指導員による学習相談、学校をはじめ各種諸団体利用者の見学に関する支援を行っている。2018年度のライブラリー利用者は98,136人で、1日平均利用者数は338人であった。電話や文書による資料の問い合わせが2件あったほか、コピーサービス（有料）には延べ199件の申込があった。

ミュージアムライブラリー月別利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開館日数	25	26	20	28	31	25	25	25	20	20	20	25	290
利用者数	7,299	7,482	6,520	11,001	17,175	10,021	6,719	6,909	4,668	5,633	5,434	9,275	98,136
平均利用者数	292	288	326	393	554	401	269	276	233	282	272	371	338

5.5. 学習指導員による学習支援活動

当博物館は、県民の皆さんにより身近で開かれた博物館、学校との連携をはかる博物館、生涯学習を支援する博物館を目指しており、これらの実現のために館全体でさまざまな事業に取り組んでいる。そのためのサポートとして5名の学習指導員（非常勤）を配置している。

当館の学習指導員は、学校現場および博物館での豊かな経験を生かし、児童・生徒をはじめ一般の方々からのレファレンスに関する業務や自由研究のアドバイスなどの学習支援、また学校をはじめ各種諸団体利用者に対する展示物のガイダンスなど、来館者へのサービスに関する業務を行っている。

5.5.1. 学習支援・レファレンス業務

学習指導員は学習指導員室に常駐し、様々な相談に応じている。児童・生徒の質問を受け付けたり、自由研究等へのアドバイスを行ったり、設定された課題解決のためにその筋道を示したりする学習支援を行っている。このほか、来館者のレファレンス受付や、博物館に持ち込まれた動植物や鉱物、化石の同定や質問に対して、学芸員との連携を図っている。学芸員のレファレンス対応状況については、「3.4 レファレンス対応人数」（38ページ）参照。

5.5.2. 団体利用者へのサービス

[団体利用の申込受付]

学習指導員は、団体利用者からの電話、FAX、直接の来館等に対応し、予約の申し込みを受け付けている。地域や年齢など来館される方々は多岐にわたっている。

[下見見学への対応]

事前に下見のために来館した団体に対しては、施設の利用方法や館内の見どころ等を説明するほか、希望者には博物館の展示を紹介したビデオ映像の貸し出しも行っている。

この下見見学の多くは学校関係者や、子ども会、ボーイスカウト、障がいのある方々の施設・団体である。

[ガイダンスサービス]

ガイダンスを希望した団体には所要時間 15～20 分程度で、学習指導員が展示室の構成やおもな展示物の説明、館内の見どころ等についてわかりやすく紹介し、また利用にあたっての注意事項について説明をしている。本年度の利用状況は以下のとおりである。また、2018 年度は「みどころガイド～博物館のここがイチオシ！～」という一般ガイダンスをゴールデンウィーク 7 日間及び夏季 7 日間実施した。

月別ガイダンス対応状況（学習指導員対応）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計	月平均
件数	22	33	28	41	40	48	41	37	14	16	20	32	372	31.0
人数	897	1,542	1,435	1,782	1,382	1,028	2,085	1,712	402	694	690	1,715	15,364	1,280.3

みどころガイド～博物館のここがイチオシ！～実施状況

月 日	午前		午後		合計		
	大人	子ども	大人	子ども	大人	子ども	小計
4/28(土)	9	6	15	7	24	13	37
4/29(日祝)	25	15	12	10	37	25	62
4/30(月休)	16	7	10	3	26	10	36
5/3(木祝)	18	10	8	12	26	22	48
5/4(金祝)	30	15	12	4	42	19	61
5/5(土祝)	24	11	16	11	40	22	62
5/6(日)	23	14	－	－	23	14	37
合 計	145	78	73	47	218	125	343

月 日	午前		午後		合計		
	大人	子ども	大人	子ども	大人	子ども	小計
7/22(日)	11	31	6	4	17	35	52
7/29(日)	25	20	0	0	25	20	45
8/5(日)	15	6	－	－	15	6	21
8/10(金)	17	8	1	5	18	13	31
8/11(土祝)	14	7	21	7	35	14	49
8/12(日)	13	7	5	1	18	8	26
8/19(日)	13	15	－	－	13	15	28
合 計	108	94	33	17	141	111	252

5.5.3. 団体利用状況

2018年度の団体利用人数は、1,248団体、57,330人で、入館者数全体313,533人に対する割合は18.3%であった。団体利用件数の内訳は、学校教育関係(保育園を含む)と学校以外で分け示した。

		神奈川県内から		県外から		合計件数	
学校教育		330	26.4%	344	27.6%	674	54.0%
	幼稚園・保育園	95	7.6%	20	1.6%	115	9.2%
	小学校	126	10.1%	248	19.9%	374	30.0%
	中学校	22	1.8%	12	1.0%	34	2.7%
	高等学校	24	1.9%	21	1.7%	45	3.6%
	特別支援校・学級	36	2.9%	7	0.6%	43	3.4%
	大学	27	2.2%	36	2.9%	63	5.0%
学校以外		325	26.0%	249	20.0%	574	46.0%
合 計		655	52.5%	593	47.5%	1,248	100.0%

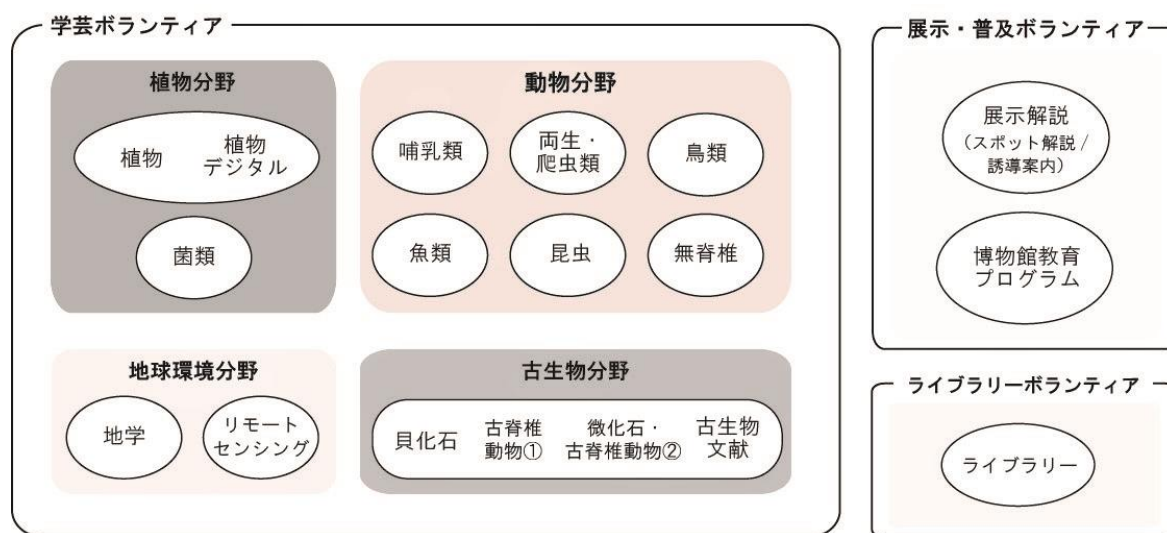
※割合は、小数点以下2位で四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。

地区別利用状況（上段：件数、下段：人数）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	%
小田原	件数	5	11	4	5	11	11	3	8	5	6	6	7	82	6.6%
	人数	64	485	128	325	167	251	120	95	204	229	158	105	2,331	4.1%
足柄下	件数	0	0	1	0	2	2	1	0	1	2	3	0	12	1.0%
	人数	0	0	39	0	28	27	17	0	44	58	78	0	291	0.5%
足柄上	件数	1	3	0	4	3	3	4	6	2	2	2	3	33	2.6%
	人数	8	147	0	111	25	136	157	369	24	126	29	39	1,171	2.0%
二宮・大磯・平塚	件数	2	6	5	6	7	4	5	5	3	1	6	10	60	4.8%
	人数	146	270	174	133	158	228	127	121	42	4	87	305	1,795	3.1%
秦野・伊勢原・厚木	件数	14	6	3	12	3	5	10	6	2	3	13	12	89	7.1%
	人数	1,561	196	70	419	89	208	168	388	51	77	561	349	4,137	7.2%
県央・相模原	件数	4	4	8	5	12	12	26	8	2	2	10	7	100	8.0%
	人数	154	208	462	289	351	875	2,031	601	76	138	270	202	5,657	9.9%
茅ヶ崎・藤沢・鎌倉	件数	4	5	5	4	15	3	5	13	8	5	10	12	89	7.1%
	人数	216	192	372	213	617	67	138	1,149	271	262	552	377	4,426	7.7%
横須賀・三浦・逗子	件数	0	3	0	5	6	2	1	2	1	0	2	1	23	1.8%
	人数	0	269	0	371	315	110	16	126	24	0	30	25	1,286	2.2%
横浜	件数	5	13	14	17	14	13	15	13	9	6	8	9	136	10.9%
	人数	98	796	1,133	862	392	1,021	383	348	308	215	229	558	6,343	11.1%
川崎	件数	0	1	0	6	2	0	0	6	4	3	1	3	26	2.1%
	人数	0	22	0	325	41	0	0	360	194	342	57	63	1,404	2.4%
県内 全域・地区不明	件数	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	4	0.3%
	人数	15	0	0	47	0	12	0	0	0	0	25	0	99	0.2%
東京都	件数	14	25	30	29	14	27	27	30	8	6	10	15	235	18.8%
	人数	1,543	1,858	1,696	1,647	651	1,569	1,306	1,176	386	196	288	479	12,795	22.3%
千葉県	件数	3	7	5	3	0	14	81	16	0	0	3	1	133	10.7%
	人数	81	243	115	167	0	561	3,950	903	0	0	66	17	6,103	10.6%
静岡県	件数	8	8	9	4	8	7	12	9	7	2	4	10	88	7.1%
	人数	375	450	281	53	232	240	717	760	182	49	155	282	3,776	6.6%
山梨県	件数	1	3	4	2	1	2	7	0	2	0	0	2	24	1.9%
	人数	54	128	146	190	48	129	245	0	77	0	0	78	1,095	1.9%
埼玉県	件数	3	6	3	4	7	12	17	22	2	1	4	6	87	7.0%
	人数	65	334	108	156	203	378	766	1,109	65	41	61	162	3,448	6.0%
茨城県	件数	1	0	0	1	0	1	2	0	0	0	0	0	5	0.4%
	人数	316	0	0	39	0	14	133	0	0	0	0	0	502	0.9%
その他の道府県	件数	1	3	1	1	1	3	3	5	1	2	1	0	22	1.8%
	人数	35	101	19	47	49	96	59	206	6	30	23	0	671	1.2%
神奈川県合計	件数	36	52	40	65	75	56	70	67	37	30	62	64	654	52.4%
	人数	2,262	2,585	2,378	3,095	2,183	2,935	3,157	3,557	1,238	1,451	2,076	2,023	28,940	50.5%
県外合計	件数	31	52	52	44	31	66	149	82	20	11	22	34	594	47.6%
	人数	2,469	3,114	2,365	2,299	1,183	2,987	7,176	4,154	716	316	593	1,018	28,390	49.5%
合 計	件数	67	104	92	109	106	122	219	149	57	41	84	98	1,248	100.0%
	人数	4,731	5,699	4,743	5,394	3,366	5,922	10,333	7,711	1,954	1,767	2,669	3,041	57,330	100.0%

5.6. 博物館のボランティア活動

当館では、ボランティア活動を生涯学習の一環と位置づけ、登録制の博物館ボランティア制度を設けている。活動内容は、資料整理や展示準備、調査研究、展示解説等さまざまである。登録には職員推薦（随時）あるいは入門講座の受講（年一回開催）の二つの方法がある。活動分野は大きく「学芸ボランティア」「展示・普及ボランティア」「ライブラリーボランティア」に分かれており、希望する分野に登録し活動する。年度単位の登録で、希望により更新できる。



5.6.1. 学芸ボランティア

各分野で、担当学芸員の指導・指示により、博物館資料の収集、整理や調査研究への協力、標本作製、標本等の資料のデータ入力などを主な活動内容としている。分野により標本作製の手法や手順は異なり、専門的な技術や知識を習得する場ともなっている。この他にも、特別展などの展示制作補助、講座や観察会の補助などを通じて博物館を支えている。担当学芸員と活動内容や日程を調整しながら活動する。

5.6.2. ライブラリーボランティア

さまざまな専門書や一般向け図書を収蔵するミュージアムライブラリーで、図書の整理・装備（ラベル・透明カバー貼り等）や補修等の活動を行っている。担当職員と活動内容や日程を調整しながら活動する。

5.6.3. 展示・普及ボランティア

各自の都合の良い日に来館し、得意な展示分野についての案内や解説を行っている（スポット解説）。視覚障がい者の方の誘導や、展示ラベルへの点字シールの製作・貼付などの活動も行う（誘導・案内）。制服としてスタッフジャンパーを貸与している。

当分野は「学芸ボランティア」「館運営ボランティア（現ライブラリーボランティア）」の登録者から希望を募り 2002 年度から始まった活動である。2004 年度からはボランティア入門講座でも展示解説分野を設置し、

講座修了者が活動に加わっている。

2015年度からは、子ども向け当日参加型ワークショップ（よろずスタジオ）の運営を補助する「博物館教育プログラム」の分野を新設している。この分野については、当館の登録ボランティアの他に、小田原短期大学と連携し、同保育学科の学生にも参加をいただいている（2018年度：延べ51名）。

5.6.4. 分野別登録人数と活動状況

分野別の登録人数と活動状況は下表のとおりである。

2018年度「博物館ボランティア」登録人数

	登録人数		
	合計	男性	女性
実人数 ※	409	210	199
1) 学芸ボランティア	387	188	199
2) ライブラリーボランティア	8	2	6
3) 展示・普及ボランティア	63	36	27

※1)～3)の分野間で重複登録している人を除いた実人数を示した。

実人数 409 名のうち、保険加入は 293 名

2018年度「博物館ボランティア」登録者の内訳及び月別の活動状況

分野			登録数(延べ人数)			活動状況(延べ人数)												
			合計	男性	女性	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学芸 ボランティア	植物	植物	48	11	37	513	51	48	20	43	48	41	59	43	26	39	46	49
		菌類	50	24	26	529	45	34	27	51	44	56	42	37	35	41	52	65
	動物	哺乳類	36	13	23	198	14	15	13	17	21	13	13	30	10	6	27	19
		両生爬虫類	17	6	11	50	5	7	1	3	1	7	5	6	5	0	5	5
		鳥類	23	10	13	123	4	4	3	10	22	26	13	10	9	4	5	13
		魚類	64	39	25	581	48	43	58	51	58	41	56	44	51	35	53	43
		昆虫	42	32	10	226	33	18	12	13	23	23	20	12	15	25	17	15
		軟体・甲殻類	10	5	5	57	5	5	5	5	5	5	5	6	2	5	5	4
	地球 環境	地学	36	17	19	532	45	43	29	46	50	34	45	41	35	60	62	42
		リモートセンシング	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		古生物	61	31	30	558	51	58	32	42	43	41	55	53	49	33	45	56
	延べ人数		387	188	199	3,367	301	275	200	281	315	287	313	282	237	248	317	311
ライブラリーボランティア			8	2	6	26	5	4	0	3	2	0	3	1	2	2	0	4
展示・普及 ボランティア	展示解説		40	28	12	301	27	31	24	25	25	23	24	28	26	25	16	27
	誘導案内		9	4	5	6	0	0	0	0	0	0	1	3	2	0	0	0
	博物館教育プログラム		14	4	10	84	11	11	5	5	5	8	5	4	7	3	8	12
	延べ人数		63	36	27	391	38	42	29	30	30	31	30	35	35	28	24	39
全体延べ人数			458	226	232	3,784	344	321	229	314	347	318	346	318	274	278	341	354

※植物は植物デジタルを含む。古生物は古生物文献を含む。

5.6.5. ボランティア入門講座

当館でのボランティア活動を理解していただき、円滑に参加していただくための入門講座を開催している。全体講義のほかに分野別の実習があり、受講後、翌年度からのボランティアに登録し活動していただく。2018年度の実施内容は表のとおりである。

[日時]

2019年1月20日（日）～2月7日（木）までの間の2～3日間（分野別の講座が1～2日間）

[受講人数]

学芸8分野26名、教育プログラム2名 計28名

[講座定員]

学芸8分野32名、教育プログラム5名 計37名

講座日程

共通講座（初日：2019年1月20日（日））

時間	内容
10:00～10:10	開会、館長あいさつ
10:10～10:40	講義「博物館活動とボランティア」
10:40～12:00	展示室見学・バックヤード見学
13:00～14:30	バックヤード見学・展示室見学
14:30～15:00	現役ボランティアの体験談
15:00～15:10	ボランティアに関する説明と注意
15:10～16:00	各分野の紹介と顔合わせ
16:00	終了（分野別に随時解散）

分野別実習（1月22日～2月7日の1～2日間）

分野	実施日	内容	定員	受入	受講	登録
植物	1/23（水）、1/25（金）	植物標本作製・配架作業等	3	1	1	1
植物デジタル資料	1/23（水）、1/25（金）	パソコン、スキャナ、デジカメ等による植物資料作成	3	1	1	1
菌類	1/22（火）、2/7（木）	野外調査・観察・標本作製・収蔵	5	2	2	0
哺乳類	2/2（土）、2/3（日）	標本作製・整理	5	9	9	8
魚類	2/2（土）、2/3（日）	講座の補助、標本作製等	4	2	2	2
無脊椎動物（貝・カニ）	2/3（日）	標本作製・整理・登録・配架	4	1	1	1
古生物①（貝化石）	1/29（火）	標本作製・撮影、データ入力	3	2	2	2
古生物②（古脊椎動物・植物化石・微化石）	2/2（土）	標本作製・整理、デジタル資料作成等	5	8	8	8
博物館教育プログラム	2/3（日）	ワークショップ（よろずスタジオ）の補助	5	2	2	2
合計			37	28	28	25

5.7. 広報

博物館広報活動は、広く館の認知度を向上させること及び常設展示をはじめ特別展・企画展といった資料展示や、各種の観察会・講演会といった学習支援活動などを広く告知し、来館・参加をよびかけることを目的としている。

2018年度の広報活動は、前年度に引き続き催し物案内など広報印刷物の作成・配布と、マスメディア等への情報提供を行った。

5.7.1. 広報印刷物の作成・配布

広報として、特別展・企画展・観察会などの1年間の各種催し物を告知するための「催物案内」、イベントの開催に合わせたポスターやチラシなどを次の表のとおり作成・配布した。

作成月	印刷物名	仕様（規格、印刷、色数）	印刷部数	主な配布先	配布件数
6	特別展「植物誌をつくろう！～『神奈川県植物誌2018』のできるまでとこれから～」ポスター	B2判 オフセット印刷 4色刷り	1,600	A, B, C, D, E, F, I, K	1,400
	特別展「植物誌をつくろう！～『神奈川県植物誌2018』のできるまでとこれから～」チラシ	A4判 オフセット印刷表面 4色・裏面 1色刷り	62,000	A, B, C, D, E, F, I, J, K	
	特別展「植物誌をつくろう！～『神奈川県植物誌2018』のできるまでとこれから～」招待券	70mm×148mm オフセット印刷表面 4色・裏面 1色刷り	20,000	B, C, D, E, F, J	
10	企画展「日本最後の秘境 南硫黄島～10年ぶりの学術調査から～」ポスター	B1判、B2判 館内簡易印刷 4色刷り	B1判：3 B2判：10	館内配布	—
	企画展「日本最後の秘境 南硫黄島～10年ぶりの学術調査から～」チラシ	A4判 館内簡易印刷（両面 1色刷り）	130	館内配布	
1	企画展「箱根ジオパーク展～身近な火山と友だちになる～」ポスター	B2判 オフセット印刷 4色刷り	600	A, B, C, D, F, G, H, I, K	1,200
	企画展「箱根ジオパーク展～身近な火山と友だちになる～」チラシ	A4判 オフセット印刷表面 4色・裏面 1色刷り	25,000	A, B, C, D, E, F, H, I, J, K	
2	ミュージズ・フェスタ 2019	A4判 オフセット印刷片面 4色刷り	30,000	A, B, C, D, E, F, H, K	360
	2019年度催し物案内	A3判 オフセット印刷両面 1色刷り	27,000	B, C, D, E, F	850
3	ミュージズ・フェスタ 2019 館内マップ・当日イベントタイムスケジュール（16日版、17日版）	A4判 館内簡易印刷（両面 1色刷り）	16日版：300 17日版：300	館内配布	—

主な配布先の凡例

A: 県西部地区の公立小中学校・公立幼稚園
B: 県内図書館
C: 博物館園
D: 県政情報窓口

E: マスメディア
F: 小田急電鉄、箱根登山鉄道
G: 大雄山線
H: 県内外商業施設

I: 百貨店、大手スーパーマーケット
J: 有隣堂県内店舗
K: その他



特別展
「植物誌をつくろう！」チラシ（表面）



企画展
「日本最後の秘境南硫黄島」チラシ（表面）



企画展
「箱根ジオパーク展」チラシ（表面）

5.7.2. マスメディア等への情報提供

博物館の各種催し物についてはイベントの規模に応じて、地元記者クラブ等へ参考資料送付を行った。

特別展・企画展においては、前日に記者内覧会を実施した。

2018年度の紹介記事件数は、掲載が確認できたものだけで226件あった。内訳は、新聞38件、広報誌・情報誌・雑誌等81件、テレビ11件、ラジオ3件、ウェブサイト等インターネット69件、その他24件であった。

2018年度から、当館ウェブサイトへの流入元などを参考に、新たに13件の観光情報ウェブサイト等へ、イベント情報の登録、発信を行った。

5.7.3. 小田原地下街「ハルネ小田原」ハルネギャラリーを使った展示の展開

小田原地下街「ハルネ小田原」ハルネギャラリーにおいて、博物館の“裏側”を紹介するポスター展示を実施した。この展示では、博物館のバックヤードで展開されている、標本收藏の様子や、收藏標本に基づく調査研究の様子、教育普及の様子について紹介するとともに、博物館に集い、博物館を支え、活用しながらさまざまな活動を行っているボランティアや友の会についても併せて紹介した。

1週間あたりの平均観覧者数は1,691人であった（小田原市役所商業振興課調べ）。

[展示名] 「生命の星・地球博物館の裏側展 博物館 を楽しもう！」	ギャラリー [展示制作] デザインこねこ株式会社
[開催期間] 2019年3月21日（木）～5月17日（金）	[制作協力] 神奈川県立生命の星・地球博物館友の会
[開催時間] 6時～22時30分	／箱根ジオパーク推進協議会
[展示場所] 小田原地下街「ハルネ小田原」ハルネギ	

6. 刊行物

6.1. 定期刊行物

博物館の調査研究の成果として、「神奈川県立博物館研究報告（自然科学）」第48号を刊行した。本誌は、国内外の研究機関、大学、博物館等に配布している。

神奈川県内の自然誌に関する研究成果の公表、記録を目的とした、「神奈川県自然誌資料」第40号を刊行した。本誌は国内の主な研究機関（一部海外を含む）、大学、博物館、学会、研究会、同好会等に配布している。

博物館の広報誌として、「自然科学のとびら」を年4回発行した。一般利用者向けに博物館からの情報をわかりやすく提供することを目的としている。また、同じ内容をホームページ<<http://nh.kanagawa-museum.jp/tobira/index.html>>で紹介している。

前年度の博物館活動に関して、その概要を紹介する「神奈川県立生命の星・地球博物館年報」第23号（2017年度）を刊行した。本誌は、国内の主な博物館、県内の研究機関、行政機関等に配布している。

6.1.1. 神奈川県立博物館研究報告(自然科学)

[号数] 48号	[発行数] 800部
[発行日] 2019年2月28日	[編集担当] 鈴木 聡・大島光春

[内容]

地球科学

原著論文

笠間友博・塩井宏幸：三浦半島第四系宮田層中の不整合と挟在する“船久保タフ(Fn)”のFt, U-Pb, K-Ar年代

動物学

原著論文

手良村知功・安田 慎・天野雄一・三井翔太・櫻井風汰・平瀬祥太郎・瀬能 宏：駿河湾から得られた北限記録の魚類3種とその分布特性

鈴木寿之・木村清志・渋谷浩一：止水性生活史をもつ小型の日本産ハゼ科ヨシノボリ属魚類2新種

澤井悦郎・瀬能 宏・竹嶋徹夫：神奈川県立生命の星・地球博物館に展示されていたウシマンボウの剥製標本

乾 直人・山川宇宙・丸山智朗・加藤終也・酒井卓・佐藤武宏：相模湾およびその周辺地域の河川から採集された注目すべきカニ類11種

ロバート J. ブレクモア：日本で初めて正式に記載されたヤマトミミズ *Amyntas japonicas* (Horst, 1883) (環形動物門, 貧毛綱, Megadriliacea 目, フトミミズ科) の絶滅状況

ロバート J. ブレクモア：ニュージーランドから記録された絶滅ミミズ *Tokea orthostichon* (Schmarda, 1861) (環形動物門, 貧毛綱, Megadriliacea 目, フトミミズ科) の再記載

加賀玲子・荏部治紀：ウマノオバチ *Euurobracon yokahamae* (Dalla Torre, 1898) (Insecta: Hymenoptera: Braconidae) の生活史—工業用内視鏡を使った観察—

荏部治紀・加賀玲子：神奈川県におけるムネアカハラビロカマキリの新産地と分布拡大に関する生態的知見

渡辺恭平：日本産トガリヒメバチ亜科(ハチ目、ヒメバチ科)の5新種の記載を伴う分類学および動物地理学的記録

報告

下光利明・遠藤周太・瀬能宏：館山湾から得られたエリアカコシウダイ *Plectorhinchus unicolor* 幼魚の記録

下光利明・遠藤周太・三井翔太・横地和正・瀬能宏：千葉県館山市坂田の東京海洋大学館山ステーション地先に出現する魚類

博物館学

報告

山下浩之・川手新一・山口珠美：岩石薄片の作製と観察を取り入れた学習プログラムの開発と実践

石浜佐栄子・大島光春・田口公則・加藤ゆき：特別展2017「地球を『はぎ取る』」における展示の工夫と来館者による評価

大坪 奏：生命の星・地球博物館におけるアーカイブズ保存のための温湿度管理に関する検討

6.1.2. 神奈川自然誌資料

[号数] 40号

[発行日] 2019年2月28日

[発行部数] 650部

[編集担当] 松本涼子・広谷浩子

[編集委員会] 瀬能宏・萩原清司・川島逸郎

[内容]

日置尚之・来栖可奈・島 瑞帆・増田 絢・松本 淳：境川水系ヨシノボリ属魚類における粘液胞子虫 *Myxobolus nagaraensis* (ナガラシズクムシ) 寄生例

伊藤寿茂・宮代 穰・小林 敦：江の島の潮間帯および潮下帯浅所の海藻相

藤吉正明・深谷玲奈・市川佳奈・小栗和也・室田憲一：秦野市名古木の水田に生育する絶滅危惧植物の記録

鐵 慎太郎：三浦市南部における3種の熱帯・亜熱帯性海岸植物の実生の生育状況

大久保奈弥・田所 悟・松永 敬・柳 研介：神奈川県逗子市小坪大崎で確認された最北限のサンゴイソギンチャク個体群

倉持敦子・倉持卓司：相模湾産ベニシボリガイ(軟体動物門・腹足綱・異鰓上目)の発生

伊藤寿茂・崎山直夫：相模湾初記録となるツブイボシウジンガニ *Plagusia immaculata*

Lamarck, 1818
 幸塚久典：相模湾2例目のアカシマコブウミシダ
*Catoptometra rubroflava*の記録
 荒尾一樹・馬渡和華・芝原達也・風呂田利夫：東京
 湾内湾の谷津干潟の魚類相
 工藤孝浩・山田和彦・瀬能 宏：三浦半島南西部沿
 岸の魚類-IX
 加登岡大希・崎山直夫・瀬能 宏：相模湾および
 駿河湾で得られたフトツノザメ *Squalus*
mitsukurii (ツノザメ目ツノザメ科) の成長に
 伴う形態変化について
 橋本美和・倉本 宣：コイ目ドジョウ科ホトケド
 ジョウの生息地に及ぼす農場建設の影響
 三井翔太・伊藤克哉・相川健志・一寸木 肇・佐藤
 武宏・荻部治紀・松本涼子・瀬能 宏：小田原城

址公園内の堀から確認された水生動物
 槐 真史・岩下歩叶・川崎 守・鉄谷龍之・加藤 英
 明：神奈川県厚木市におけるスウィンホーキノボリ
 トカゲ *Japalura swinhonis* の生息状況
 田窪憲一郎・小野香織・百武真梨子・宗正敏子・五十嵐 真
 由美・齋藤 信：2017年10月に相次いで横浜市野毛
 山動物園に保護された3種の海鳥
 崎山直夫・鈴木 聡・石井雅之・藤原克則・加登岡
 大希・樽 創：相模湾・東京湾沿岸で記録された
 ハナゴンドウ (クジラ目：マイルカ科) について
 馬谷原武之・小室明彦・山岸幸矢：茅ヶ崎市の住宅
 地におけるニホンアナグマ *Meles anakuma* の観察
 記録と生息環境の検討

6.1.3. 自然科学のとびら

[号数] 第24巻2号 通巻91号
 [発行日] 2018年6月20日
 [発行部数] 250部
 [編集担当] 本杉弥生
 [内容]
 荻部治紀：表紙「マグソクワガタ」
 田中徳久：『神奈川県植物誌2018』～40年間の植
 物誌調査の成果～
 松本涼子：「小さな化石の大きな発見～東アジア初
 の両生類アルバノペトン科の報告～」
 大島光春：「ドイツ南部とウィーン自然史博物館を
 訪ねて」
 土屋定夫：ライブラリー通信「文人たちの博物誌③
 上村淳之の巻」

[号数] 第24巻3号 通巻92号
 [発行日] 2018年9月15日
 [発行部数] 250部
 [編集担当] 本杉弥生
 [内容]
 渡辺恭平：表紙「眠るツノトンボ」
 大西 亘：「特別展「植物誌をつくろう！～『神奈

川県植物誌2018』のできるまでとこれから～」
 の見どころ+α」
 笠間友博：「火山ジオパークと共に見てほしいプリ
 ニー式噴火の軽石層」
 鈴木 聡：「たくさん標本を集め、哺乳類の変異を
 研究し、普及する」
 小林瑞穂：ライブラリー通信「骨格百科ースケルト
 ンーその凄い形と機能」

[号数] 第24巻4号 通巻93号
 [発行日] 2018年12月15日
 [発行部数] 250部
 [編集担当] 本杉弥生
 [内容]
 勝山輝男：表紙「ホソスゲ」
 松本涼子：「両生・爬虫類の標本工房」
 樽 創・崎山直夫・鈴木 聡・田島木綿子：「日本
 に初めて打ち上げられたシロナガスクジラ」
 広谷浩子：「学芸員と標本士ー鳥獣標本を継承する
 2つの人材ー」
 田口公則：「博物館の来館者数を考えるー入館者
 700万人を迎えてー」

土屋定夫：「文人たちの博物誌④ 遠藤周作の巻」

[号数] 第 25 巻 1 号 通巻 94 号

[発行日] 2019 年 3 月 15 日

[発行部数] 250 部

[編集担当] 本杉弥生

[内容]

佐藤武宏：表紙「オーストンガニ」

瀬能 宏：「どれだけ必要？～資料のコレクション
ポリシーと収蔵庫～」

山下浩之：「岩石薄片を簡単につくり観察する」

渡辺恭平・苅部治紀：『『神奈川県昆虫誌 2018』がで
きました」

小林瑞穂：ライブラリー通信「リアルサイズ古生物
図鑑 古生代編」

6.1.4. 神奈川県立生命の星・地球博物館年報

[号数] 第 23 号

[発行日] 2018 年 6 月 26 日

[発行部数] 500 部

[編集担当] 田村 哲、折原貴道、平賀保彦

[内容]

沿革・事業報告（運営管理機能・情報発信機能・シ
ンクタンク機能・データバンク機能・学習支援機
能・刊行物・情報システム・連携機能）・資料

6.1.5. 改訂新版展示解説書

[仕様] A4 判 オールカラー200 ページ

[編集担当] 新井田秀一・田口公則・石浜佐栄子・
折原貴道・渡辺恭平

[発売日] 2018 年 11 月 27 日

[発売場所] ミュージアムショップ

[発行部数] 1,350 部

[売価] 1500 円

[内容]

平成 16(2004)年 3 月に 4 版を出して以来、14 年ぶ

りになる。開館時に初版を発行して以来の大改訂
となった。

主な変更点は、2012 年度に行った 1 階展示室の
グラフィック改修など、開館以降に行った展示
更新を解説内容に反映。掲載写真（展示室景観や
展示資料）の再撮影、レイアウトデザインの見直
し、展示コーナータイトルに英語表記の追加で
ある。

6.2. 刊行物販売状況

刊行物名	単価	販売部数	刊行物名	単価	販売部数
展示解説書（4 版）	1,500	5	神奈川県植物誌 2001	9,800	4
改訂新版展示解説書	1,500	194	化石どうぶつ園	1,100	12
地球 SOS	500	16	神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006	2,000	11
絶滅した生物	500	24	読みもの ナウマンゾウがいた！	800	14
貝からの伝言	500	27	樹洞	1,000	19
櫻井コレクションの魅力	400	28	水生昆虫大百科	1,000	18
日本の魚学・水産学事始め	1,000	10	大トンボ展	1,200	14
オオカミとその仲間たち	1,100	20	益田一と日本の魚類学	1,400	9
カニの姿	1,200	6	どうなる？どうする！外来生物	1,000	36
フットのひとりごと	400	2	植物誌をつくろう！ 展示解説書	700	458
合 計					927

7. 情報システム

7.1. システムの概要

博物館情報システムは、博物館の活性化、生涯学習時代における学習支援、研究活動の高度化等を推進するため、収蔵資料（標本・画像ほか）に関する情報を基本として、博物館に蓄積されている膨大な量の知的情報を総合的に管理する博物館活動のプラットフォームとして構築されたものである。

このシステムには、1995年3月より稼働している「収蔵資料管理システム」、「展示情報システム」というサブシステムがあり、これらを有機的に機能させることにより博物館業務の柱であるところの資料の収集・管理、研究、展示活動を支援している。また、研究成果の公開や広報・普及活動に関するお知らせは、2012年9月より「ウェブサイト公開システム」によって運用している。

このシステムは、当博物館と県立歴史博物館が共同で開発を行い、2000年度および、2005年度には、機器の更新および新OSに対応したシステムへの移行作業を行った。さらに、2006年度にはUpdateサーバを追加導入し、クライアントマシンのWindows Updateが効率よく行うことができるようになり、管理もしやすくなった。2016年度の機器更新では、最新のOSとセキュリティ対策ソフトにより安全で快適なシステムが構築されている。2019年3月31日現在の、当博物館の博物館情報システムの機器構成は下表の通りである。なお、各機器は10BASE-T/100BASE-TX/100BASE-TによりTCP/IPプロトコルで接続されている。

機器構成表

場所	機器名	機種名	メモリ	数量	備考
		使用OS・ソフト等	ディスク容量		
CPU ルーム	収蔵管理サーバ	富士通 PRIMERGY RX300 S8	16GB	1	収蔵資料管理システム（アプリサーバ）
		RedHat Enterprise Linux 6.5	600GB×6（RAID5）		
	収蔵管理サーバ	富士通 PRIMERGY RX200 S8	16GB	1	収蔵資料管理システム（サーチサーバ）
		RedHat Enterprise Linux 6.5	500GB×2（RAID1）		
	展示情報サーバ	富士通 PRIMERGY RX200 S8	4GB	1	展示情報システムの管理
		RedHat Enterprise Linux 6.5	500GB×2（RAID1）		
	WEB サーバ	富士通 PRIMERGY RX200 S8	16GB	1	ホームページの管理
		RedHat Enterprise Linux 6.5	900GB×2（RAID1）		
	Update サーバ	富士通 PRIMERGY RX200 S8	8GB	1	Windows Update の管理
		Windows Server 2012 R2 Standard	1TB×4（RAID1）		
	CMS サーバ	富士通 PRIMERGY RX1330 M1	4GB	1	ホームページ更新管理
		RedHat Enterprise Linux 6.6	250GB×2（RAID1）		
ミュージアムライブラリー	来館者用端末	富士通 ESPRIMO D586/M	8GB	1	
		Windows 8.1 Professional	500GB		
	職員用端末	富士通 CELSIUS W530	8GB	1	
		Windows 8.1 Professional	500GB		
	来館者用端末	富士通 ESPRIMO D583/K	2GB	2	展示情報システムの閲覧など
		Windows 8.1 Professional	320GB		
	職員用端末	富士通 ESPRIMO D586/M 他	8GB	3	
		Windows 8.1 Professional 他	500GB		
研究室・バックヤード	研究用 WS	富士通 CELSIUS W550 他	16GB	2	衛星画像処理や分布図の作成など
		Windows 8.1 Professional 他	1TB		
	職員用端末	富士通 ESPRIMO D586/M 他	8GB	42	
		Windows 8.1 Professional 他	500GB		

*2016年度リースを反映させて作成。備品・消耗品はカウントせずリースのみの数

*機種名・使用OS・ソフトは機器更新 納入明細より作成

7.2. サブシステムの紹介

7.2.1. 収蔵資料管理システム

博物館情報システムの中核となる「収蔵資料管理システム」は、これまで分野や個人ごとにカードやパソコン等で個別に管理されていた収蔵資料に関する情報（資料番号、資料名、採集地、採集年月日、採集者など）を、サーバで一元的に管理し、資料の画像、さらには画像そのものも資料として管理している。また、資料に添付するラベルの印刷など、資料整理業務の効率化も図られている。

このサブシステムは、『神奈川県植物誌 1988』、『神奈川県植物誌 2001』および『神奈川県植物誌 2018』の証拠標本を含む『維管束植物』や、ダイバーや釣り人などが撮影した魚の写真をデータベース化した『魚類写真』など、36 のデータベースから構成される。なお、2003 年度より、書籍（図書・雑誌）についても収

蔵資料管理システムで取り扱われている。標本・アーカイブズ登録状況は 47 ページに記載した。また、書籍の情報については下表に示した。

分野	2017 年度までの登録件数	2018 年度の登録件数	合計
図書	27,248	1,675	28,923
雑誌	3,774	69	3,843
別刷り	340	0	340
合計	31,362	1,744	33,106

これらの情報は、研究への利用はもちろん、一部はミュージアムライブラリーやウェブページで公開されている。なお、本システムにより維持・管理されているデータの一部は、独立行政法人国立科学博物館などとの協働により、インターネットを利用して外部に公開されている。

7.2.2 展示情報システム

ミュージアムライブラリーにおいて、展示室で見られる資料や解説文からさらに深く踏み込んだ学習への欲求を持つ利用者に対して、研究に基づく博物館独自の新鮮な情報を、検索システムにより分かりやすく提供している。2018 年度は「衛星画像」というメニューを新規作成した。この他に、神奈川県立歴史博物館が作成・提供している「画像で見る歴史と文化」、「収蔵品コレクション」も閲覧が可能である。

また、展示情報システムの一部は、2004 年 7 月より、当館ならではのコンテンツとして、ウェブページ上で公開している。

展示情報システムのメニュー

タイトル	メニュー	概要
神奈川の自然	鳥類	神奈川に生息する鳥、218 種の画像や解説文、分布図や鳴き声を提供する。
	植物	神奈川に自生している植物、2,969 種の画像や解説文を提供する。
	昆虫	神奈川に生息する昆虫、639 種の画像や解説文を提供する。
	相模湾の魚	相模湾の代表的な魚、329 種の画像や解説文を提供する。
	コケ	神奈川県でよく見かけるコケ、82 種の画像や解説文を提供する。
	鉱物	神奈川県に産する主な鉱物、126 種の画像や解説文を提供する。
	関東ローマ層	神奈川の主要な火山灰層、1,170 点の画像や解説文を紹介する。
	菌類	神奈川県で見られるさまざまな菌類、164 種の画像や解説文を提供する。
	空撮	神奈川の空から見た景観写真を 770 枚、うち学芸員のおすすめ写真を 63 枚解説と共に提供する。
	哺乳類	神奈川に生息する哺乳類 20 種の画像や解説文、骨の画像を 380 枚提供する。
酒井コレクション細密画		酒井恒博士夫妻が描かれたカニ原色細密画、660 種の画像を提供する。
菌類細密画		菌類学者今関六也氏のコレクション菌類細密画、129 点の画像を提供する。
日本で見られる恐竜		国内の博物館で展示されている恐竜について、画像や解説文を提供する。
衛星画像		衛星画像や宙瞰図など 650 枚、うち学芸員のおすすめ 31 枚解説と共に提供する。
図書・雑誌検索		当館のライブラリーで所蔵している図書 26,423 冊、雑誌 3,651 タイトルが検索できるように提供している。

7.3. インターネットの利用

7.3.1 ウェブサイト

小田原市と共同で1995年10月より開設していたウェブサイト（ウェブページ）は、当館へのサーバの設置に伴い、2006年2月より博物館独自の運用に切り替えた。2012年9月には利用者が使いやすく、また博物館の魅力が伝わるようウェブページのデザインを大幅に改良した。ウェブページでは博物館に関する様々な情報を提供しているが、そのトップページへのアクセス数を示したのが下の表である。

1997年度以降のアクセス実績に関しては、Ⅲ 資料の項（104ページ）に掲載した。

月別ウェブトップページアクセス数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
人数	35,003	36,613	34,776	46,856	59,611	39,078	31,488	27,718	25,209	28,972	28,133	35,861	429,318	35,777

7.3.2 連携サイト

独立行政法人国立科学博物館と連携し、当館所蔵の魚類画像資料の検索サイト「魚類写真資料データベース」とその英語版である「FishPix」をそれぞれ2001年と2003年より運用している。近年では毎年約5,000件の画像資料を追加している。

2004年度以降のそれぞれのページへのアクセス実績（ページビュー数；画像のダウンロード数は含まない）に関しては、Ⅲ 資料の項（104～105ページ）に掲載した。

連携して情報を公開しているウェブサイト

タイトル（アドレス）	概 要	年間アクセス件数
魚類写真資料データベース http://www.kahaku.go.jp/research/db/zoology/photoDB/	魚類114,198件(134,591点)の画像を提供している。 研究分野で公的機関が提供する画像データベースでは世界最大級。	1,731,700件
FishPix http://fishpix.kahaku.go.jp/fishimage-e/index.html	魚類写真資料データベースの英語版として、魚類101,785件の画像を提供している。	1,453,190件

7.4. 情報提供

7.4.1. 他サイトへの情報提供

当館が積極的にかかわり情報を提供しているウェブサイトについて、表にまとめた。

博物館の情報を公開しているウェブサイト

タイトル（アドレス）	概 要	提供件数
Terra [地球] の資料館 http://www1.tecnet.or.jp/index01.html	固定型データベースとして、地球のからくり・神奈川の大地・地球地学紀行、増殖型データベースとして、身近な自然史・砂の自然史を公開。	約2,500件

7.4.2. GBIF への情報提供

GBIF (Global Biodiversity Information Facility: 地球規模生物多様性情報機構) とは、生物多様性に関するデータを各国・各機関で収集し、ネットワークを通じて全世界的に利用することを目的とする国際協力による科学プロジェクトである。プロバイダごとにデータが蓄積され、その数は GBIF 全体では 2019 年 4 月 9 日現在 13 億 144 万件以上となっている。また、独立行政法人国立科学博物館が中心となり推進している自然史標本データ整備事業では、S-Net (サイエンスミュージアムネット) として国立科学博物館経由で GBIF に提供されたデータが国内向けに公開されている。

2006 年度より、当館を含む神奈川県内の博物館及び関連施設が連携をはかり、自然史標本情報の整備や公開などを目的に、「自然史標本データベース神奈川委員会」が設置されている。2018 年度について、自然史標本データベース神奈川委員会への参加館は全 2 館、全体で 19,500 件の自然史標本情報の提供を行った。

2018 年度自然史標本データベース神奈川委員会参加館

相模原市立博物館

神奈川県立生命の星・地球博物館

当館からの 2018 年度標本情報提供数

コレクション名	提供件数
維管束植物	8,700 件
軟体動物	1,000 件
両生類	100 件
爬虫類	100 件
昆虫	6,300 件
クモ	300 件
合 計	16,500 件

8. 連携機能

当館では、連携機能を活かした事業として、継続的なネットワーク事業、共催事業を実施するとともに、館内施設による利用者サービスを行っている。

8.1. 友の会

「神奈川県立生命の星・地球博物館 友の会」は、博物館を広く活用し、博物館活動を支援するとともに、会員相互の交流を図ることを目的に 1997（平成 9）年に発足した。

8.1.1. 事務局・広報部・企画部の活動

事務局は、会員の互選によって選出された役員によって運営され、博物館と会員相互の親睦を深める事業や友の会の普及と発展のために必要な事業を積極的に展開した。また、ミューズ・フェスタ 2019（21～22 ページ参照）に参加したり、博物館との共催でサロン・ド・小田原（5 回／87 ページ参照）やよろずスタジオ（9 回／65 ページ参照）の開催、博物館のミニ企画展示コーナーで「友の会会員 430 名と共に一学芸員や私たちと いっしょに自然を楽しみませんか」の展示、HaRuNe 小田原（ハルネおだわら）ギャラリーで博物館の展示と 合同での活動紹介展示をした。

事務局

1. 総会を 2018 年 4 月 22 日（日）に開催した。
2. 役員会を 6 回開催し、以下の事項を検討・実施した。
役員会開催日／2018 年 4 月 28 日（土）、6 月 23 日（土）、9 月 15 日（土）、12 月 15 日（土）、2019 年 2 月 2 日（土）、3 月 23 日（土）
 - 1) 友の会の運営について
 - 2) 会員への発送作業などについて
 - 3) 総会、およびイベントについて
 - 4) ミューズ・フェスタ 2019 について

広報部

1. 博物館ウェブサイト内の友の会ページ、ブログの管理・運営
2. ツイッター（@kpmtomo）による情報提供

3. 友の会入会案内チラシ（表面：入会案内、裏面：友の会 行事予定表）の作成・配付
4. 友の会 年間行事一覧表の作成・配付
5. 会報「友の会通信」を 4 回（通巻 第 100～103 号）発行
6. 「自然科学のとびら」を 4 回（通巻 第 91～94 号）発行（友の会版として増刷・発行）

企画部

友の会が主催する講座や観察会を企画し、それらが円滑に実施できるように博物館側との調整を行い、以下の講座を実施し、延べ 39 講座（中止 4 件）2,951 人が参加した（別表のとおり）。

講座担当者会議／2018 年 11 月 10 日（土）、2019 年 3 月 23 日（土）

8.1.2. 観覧会・講座等

行 事 名		開催日	開催場所	参加者数
1	第 129 回 サロン・ド・小田原 「石川県の桑島層（前期白亜紀）から発見された新種の小さな両生類の化石」	4/14(土)	西側講義室	26
2	よろずスタジオ「巻貝の中はらせん階段？」（館と共催 分野：貝類）	4/15(日)	東側講義室	164
3	総会	4/22(日)	SEISA ミュージアムシアター	27
4	総会イベント おめでとうイグノーベル賞受賞 慶應義塾大学上村佳孝先生講演 「オスとは何か？メスとは何か？～昆虫の交尾器から見える世界～」	4/22(日)	SEISA ミュージアムシアター	72
5	植物観覧会「春の高尾を歩く」	4/24(火)	東京都高尾山	34
6	河原での岩石薄片(プレパラート)作り体験	4/28(土)	南足柄市酒匂川大口橋付近	15
7	樹木観察基礎講座「ハナミズキ(北米)ヤマボウシ(中国)の自生地の探訪」	4/28(土)	横浜市こども植物園	13
8	昆虫観覧会「みつけよう春の虫いろいろ」	5/16(木)	足柄上郡中井町	19
9	第 130 回 サロン・ド・小田原 「ヒゲクジラの” ヒゲ” の役割って何だろう？」	5/19(土)	東・西側講義室	42
10	よろずスタジオ「アンモナイトを作ろう！」（館と共催 分野：化石）	5/20(日)	東側講義室	119
11	植物観覧会「イボタヒョウタンボクを見よう」	6/ 7(木)	長野県諏訪郡富士見町	31
12	よろずスタジオ「作ってみよう！葉脈標本」（館と共催 分野：植物）	6/24(日)	実習実験室	108
13	「地話懇話会～ドイツゾルンフォーフェン化石発掘・博物館巡り～」	6/27(水)	西側講義室	25
14	生物間共生講演会Ⅴ「人と森林 生活と木」	7/ 8(日)	東側講義室	20
15	変形菌を探してみよう！	7/14(土)	茅ヶ崎市清水谷	24
16	植物観覧会「富士山 5 合目 お中道から奥庭を歩く」	7/25(水)	山梨県富士山 5 合目	42
17	パソコンで鉱物を鑑定しよう	8/ 5(日)	実習実験室	12
18	「箱根火山の火山灰を調べてみよう」	8/10(金)	実習実験室	301
19	「地話懇話会～ゴンドワナ大陸の誕生と分裂-ナミビアの地質調査～」	8/22(水)	西側講義室	47
20	日本地質学発祥の地 埼玉県長瀬の地形・地質観覧会	9/ 1(土)	埼玉県長瀬町	39
21	第 131 回 サロン・ド・小田原 特別展関連『『神奈川県植物誌 2018』でわかったこと』	9/ 8(土)	西側講義室	47
22	よろずスタジオ「いろんな菌類を見てみよう」（館と共催 分野：菌類）	9/16(日)	東側講義室	170
23	昆虫観覧会「みつけよう秋の虫いろいろ」	9/26(水)	足柄上郡中井町	中止
24	植物観覧会「岩戸山の秋草を楽しむ」	10/ 5(金)	静岡県熱海市	中止
25	よろずスタジオ「動物の足の裏に注目！」（館と共催 分野：動物）	10/21(日)	東側講義室	80
26	生物間共生講演会Ⅵ「私たちに共に生きるウイルス」	11/10(土)	東側講義室	17
27	横浜市栄区田谷町周辺の長沼層観覧会	11/17(土)	横浜市田谷町・長沼町	中止
28	樹木観察基礎講座「樹木観察に基づくヤマボウシの開花周期や樹形形成」	11/17(土)	横浜市こども植物園	12
29	第 132 回 サロン・ド・小田原 「海中を彩るスターたち～フィールドの棘皮動物学～」	11/17(土)	西側講義室	20
30	よろずスタジオ「木の実・草の実で楽しい工作」（館と共催 分野：植物）	11/18(日)	東側講義室	64
31	よろずスタジオ「生きている化石“ミツクリザメとラブカ”をみてみよう！」 （館と共催 分野：魚類）	12/16(日)	東側講義室	247
32	植物観覧会「新林公園の冬のすがた」	1/14(月)	藤沢市	42
33	よろずスタジオ「砂であそぼう」（館と共催 分野：地学）	1/20(日)	東側講義室	184
34	「地話懇話会～三浦縦貫道路の工事露頭について～」	1/23(水)	西側講義室	24
35	地図を楽しもうー地図を読む実践講座ー	2/ 9(土)	実習実験室	中止
36	よろずスタジオ「昆虫の体を見てみよう」（館と共催 分野：昆虫）	2/17(日)	東側講義室	165
37	第 133 回 サロン・ド・小田原 「活火山・箱根の発見」	2/23(土)	西側講義室	67
38	ミュージズ・フェスタ 2019 友の会ブース「キノコのスタンプ」	3/16(土) 3/17(日)	ライブラリー入口・講義室など	609
39	「地話懇話会～活火山・箱根の発見～」	3/27(水)	西側講義室	23
合 計				2,951

8.2. サロン・ド・小田原

サロン・ド・小田原は、友の会との共催による講演・交流会からなる集いの1つ。従来の講演会や茶話会とは異なり、第1部の話題提供（講演）、第2部の交流会（ワークショップなど）を併せて「サロン」と位置づけ、いわゆるサイエンスカフェのように参加者と話題提供者の交流が深まることを期待している。

第129回サロン・ド・小田原

「石川県の桑島層（前期白亜紀）から発見された新種の小さな両生類の化石」

〔開催日〕 2018年4月14日（土）

〔会場〕 西講義室

〔話題提供〕 スーザン・エバンス氏（ロンドン大学）
松本涼子（当館学芸員）

〔交流会〕 標本を囲んでの質疑応答など

〔参加者数〕 26名

第132回サロン・ド・小田原

「海中を彩るスターたち
～フィールドの棘皮動物学～」

〔開催日〕 2018年11月17日（土）

〔会場〕 西講義室

〔話題提供〕 小淵正美氏（真鶴町立遠藤貝類博物館
学芸員）

〔交流会〕 標本を囲んでの質疑応答など

〔参加者数〕 20名

第130回 サロン・ド・小田原

「ヒゲクジラの“ヒゲ”の役割って何だろう？」

〔開催日〕 2018年5月19日（土）

〔会場〕 東・西講義室

〔話題提供〕 伊藤春香氏（中央水産研究所・支援研究員）、樽 創（当館学芸員）

〔交流会〕 標本を囲んでの質疑応答など

〔参加者数〕 42名

第133回サロン・ド・小田原

「活火山・箱根の発見」

〔開催日〕 2019年2月23日（土）

〔会場〕 西講義室

〔話題提供〕 萬年一剛氏（神奈川県温泉地学研究所主任研究員）

〔交流会〕 話題提供者を囲んでの質疑応答など

〔参加者数〕 67名

第131回サロン・ド・小田原

『神奈川県植物誌2018』でわかったこと」

〔開催日〕 2018年9月8日（土）

〔会場〕 特別展示室、西講義室

〔展示見学〕 特別展示室

〔話題提供〕 田中徳久（当館学芸員）

〔参加者数〕 47名

8.3. 神奈川県西部地域ミュージアムズ連絡会（WESKAMS）

神奈川県西部地域ミュージアムズ連絡会は、「神奈川県西部地域にあるミュージアムがネットワーク化をはかり、これからの新しいミュージアムのありかたを考えていこう」との当館のよびかけのもとに 1996 年 7 月に発足し、現在の加盟館園は 54 施設になる。会の愛称を WEST KANAGAWA MUSEUMS を略して「WESKAMS（ウエスカムズ）」と名付け、その事務局を当館においている。

WESKAMS の目的を達成させるための事業について、協議・検討する場として「館園長・協力会員会議」を年 1 回開催している。

また、WESKAMS に加盟する、ミュージアム施設が連携し、情報交換・相互理解のために互いの施設を訪問・見学する企画を、学習支援と地域文化発展に寄与するため、1997 年 10 月から「ミュージアム・リレー」として一般に開放している。概ね毎月 1 回、持ち回りで各施設の協力を得て特色を活かした特別な企画や、学芸員、専門スタッフによる分かりやすい解説が一般参加者に好評を博している。

会議の開催

開催日	会議の名称	開催場所	出席者数
7/18（水）	情報交換会	箱根ガラスの森美術館	15 館園 25 名
3/8（金）	館園長・協力会員会議	生命の星・地球博物館	14 館園 18 名、協力会員 2 名

ミュージアム・リレー

開催日・開催場所	内 容	一般	高校生	関係者
第 248 走 2018 年 4 月 20 日（金） ①箱根ビジターセンター ②箱根湿生花園	①所長挨拶、ツアーの概要説明のあと、屋外で双眼鏡の貸し出しを受け、使い方を学んだ。その後散策路では動植物を観察し、その触感やにおいを体験した。散策コースをたどるだけでなく、参加者の要望を取り入れてコースを変え、春の動植物など、標高の高い場所ならではのものを中心に観察した。	14 名		4 名
	②箱根湿生花園の成り立ち、園の概要の説明を受けたあと、大掛かりな土替え作業を経て新しく展示された植物を中心に説明受け、園内を散策した。青いケシの花が見ごろを迎えており、花の発見の歴史や、箱根の天候に合わせた展示の工夫などの解説を受けた。説明は園内の植物にとどまらず、近縁種の解説など、内容は多岐に渡った。	14 名		3 名
第 249 走 2018 年 5 月 16 日（水） ①箱根美術館 ②箱根写真美術館 ③箱根強羅公園	①日光殿で美術館紹介映像を見た後、園内の植物や大涌谷の解説を受けながら庭園を散策し、神山荘へ。機械のない時代に作られた岩石の階段や庭園の巨石など、当時の工夫や歴史、創立者の岡田茂吉のこだわりなどの解説があった。その後美術館前で解散し参加者は各自観覧した。	15 名		4 名
	②美術館の概要説明後、館長が初めて撮った写真や、ヒマラヤで撮った写真、撮影時の苦労などの解説を受けた。二階に移動し、ライフワークである富士山の写真について、撮影方法や、印刷紙の材質・特殊な作成過程の解説を受け、その後各自観覧した。	15 名		4 名
	③強羅公園の歴史の説明後、温室で学芸員から、箱根における熱帯の植物の育成の工夫や、開催中のブーゲンビリア展の内容・工夫などの解説を受けた。その後、夏のみ限定公開される茶室白雲洞へ移動し、茶室の歴史などについて、白雲洞からの景色を見ながら説明を受けた。	15 名		4 名

開催日・開催場所	内 容	一般	高校生	関係者
第 250 走 2018 年 7 月 18 日(水) ①箱根駅伝ミュージアム ②箱根ガラスの森美術館	①日本における長距離リレーの創成期の経緯や、社会とともに変化していく駅伝の役割、参加する大学の戦略など、年表とユニフォームの展示を見ながら解説を受けた。最後に、駅伝トリビアとして、タスキの色や、親子で箱根駅伝走者になった組数などのクイズがあり、リレー参加者以外の観覧客も参加した。	1 名		4 名
	②館長挨拶後、二班に分かれて学芸員から解説を受けた。庭園では、ガラスと生花を組み合わせた展示や、アジサイ、バラの見頃の説明を受けた。館内では、特別展示中の「風にそよぐグラス」を中心に、ガラス職人のパロヴィエール一族の功績や作品、ガラス作品の時代ごとの流行、レース模様のガラスの器の作られ方などについて解説を受けながら、展示品を鑑賞した。	24 名		10 名
第 251 走 2018 年 8 月 24 日(金) ①生命の星・地球博物館 ②小田原市尊徳記念館	①博物館の概要・展示の見所等についてのガイダンス後、特別展「植物誌をつくろう！～『神奈川県植物誌 2018』のできるまでとこれから～」を学芸員が案内。神奈川県植物誌が作られてきた経緯や歴史、江戸時代の来日外国人による植物採集の様子、植物誌に新たに記載された植物や、分布の拡大・縮小の状況などについて、標本や展示に沿って解説を受けた。	14 名		2 名
	②二宮金次郎の一生を描いたアニメビデオを視聴後、酒匂川の治水と氾濫の歴史、尊徳の全国各地における活動状況、尊徳にまつわる遺品などについて、説明を聴きながら展示室を見学。続いて、敷地内にある「尊徳の生家」及び明治後期から大正にかけての顕彰碑を見学中に降雨。館内に引き返し、市内の小中学校等にある様々な二宮金次郎像(写真)の解説などを聞いた。	10 名		2 名
第 252 走 2018 年 9 月 14 日(金) ①箱根関所 ②神奈川県立恩賜箱根公園	①平成 19 年に幕末期の箱根関所の姿を完全復元。京口御門、外繫での説明後、獄屋、足輕番所を見学、芦ノ湖一望の遠見番所に登る。その後、江戸口御門で、江戸方向からの出女等の厳しい検査の説明を受けた。最後に、通常は入れない大番所の内部を見学、上番休息所で、関所の役割や実情、当時の周辺の関所の状況、関所破りで処罰された「たま」の逸話などを伺った。	16 名		2 名
	②湖畔展望館 1 階で、箱根離宮の歴史と県立公園になるまでの経過の説明後、2 階で当日の眺望と合わせて、展示パネル・写真帳を使用して四季折々の公園からの眺望を解説。その後、園路を歩きながら、湿度が高く馬酔木やコケ類が多い箱根離宮の植生や、低木等の剪定は職員自ら行っている管理状況等について説明を受けた。	9 名		2 名
第 253 走 2018 年 10 月 19 日(金) ①真鶴町立中川一政美術館 ②真鶴町立遠藤貝類博物館	①開館 30 周年記念展「中川一政美術館の軌跡」を開催中。真鶴に移り住み美術館設立に至った経緯、原点の初期作品などの解説後、開館当時の展示を復元した第 2 展示室で、福浦から駒ヶ岳、バラ・ヒマワリ等へのモチーフの変化、第 3 展示室で、顔彩等の面材を駆使した作品や絶筆の静物画などの解説を受け、最後に、隣地に復元されたアトリエを見学した。	10 名		4 名
	②元教育長の個人コレクションの寄贈を受け 2010 年に開館。真鶴の海に興味を喚起させる展示内容とし、観察・採集のワークショップも実施。天然記念物ウメボシソギンチャクの飼育の試みも実施中。真鶴や相模湾で見つかる貝、日本で見つかる貝、特にこの博物館のコレクションで世界的にも有名なオキナエビス貝の展示、外国で見つかる貝について、解説を受けながら観覧した。	8 名		3 名
第 254 走 2018 年 11 月 9 日(金) ①小田原文学館 ②松永記念館	①敷地・建物は、明治の政治家 田中光顕伯爵の別邸として建てられたものを市が取得し、本館を小田原文学館として、別館を白秋童謡館として開設。別館は、平成 29～30 年度に改修工事を行い、去る 7 月 23 日に再オープン。開催中の特別展「民衆展」の解説後、常設展示により、小田原出身又はゆかりのある作家(北村透谷、谷崎潤一郎など)について説明を受けた。	8 名		1 名
	②電力王と呼ばれた実業家松永安左エ門(耳庵)が、自宅兼茶室として建設、昭和 54 年に市に寄贈。特別展「風外慧薫展」の解説を受けた後、老櫓荘に移動。茶室を中心に室内の案内を受けた。特に、数寄を凝らした建築としたことや、名の由来となった樹齢 400 年超の樺の木を中心に、背後の箱根外輪山を借景とした庭について説明がなされた。	13 名		1 名

開催日・開催場所	内 容	一般	高校生	関係者
第 255 走 2018 年 11 月 16 日（金） ①徳富蘇峰記念館 ②箱根町立郷土資料館	①蘇峰は、95 年の生涯に、多くの人士と手紙をやり取りし、約 12,000 人、47,000 通が残されている。今回の特別展は、平成 28 年度から 3 回連続の「相模湾沿岸地域ゆかりの名士展」の最後の「湘南編」で、鎌倉・逗子を中心に、蘇峰が交流した明治～昭和の名士の書簡や書画を展示。学芸員から、差出人等と蘇峰の関わり等について説明を受けた。	8 名		4 名
	②特別展「戊辰箱根戦争」を開催中。戊辰箱根戦争は、戊辰戦争における県内唯一の戦場で、新政府軍側に立った小田原藩（大久保家）と遊撃隊（旧幕臣）との間で戦われたもの。その戦いの経緯や状況、地域の被害、さらにその後の苦難を乗り越え、馬車鉄道の敷設をはじめとした事業に取り組み、現在の国際観光地箱根づくりを進めたことなどについて、学芸員から説明を受けた。	18 名		1 名
第 256 走 2018 年 12 月 7 日（金） ①神奈川県立おだわら諏訪の原公園 ②小田原城天守閣	①同公園は、計画面積 65ha の県立都市公園で、現在はその一部 15.4ha が開園している。公園の敷地の多くは、ミカン園として利用されていた農地で、園内に「ふるさとの果樹園」を設置している。ミカン園では、担当者からミカン科植物の概要、ミカン栽培の実際、おいしい果実の見分け方などが説明され、ミカン狩りの後自由解散となった。	5 名		1 名
	②小田原城天守閣は、建物の耐震補強及び館内の全面改修を行い平成 28(2016)年 5 月に再オープン。館長挨拶の後、SAMURAI 館で学芸員の説明を受け見学。その後天守閣で、常設展、及び特別展「小田原開府 500 年」（今年は、後北条氏 2 代の氏綱が本拠を伊豆から小田原に移した 1518 年から 500 年目の記念の年にあたる）の説明を受け、天守の一部を原寸復元した最上階の説明後、解散となった。	14 名		1 名
第 257 走 2018 年 12 月 13 日（木） ①箱根ラリック美術館 ②星の王子さまミュージアム 箱根サン＝テグジュペリ	①アール・ヌーボーからアール・デコの時代に活躍したルネ・ラリックの生涯にわたる作品について、代表作を中心に解説を受けた。当初のジュエリー・宝飾デザインから始まりガラス工芸の大量生産の分野に進出して数々の作品を残し、最後には建築や船、列車などの大型装飾へと展開された業績について、当時の時代背景や作品の特徴も含めた解説後、自由見学となった。	24 名		1 名
	②案内員の解説により園内を観覧。庭園を通りながら、サン＝テグジュペリにゆかりの城・街並みなどを模した建物を見学。展示室では、サン＝テグジュペリの出生や経歴、作品など、1944 年に偵察機で地中海上で行方不明になるまでの生涯について解説を受けた。その後、最も有名な作品である「星の王子さま」のあらすじをたどる展示を見学し、自由見学となった。	8 名		1 名
第 258 走 2019 年 2 月 8 日（金） MOA美術館	①「リニエール 3 周年記念名品展（第 1 部）」を開催中。最初に美術セミナーとして、展覧会のレクチャーを受ける。館所有の国宝 3 点、重文 22 点を一挙公開。国宝は、尾形光琳の「紅白梅図屏風」、野々村仁清の「色絵藤花文茶壺」、手鑑「翰墨城」で、それぞれ画像を見ながら説明を受け、1 室から 6 室まで、順次ポイントとなる作品の説明後、自由観覧となった。	20 名		3 名
第 259 走 2019 年 3 月 8 日（金） ①小田原フラワーガーデン ②生命の星・地球博物館	①溪流の梅園を散策。紅梅と白梅の違い、様々な種類の梅及び花などについて、実際の梅花を見ながら説明を受けた。次に、トロピカルドームを見学。植栽されたヒスイカズラなどの亜熱帯・熱帯植物の説明を受け、最後に、酸っぱいレモンを甘くする「ミラクルフルーツ」体験を行った。	5 名		1 名
	②博物館の概要・展示の見所等について、学習指導員から説明。その後、企画展「箱根ジオパーク展―身近な火山と友だちになる―」を、学芸員が案内。箱根火山の現在の姿、火山灰層のはぎ取り標本や溶岩の岩石標本に基づく過去の姿、未来に向けた共生の姿などについて、解説を受けた。	8 名		3 名
第 260 走 2019 年 3 月 15 日（金） ①人間国宝美術館 ②湯河原町立湯河原美術館	①工芸分野における重要無形文化財保持者（人間国宝）の作品を展示している美術館で、約 1,200 点を所蔵。特に人形の収集は日本一を誇る。2 階の特別企画展示「人間国宝の人形・玩具から芸術へ」の解説を受け、その後、4 階・3 階の展示品を自由見学。最後に、人間国宝が制作した茶碗を自由に選び、その茶碗で抹茶のサービスを受けた。	5 名		1 名
	②昭和 30 年代に建てられた天野屋旅館を改装、平成 10 年に美術館として開館。平成 18 年開館の現代日本画家・平松礼二館へ。「日本の色・四季の彩～日本画の魅力」展の作品を鑑賞後、常設館へ移動し、竹内栖鳳を中心とした湯河原ゆかりの作家の作品の解説を受けた。最後に、館内に新設された平松のアトリエで、作品の制作現場の雰囲気味わった。	6 名		2 名

8.4. 館内施設等の状況

当館では利用者へのサービス充実のため、売店「ミュージアムショップ」、レストラン「フォーレ」、ともしびショップ・喫茶「あーす」の各施設を外部からのテナントにより設置している。

売店「ミュージアムショップ」(1階)

生涯学習施設としての博物館におけるミュージアムショップなので、展示内容と関連した物をできるだけ世界中から取り寄せている。例えば、中国遼寧省やアメリカ・ユタ州の化石、アメジスト、水晶、メノウはブラジル、モルダバイトはチェコからなど展示物の秘めたメッセージの伝わるグッズを販売している。特別展に際しては、それぞれの展示コンセプトにあわせて特別コーナーを設置している。

また、博物館とショップスタッフとの定期ミーティングを通して、博物館におけるミュージアムショップのあり方や扱うグッズについて検討を行っている。それによって当館学芸員の執筆による博物館刊行物の発行や自然科学系書籍の充実、オリジナル商品の開発などの成果をあげた。

博物館の来館者が、その感動や驚きを持ち帰り、また行ってみようと思っただけのような空間づくりとしている。

レストラン「フォーレ」(3階)

早川のせせらぎ、緑の山並みに囲まれたロケーションの博物館レストランは、見学による「博物館疲労」を癒し、感動や驚きの余韻を語り合う空間として重要であり、利用者サービスの一翼を担っている。

メニューは、サンドイッチなどの軽食から、ハンバーグ、カレーライスなどの洋食、箱根そばをセットにした和食などを用意している。また、ケーキ・メニューなども充実しており、どなたにでも対応できる品揃えとなっている。事前の予約があれば、障がい者に配慮した調理方法での提供も可能な範囲で対応している。利用状況は、日曜日、祝日、春・夏休み等、学校の休みの日には利用者が多く混雑するが、夏季期間中にテラスの部分を利用した野外席を用意し、混

雑の緩和を図っている。

今後も、博物館及び地域のレストランとしての特色をだすため、利用者のニーズを意識し、内容の充実と明るく雰囲気の良いレストランを目指していく。

ともしびショップ・喫茶「あーす」(1階)

「ともしびショップ」は、障がい者の社会参加の促進、就労の場の確保の視点から、障がい者の働ける場として設置されており、当ショップは県内では4店目にあたる。

「あーす」は、来館者の休憩場所として喫茶を営業しているほか、市内の入所施設・作業所等での自主製品の販売も行っている。

Ⅲ 資料

1. 条例・規則（抜粋）

1.1. 神奈川県立の博物館条例

神奈川県立の博物館条例

昭和 41 年 10 月 7 日

条例第 43 号

（趣旨）

第 1 条 この条例は、神奈川県立の博物館の設置、管理等に関し必要な事項を定めるものとする。

（設置）

第 2 条 博物館法（昭和 26 年法律第 285 号）に基づき、次のとおり神奈川県立の博物館（以下「博物館」という。）を設置する。

名称	位置	目的
神奈川県立歴史博物館	横浜市中区南仲通 5 丁目 60 番地	神奈川の文化及び歴史に関する資料の収集、保管及び展示並びにこれに関する調査研究、情報提供等を行い、県民の学習活動を支援すること。
神奈川県立生命の星・地球博物館	小田原市入生田 499 番地	地球及び生命の営みに関する資料の収集、保管及び展示並びにこれに関する調査研究、情報提供等を行い、県民の学習活動を支援すること。

（職員）

第 3 条 博物館に、事務職員、技術職員その他の所要の職員を置く。

（観覧料の納付等）

第 4 条 博物館に展示している博物館資料を観覧する者（以下「観覧者」という。）は、別表に定める額の観覧料を納めなければならない。ただし、公開の施設に展示している博物館資料の観覧については、この限りでない。

2 前項本文の規定にかかわらず、特別な企画の展覧会を開催する場合の観覧料は、神奈川県教育委員会（以下「教育委員会」という。）がその都度定めることができる。

3 教育委員会は、第 1 項本文及び前項に規定する観覧料を納めた者に観覧券を交付するものとする。

4 観覧者（別表備考 2 に規定する者を除く。）は、入館する際に、前項に規定する観覧券又はこれに代わるものとして教育委員会が認めたものを提出し、又は提示しなければならない。

（観覧料の減免）

第 5 条 前条第 1 項本文及び第 2 項の規定にかかわらず、教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する者については、観覧料を減免することができる。

（1）教育委員会が開催する行事に参加する者

（2）教育課程に基づく教育活動として入館する高校生（学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号。別表備考において「法」という。）第 1 条に規定する高等学校及び中等教育学校の後期課程並びにこれらに準ずる教育施設に在学する者をいう。別表において同じ。）並びに児童及び生徒の引率者

（3）その他教育委員会が適当と認めた者

（観覧料の不還付）

第 6 条 既に納付された観覧料は、還付しない。ただし、教育委員会が災害その他特別の事情により還付するのを適当と認めたときは、この限りでない。

（資料の特別利用）

第 7 条 博物館資料を学術上の研究のため特に利用しようとする者は、教育委員会の承認を受けなければならない。

(利用の制限)

第8条 教育委員会は、博物館の利用者が次の各号のいずれかに該当する場合には、その利用を制限することができる。

(1) この条例又はこの条例に基づく規則に違反したとき。

(2) 他の利用者に著しく迷惑をかけるおそれがあると認めるとき。

(3) 施設、博物館資料等を損傷するおそれがあると認めるとき。

(4) その他教育委員会が必要と認めるとき。

(委任)

第9条 この条例に定めるもののほか、博物館の管理等に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

別表（第4条関係）

区分		個人	20人以上の団体
神奈川県立歴史博物館	20歳以上65歳未満の者（学生及び高校生を除く。）	1人につき300円	1人につき250円
	20歳未満の者（高校生を除く。）学生（65歳以上の者を除く。）	同200円	同150円
	65歳以上の者高校生	同100円	同100円
神奈川県立生命の星・地球博物館	20歳以上65歳未満の者（学生及び高校生を除く。）	同520円	同410円
	20歳未満の者（高校生を除く。）学生（65歳以上の者を除く。）	同300円	同200円
	65歳以上の者高校生	同100円	同100円

備考1 学生とは、法第1条に規定する大学及び高等専門学校、法第124条に規定する専修学校並びに法第134条第1項に規定する各種学校に在学する者をいう。

2 学齢に達しない者並びに法第1条に規定する小学校、中学校、中等教育学校の前期課程及び特別支援学校並びにこれらに準ずる教育施設に在学する者は、無料とする。

1.2. 神奈川県立の博物館組織規則

神奈川県立の博物館組織規則

昭和41年11月18日
教育委員会規則第10号

(趣旨)

第1条 この規則は、神奈川県立の博物館の組織に関し必要な事項を定めるものとする。

(部等の設置)

第2条 神奈川県立の博物館に、次の部及び課を置く。

管理課

企画情報部

企画普及課

情報資料課

学芸部

(管理課の事務)

第3条 管理課においては、次の事務を分掌する。

(1) 公印に関する事。

(2) 文書の收受、発送、保存、閲覧等に関する事。

(3) 個人情報の開示、訂正、利用停止等に関する

こと。

(4) 人事に関する事。

(5) 財産の管理及び館内の秩序の維持に関する事。

(6) 予算の経理に関する事。

(7) 観覧料の徴収に関する事。

(8) 物品の調達及び処分に関する事。

(9) 寄贈品の受納並びに寄託品の受納及び返納に関する事。

(10) その他他部課の主管に属しない事。

第4条 削除

(企画普及課の事務)

第5条 企画普及課においては、次の事務を分掌する。

(1) 博物館活動の企画及び調整に関する事。

(2) 博物館活動の普及及び広報に関する事。

(3) 博物館活動に関する講演会、講習会、研究会等の開催に関する事。

(4) 他の博物館その他教育、学術又は文化に関する施設、団体等との連絡、協力及び情報の交換にすること。

(情報資料課の事務)

第6条 神奈川県立歴史博物館の情報資料課においては、次の事務を分掌する。

- (1) 人文科学等に関する図書等の収集、整理、保管及び閲覧にすること。
- (2) 博物館情報システムの運用にすること。

2 神奈川県立生命の星・地球博物館の情報資料課においては、次の事務を分掌する。

- (1) 自然科学等に関する図書等の収集、整理、保管

及び閲覧にすること。

- (2) 博物館情報システムの総合的企画及び調整並びに運用にすること。

(学芸部の事務)

第7条 学芸部においては、次の事務を分掌する。

- (1) 博物館資料の収集、製作、整理、保管、展示、解説及び指導にすること。
- (2) 博物館資料の専門的及び技術的な調査研究にすること。

(委任)

第8条 この規則の施行に関し必要な事項は、神奈川県教育委員会教育長が定める。

1.3. 神奈川県立の博物館の利用等に関する規則

神奈川県立の博物館の利用等に関する規則

昭和41年11月18日
教育委員会規則第9号

(趣旨)

第1条 この規則は、神奈川県立の博物館の利用等に関し必要な事項を定めるものとする。

(権限の委任)

第2条 次に掲げる神奈川県教育委員会の権限は、神奈川県教育委員会教育長(以下「教育長」という。)に委任する。

- (1) 神奈川県立の博物館条例(昭和41年神奈川県条例第43号。以下「条例」という。)第4条第2項の規定により観覧料を定めること。
- (2) 条例第4条第3項の規定により観覧券を交付すること。
- (3) 条例第4条第4項の規定により観覧券に代わるものを認めること。
- (4) 条例第5条の規定により観覧料を減免すること。
- (5) 条例第6条ただし書の規定により観覧料の還付を認めること。
- (6) 条例第7条の規定により利用を承認すること。
- (7) 条例第8条の規定により利用を制限すること。

(休館日等)

第3条 神奈川県立歴史博物館及び神奈川県立生命の星・地球博物館(以下「博物館」という。)の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 月曜日(国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「国民の祝日等」という。)に当たるときを除く。)
- (2) 国民の祝日等の翌日(土曜日、日曜日又は国民の祝日等に当たるときを除く。)
- (3) 12月28日から翌年の1月4日まで
- (4) その他教育長が定める日

2 前項の規定にかかわらず、教育長は、必要があると認めるときは、臨時に博物館を開館することができる。

(開館時間等)

第4条 開館時間は、次のとおりとする。

名称	開館時間
神奈川県立歴史博物館	午前9時30分から午後5時まで。ただし、午後4時30分以降は、入館することができない。
神奈川県立生命の星・地球博物館	午前9時から午後4時30分まで。ただし、午後4時以降は、入館することができない。

2 前項の規定にかかわらず、教育長は、必要があると認めるときは、これを変更することができる。

(観覧券の様式)

第5条 条例第4条第3項に規定する観覧券は、神奈川県立歴史博物館にあつては第1号様式とし、神奈

川県立生命の星・地球博物館にあつては第2号様式とする。

(観覧料の減免申請)

第6条 観覧料の減免を受けようとする者は、あらかじめ、観覧料減免申請書を教育長に提出し、観覧料減免承認書の交付を受けなければならない。

(観覧料の還付申請)

第7条 観覧料の還付を受けようとする者は、観覧料還付申請書に観覧券を添えて教育長に提出し、観覧料還付承認書の交付を受けなければならない。

(資料の特別利用)

第8条 条例第7条の規定により博物館資料の特別利用の承認を受けようとする者は、特別利用承認申請書を教育長に提出し、特別利用承認書の交付を受けなければならない。

(利用の方法)

第9条 博物館を利用する者は、博物館の管理上必要な事項を守り、職員の指示に従わなければならない。
(資料の館外貸出し)

第10条 次に掲げるものは、教育長の承認を受けて博物館資料の館外貸出しを受けることができる。

- (1) 国立の博物館、博物館法(昭和26年法律第285号)第2条第1項に規定する博物館及び同法第29条の規定により文部科学大臣の指定した博物館に相当する施設
- (2) 社会教育法(昭和24年法律第207号)第21条に規定する公民館
- (3) 国立の図書館及び図書館法(昭和25年法律第118号)第2条第1項に規定する図書館
- (4) 学校教育法(昭和22年法律第26号)第1条に規定する学校
- (5) その他教育長が適当と認めるもの

2 前項の規定による承認を受けようとするものは、館外貸出承認申請書を教育長に提出し、館外貸出承認書の交付を受けなければならない。

(館外貸出しの期間)

第11条 博物館資料の館外貸出しの期間は、30日以内とする。ただし、教育長は、特に必要があると認

めるときは、これを延長することができる。

2 前項の館外貸出しの期間は、博物館が当該博物館資料を引き渡した日から起算してその返還を受ける日までの日数により算定するものとする。

3 教育長は、館務の都合により必要があるときは、博物館資料の館外貸出しの期間中であつても、当該博物館資料の返還を求めることができる。

(館外貸出しをした資料の利用方法)

第12条 博物館資料の館外貸出しを受けたものは、当該博物館資料を、承認を受けた利用の目的又は場所以外の目的又は場所で、利用してはならない。

(資料滅失等の届出)

第13条 博物館資料の館外貸出しを受けたものは、当該博物館資料を滅失し、又は損傷したときは、直ちに資料滅失(損傷)届出書を教育長に提出しなければならない。

(寄託を受けた資料の利用の制限)

第14条 寄託を受けた博物館資料の館外展示及び館外貸出しは、寄託者の承諾がある場合のほかは、行なうことができない。

(委任)

第15条 この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

2. 館年表

2.1. 再編整備決定から開館まで

1986 年	12 月	第二次新神奈川計画において、博物館の再編整備が決定	10 月	第一期造成工事着手 建築実施設計着手 展示実施設計着手	
1988 年	7 月	神奈川県立自然系博物館（仮称）を小田原市入生田に建設することが決定	1992 年	4 月	組織改正により生涯学習部博物館開設準備室となり、企画調整班、自然系整備班、人文系整備班、展示・資料整備班の4 班体制となる
	12 月	神奈川県立博物館整備構想懇談会（座長：渡邊 格（慶応義塾大学名誉教授））から提言		6 月	第二期造成工事着手
1989 年	3 月	神奈川県立自然系博物館（仮称）整備計画策定 神奈川県立自然系博物館（仮称）展示計画策定		8 月	博物館情報システム開発プロポーザル実施 博物館情報システム開発調査設計着手
	4 月	教育庁社会教育部社会教育課に博物館建設準備班を設置	10 月	自然系博物館（仮称）建築工事着工 自然系博物館（仮称）展示工事着工	
	11 月	神奈川県立自然系博物館（仮称）資料収集委員会（委員長：上田誠也（東京大学名誉教授））発足	1993 年	4 月	博物館情報システム開発着手
	12 月	展示設計プロポーザル実施 展示基本設計着手		6 月	第三期造成工事着手
1990 年	2 月	建築設計プロポーザル実施 建築調査設計着手	1994 年	6 月	第四期造成工事着手
	3 月	自然系博物館の建設事業が、小田原市との協調事業となる 神奈川県立自然系博物館（仮称）資料収集計画策定 博物館情報システム整備計画策定	12 月	自然系博物館（仮称）建築工事竣工 神奈川県立博物館条例一部改正	
	9 月	博物館情報システム実施計画策定	1995 年	1 月 1 日	神奈川県立生命の星・地球博物館が機関設置され、管理部に管理課、経理課、企画情報部に企画普及課、情報資料課及び学芸部の3 部 4 課を置く
	10 月	建築基本設計着手		3 月	博物館法第 11 条の規定に基づく登録博物館となる 生命の星・地球博物館展示工事竣工
1991 年	3 月	自然系博物館（仮称）建設用地（小田原市入生田）取得		3 月 20 日	開館記念式典実施
	4 月	組織改正により教育庁社会教育部社会教育課が、生涯学習部生涯学習課となる		3 月 21 日	一般公開開始

2.2. 開館から 2018 年度末まで（資料収集・調査研究事業を除く）

1995 年	3 月 21 日	一般公開開始	1997 年	3 月 1 日	エントランスガイダンス開始
	4 月 29 日	開館記念講演会「地球を歩いてみませんか」濱田隆士・中雄一		3 月 20 日	開館2周年記念講演会「3年目を迎える博物館の新しい活動・博物館をこんなふうにご利用してみませんか」浜口哲一・濱田隆士
	5 月 7 日	入館者10万人到達（開館41日目）			バリアフリー音声ガイドサービス開始
	6 月 22 日	紺綬褒章の伝達式（櫻井都美子・小泉明裕）	3 月 21 日	日本植物分類学会第27回大会（3月23日まで）	
	9 月 6 日	ジブチ共和国大統領ご視察	5 月 10 日	生命の星・地球博物館友の会発足	
	9 月 24 日	入館者30万人到達（開館158日目）	7 月 23 日	入館者100万人到達（開館705日目）	
	11 月 10 日	神奈川県博物館協議会（2001年まで毎年実施）	10 月 17 日	WESCAMs ミュージアム・リレーを開始	
1996 年			11 月 15 日	日本鞘翅学会第10回記念大会（11月16日まで）	
	3 月 20 日	開館1周年記念講演会「自然史（誌）系博物館の位置づけ」沼田 眞・中川志郎・濱田隆士	1998 年	1 月 30 日	日本古生物学会1998年年会（2月1日まで）
	4 月	シンボルマーク製作		3 月 21 日	開館3周年記念事業「生命の星・地球フェスタ'98」（3月29日まで）
	4 月 17 日	入館者50万人到達（開館321日目）		3 月 30 日	天皇后両陛下下行幸啓
	6 月 1 日	学習指導員による団体サービス（ガイダンス）		4 月 4 日	日本動物分類学会第34回大会（4月5日まで）
	9 月	ガイダンスビデオ製作		8 月 26 日	日本第四紀学会1998年大会（8月28日まで）
				9 月 12 日	中国遼寧省友好代表团来館
				11 月 3 日	入館者150万人到達（開館1,090日目）

1999 年

3 月 20 日	「トーキングサイン・ガイドシステム」発表会
8 月 4 日	中国科学院南京地質古生物学研究所所長ほか視察
11 月 6 日	日本蜻蛉学会大会(11 月 7 日まで)
11 月 12 日	天皇陛下ご在位 10 周年慶祝事業 無料公開
11 月 14 日	みなかんネットワーク大会
11 月 27 日	常設展示化石標本 3 点の盗難を確認
12 月 9 日	常設展示化石標本 10 点の盗難を確認

2000 年

3 月 20 日	開館 5 周年記念講演会「博物館は宝の山!」
3 月 23 日	Xu Daosheng(湖北省博物館)・Jang, Sang-Hoon (韓国国立中央博物館)ほか視察
3 月 31 日	濱田隆士館長退任
4 月 1 日	青木淳一館長就任
5 月 13 日	日本土壌動物学会第 23 回大会(5 月 14 日まで)
8 月 6 日	入館者 200 万人到達(開館 1,613 日目)
10 月 6 日	2000 年度日本魚類学会年会(10 月 9 日まで)
10 月 15 日	200 万人達成記念展示「写真コンテスト応募作品」

2001 年

3 月 20 日	開館 6 周年記念講演会「自然史(誌)を楽しむ〜 いま箱根の自然は〜」
3 月 27 日	神奈川県博物館協議会を廃止
4 月 15 日	青木淳一館長が南方熊楠賞を受賞
10 月 19 日	中国遼寧省職員視察
11 月 9 日	ミュージアム・リレー第 50 走達成記念講演会
11 月 22 日	ミュージアム・リレー第 50 走達成記念シンポジウム
11 月 23 日	日本蜻蛉学会(11 月 25 日まで)

2002 年

2 月 21 日	博物館課題研究会「博物館のめざすべき方向」
3 月 19 日	箱根フリーパス対象施設に参加
3 月 21 日	開館 7 周年記念シンポジウム「触まれるかながわの生物」
7 月 19 日	入館者 250 万人到達(開館 2,206 日目) 250 万人達成感謝ウィーク
7 月 21 日	「自然を楽しむみち」案内板贈呈式

2003 年

1 月 30 日	博物館課題研究会「博物館の独立行政法人化の動きと現状について」
3 月 11 日	全国科学博物館協議会総会(3 月 12 日まで)
3 月 21 日	ミュージズ・フェスタ (開館記念事業として、以降毎年実施)
3 月 28 日	青木淳一館長が小田原城下町大使に就任
7 月 20 日	夏休み期間中、17 時 30 分まで開館時間延長(2004 年まで実施)
8 月 2 日	日本蕨苔類学会(8 月 3 日まで)

2004 年

3 月 9 日	博物館課題研究会「博物館評価の現状とその実例 について」
5 月 25 日	入館者 300 万人到達(開館 3,770 日目)
11 月 20 日	日本鞘翅学会第 17 回大会(11 月 21 日まで)

2005 年

3 月 8 日	博物館課題研究会「指定管理者制度とその導入の動向について」
7 月 18 日	夏休み中無休開館期間(以降、毎年実施)

2006 年

1 月 14 日	ミュージアム・リレー第 100 走達成記念行事 (1 月 15 日まで)
3 月 23 日	博物館課題研究会「指定管理者の指定を受けて」
3 月 31 日	青木淳一館長退任
4 月 1 日	管理部と経理課が廃止され、管理課、企画情報部の企画普及課、情報資料課及び学芸部の 2 部 3 課となる。
	斎藤靖二館長就任
7 月 8 日	入館者 350 万人到達(開館 3,409 日目)
11 月 12 日	自然史学会連合講演会「教科書で学べない自然史」

2007 年

2 月 28 日	全国科学博物館協議会理事会総会
3 月 30 日	博物館課題研究会

2008 年

3 月 11 日	博物館課題研究会
3 月 22 日	子ども自然科学作品展(以降毎年実施)
8 月 12 日	入館者 400 万人到達(開館 4,062 日目)

2009 年

3 月 10 日	博物館課題研究会「展示照明の現状と課題」
----------	----------------------

2010 年

10 月 21 日	入館者 450 万人到達(開館 4,863 日目)
-----------	---------------------------

2011 年

3 月 13 日	ミュージズ・フェスタ 2011(東日本大震災により中止)
----------	------------------------------

2012 年

8 月 3 日	入館者 500 万人到達(開館 5,183 日目)
---------	---------------------------

2013 年

8 月 22 日	世界の動物切手コレクション寄贈(功刀欣三様)
10 月 8 日	天皇陛下行幸啓(特別展天覧)
11 月 29 日	奥村定一昆虫コレクション寄贈(奥村哲子様)

2014 年

1 月 13 日	入館者 550 万人到達(開館 5,716 日目)
3 月 19 日	貝類標本コレクション寄贈(名倉菊江様)
3 月 31 日	斎藤靖二館長退任
4 月 1 日	平田大二館長就任、斎藤靖二名誉館長就任
7 月 7 日	林原自然科学博物館教材・教育用標本一式寄贈(株式会社林原メセナセンター)
9 月 11 日	メソサウルス類化石・ダウリアアチョウザメ本剥製・ アラスカ産オオカミ本剥製寄贈(三浦菊男様)

2015 年

3 月 15 日	開館 20 周年記念シンポジウム「自然史系博物館のあるべき姿と評価軸ー生命の星・地球博物館の活動からー」
8 月 29 日	入館者 600 万人到達(開館 6,190 日目)
10 月 31 日	今関細密画コレクション寄贈(今関士郎様)

2016 年

3 月 16 日	子ども自然科学作品展会期を延長 (5 月 8 日まで) 活動報告展の休止
----------	--------------------------------------

2017 年

5 月 3 日	入館者 650 万人到達(開館 6,667 日目)
---------	---------------------------

2018 年

10 月 26 日	入館者 700 万人到達 (7,104 日目)
-----------	-------------------------

2019 年

2 月 24 日	天皇陛下御在位三十年記念慶祝事業 無料公開
----------	-----------------------

3. 統計資料

3.1. 利用者状況

3.1.1. 常設展示室の入場者状況

月			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開館日数			7	26	20	28	31	25	25	25	20	20	20	25	290
有料入場者数	個人	成年個人	6,472	7,191	5,139	9,309	17,112	8,946	4,893	5,303	4,831	5,511	5,312	8,224	88,243
		未成年・学生個人	169	273	325	198	640	360	127	149	226	165	282	449	3,363
		高校生	94	156	32	161	544	120	85	61	69	68	91	265	1,746
		65歳以上	1,242	1,233	872	1,637	3,248	1,216	1,108	1,381	979	773	795	1,744	16,228
	団体	成年団体	113	114	178	570	1,177	661	549	225	167	34	142	155	4,085
		未成年・学生団体	33	25	0	11	45	22	40	3	1	37	37	0	254
		高校生	71	0	49	13	27	91	8	3	2	0	35	0	299
		65歳以上	142	309	121	344	277	251	375	461	117	71	20	99	2,587
	小計		8,336	9,301	6,716	12,243	23,070	11,667	7,185	7,586	6,392	6,659	6,714	10,936	116,805
	無料入場者数	園児	1,707	2,050	1,560	4,156	5,577	3,321	1,869	2,295	1,572	2,236	3,056	4,585	33,984
小学生		3,620	4,659	3,851	5,049	8,766	5,750	8,201	4,817	1,653	2,211	1,808	3,781	54,166	
中学生		943	811	520	611	1,730	242	312	316	449	164	201	465	6,764	
障害者		532	662	401	896	1,469	996	768	857	625	457	409	892	8,964	
その他		2,195	1,543	1,140	1,398	1,401	1,310	1,647	1,448	688	1,445	1,839	2,583	18,637	
小計		8,997	9,725	7,472	12,110	18,943	11,619	12,797	9,733	4,987	6,513	7,313	12,306	122,515	
合計		17,333	19,026	14,188	24,353	42,013	23,286	19,982	17,319	11,379	13,172	14,027	23,242	239,320	
1日平均（人）		693.3	731.8	709.4	869.8	1,355.3	931.4	799.3	692.8	569.0	658.6	701.4	929.7	825.2	
前年比（%）		88.1	95.1	110.5	107.0	104.7	101.5	85.8	94.7	131.5	98.5	114.0	105.0	101.2	

			2018 年度			一般公開開始からの累計＊		
			1 日 平均	構成比(%)	前年比(%)	入場者	1 日 平均	構成比(%)
有料入場者	個人	成年個人	304.3	36.9	106.9	2,173,582	301.1	33.7
		未成年・学生個人	11.6	1.4	96.0	86,395	12.0	1.3
		高校生	6.0	0.7	103.8	16,817	2.3	0.3
		65 歳以上	56.0	6.8	100.2	151,664	21.0	2.3
	団体	成年団体	14.1	1.7	46.1	214,029	29.7	3.3
		未成年・学生団体	0.9	0.1	67.2	8,768	1.2	0.1
		高校生	1.0	0.1	112.8	1,586	0.2	0.1
		65 歳以上	8.9	1.1	75.0	39,066	5.4	0.6
	小計		402.8	48.8	99.9	2,691,907	372.9	41.7
無料入場者	園児	117.2	14.2	104.6	578,495	80.1	9.0	
	小学生	186.8	22.6	96.0	1,678,834	232.6	26.0	
	中学生	23.3	2.8	79.2	284,110	39.4	4.4	
	障害者	30.9	3.8	100.1	189,332	26.2	2.9	
	その他	64.3	7.8	113.8	1,028,200	142.4	16.0	
	小計	422.5	51.2	99.8	3,758,971	520.8	58.3	
合 計		825.2	100.0	99.9	6,450,878	893.7	100.0	

*1995年3月21日から7,218日開館

2018年度記録

最高：2018年8月12日(日) 3,604人

最低：2019年1月16日(水) 164人

3.1.2. 特別展示室入場者状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
有 料	成年				957	2,480	1,022	550	129					5,138
	未成年・学生				39	169	65	22	13					308
	高校生				35	98	15	28	3					179
	65歳以上				283	776	280	248	44					1,631
	小計				1,314	3,523	1,382	848	189					7,256
無料		5,076	2,469		2,095	4,139	2,886	3,253	5,721	4,623	2,057		16,174	48,493
合計		5,076	2,469	0	3,409	7,662	4,268	4,101	5,910	4,623	2,057	0	16,174	55,749

3.1.3. 講座・観覧会・研修会等参加者状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
講座・講演会	648	778	508	1,102	1,280	901	609	770	854	764	1,231	1,172	10,617
サロン・ド・小田原	26	42	0	0	0	47	0	20	0	0	67	0	202
研修・実習・学校	9	47	181	178	251	194	193	155	391	23	79	20	1,721
ボランティア活動	344	321	229	314	347	318	346	318	274	278	341	354	3,784
博物館実務実習				67	122								189
合計	1,027	1,188	918	1,661	2,000	1,460	1,148	1,263	1,519	1,065	1,718	1,546	16,513

- ・「講座・講演会」は、博物館主催の自然科学講演会、他の機関との共催講演会、博物館主催講座、よろずスタジオ（友の会との共催を含む）、自由研究なんでも相談の参加者数。
- ・「研修・実習・学校」には、博物館見学実習、理科学習や総合的な学習への対応、中学生や高校生の職場体験、教員の各種研修、学校の各種研修などの人数（館内実施のみ）。
- ・ボランティア活動は、学芸ボランティア、ライブラリーボランティア、展示解説ボランティアの活動延べ数。
- ・利用人数は、実際に利用した人数（延べ人数）によって算出している（3日間の講座で各日40人参加した場合、120人と算出）。

3.2. 年度別利用者数の推移

	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003
開館日数	10	297	301	301	299	298	301	307	307	303
利用者										
入館者	(24,374)	(453,210)	(393,932)	(377,187)	(349,425)	(295,118)	(270,166)	(254,478)	(267,625)	(268,851)
常設展入場者	24,374	453,210	393,932	377,187	349,425	295,118	270,166	254,478	267,625	268,851
特別展示室入場者		42,951	109,851	99,825	96,573	77,239	77,058	67,397	105,344	108,259
ライブラリー利用者						129,726	117,747	100,307	103,086	104,128
講座・観覧会・研修等参加者		2,381	2,402	1,683	1,708	1,943	6,634	2,962	2,136	3,280

	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
開館日数	299	305	309	311	308	306	304	308	305	299
利用者						306,563	299,089	344,328	355,803	352,066
入館者	(242,368)	(234,012)	(241,549)	(232,650)	(232,046)	(217,690)	(208,682)	323,873	334,695	329,340
常設展入場者	242,368	234,012	241,549	232,650	232,046	217,690	208,682	241,344	242,524	240,240
特別展示室入場者	107,992	117,014	108,588	113,682	98,305	103,527	82,631	113,601	112,793	73,769
ライブラリー利用者	89,973	94,166	97,399	97,072	92,465	87,370	82,840	90,131	95,337	97,463
講座・観覧会・研修等参加者	5,561	9,291	7,863	8,328	8,572	10,344	6,817	16,827	18,294	24,765

	2014	2015	2016	2017	2018
開館日数	287	288	286	289	290
利用者	326,030	311,391	338,554	341,443	333,731
入館者	310,088	295,644	315,978	319,134	313,533
常設展入場者	227,354	220,651	236,404	239,678	239,320
特別展示室入場者	117,841	71,908	98,234	94,284	55,749
ライブラリー利用者	92,401	94,699	87,411	91,143	98,136
講座・観覧会・研修等参加者	14,631	11,232	18,719	17,212	16,513

3.3. 特別展・企画展開催実績

【特別展】

No	開催期間	タイトル	日数	入館者		
				有料	無料	合計
1	1995 年 10 月 7 日～11 月 26 日	チョウとガの世界	41	3,247	13,655	16,902
2	1996 年 3 月 1 日～5 月 12 日	日本最古の霊長類・中津層出土のサル化石	63	-	94,566	94,566
3	1996 年 7 月 20 日～9 月 23 日	追われる生きものたち	58	19,011	33,475	52,486
4	1997 年 3 月 1 日～5 月 11 日	櫻井コレクションの魅力ー偉大なアマチュア自然科学者の軌跡ー	61	-	40,848	40,848
5	1997 年 7 月 20 日～11 月 3 日	地球再発見ー新しい地球像をもとめてー	92	18,033	46,886	64,919
6	1998 年 2 月 1 日～3 月 31 日	日本の魚学・水産学事始めーフランチ・ヒルゲンドルフ展ー	48	1,557	7,398	8,955
7	1998 年 7 月 18 日～9 月 27 日	オオカミとその仲間たちーイヌ科動物の世界ー	61	17,714	30,588	48,302
8	1999 年 1 月 30 日～3 月 31 日	カニの姿ー酒井コレクションからー	51	3,746	14,228	17,974
9	1999 年 7 月 17 日～9 月 5 日	海から生まれた神奈川ー伊豆・小笠原弧の形成と活断層ー	43	8,585	16,807	25,392
10	1999 年 10 月 1 日～11 月 28 日	のぞいてみよう！5 億年前の海ー三葉虫が見た世界ー	49	4,690	21,470	26,160
11	2000 年 7 月 15 日～9 月 3 日	特別展 サルがいて、ヒトがいてー野生動物との共存を考えるー	43	9,949	24,359	34,308
12	2001 年 2 月 10 日～4 月 8 日	ふしぎ大陸 南極展	49	2,141	11,643	13,784
13	2001 年 7 月 20 日～9 月 16 日	神奈川の植物 その 10 余年の変化	51	6,197	10,886	17,083
14	2001 年 10 月 20 日～12 月 16 日	地球を見るー宇宙から見た神奈川ー	50	6,511	13,628	20,139
15	2002 年 7 月 20 日～9 月 29 日	人と大地とーWonderful Earthー	64	12,891	23,674	36,565
16	2002 年 12 月 7 日～3 月 2 日	ザ・シャークー鯨の進化と適応・ケースコレクションよりー	68	11,840	19,211	31,051
17	2003 年 7 月 19 日～9 月 15 日	侵略とかく乱のはてにー未来へつなげる自然とはー	51	14,109	25,477	39,586
18	2003 年 11 月 1 日～1 月 25 日	丹沢の自然ーその生き立ちと生きものー	69	6,186	11,376	17,562
19	2004 年 7 月 17 日～10 月 31 日	東洋のガラパゴス 小笠原ー固有生物の魅力とその危機ー	93	17,602	31,862	49,464
20	2005 年 7 月 16 日～11 月 6 日	化石どうぶつ園ー北アメリカ漸新世の哺乳類ー	105	22,243	54,988	77,231
21	2006 年 7 月 15 日～11 月 5 日	ふしぎな生きもの菌類ー動物？植物？それとも？ー	106	18,408	54,099	72,507
22	2007 年 7 月 21 日～11 月 4 日	ナウマンゾウがいた！ー温暖期の神奈川ー	100	20,016	57,007	77,023
23	2008 年 7 月 19 日～11 月 19 日	「箱根火山」いま証される噴火の歴史	106	20,312	44,001	64,313
24	2009 年 7 月 18 日～11 月 8 日	木の洞をのぞいてみたらー樹洞の生きものたちー	105	19,109	84,418	103,527
25	2010 年 7 月 17 日～11 月 7 日	日本列島 20 億年 その生き立ちを探る	104	19,727	33,939	53,666
26	2011 年 7 月 16 日～11 月 6 日	およげ！ ゲンゴロウくんー水辺に生きる虫たちー	104	18,183	52,723	70,906
27	2012 年 7 月 14 日～11 月 4 日	大空の覇者ー大トンボ展ー	103	23,070	42,666	65,736
28	2013 年 7 月 20 日～11 月 4 日	益田ーと日本の魚類学ー魚類図鑑に生涯を捧げた DANDYー	97	16,964	27,170	44,134
29	2014 年 7 月 19 日～11 月 3 日	どうする？どうなる！外来生物ーとりもどそう 私たちの原風景	96	25,091	49,160	74,251
30	2015 年 7 月 18 日～11 月 3 日	生き物を描くーサイエンスのための細密描画ー	99	15,379	21,035	36,414
31	2016 年 7 月 16 日～11 月 6 日	Minerals in the Earthー大地からの贈り物ー	101	25,565	38,041	63,606
32	2017 年 7 月 15 日～11 月 5 日	地球を「はぎ取る」ー地層が伝える大地の記憶ー	103	22,175	34,239	56,414
33	2018 年 7 月 14 日～11 月 4 日	植物誌をつくろう！ー『神奈川県植物誌 2018』のできるまでとこれからー	103	7,256	12,828	20,084

【企画展】

No	期間	タイトル	日数	入館者
1	1996 年 6 月 8 日～6 月 23 日	新収資料展	13	10,501
2	1996 年 12 月 5 日～12 月 15 日	文化財保護ポスター展	10	1,471
3	1996 年 12 月 20 日～1 月 31 日	ゆく年くる年展	30	10,194
4	1997 年 5 月 23 日～6 月 22 日	ふれる彫刻 100 展	25	-
5	1997 年 12 月 6 日～12 月 14 日	文化財保護ポスター展	8	-
6	1997 年 11 月 15 日～11 月 24 日	新収集資料展	9	6,374
7	1997 年 12 月 20 日～1 月 11 日	ゆく年くる年展	12	2,997
8	1998 年 4 月 25 日～5 月 24 日	植物画で観る山の花 ―小林政紘作品集より―	26	13,375
9	1998 年 10 月 24 日～11 月 23 日	ふれる彫刻 Part 2 ―地球の心を彫る！	26	14,316
10	1998 年 12 月 12 日～1 月 10 日	新収集資料展	12	4,168
11	1999 年 4 月 24 日～5 月 30 日	北アルプスの四季―岳をめぐる―	32	15,119
12	1999 年 12 月 11 日～1 月 16 日	カラー魚拓の世界	24	6,082
13	2000 年 3 月 18 日～5 月 14 日	平成 11 年度活動報告展 開かれた博物館をめざして ―生命の星・地球博物館の 5 年間の歩み―	52	17,647
14	2000 年 9 月 23 日～11 月 5 日	切手で語る魚類の世界	42	11,797
15	2000 年 10 月 7 日～10 月 8 日	田中茂穂博士と魚学研究ゆかりの品々	2	600
16	2002 年 1 月 4 日～1 月 27 日	地球の息吹 富士彩々	22	7,708
17	2002 年 2 月 16 日～3 月 17 日	みんなの手づくり恐竜展	25	14,003
18	2002 年 3 月 21 日～ 4 月 21 日	神奈川の自然を蝕む移入生物たち	26	13,029
19	2002 年 4 月 27 日～6 月 2 日	新収資料展	34	3,363
20	2003 年 3 月 21 日～4 月 6 日	日本の自然にヘラクレスはいらない ―移入昆虫がもたらす諸問題を考える―	17	9,442
21	2003 年	友の会活動報告および活動紹介展	-	-
22	2003 年 4 月 26 日～6 月 8 日	活動報告展―学芸員のお仕事	38	18,711
23	2004 年 3 月 20 日～4 月 4 日	きらわれものだよ、全員集合！ ―きらわれものたちの意外な素顔―	14	8,263
24	2004 年	博物館友の会活動報告および活動紹介展	-	-
25	2004 年 4 月 24 日～6 月 6 日	活動報告展―学芸員の腕自慢	33	28,714
26	2004 年	きのこアート展	-	-
27	2004 年 12 月 18 日～2 月 27 日	+2℃の世界 ―縄文時代に見る地球温暖化―	56	23,669
28	2005 年 3 月 20 日～4 月 10 日	博物館 10 年の歩み・友の会活動紹介	20	5,180
29	2005 年 4 月 29 日～5 月 29 日	収蔵資料展	26	15,925
30	2005 年 12 月 10 日～2 月 12 日	丹沢～むかし・今・あした～	51	14,785
31	2006 年 3 月 18 日～ 4 月 9 日	マイミュージアム・みんなの活動報告展 ・マイミュージアム写真展	19	9,997
32	2006 年 4 月 29 日～5 月 28 日	学芸員の活動報告展	26	12,716
33	2006 年 12 月 9 日～2 月 25 日	パノラマにつぼん ～地球観測衛星の魅力～	64	15,939
34	2007 年 3 月 17 日～ 5 月 6 日	みんなの活動報告展	45	16,883
35	2007 年 12 月 8 日～2 月 24 日	日本最後の秘境 南硫黄島	65	24,476
36	2008 年 4 月 19 日～5 月 18 日	学芸員の活動報告展	27	15,041
37	2008 年 12 月 6 日～2 月 22 日	46 億年 地球の仕事 ～地質写真家がみた世界の地形～	62	14,954
38	2009 年 4 月 18 日～5 月 31 日	学芸員の活動報告展	37	16,352
39	2009 年 12 月 5 日～2 月 21 日	押し葉 ～古瀬 義 植物標本コレクション～	60	9,553
40	2010 年 4 月 17 日～5 月 30 日	学芸員の活動報告展	37	16,135
41	2010 年 12 月 11 日～2 月 27 日	日本最初の植物同好会 ～横浜植物会の 100 年～	63	10,132
42	2011 年 4 月 16 日～5 月 29 日	学芸員の活動報告展	38	18,560
43	2011 年 12 月 10 日～2 月 26 日	箱根ジオパークをめざして ―箱根・小田原・真鶴・湯河原の再発見！―	63	17,204
44	2012 年 4 月 21 日～5 月 27 日	学芸員の活動報告展	32	14,210
45	2012 年 12 月 15 日～2 月 24 日	博物館の標本工房 Atelierum specimnum animalum in museo	56	28,574
46	2013 年 4 月 20 日～5 月 26 日	学芸員の活動報告展	32	10,631
47	2013 年 12 月 14 日～2 月 23 日	アンデスを越えて ―南米パタゴニアの火山地質調査から―	56	14,921
48	2014 年 4 月 19 日～5 月 25 日	学芸員の活動報告展	30	11,626
49	2014 年 12 月 13 日～3 月 1 日	恐竜の玉手箱	53	30,786
50	2015 年 4 月 25 日～5 月 24 日	学芸員の活動報告展	24	6,619
51	2015 年 12 月 19 日～2 月 28 日	日本のスゲ 勢ぞろい ―撮って 集めた 269 種！―	46	18,150
52	2016 年 12 月 17 日～2 月 26 日	石展 2 ―かながわの大地が生み出した石材―	46	21,480
53	2017 年 12 月 16 日～2 月 25 日	レッドデータの生物 ―知って守ろう 神奈川の生き物たち―	47	25,734
54	2018 年 11 月 17 日～12 月 9 日	日本最後の秘境 南硫黄島 ～10 年ぶりの学術調査から～	19	8,330
55	2019 年 3 月 2 日～5 月 12 日	箱根ジオパーク展 ～身近な火山と友だちになる～	60 (24)	37,991 (16,174)

()内は、2019 年 3 月 31 日まで

3.4 資料登録実績

資料登録実績は、標本とアーカイブズを分けて、小計を算出し、資料に付随して登録した付随メディア数も示した。また、合計については、登録件数に加え、登録点数を算出した（47 ページを参照）。

分野	1994 年度	1995 年度	1996 年度	1997 年度	1998 年度	1999 年度	2000 年度	2001 年度	2002 年度	2003 年度	2004 年度	2005 年度	2006 年度
【資料】＜標本＞													
維管束植物		167,334	2,310	4,003	4,494	5,352	3,754		1,333	1,281	1,507	1,981	9,879
植物群落									10	40	64		58
コケ		2,670	14	83	6	7	61						
菌類・地衣類			2	459	218	1,717	1,001						
藻類													
植物その他				5			2						
魚類		846	733	3,108	1,621	640	428	1,343	1,722	879	1,635	2,583	3,127
哺乳類		1,432	65	1				417	170	8	21	64	194
鳥類												4	149
両生類													
爬虫類													
軟体動物		3,390	1	114	705	2,616		36	147	9	93	12	397
甲殻類					4,218		12				15	439	559
動物その他					28	4	2	11					
昆虫		26,839	817	742	623	6						1	
クモ													
化石		2,220	3,477	21	594	2,304		72	24	3		86	1
岩石			492	259	52	32			1,173	128		434	
鉱物		181		92					1,472			5	11,061
地質・ボーリング		1											1
はぎ取り													
地学その他													
衛星画像										401		27	
小計	0	*1204,913	7,911	8,887	12,559	12,678	5,260	1,879	6,051	2,749	3,335	5,636	25,426
【資料】＜アーカイブズ＞													
植物標本写真													
魚類写真	1,345	*2 6,248	3,492	5,364	6,005	6,440	7,110	3,402	7,211	13,361	3,780	813	1,986
哺乳類写真													
鳥類写真													
両生類写真													
爬虫類写真													
昆虫写真													
クモ写真													
衛星処理画像													70
景観画像													378
博物館活動													
菌類細密画													
甲殻類細密画												59	142
小計	1,345	*1 6,248	3,492	5,364	6,005	6,440	7,110	3,402	7,211	13,361	3,780	872	2,576
【資料】＜ライブラリー＞													
図書										11,355	886	772	900
雑誌										2,730	95	51	58
別刷り													
小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14,085	981	823	958
資料合計	1,345	*1211,161	11,403	14,251	18,564	19,118	12,370	5,281	13,262	30,195	8,096	7,331	28,960
【付随メディア】*2001 年度のシステム更新により構築された。													
維管束植物								6					
非維管束植物													
植物その他													
魚類原画像													
魚類文書													
哺乳類											1		31
鳥類											98		
両生類													
爬虫類													
無脊椎動物								112			9	1	
昆虫原画像								798					
クモ原画像													
化石								4,100			2		
地学								100	886	73			
衛星画像										298	88	26	
菌類細密画													
甲殻類細密画												609	95
小計								5,116	886	371	198	636	126

*1 1995年度の小計は、誤りを修正したため、年報21号に掲載されていた数値と異なる。
 *2 1995年度の魚類写真の登録件数は、1994年度の登録件数と分割して掲載したため、年報第13号までの数値とは異なる。
 *3 2014年度と2015年度のはぎ取りの登録件数は、誤りを修正したため、年報第21号までの数値とは異なる。
 *4 2015年度の両生類写真と爬虫類写真の登録件数は、誤りを修正したため、年報第21号までの数値とは異なる。
 *5 2015年度と2016年度の菌類細密画の登録件数は、誤りを修正したため、年報第22号までの数値とは異なる。
 *6 アーカイブズの甲殻類細密画の小計は、誤りを修正したため、年報第22号までの数値とは異なる。
 *7 付随メディアの登録件数は、誤りを修正したため、年報第22号までの数値とは異なる。
 *8 2017年度の図書、雑誌の登録件数は、誤りを修正したため、年報第23号までの数値とは異なる。

2007 年度	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	合計	
												登録件数	登録点数
10,136	13,677	5,429	6,975	5,528	3,742	6,899	14,643	20,361	10,743	3,837	8,241	313,439	313,439
					3		89					264	264
					6,525		1			151		9,518	9,518
		13,174	1,415	4,565	596	936	1,677	723	1,261	518	844	29,106	29,106
	2,062				1,368	906					239	4,575	4,575
					247				1,391	80		1,725	1,727
2,377	2,207	2,908	1,981	2,325	4,267	1,301	2,013	2,371	1,942	2,723	5,706	50,786	100,375
634	482	178	616	460	286	368	207	169	107	13	360	5,351	5,362
212	281	76	209	434	196	102	30	244	120	59	28	3,045	3,051
	4	644	53	19	1	64	101	312	286	52	141	1,270	1,270
									74	103	123	707	707
136	314	4,626	4,165	3,228	1,592	449	700	543	3,789	1,250	1,188	29,500	30,045
1,520	1,237	231	471	315	1,777	3,456	3,190	1,109	395	560	744	20,248	20,553
8	3				10		31		4	10	2	113	113
							8,846	11,629	11,466	3,073	7,333	71,375	71,375
									20		333	353	353
17	19	1,331	650	617	872	368	481	643	1,094	1,136	1,864	17,894	19,393
	1,008	2,266		172	200	160	205	304	1,845	1,564	2,100	12,394	12,394
			4,297	1,956	225	107	2,512	738	5,375	1,400	1,707	31,128	31,160
								1			1	4	4
							*8 7	*8 41		21	1	70	106
							17			6		23	23
234	81	36		135	24	60	55	57				1,110	1,110
15,274	21,375	30,899	20,832	19,754	21,931	15,176	34,805	39,245	39,912	16,556	30,955	603,998	656,023
						183	948	15	2	31		1,179	1,185
6,253	4,990	4,025	5,148	14,248	23,488	13,280	8,480	7,852	10,169	12,192	10,092	186,774	224,630
									1	9	5	15	109
									116	99	14	229	626
							*4 21		34	20	56	131	304
							*4 28	11	6	20	65	235	
										1,104		1,104	1,107
											1	1	1
42	17		7	6	3	8	1	4				158	158
983				1		1,099	115	144		8	13	2,741	2,741
									1,079	39,633	6,706	47,418	47,420
							*5	*5 485			13	498	645
99		48	26	33	32	36	15	15		3	*6	508	508
7,377	5,007	4,073	5,181	14,288	23,523	14,606	9,559	8,079	11,897	53,105	16,920	240,821	279,669
970	1,299	531	564	643	1,798	1,756	1,939	1,468	1,234	*8 1,133	1,675	28,923	28,923
107	57	140	62	55	34	50	77	80	88	*8 90	69	3,843	3,843
									340			340	340
1,077	1,356	671	626	698	1,832	1,806	2,016	1,548	1,662	1,223	1,744	33,106	33,106
23,728	27,738	35,643	26,639	34,740	47,286	31,588	46,380	48,872	53,471	70,886	49,619	877,925	968,798
	546	1,356		382		5,116	53	15	8	2		7,484	10,782
												0	0
					1,645							1,645	1,744
	15	1,397	3,477	2,113	22,124	3,974	8,222	8,654	9,904	9,664	9,588	79,132	102,238
									6	2	195	203	212
68	1		1				3	2			2	109	261
28								1	1	2		130	131
								10	5	1	1	17	126
			2					12	1		8	23	93
1	159	32	33	6				3	7	4	3	370	573
					1,195			2		9,829	115	11,939	12,135
											1	1	1
	3	7	4	37	860	158	195	528	1,294	525	450	8,163	11,140
	131	908			13,518	160	30		16	3	555	16,380	29,798
		10			492	84	55					1,053	1,053
									458			458	538
									814			1,518	1,518
97	855	3,710	3,517	2,538	39,834	9,492	8,558	9,227	12,514	*7 20,032	10,918	128,625	172,343

3.5. ウェブサイトアクセス実績(トップページアクセス数)

教育局総務室 ICT 推進グループから送付されてくるウェブサイトアクセス数

月\年度	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006
4 月				186	1,237	2,574	3,549	*	7,541	11,979	11,071	15,489	15,131
5 月				282	1,916	2,908	4,954	5,211	8,468	11,848	13,215	11,870	15,950
6 月				441	1,598	2,885	4,709	5,852	*	14,055	15,225	14,086	12,910
7 月				655	1,807	2,334	4,836	8,717	9,025	16,531	14,975	14,781	16,799
8 月				774	1,847	4,083	6,514	*	15,503	20,083	16,654	19,838	22,899
9 月				683	1,960	3,197	5,412	*	11,642	12,989	13,885	13,081	17,050
10 月				497	1,784	3,070	6,496	7,801	9,031	14,232	13,843	14,690	17,037
11 月				513	1,721	3,137	5,280	8,632	7,231	11,960	12,685	10,995	13,615
12 月				582	1,648	3,116	4,486	6,154	7,414	9,984	11,129	9,720	11,474
1 月				919	1,913	3,781	6,052	7068	11,210	11,551	12,471	12,993	14,008
2 月				834	1,954	3,623	6,053	6,471	12,125	9,583	11,680	11,580	13,607
3 月				1,136	2,413	3,845	5,878	5,319	11,185	9,405	10,523	13,494	13,934
合計				7,502	21,798	38,553	64,219	61,225	110,375	154,200	157,356	162,617	184,414
1 日平均				20.55	59.72	105.34	175.94	223.45	329.48	421.31	431.11	445.53	505.24

月\年度	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	合 計
4 月	15,404	17,371	13,374	16,955	18,753	20,579	30,638	32,309	34,108	33,847	31,296	35,003	
5 月	16,176	18,322	16,241	19,934	20,808	20,810	30,730	32,089	36,339	32,793	33,830	36,613	
6 月	14,200	15,401	14,482	15,831	15,776	18,604	28,123	30,744	28,040	30,331	33,067	34,776	
7 月	19,207	18,089	19,499	24,539	21,778	23,117	37,580	39,962	41,347	43,379	41,964	46,856	
8 月	25,040	26,442	23,293	28,580	29,898	29,693	52,015	58,221	59,194	55,027	57,878	59,611	
9 月	17,456	16,232	17,184	18,018	20,824	22,709	32,025	33,407	36,363	40,142	34,409	39,078	
10 月	18,089	16,157	16,240	18,271	18,950	24,982	30,821	31,227	31,626	35,352	35,059	31,488	
11 月	14,307	13,131	13,204	16,226	14,737	22,138	23,088	30,044	29,057	28,192	28,526	27,718	
12 月	12,054	11,249	11,230	12,869	13,721	24,483	23,275	23,960	24,815	25,115	27,165	25,209	
1 月	15,464	13,281	16,388	15,582	15,953	26,583	26,068	29,266	27,018	30,821	32,567	28,972	
2 月	14,965	12,386	15,478	15,641	15,864	27,069	22,090	29,705	31,388	29,280	32,123	28,133	
3 月	16,465	14,377	19,352	14,884	21,436	30,926	33,406	38,477	37,334	38,675	40,205	35,861	
合計	198,827	192,438	195,965	217,330	228,498	291,693	369,859	409,411	416,629	422,954	428,089	429,318	4,763,270
1 日平均	543.24	527.23	536.89	595.42	624.31	799.16	1,013.31	1,121.67	1,138.33	1,158.78	1,172.85	1,176.21	

*印：マシントラブルのため、記録なし

3.6. 魚類写真資料データベースのアクセス実績(ページビュー数)

月\年度	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
4 月	47,255	46,780	45,922	57,539	137,916	150,817	220,043	99,695
5 月	74,039	104,956	58,909	71,761	150,828	195,644	240,523	118,998
6 月	91,066	69,723	122,279	78,758	178,587	200,873	263,042	120,450
7 月	67,637	70,072	69,243	81,354	159,772	234,499	515,252	109,688
8 月	83,478	65,143	88,351	74,106	176,301	253,014	432,478	268,450
9 月	73,094	62,263	67,073	124,548	181,762	264,911	184,433	85,334
10 月	75,888	58,384	72,178	80,681	181,160	229,439	149,227	127,688
11 月	96,733	52,493	119,373	67,337	210,195	204,631	228,696	153,279
12 月	62,898	46,019	183,592	59,725	176,321	224,470	297,112	150,850
1 月	71,109	51,530	131,002	74,547	189,893	189,218	253,132	148,606
2 月	52,646	50,628	57,062	89,859	180,884	192,874	121,448	140,702
3 月	52,297	69,560	92,281	135,013	167,672	209,858	152,091	159,317
合 計	848,140	747,551	1,107,265	995,228	2,091,291	2,550,248	3,057,477	1,683,057
1 日平均	2,323.67	2,048.08	3,033.60	2,719.20	5,729.56	6,986.98	8,376.65	4,598.52

月\年度	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	合計
4 月	166,484	162,602	309,246	91,705	92,795	99,257	166, 540	
5 月	153,868	313,999	163,432	143,909	109,061	93,503	135, 032	
6 月	144,236	212,569	171,152	92,868	135,356	101,096	284, 671	
7 月	134,806	152,539	139,031	108,716	113,189	103,761	132, 036	
8 月	148,590	177,790	154,394	100,596	95,387	110,866	138, 800	
9 月	285,293	82,260	195,767	138,967	110,293	76,050	292, 529	
10 月	225,939	154,416	136,219	523,166	158,321	146,460	91, 936	
11 月	221,528	149,742	158,264	103,959	115,347	88,389	107, 602	
12 月	294,780	225,794	154,851	95,505	114,781	79,371	58, 432	
1 月	218,061	123,939	153,369	185,669	77,331	84,827	80, 193	
2 月	255,931	117,098	209,135	323,135	87,150	96,391	125, 974	
3 月	125,164	106,299	137,904	107,145	135,892	113,430	117, 955	
合 計	2,374,680	1,979,047	2,082,764	2,015,340	1,344,903	1,193,401	1, 731, 700	25,802,092
1 日平均	6,505.97	5,422.05	5,706.20	5,506.39	3,684.67	3,269.59	4, 744. 38	

国立科学博物館から送付されてくる魚類写真データベースアクセス数集計の日本語版の数字

3.7. FishPix のアクセス実績（ページビュー数）

月\年度	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
4 月	2,582	3,628	6,025	23,322	93,407	198,882	196,525	118,641
5 月	1,815	3,241	19,151	20,875	97,873	190,396	196,359	135,441
6 月	1,632	2,847	26,860	11,711	105,304	193,091	296,704	135,375
7 月	2,256	3,085	5,211	36,591	105,263	245,872	859,781	95,507
8 月	2,325	3,552	6,187	17,546	72,746	243,776	634,275	119,911
9 月	2,594	11,439	11,383	13,313	99,085	256,904	260,201	36,732
10 月	3,014	12,151	5,025	13,082	111,006	168,057	103,445	102,937
11 月	1,886	19,552	31,976	12,701	152,864	203,718	130,073	191,063
12 月	2,023	11,909	115,316	15,835	138,370	224,076	258,017	163,636
1 月	2,977	10,533	77,525	27,230	159,608	199,485	368,860	146,540
2 月	2,845	6,826	11,527	35,556	243,747	177,801	75,224	238,617
3 月	3,843	22,504	48,529	103,001	332,195	215,838	166,420	314,119
合 計	29,792	111,267	364,715	330,763	1,711,468	2,517,896	3,545,884	1,798,519
1 日平均	81.62	304.84	999.22	903.72	4,688.95	6,898.35	9,714.75	4,913.99

月\年度	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	合計
4 月	270,626	180,127	513,503	57,258	23,771	34,409	69,349	
5 月	160,802	430,334	121,742	105,152	31,433	33,159	56,618	
6 月	179,240	192,540	181,172	39,907	64,179	37,009	365,971	
7 月	205,817	299,288	197,461	50,543	45,105	35,773	105,722	
8 月	155,855	351,893	275,623	49,653	26,091	42,948	39,571	
9 月	341,199	55,493	335,630	72,875	30,042	29,340	261,338	
10 月	188,278	202,531	88,810	214,005	49,270	59,633	49,286	
11 月	272,550	234,042	162,126	46,273	28,459	27,791	58,064	
12 月	172,266	350,115	165,323	35,756	36,665	32,621	41,875	
1 月	244,346	134,166	365,763	78,702	23,785	33,317	126,443	
2 月	325,167	132,751	198,370	219,626	28,703	51,405	138,570	
3 月	102,502	93,876	149,483	27,362	61,970	43,186	140,383	
合 計	2,618,648	2,657,156	2,755,006	997,112	449,473	460,591	1,453,190	21,801,480
1 日平均	7,174.38	7,279.88	7,547.96	2,724.35	1,231.43	1,261.89	3,981.34	

国立科学博物館から送付されてくる魚類写真データベースアクセス数集計の英語版の数字

3.8. WESKAMS ミュージアム・リレー開催記録（参加者の→は各走開催中の人数動向）

回 (走)	実施 年/月/日	開催場所	参加人数（名）		
			一般	関係者	高校生
1	1997/10/17(金)	生命の星・地球博物館	59	21	30
2	1997/11/ 7(金)	箱根美術館→強羅公園	32	26	30
3	1997/12/ 3(水)	足柄森林公園・丸太の森→南足柄市郷土資料館	47	13	0
4	1998/ 1/28(水)	Antique Museum・江戸民具街道	22	20	30
5	1998/ 2/25(水)	小田原フラワーガーデン	60	16	30
6	1998/ 3/11(水)	箱根武士の里美術館	38	20	30
7	1998/ 4/ 3(金)	箱根ガラスの森美術館	29	27	20
8	1998/ 5/27(水)	箱根町立箱根湿生花園	26	21	30
9	1998/ 6/17(水)	生命の星・地球博物館→神奈川県温泉地学研究所	29	29	90
10	1998/ 7/ 8(水)	箱根美術館→強羅公園	39	27	58
11	1998/ 8/26(水)	箱根町立大涌谷自然科学館	12	21	28
12	1998/ 9/30(水)	箱根町立箱根芦之湯フラワーセンター	14	11	28
13	1998/10/14(水)	遠藤貝類博物館	15	16	30
14	1998/11/13(金)	箱根町立郷土資料館	13	13	70
15	1998/12/ 2(水)	本間寄木美術館	13	20	60
16	1999/ 1/20(水)	生命の星・地球博物館	21	20	70
17	1999/ 2/ 3(水)	小田原城天守閣と歴史見聞館	17	15	22
18	1999/ 3/23(火)	鈴廣のかまぼこ博物館	17	15	22
19	1999/ 4/16(金)	MOA美術館	150	25	100
20	1999/ 5/26(水)	箱根美術館→強羅公園	92	26	50
21	1999/ 6/29(火)	箱根ガラスの森美術館	28	15	50
22	1999/ 7/22(木)	生命の星・地球博物館	47	10	38
23	1999/ 8/25(水)	箱根町立箱根湿生花園→箱根武士の里美術館	25	30	20
24	1999/ 9/22(水)	彫刻の森美術館	14	19	40
25	1999/10/21(木)	遠藤貝類博物館	12	16	50
26	1999/11/19(金)	足柄森林公園・丸太の森→南足柄市郷土資料館	20	18	160
27	1999/12/ 9(木)	箱根芦ノ湖成川美術館	23	18	50
28	2000/ 1/19(水)	本間寄木美術館	10	18	50

回 (走)	実施 年/月/日	開催場所	参加人数 (名)		
			一般	関係者	高校生
29	2000/ 2/24(木)	小田原市郷土文化館	31	28	60
30	2000/ 3/30(木)	生命の星・地球博物館	42	30	20
31	2000/ 4/18(火)	Antique Museum・江戸民具街道	68	25	53
32	2000/ 5/19(金)	パール下中記念館	22	15	23
33	2000/ 6/ 7(水)	箱根美術館→強羅公園	46	20	67
34	2000/ 7/13(木)	箱根ガラスの森美術館	18	13	56
35	2000/ 8/23(水)	生命の星・地球博物館→神奈川県温泉地学研究所	88	27	21
36	2000/ 9/13(水)	報徳博物館	27	17	16
37	2000/10/12(木)	真鶴町立中川一政美術館→真鶴サボテンランド→遠藤貝類博物館	10	21	60
38	2000/11/ 2(木)	箱根町立郷土資料館	25	10	60
39	2000/12/ 8(金)	箱根ビジターセンター→箱根町立大涌谷自然科学館	17	16	60
40	2001/ 1/25(木)	生命の星・地球博物館	56	29	160
41	2001/ 2/22(木)	鈴廣のかまぼこ博物館	2	13	30
42	2001/ 3/23(金)	彫刻の森美術館	5	16	30
43	2001/ 4/13(金)	箱根武士の里美術館	5	20	30
44	2001/ 5/16(水)	箱根☆サン=テグジュペリ星の王子さまミュージアム	0	16	60
45	2001/ 6/ 8(金)	湯河原ゆかりの美術館	5	16	60
46	2001/ 7/19(木)	小田原市郷土文化館分館「松永記念館」と「老樗荘」	30	17	30
47	2001/ 8/30(木)	彫刻の森美術館(昼・夜 2回開催)	20→30	23→23	30→0
48	2001/ 9/27(木)	Antique Museum・江戸民具街道	20	16	30
49	2001/10/12(金)	真鶴町立中川一政美術館→真鶴サボテンランド→遠藤貝類博物館	7	26	60
50	2001/11/ 9(金)	生命の星・地球博物館	32	24	0
51	2001/12/ 7(金)	箱根ベゴニア園→オルゴールの小さな博物館・箱根→箱根おもちゃ博物館	50	16	30
52	2002/ 1/25(金)	箱根芦ノ湖成川美術館	35	18	30
53	2002/ 2/15(金)	小田原フラワーガーデン	56	25	60
54	2002/ 3/22(金)	小田原城天守閣小田原動物園	15	11	8
55	2002/ 4/14(日)	MOA美術館	3	15	0
56	2002/ 5/16(木)	箱根ガラスの森美術館	11	21	14
57	2002/ 6/14(金)	箱根ビジターセンター	17	15	42
58	2002/ 7/12(金)	松田山ハーブ館・ハーブガーデン→松田町自然館	10	12	16
59	2002/ 8/23(金)	彫刻の森美術館	15	26	0
60	2002/ 9/13(金)	生命の星・地球博物館	31	15	20
61	2002/10/18(金)	真鶴町立中川一政美術館→真鶴サボテンランド→遠藤貝類博物館	9	22	0
62	2002/11/ 1(金)	箱根町立郷土資料館	25	20	0
63	2002/12/12(木)	箱根園水族館	8	20	50
64	2003/ 1/17(金)	箱根ベゴニア園→オルゴールの小さな博物館・箱根→箱根おもちゃ博物館	12	18	22
65	2003/ 2/14(金)	本間寄木美術館→生命の星・地球博物館	20	22	60
66	2003/ 3/14(金)	湯河原ゆかりの美術館	6	6	10
67	2003/ 4/11(金)	箱根芦ノ湖成川美術館	10	15	0
68	2003/ 5/15(木)	Antique Museum・江戸民具街道	27	18	45
69	2003/ 6/ 6(金)	生命の星・地球博物館→鈴廣のかまぼこ博物館	10	16	40
70	2003/ 7/25(金)	小田原城天守閣→小田原城ミュージーゼ	20	19	13
71	2003/ 8/ 8(金)	MOA美術館	17	17	0
72	2003/ 9/30(火)	ポーラ美術館	63	23	0
73	2003/10/30(木)	箱根町立郷土資料館	52	13	0
74	2003/11/18(金)	真鶴町立中川一政美術館→真鶴サボテンランド→遠藤貝類博物館	37	22	40
75	2003/12/11(木)	箱根園水族館	10	11	30
76	2004/ 1/16(金)	生命の星・地球博物館→本間寄木美術館	16	18	15
77	2004/ 2/20(金)	小田原市尊徳記念館	15	11	40
78	2004/ 3/18(木)	彫刻の森美術館	13	17	5
79	2004/ 4/16(金)	箱根武士の里美術館→箱根町立箱根混生花園	26	19	40
80	2004/ 5/ 9(日)	箱根美術館→強羅公園→箱根写真美術館	43	19	0
81	2004/ 6/15(火)	箱根ガラスの森美術館	20	21	30
82	2004/ 7/ 2(金)	ポーラ美術館	61	22	15
83	2004/ 8/20(金)	生命の星・地球博物館	23	25	5
84	2004/ 9/ 3(金)	小田原城天守閣	14	11	0
85	2004/10/15(金)	真鶴町立中川一政美術館→遠藤貝類博物館	20	18	38
86	2004/11/12(金)	箱根町立郷土資料館→小田急箱根ベゴニア園→箱根おもちゃ博物館→オルゴールの小さな博物館・箱根	17	16	0
87	2004/12/10(金)	MOA美術館	37	10	30
88	2005/ 1/14(金)	箱根園水族館→箱根芦ノ湖成川美術館	17→29	10→17	20→0
89	2005/ 2/25(金)	小田原フラワーガーデン	36	15	22
90	2005/ 3/17(木)	彫刻の森美術館	44	25	0
91	2005/ 4/15(金)	湯河原ゆかりの美術館	28	12	0
92	2005/ 5/18(水)	箱根武士の里美術館→箱根町立箱根混生花園	15→23	10→11	40→40

回 (走)	実施 年/月/日	開催場所	参加人数(名)		
			一般	関係者	高校生
93	2005/ 6/10(金)	ポーラ美術館	70	29	40
94	2005/ 7/ 6(水)	箱根美術館→箱根写真美術館→強羅公園	39→39→39	35→35→35	40→40→40
95	2005/ 8/29(月)	本間寄木美術館→生命の星・地球博物館	20→27	10→23	0
96	2005/ 9/28(金)	箱根・芦ノ湖成川美術館	75	16	10
97	2005/10/12(水)	真鶴町立中川一政美術館→遠藤貝類博物館	33→33	24→24	50→50
98	2005/11/29(火)	箱根園水族館	30	13	40
99	2005/12/ 8(木)	箱根町立関所資料館→箱根駅伝ミュージアム	28→28	14→14	40→40
100	2006/ 1/14(土)	箱根ガラスの森美術館	82	33	10
101	2006/ 2/10(金)	小田原城天守閣→小田原城ミュージーゼ	25→25	22→22	
102	2006/ 3/17(金)	小田原市尊徳記念館	35	17	32
103	2006/ 4/21(金)	ポーラ美術館	73	19	68
104	2006/ 5/10(水)	箱根駅伝ミュージアム→函嶺・ふる里集蔵館	6→24	9→20	
105	2006/ 6/17(土)	小田原フラワーガーデン	25	13	
106	2006/ 7/ 6(木)	箱根武士の里美術館→箱根町立箱根湿生花園	12→15	7→11	60→60
107	2006/ 8/31(木)	本間寄木美術館→生命の星・地球博物館	15→15	7→17	0→30
108	2006/ 9/22(金)	箱根芦之湯フラワーセンター→周辺史跡の見学	25→25	11→11	60→60
109	2006/10/13(金)	MOA美術館	53	15	45
110	2006/11/10(金)	真鶴町立中川一政美術館→遠藤貝類博物館	38→38	14→12	45→0
111	2006/12/ 8(金)	箱根ガラスの森美術館	30	14	26
112	2007/ 1/19(金)	箱根園水族館	24	20	34
113	2007/ 2/23(金)	箱根ラリック美術館	62	13	40
114	2007/ 3/ 9(金)	箱根美術館→箱根写真美術館→強羅公園	36→36→36	19→19→19	70→70→70
115	2007/ 4/13(金)	箱根武士の里美術館→ポーラ美術館	13→35	5→15	30→60
116	2007/ 5/16(水)	箱根町立箱根芦之湯フラワーセンター→周辺史跡の見学	26→26	11→11	45→45
117	2007/ 6/29(金)	鈴鹿のかまぼこ博物館→湯河原町立湯河原美術館	22→22	12→12	60→60
118	2007/ 7/13(金)	箱根ガラスの森美術館	41	32	27
119	2007/ 8/28(火)	箱根町立箱根関所→箱根駅伝ミュージアム	20→20	7→5	7→9
120	2007/ 9/ 8(土)	生命の星・地球博物館	29	31	12
121	2007/10/26(金)	箱根町立箱根湿生花園→彫刻の森美術館	30→38	5→9	40→40
122	2007/11/13(火)	真鶴町立中川一政美術館→真鶴町海の学校	20→20	12→9	33→33
123	2007/12/ 7(金)	箱根ベゴニア園→箱根写真美術館→強羅公園	20→20→20	13→13→13	30→30→30
124	2008/ 1/18(金)	箱根園水族館→箱根・芦ノ湖成川美術館	14→37	8→9	34→34
125	2008/ 2/15(金)	小田原フラワーガーデン→小田原市尊徳記念館及び周辺史跡	14→37	8→9	34→34
126	2008/ 3/19(水)	本間寄木美術館→小田原城、小田原市郷土文化館	27→10	9→7	17→17
127	2008/ 4/23(水)	箱根武士の里美術館→ポーラ美術館	12→40	5→13	0
128	2008/ 5/21(水)	箱根美術館→強羅公園	30→30	12→10	64→65
129	2008/ 6/24(火)	湯河原町立湯河原美術館→MOA美術館	14→38	13→14	64→64
130	2008/ 7/15(火)	彫刻の森美術館→箱根ガラスの森美術館	24→24	12→26	60→60
131	2008/ 8/29(火)	玉村豊男ライフアートミュージアム→箱根神社宝物殿→箱根駅伝ミュージアム	13→7→1	10→8→7	0
132	2008/ 9/16(火)	箱根町立箱根関所→箱根町立箱根芦之湯フラワーセンター	3→4	11→8	50→50
133	2008/10/29(水)	箱根ラリック美術館→箱根町立箱根湿生花園	58→39	22→19	0
134	2008/11/ 7(金)	真鶴町立中川一政美術館→真鶴町海の学校	16→10	14→11	60→60
135	2008/12/10(水)	小田急箱根ベゴニア園→箱根トイミュージアム	9→10	11→14	40→40
136	2009/ 1/30(金)	本間寄木美術館→生命の星・地球博物館	7→16	5→14	33→33
137	2009/ 2/17(火)	小田原フラワーガーデン→小田原市尊徳記念館及び周辺史跡見学	23→22	22→21	50→50
138	2009/ 3/19(木)	松永記念館→小田原城天守閣・小田原市郷土文化館	35→35	8→11	12→12
139	2009/ 4/21(火)	箱根町立箱根湿生花園→ポーラ美術館	18→39	5→10	0
140	2009/ 5/15(金)	箱根美術館→箱根写真美術館→箱根強羅公園	17→17→17	23→27→27	0
141	2009/ 6/12(金)	小田原フラワーガーデン→松永記念館	12→10	11→15	0
142	2009/ 7/17(金)	箱根町立箱根芦之湯フラワーセンター→箱根ガラスの森美術館	15→44	5→12	0
143	2009/ 8/28(金)	玉村豊男ライフアートミュージアム→箱根駅伝ミュージアム→箱根町立箱根関所	16→17→10	10→9→10	0
144	2009/ 9/29(火)	真鶴町立中川一政美術館→真鶴町海の学校	16→13	6→3	0
145	2009/10/16(金)	彫刻の森美術館→箱根ビクターセンター	17→9	5→11	39→0
146	2009/11/27(金)	箱根町立郷土資料館→小田急箱根ベゴニア園	3→2	4→6	0
147	2009/12/11(金)	箱根ラリック美術館→箱根芦ノ湖成川美術館	64→33	9→10	0→31
148	2010/ 1/29(金)	湯河原町立湯河原美術館→MOA美術館	12→31	11→11	0→30
149	2010/ 2/ 5(金)	小田原城天守閣および小田原市郷土文化館→小田原市尊徳記念館とその周辺の史跡	17→13	4→4	39→43
150	2010/ 3/ 5(金)	本間寄木美術館→生命の星・地球博物館	9→14	5→5	0
151	2010/ 4/27(火)	彫刻の森美術館	11	6	0
152	2010/ 5/18(火)	箱根美術館→箱根写真美術館→箱根強羅公園	16→16→17	12→11→7	40→40→0
153	2010/ 6/ 8(火)	箱根ガラスの森美術館	31	12	0
154	2010/ 7/ 2(金)	箱根町立箱根湿生花園→箱根町立芦之湯フラワーセンターとその周辺散策	20→13	12→6	0
155	2010/ 8/27(金)	玉村豊男ライフアートミュージアム→箱根駅伝ミュージアム→箱根町立箱根関所	5→3→3	8→8→6	0
156	2010/ 9/17(金)	箱根ビクターセンター→ポーラ美術館	11→60	7→12	0

回 (走)	実施 年/月/日	開催場所	参加人数 (名)		
			一般	関係者	高校生
157	2010/10/15(金)	真鶴町立遠藤貝類博物館→真鶴町立中川一政美術館	22→25	10→12	43→43
158	2010/11/12(金)	箱根町立郷土資料館→小田原市郷土文化館→小田原城	19→21	6→6	0
159	2010/12/10(金)	箱根ラリック美術館→星の王子さまミュージアム	43→44	9→10	0
160	2011/ 1/16(日)	小田原フラワーガーデン→小田原市尊徳記念館・二宮尊徳生家	5→6	3→6	0
161	2011/ 2/18(金)	本間寄木美術館→生命の星・地球博物館	6→9	9→14	44→44
162	2011/ 3/ 4(金)	鈴廣のかまぼこ博物館→小田原市松永記念館	5→4	3→3	0
163	2011/ 4/27(水)	すどう美術館→小田原市尊徳記念館・二宮尊徳生家	11→8	9→5	50→50
164	2011/ 5/17(火)	箱根美術館→箱根写真美術館→箱根強羅公園	16→16→17	12→11→7	40→40→0
165	2011/ 6/ 8(水)	箱根ガラスの森美術館→小田原城	23→9	8→4	47→0
166	2011/ 7/ 8(金)	箱根町立箱根湿生花園→ポーラ美術館	13→63	7→27	0
167	2011/ 8/24(木)	松永記念館→箱根駅伝ミュージアム→箱根町立箱根関所	12→1→3	4→6→7	0
168	2011/ 9/ 3(土)	彫刻の森美術館→箱根ビジターセンター	10→6	6→5	0
169	2011/10/14(金)	真鶴町立中川一政美術館→真鶴町立遠藤貝類博物館	30→23	6→7	47
170	2011/11/18(金)	箱根町立郷土資料館	5	2	39
171	2011/12/16(金)	箱根・芦ノ湖成川美術館→箱根ラリック美術館→星の王子さまミュージアム箱根サン＝テグジュペリ	50→65→17	5→9→4	0
172	2012/ 1/20(金)	町立湯河原美術館→MOA美術館	16→13	4→4	0
173	2012/ 2/ 3(金)	小田原フラワーガーデン→鈴廣のかまぼこ博物館	6→6	3→2	0
174	2012/ 3/ 2(金)	本間寄木美術館→生命の星・地球博物館	7→11	3→10	0
175	2012/ 4/20(金)	小田原市郷土文化館→彫刻の森美術館	14→5	5→3	0
176	2012/ 5/18(金)	箱根美術館→箱根写真美術館→箱根強羅公園	26→26→26	7→7→7	0
177	2012/ 6/21(木)	箱根マイセンアンティーク美術館→箱根町立箱根芦之湯フラワーセンターとその周辺散策	24→8	3→3	0
178	2012/ 7/ 6(水)	箱根町立箱根湿生花園→ポーラ美術館	26→55	4→4	0
179	2012/ 8/23(木)	箱根駅伝ミュージアム→箱根町立箱根関所	7→11	3→3	0
180	2012/ 9/ 5(水)	箱根ビジターセンター→箱根ガラスの森美術館	13→31	4→14	0→40
181	2012/10/17(水)	真鶴アートミュージアム→真鶴町立中川一政美術館→真鶴町立遠藤貝類博物館	7→7→7	7→6→6	0→42→42
182	2012/11/15(木)	小田原城→箱根町立郷土資料館	22→1	4→4	0
183	2012/12/13(木)	箱根ラリック美術館→星の王子さまミュージアム箱根サン＝テグジュペリ	34→14	4→3	40→40
184	2013/ 1/17(木)	人間国宝美術館→町立湯河原美術館	18→9	5→5	0
185	2013/ 2/ 6(水)	小田原フラワーガーデン→すどう美術館→小田原市尊徳記念館・二宮尊徳生家	6→15→7	4→3→4	0
186	2013/ 3/ 1(金)	江戸民具街道→生命の星・地球博物館	11→9	13→9	0
187	2013/ 4/19(金)	町立湯河原美術館→MOA美術館	6→15	2→3	0
188	2013/ 5/17(金)	箱根美術館→箱根写真美術館→箱根強羅公園	28→28→28	11→11→11	35→35→35
189	2013/ 6/ 7(金)	箱根・芦ノ湖成川美術館→箱根駅伝ミュージアム→箱根町立箱根関所	40→16→17	14→11→11	0→43→43
190	2013/ 7/10(水)	箱根ガラスの森美術館→箱根ビジターセンター	66→25	10→8	0
191	2013/ 8/23(金)	箱根町立箱根湿生花園→生命の星・地球博物館	22→24	5→3	0
192	2013/ 9/13 (金)	彫刻の森美術館→ポーラ美術館	22→60	8→20	0
193	2013/10/17 (木)	真鶴アートミュージアム→真鶴町立中川一政美術館→真鶴町立遠藤貝類博物館	28→31→25	5→4→8	0
194	2013/11/15 (金)	箱根町立郷土資料館→小田原城→小田原文学館	11→25→21	6→5→6	0
195	2013/12/17 (火)	箱根ラリック美術館→星の王子さまミュージアム箱根サン＝テグジュペリ	30→17	10→11	0
196	2014/ 1/24 (金)	松永記念館→人間国宝美術館	14→11	8→7	0
197	2014/ 2/28 (金)	小田原フラワーガーデン→鈴廣のかまぼこ博物館	17→6	6→7	0
198	2014/ 3/26 (水)	すどう美術館→小田原市尊徳記念館・二宮尊徳生家	11→7	4→4	0
199	2014/ 4/25 (金)	箱根駅伝ミュージアム	1	2	0
200	2014/ 5/16 (金)	箱根美術館→箱根写真美術館→箱根強羅公園	34→34→34	19→19→19	0
201	2014/ 6/13 (金)	神奈川県立恩賜箱根公園→箱根町立箱根芦之湯フラワーセンターとその周辺散策	13→11	7→5	0
202	2014/ 7/ 9 (水)	箱根ガラスの森美術館	31	8	0
203	2014/ 7/11 (金)	すどう美術館→松田山ハーブガーデン	3→7	4→4	0
204	2014/ 8/29 (金)	箱根町立箱根湿性花園→箱根ビジターセンター	17→15	4→4	0
205	2014/ 9/25 (木)	真鶴アートミュージアム→真鶴町立中川一政美術館→真鶴町立遠藤貝類博物館	8→17→14	4→5→6	0
206	2014/10/24 (金)	箱根町立郷土資料館→小田原文学館→小田原城	11→14→18	5→5→6	0
207	2014/11/ 7 (金)	彫刻の森美術館→ポーラ美術館	17→70	3→5	0
208	2014/12/ 5 (金)	箱根ラリック美術館→星の王子さまミュージアム箱根サン＝テグジュペリ	40→12	6→8	0
209	2015/ 1/23 (金)	湯河原町立湯河原美術館→人間国宝美術館	14→18	3→3	0
210	2015/ 2/27 (金)	小田原フラワーガーデン→鈴廣のかまぼこ博物館	20→3	7→1	0
211	2015/ 3/20 (金)	徳富蘇峰記念館→小田原市郷土文化館→生命の星・地球博物館	22→11→21	3→3→3	0
212	2015/ 4/24 (金)	小田原城→小田原市郷土文化館	39→20	4→3	0
213	2015/ 5/15 (金)	箱根美術館→箱根写真美術館→箱根強羅公園	28→30→30	8→3→3	0
214	2015/ 6/26 (金)	すどう美術館→松田山ハーブガーデン	16→9	3→2	0
215	2015/ 7/ 8 (水)	箱根ガラスの森美術館→ポーラ美術館	70→103	5→10	0
216	2015/ 8/21 (金)	箱根町立箱根湿生花園→箱根ビジターセンター	7→11	6→3	0
217	2015/ 9/25 (金)	彫刻の森美術館→神奈川県立恩賜箱根公園	15→11	2→2	0
218	2015/10/16 (金)	真鶴町立中川一政美術館→真鶴町立遠藤貝類博物館	24→18	3→3	0
219	2015/11/13 (金)	小田原文学館→MOA美術館	5→37	2→1	0
220	2015/12/ 2 (水)	箱根ラリック美術館→星の王子さまミュージアム箱根サン＝テグジュペリ	48→24	5→5	0

回 (走)	実施 年/月/日	開催場所	参加人数 (名)		
			一般	関係者	高校生
221	2016/ 1/ 8 (金)	箱根・芦ノ湖成川美術館→箱根駅伝ミュージアム	31→11	3→3	0
222	2016/ 2/26 (金)	小田原フラワーガーデン→生命の星・地球博物館	14→5	1→3	0
223	2016/ 3/18 (金)	人間国宝美術館→町立湯河原美術館	13→13	4→1	0
224	2016/ 4/22 (金)	本間寄木美術館	34	8	0
225	2016/ 5/13 (金)	箱根美術館→箱根写真美術館→箱根強羅公園	11→11→10	2→1→2	0
226	2016/ 5/27 (金)	箱根関所→彫刻の森美術館	17→10	5→4	0
227	2016/ 7/13 (水)	星の王子さまミュージアム箱根サン＝テグジュペリ→箱根ガラスの森美術館	6→32	2→8	0
228	2016/ 8/26 (金)	箱根駅伝ミュージアム→箱根ビジターセンター	3→8	4→5	0
229	2016/ 9/28 (水)	真鶴町立中川一政美術館→真鶴町立遠藤貝類博物館	8→8	4→4	0
230	2016/10/21 (金)	松田山ハーブガーデン→箱根町立郷土資料館	4→3	3→5	0
231	2016/11/25 (金)	小田原文学館→松永記念館	7→14	2→3	0
232	2016/12/ 2 (金)	神奈川県立恩賜箱根公園→箱根ラリック美術館	13→19	3→4	0
233	2017/ 1/12 (木)	小田原城	54	5	0
234	2017/ 2/24 (金)	小田原フラワーガーデン→生命の星・地球博物館	18→21	3→3	0
235	2017/ 3/17 (金)	人間国宝美術館→町立湯河原美術館	13→10	2→1	0
236	2017/ 4/21 (金)	MOA美術館→小田原城天守閣	22→33	3→4	0
237	2017/ 5/19 (金)	箱根美術館→箱根写真美術館→箱根強羅公園	14→14→12	3→2→2	0
238	2017/ 6/ 2 (金)	松田山ハーブガーデン→小田原市尊徳記念館	7→11	2→3	0
239	2017/ 7/12 (水)	箱根駅伝ミュージアム→箱根ガラスの森美術館	5→27	3→7	0
240	2017/ 8/25 (金)	箱根湿生花園→箱根ビジターセンター	7→9	1→1	0
241	2017/ 9/22 (金)	箱根関所→恩賜箱根公園→本間寄木美術館	9→9→23	3→2→4	0
242	2017/10/27 (金)	小田原文学館→小田原城天守閣	10→12	2→3	0
243	2017/11/17 (金)	松永記念館→箱根町立郷土資料館	13→7	2→2	0
244	2017/12/ 1 (金)	箱根・芦ノ湖 成川美術館→箱根神社宝物殿	30→27	2→2	0
245	2017/12/15 (金)	箱根ラリック美術館→星の王子さまミュージアム	21→7	2→1	0
246	2018/ 2/23 (金)	小田原フラワーガーデン→生命の星・地球博物館	7→11	2→3	0
247	2018/ 3/16 (金)	人間国宝美術館→湯河原町立湯河原美術館	9→11	2→2	0
248	2018/ 4/20 (金)	箱根ビジターセンター→箱根湿生花園	14→14	4→3	0
249	2018/ 5/16 (水)	箱根美術館→箱根写真美術館→箱根強羅公園	15→15→15	4→4→4	0
250	2018/ 7/18 (水)	箱根駅伝ミュージアム→箱根ガラスの森美術館	1→24	4→10	0
251	2018/ 8/24 (金)	生命の星・地球博物館→小田原市尊徳記念館	14→10	2→2	0
252	2018/ 9/14 (金)	箱根関所→恩賜箱根公園	16→9	2→2	0
253	2018/10/19 (金)	真鶴町立中川一政美術館→真鶴町立遠藤貝類博物館	10→8	4→3	0
254	2018/11/ 9 (金)	小田原文学館→松永記念館	8→13	1→1	0
255	2018/11/16 (金)	徳富蘇峰記念館→箱根町立郷土資料館	8→18	4→1	0
256	2018/12/ 7 (金)	おだわら諏訪の原公園→小田原城天守閣	5→14	1→1	0
257	2018/12/13 (木)	箱根ラリック美術館→星の王子さまミュージアム 箱根サン＝テグジュペリ	24→8	1→1	0
258	2019/ 2/ 8 (金)	MOA美術館	20	3	0
259	2019/ 3/ 8 (金)	小田原フラワーガーデン→生命の星・地球博物館	5→8	1→3	0
260	2019/ 3/15 (金)	人間国宝美術館→町立湯河原美術館	5→6	1→2	0

3.9. 来館者アンケート

来館者の来館回数、満足度等のアンケートを行った。また、イベント開催中にアンケートを実施することで、広報物(チラシ等)の効果を調べる基礎資料とした。

3.9.1. 館内でのアンケート(記述式調査)

[調査方法]

博物館職員が来館者に対し聞き取り、記述した。

[調査期間]

3月16日(土)11時20分～12時、13時～15時

3月17日(日)10時30分～16時

[回答数]

258 枚

[調査項目]

年代／居住地／職業／来館回数／広報物の利用について／イベントの参加について／満足度／自由意見

アンケート結果

問 1 あなたの年齢（年代）はどれですか？

4～5 歳	6～7 歳	8～9 歳	10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上	回答なし	合計
2	9	17	19	7	85	92	13	11	2	1	258
0.8%	3.5%	6.6%	7.4%	2.7%	32.9%	35.7%	5.0%	4.3%	0.8%	0.4%	100.0%

問 2 あなたのお住まいはどこですか？

神奈川県	東京都	千葉県	静岡県	埼玉県	茨城県	新潟県	回答無し	合計
204	24	9	9	2	1	1	8	258
79.1%	9.3%	3.5%	3.5%	0.8%	0.4%	0.4%	3.1%	100.0%

上記、神奈川県と回答した人の市町村内訳

小田原市	横浜市	川崎市	平塚市	相模原市	二宮町	藤沢市	茅ヶ崎市	鎌倉市	厚木市
88	25	16	13	10	7	6	5	4	3
綾瀬市	伊勢原市	開成町	海老名市	大磯町	秦野市	大井町	座間市	寒川町	逗子市
3	3	3	2	2	2	1	1	1	1
真鶴町	南足柄市	山北町	大和市	湯河原市	横須賀市	回答なし			
1	1	1	1	1	1	2			

問 3 あなたの学年または職業は？

幼稚園児 (保育園)	小学生	中学生	高校生	大学生 (院生)	会社員	自営業	公務員	その他 無職含む	回答無し	合計
4	40	1	0	2	96	9	4	89	13	258
1.6%	15.5%	0.4%	0.0%	0.8%	37.2%	3.5%	1.6%	34.5%	5.0%	100.0%

問 4 博物館への来館回数は今回、何回目ですか？

今回が初めて	今回が2回目	3回以上来館	無回答	合計
79	29	149	1	258
30.6%	11.2%	57.8%	0.4%	100.0%

問 5 今回のイベント(ミューズ・フェスタ)には、過去にも参加したことがありますか？

今回が初めて	今回が2回目	3回以上来館	無回答	合計
194	30	26	8	258
75.2%	11.6%	10.1%	3.1%	100.0%

問 6 ミューズ・フェスタについての情報を何でお知りになりましたか？(複数回答可)

チラシ	ポスター	県のたより	広報小田原	キャンパスおだわら	週刊 Car&レジャー
85	6	7	5	2	0
32.9%	2.3%	2.7%	1.9%	0.8%	0.0%
新聞	tvk データ放送	当館公式 Web サイト	県 Web サイト	Twitter	Facebook
4	0	45	3	0	2
1.6%	0.0%	17.4%	1.2%	0.0%	0.8%
Instagram	友人・家族から	その他	来館して初めて知った	回答無し	
1	17	6	78	1	
0.4%	6.6%	2.3%	30.2%	0.4%	

上記、チラシで情報を得た人のチラシの受け取り場所の内訳

学校・保育園	駅	他の施設	家族・友人等	当博物館内	回答なし
56	1	5	4	1	18

問 7 本日のお出かけは次のどれにあたりますか？

日帰り行楽	泊を伴う旅行	回答なし	合計
203	40	15	258
78.7%	15.5%	5.8%	100.0%

問 8 本日の当館へのご来館は、いつ計画しましたか？

当日	前日	2～3日前	1週間前	2週間前	1か月以上前	回答無し	合計
54	48	20	43	43	31	19	258
20.9%	18.6%	7.8%	16.7%	16.7%	12.0%	7.4%	100.0%

問 9 旅行、行楽を計画になる際、よく利用するものはなんですか？(複数回答)

チラシ	新聞	地域情報誌	お出かけ情報誌	お出かけ 情報サイト	その他の ウェブサイト	その他	回答無し	合計
67	19	71	22	69	36	16	34	334

問 10 ミューズ・フェスタの満足度（また参加してみたいですか？）

参加したい	参加したくない	回答無し	合計
237	0	21	258
91.9%	0.0%	8.1%	100.0%

問 11 全体の満足度は次のどれに該当しますか？

大変満足	満足	不満	大変不満	回答無し	合計
111	124	1	1	21	258
43.0%	48.1%	0.4%	0.4%	8.1%	100.0%

3.9.2. 常設展示室での利用者アンケート（シール式）

[調査方法]

1 階常設展入口内にポスターを掲示して、自身の居住地域の欄にシールを貼ってもらった。

[調査期間と時間]

2018 年 4 月 1 日（日）～4 月 8 日（日） 午前 9 時～午後 4 時 30 分

2018 年 4 月 28 日（土）～5 月 6 日（日） 午前 9 時～午後 4 時 30 分

2018 年 8 月 10 日（金）～8 月 16 日（木） 午前 9 時～午後 4 時 30 分

[集計結果]

調査期間の入館者数とアンケート協力者数

期 間	入館者数	協力者数	協力者の割合
2018 年 4 月 1 日～4 月 8 日	6,307	1,270	20.1%
2018 年 4 月 28 日～5 月 6 日	14,800	3,770	25.5%
2018 年 8 月 10 日～8 月 16 日	16,589	4,647	28.0%
全期間の合計	37,696	9,687	25.7%

居住地域（大区分）

期 間	神奈川県	関東地方	北海道	東北地方	中部地方	近畿地方	中国地方	四国地方	九州・沖縄地方	外国
2018 年 4 月 1 日～4 月 8 日	661	444	7	8	79	20	3	1	10	37
2018 年 4 月 28 日～5 月 6 日	2,163	1,042	8	37	362	72	22	7	17	40
2018 年 8 月 10 日～8 月 16 日	2,648	1,252	20	24	446	130	20	8	26	73
全期間の合計	5,472	2,738	35	69	887	222	45	16	53	150

※関東地方に神奈川県は含めていません。

居住地域（神奈川県内-中区分）

期 間	横浜市	川崎市	相模原市	県西地域	県央地域	湘南地域	横須賀三浦
2018 年 4 月 1 日～4 月 8 日	152	70	43	117	55	170	54
2018 年 4 月 28 日～5 月 6 日	664	221	128	272	244	516	118
2018 年 8 月 10 日～8 月 16 日	739	271	175	342	285	681	155
全期間の合計	1,555	562	346	731	584	1,367	327

居住地域（近隣都県）

期 間	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	山梨県	静岡県
2018 年 4 月 1 日～4 月 8 日	5	10	1	102	58	268	4	53
2018 年 4 月 28 日～5 月 6 日	21	29	25	200	117	650	47	246
2018 年 8 月 10 日～8 月 16 日	64	18	30	252	151	737	23	212
全期間の合計	90	57	56	554	326	1655	74	511

居住地域（外国）

期 間	中国	韓国	台湾	香港	タイ	マレーシア	インドネシア	シンガポール
2018年4月1日～4月8日	1	4	3	7	1	3	0	1
2018年4月28日～5月6日	7	6	2	1	1	2	2	1
2018年8月10日～8月16日	10	5	6	7	0	0	4	0
全期間の合計	18	15	11	15	2	5	6	2
期 間	フィリピン	ベトナム	インド	その他アジア	イギリス	フランス	ドイツ	その他ヨーロッパ
2018年4月1日～4月8日	0	1	0	0	2	1	0	1
2018年4月28日～5月6日	3	1	1	2	1	1	1	0
2018年8月10日～8月16日	2	2	0	0	1	7	5	2
全期間の合計	5	4	1	2	4	9	6	3
期 間	アメリカ	カナダ	その他北米	その他南米	オーストラリア	その他オセアニア	アフリカ諸国	
2018年4月1日～4月8日	9	0	2	0	1	0	0	
2018年4月28日～5月6日	6	1	0	1	0	0	0	
2018年8月10日～8月16日	13	2	1	0	2	1	3	
全期間の合計	28	3	3	1	3	1	3	

居住地域（県内市町村－横浜市）

期 間	鶴見区	神奈川区	西区	中区	南区	保土ヶ谷区	磯子区	金沢区	港北区
2018年4月1日～4月8日	5	9	1	3	12	7	6	8	17
2018年4月28日～5月6日	51	20	26	16	14	40	46	30	71
2018年8月10日～8月16日	37	38	21	3	32	28	32	47	77
全期間の合計	93	67	48	22	58	75	84	85	165
期 間	戸塚区	港南区	旭区	緑区	瀬谷区	栄区	泉区	青葉区	都筑区
2018年4月1日～4月8日	19	6	8	13	6	3	5	3	21
2018年4月28日～5月6日	59	40	39	37	27	38	31	45	34
2018年8月10日～8月16日	64	56	38	52	24	38	53	66	33
全期間の合計	142	102	85	102	57	79	89	114	88

居住地域（県内市町村－川崎市・相模原市）

期 間	川崎区	幸区	中原区	高津区	多摩区	宮前区	麻生区	緑区	中央区	南区
2018年4月1日～4月8日	12	5	12	1	4	12	24	5	12	26
2018年4月28日～5月6日	19	20	26	28	32	65	31	13	41	74
2018年8月10日～8月16日	31	28	24	49	46	49	44	52	70	53
全期間の合計	62	53	62	78	82	126	99	70	123	153

居住地域（その他の市町村）

期 間	小田原市	南足柄市	中井町	大井町	松田町	山北町	開成町	箱根町	真鶴町	湯河原町
2018年4月1日～4月8日	80	16	8	3	2	1	5	0	0	2
2018年4月28日～5月6日	184	23	4	12	11	9	16	1	6	6
2018年8月10日～8月16日	222	37	5	20	11	11	16	5	5	10
全期間の合計	486	76	17	35	24	21	37	6	11	18
期 間	平塚市	藤沢市	茅ヶ崎市	秦野市	伊勢原市	寒川町	大磯町	二宮町	横須賀市	鎌倉市
2018年4月1日～4月8日	32	52	22	24	24	7	2	7	27	9
2018年4月28日～5月6日	103	154	101	79	43	18	8	10	69	35
2018年8月10日～8月16日	133	158	142	89	70	29	31	29	57	61
全期間の合計	268	364	265	192	137	54	41	46	153	105
期 間	厚木市	大和市	海老名市	座間市	綾瀬市	愛川町	清川村	逗子市	三浦市	葉山町
2018年4月1日～4月8日	22	11	6	8	6	2	0	14	0	4
2018年4月28日～5月6日	77	45	68	28	17	8	1	5	7	2
2018年8月10日～8月16日	89	66	57	34	23	14	2	17	10	10
全期間の合計	188	122	131	70	46	24	3	36	17	16

居住地域（小田原市詳細-小区分）

期 間	緑	新玉	幸	万年	十字	片浦	早川	大窪	山王網一色
2018 年 4 月 1 日～4 月 8 日	7	0	1	4	0	2	1	1	2
2018 年 4 月 28 日～5 月 6 日	4	1	7	0	7	0	1	5	6
2018 年 8 月 10 日～8 月 16 日	4	6	2	0	2	1	10	12	5
全期間の合計	15	7	10	4	9	3	12	18	13
期 間	足柄	芦子	二川	久野	東富水	富水	桜井	酒匂小八幡	下府中
2018 年 4 月 1 日～4 月 8 日	3	2	0	3	3	3	9	8	11
2018 年 4 月 28 日～5 月 6 日	2	6	3	9	18	23	8	15	17
2018 年 8 月 10 日～8 月 16 日	5	13	13	8	11	19	14	14	24
全期間の合計	10	21	16	20	32	45	31	37	52
期 間	富士見	豊川	上府中	曾我	下曾我	国府津	前羽	橋北	
2018 年 4 月 1 日～4 月 8 日	0	2	6	1	2	1	0	8	
2018 年 4 月 28 日～5 月 6 日	6	13	10	1	3	10	4	5	
2018 年 8 月 10 日～8 月 16 日	8	11	2	8	6	15	0	9	
全期間の合計	14	26	18	10	11	26	4	22	

3.9.3. 講座参加者へのアンケート（記入式）

〔調査方法〕

講座参加者にアンケートを実施し、世代、講座への参加回数、感想等を調査した。

〔調査対象〕

博物館講座のうち、ボランティア入門講座、雨天等中止講座を除く 35 講座について、講座終了後にアンケートを行い、492 名の回答を得た。なお、講座が 2 日間以上にまたがっている場合は、最終日の終了後に調査した。

〔調査結果〕

講座参加者の世代等の内訳

小学校 低学年	小学校 高学年	中学生	高校生	学生	一般成人	65 才以上	教員	合計
42	74	24	3	6	194	89	60	492
8.5%	15.0%	4.9%	0.6%	1.2%	39.4%	18.1%	12.2%	100.0%

講座への参加回数

今回が初めて	今回 2 回目	3 回目以上
271	74	147
55.1%	15.0%	29.9%

どこで(何で)講座を知りましたか（複数回答有り）

県のたより	学校で配られた情報	その他の情報誌	博物館 HP	家族・友人	友の会	博物館 催物案内	新聞・テレビ・ラジオ等	そのほか
37	11	12	238	63	19	95	5	44
7.5%	2.2%	2.4%	48.4%	12.8%	3.9%	19.3%	1.0%	8.9%

講座に参加しての感想（複数回答可）

内容がおもしろかった	内容がつまらなかった	内容がわかりにくい	教え方が良かった	もっとはやくてよかった	もっとゆっくりがいい	説明がわかりにくい	講座の内容が違った
428	2	4	296	25	26	16	21
87.0%	0.4%	0.8%	60.2%	5.1%	5.3%	3.3%	4.3%

また参加したいですか（複数回答有り）

もっと上のレベルに参加したい	同じ内容なら参加したい	もっと下のレベルへ参加したい	もう参加したくない
175	307	37	3
35.6%	62.4%	7.5%	0.6%

4. 調査研究関連資料

4. 1. 研究成果

4. 1. 1. 博物館基礎研究（個別研究）

導入種サキグロタマツメタ *Euspira fortunei* がイボキサゴ *Umbonium moniliferum* に与えた影響について

〔研究期間〕平成 28～30 年度

〔研究担当者〕佐藤武宏

〔研究内容〕

北海道から九州にかけて分布するイボキサゴ *Umbonium moniliferum* は、東京湾盤洲地域（砂質干潟）に 1,000 (inds./sq. m.) に達する高密度で生息し（佐藤, 2012）、殻破壊性捕食者である十脚類甲殻類や貝殻穿孔性捕食者であるタマガイ科巻貝、特に、ツメタガイ *Glossaulax didyma* とサキグロタマツメタ *Euspira fortunei* の重要な餌生物としての地位を持つ。

これまでの研究で、イボキサゴの成長、寿命、殻サイズについてはある程度の知見が得られているが（佐藤, 2012）、殻サイズと捕食者サイズの関係については予察に留まっている（佐藤, 2008）。

そこで、先行研究の結果と、盤洲干潟で得られた多数のイボキサゴの殻に対する観察の結果から、殻に残された穿孔性捕食痕から捕食者サイズを推定できないかどうかの検討を行った。先行研究では、タマガイ科貝類の捕食痕と、捕食者サイズとの間には高い正の相関があることが示されている。つまり、捕食痕のサイズは、捕食者自身の体サイズを反映していることになる。イボキサゴの殻を観察したところ、さまざまなサイズの捕食痕が記録されていることが確認され、捕食者は一生を通じてイボキサゴを餌としていることが判った。このことから、捕食者と被食者のサイズの関係について、検討を行うことが可能であると判断された。

次に、縄文時代の貝塚から出土するイボキサゴの殻について、同様の比較を行うことが可能かどうか検討を行った。東京湾沿岸では、千葉県の各地に多数の貝塚が分布し、多くの貝塚でイボキサゴが多数出土し、貝塚によっては出土する貝類のほとんどがイボキサゴである例も認められた。そこで、加曽利貝塚の出土品の一部を検討したところ、穿孔性捕食痕が記録されている殻が含まれていることが判った。また、遺跡からはイボキサゴの捕食者であるツメタガイの殻も出土しているため、ツメタガイの殻サイズ分布と、イボキサゴの殻サイズ分布、捕食者と被食者のサイズの関係について検討が可能であることが判った。

イボキサゴを含む貝塚は、時代の変遷を示す多数の層か

らなっており、それぞれを分離して分析することによって、イボキサゴに対する捕食の影響の変遷を明らかにすることができると考えられる。このことについては、引き続き個別研究で取り扱いたい。

神奈川県で確認された侵略的外来種ムネアカハラビロカマキリの現状

〔研究期間〕平成 28～30 年度

〔研究担当者〕荻部治紀

〔研究内容〕

ムネアカハラビロカマキリ（以下本種）は、2012 年になって日本から初めて記録された種であり、中国原産の外来種とされている。当初福井県、岐阜県、愛知県などから記録されたが、その後各地から発見が相次ぎ、現在では新潟・茨城以南の 20 都府県から記録されている。県内では 2015 年度に秦野市、川崎市など数か所で初めて確認された。

本種が定着した地域では、在来種の近縁種ハラビロカマキリ（以下ハラビロ）が見られなくなるという報告があり、本種の確認された秦野市南部から中井町周辺まで直径 3 キロほどの地域では本種のみしか確認できず、拡散の最前線にあたる地域では、ハラビロとの混成が見られた（荻部・加賀, 2017）。また、本種の移入経路に注目し、中国産竹箒がその主要因であると推察されることを報告した（櫻井・荻部・加賀, 2018）。

昨年度は、県内の新たな定着地（山北町、小田原市）での詳細な分布状況を報告し、上記竹箒の付着卵の新たな事例も報告した（荻部・加賀, 2018）。

本種については、一般の外来種のような侵入地点から徐々に拡散していくパターンではなく、竹箒からの拡散が主になっていると推察されることから、今後も思わぬ地点で発見される可能性が高い。発見高率の高い発生時期の成虫の調査とともに、卵での探索も展開していくべきであり、また、個体密度の高い地域では、本種の分布拡大で駆逐される可能性が高い在来種のハラビロカマキリの動向にも注目した調査は継続すべきであろう。

神奈川県周辺のトンボ類における南方種の分布拡大について 4

〔研究期間〕平成 28～30 年度

〔研究担当者〕荻部治紀

〔研究内容〕

近年、温暖化の進行に伴うと考えられる分布域の北上が顕著な昆虫類の中で、トンボ類でも数種で急速な分布拡大が記録されている。本研究では、南関東で近年急速に分布を拡大した（かつては東海地方が北限）ホソミイトンボに焦点を当てて調査を展開した。この種は成虫で越冬し、分散応力は高いとされ、県内では過去に川崎市、山北町で1例ずつの偶産記録があったのみであった。2000年代後半に県西部の南足柄市において、県内で初めての繁殖が確認されたのち、小田原市や山北町など周辺に分布が拡散していく拡散初期から、丹沢山麓に沿って厚木市、相模原市など県中北部まで数年で普通種になる様相をとらえることができた。この3年間で横浜市や川崎市で定着し、湘南地方（茅ヶ崎市、藤沢市）に定着地が増加し、三浦半島でも散発的な記録が出始めた。同半島基部ではすでに定着地が存在するようになっている。この後、数年で三浦半島で定着すれば、県内全域への拡散が完了するものと推測できる。温暖な三浦半島での侵入が県内最後になったことは、本種拡散が長距離移動ではなく、連続的な移動が原動力になっていることを示唆している。

また、同様に静岡までの分布拡散が顕著なタイワンウチワヤンマは、2000年代半ばに横浜市で初めて1頭が確認され、その後2011年に大井町で記録された。2011年に記録された小田原城では、2012年から2018年まで安定して記録されている。2018年には、三浦半島で羽化殻が確認され。横浜市旭区でも複数の記録が出始めたことから、今後県内で爆発的に増加するものと考えられる。

両種ともに県内全域に拡散するまで間近になっていると考えられるので、今後も追跡調査を実施する予定である。

日本産ヒメバチ上科寄生蜂の分類学的研究 (II)

〔研究期間〕平成28～30年度

〔研究担当者〕渡辺恭平

〔研究内容〕

2016年4月から2019年3月までに実施した研究により、本研究課題に関連する16篇の学術論文（査読有）と21篇の学術報告を発表した。主な成果は以下の通りである。

① 当館収蔵標本を中心としたヒメバチの標本に基づき、63種の日本産ヒメバチを新種記載した。この中には丹沢のブナを加害するブナハバチの重要な天敵種である *Aptesis flavitrochanterus* Watanabe & Taniwaki, 2018、*Cteniscus (Cteniscus) fagineurae* Watanabe, Taniwaki & Kasparyan, 2018、*Eridolius tanzawanus* Watanabe, Taniwaki & Kasparyan, 2018、*Exyston elongatus* Watanabe, Taniwaki & Kasparyan, 2018 や、各地で普通に見られる種でありながら種名がなかった *Pion japonicum* Watanabe, 2016、*Deuteroxorides breviterebratus* Watanabe, 2017、*Glypta japonica*

Watanabe, 2017、*G. kyushuensis* Watanabe, 2017、*G. yamato* Watanabe, 2017、*Amphirhachis fujiei* Watanabe, 2017、*Odontocolon bidentatum* Watanabe, 2017、*Ischnus splendens* Watanabe, 2019 も含まれる。

② 日本から新たに36種の新産種を発見し、記録した。この中には属レベルでも世界2例目となる *Terminator notabilis* Humala, 2007 の発見や、各地で普通に見られる種である *Oxytorus diceratops* Lee & Kasparyan, 2014、*Tryphon (Symboethus) flavoclypeatus* Kasparyan, 1976、*Homaspis varicolor* (Thomson, 1894)、*Himerta sepulchralis* (Holmgren, 1876)、*Clistopyga sziladyi* Kiss, 1959 など含まれる。

③ 神奈川県に寄生蜂について現時点での記録をまとめた目録を作成した。ヒメバチ上科は過去の記録に加えて100種の県新記録種を報告し、607種を認めた。現時点でのファウナ解明度は全国一であるが、神奈川県にファウナが豊かであるとは今の解明度では結論できない。

④ 神奈川県に加えて、兵庫県佐用町、栃木県、富山県、岡山県、鳥取県、鹿児島県沖永良部島のヒメバチ上科について、目録を発表し、分布の解明に貢献した。

⑤ 得られる頻度が高く、その一方で分類が比較的進んでいる *Sphinctini* 族および *Oedemopsini* 族のハバチヒメバチ、フシダカヒメバチ族のヒラタヒメバチについて、同定のための手引きを作成し、従来はドイツ語やロシア語、英語を駆使しなければ同定できなかったこれらの種が、日本語で同定できるようになった。

⑥ これら一連の活動が評価され、日本昆虫学会若手奨励賞を受賞した。受賞課題：ヒメバチ科を中心とする寄生蜂類（ハチ目）の分類学的研究（2018年9月8日）。

神奈川県の哺乳類相調査

〔研究期間〕平成28～30年度

〔研究担当者〕鈴木 聡

〔研究内容〕

神奈川県内の哺乳類の生息状況について、県西地域を中心に現地調査及び文献調査を行った。

現地調査では、酒匂川水系酒匂川、狩川の下流、および早川水系早川下流の河川敷、長興山周辺の畑地（小田原市）、早雲寺林、仙石原すすき草原、千条の滝（箱根町）を対象地域とし、捕獲、フィールドサイン、および自動撮影カメラによる調査を行った。これらの調査により、生息が確認された哺乳類は、齧歯目4種：アカネズミ（酒匂川、狩川、長興山、千条の滝）、ドブネズミ（狩川）、カヤネズミ（仙石原）、ハタネズミ（仙石原）、真無盲腸目1種：アズマモグラ（長興山、仙石原）、食肉目4種：タヌキ（酒匂川、狩川、早川、早雲寺林）、ハクビシン（狩川、早川、早雲寺林）、ニホンイタチ（狩川、早川、早雲寺林）、ニホンアナグマ（早雲寺林）、偶蹄目1種：イノシシ（早川、

早雲寺林、千条の滝) の計 10 種であった。

文献調査については、酒匂川水系流域を対象とした哺乳類の分布や生息数に関する文献を収集し、分析を行った。その結果、この地域における哺乳類研究(特に分布や個体数)について下記の特徴が明らかになった。

- ・丹沢においてニホンジカの生息調査が長期的に行われてきた
 - ・1980 年代には中型哺乳類の主に聞き取りによる分布調査が行われていたが、その後はほとんど調査が行われていない
 - ・小型哺乳類については、個人による調査が多く、研究機関として調査が行われることは少なかった
 - ・イノシシを対象にした調査は行われていない
- 植生に大きな影響を与えるニホンジカについては、重点的に研究が進められている一方で、小・中型哺乳類の研究は散発的であることから、哺乳類相を把握するためには今後小・中型哺乳類の調査を高頻度で行っていく必要がある。

ザラツキシラスゲ(チチブシラスゲ)の分布と生態

〔研究期間〕平成 30 年度

〔研究担当者〕勝山輝男

〔研究内容〕

ザラツキシラスゲ *Carex albidibasis* T. Koyama in J. Jpn. Bot. 30: 136 (1955) は木曾駒ヶ岳の標本 (Aug. 3 1924, 小泉秀雄, TNS-106739) に基づき、ヒカゲシラスゲに比べて全体に硬く、葉は幅が狭くて下面が白色を帯び、茎は基部から上部まで連続してザラつき、果胞にやや光沢があるとされた。チチブシラスゲ *Carex planiculmis* Kom. var. *urasawae* Ohwi, Fl. Jap. rev. ed.: 1438 (1972) は埼玉県秩父十文字峠で採集された標本 (July 29 1963, ト沢美久, TNS-181135) に基づき、葉が幅狭く、下面がやや白色を帯びることを特徴とし、ヒカゲシラスゲ *C. planiculmis* の変種として記載された。

チチブシラスゲとザラツキシラスゲの基準標本を比較したところ、チチブシラスゲも全体に硬く、茎や葉は基部から先の方まで、ガラス質の細かい棘状突起があって著しくざらつき、葉が幅 2~4mm と幅狭く、下面に微細な乳頭状突起が密生して粉白を帯び、花穂は細くて先がやや垂れること、果胞の性質がほとんど変わらないことなどから、両者は同じものと結論した(勝山, 2015)。

標本調査により下記の標本を確認し、栃木県の日光や塩原、秩父山地、八ヶ岳、南アルプス、中央アルプスに分布することが明らかになった。また、秩父山地と八ヶ岳の現存する生育地での観察から、ブナ帯~シラビソ帯の岩の多い斜面や崖錐地などに生えことが明らかになった。

標本: 栃木県: 日光市川俣 熊野沢 alt. 1670m, 2008. 8. 4, 野口・長谷川, KPM-NA0143361; 同 湯沢 alt. 1160m, 2005. 7. 29 野口, KPM-NA0143362; 同 瀬尾 丸山六方沢,

alt. 1450m, 2007. 8. 7, 野口, KPM-NA0143363; 同 中禅寺湖 千手ヶ浜 alt. 1280m, 1979. 8. 18, Furuse-109, PE-1689406; 埼玉県: 秩父市大滝 alt. 1100m, 2006. 6. 25, 福留, KPM-NA0136733; 秩父郡小鹿野町 両神山, 1930. 7. 6, 田川, KY0; 山梨県: 山梨市三富川浦 西沢, 1967. 6. 13, 吉川, TNS-184516; 同, 2010. 6. 17, 勝山, KPM-NA0210273; 塩山市 大菩薩峠, 1937. 7. 18, Funo, KY0; 北斗市須玉町金山 瑞牆山 山麓 alt. 1200-1500m, 1949. 7. 21, Furuse-20924, PE-1486528; 南アルプス市芦安芦倉 仙水山, 1921. 7. 27, 小泉, TNS-535718; 長野県: 南佐久郡川上村 十文字峠, 1955. 6. 25, Ohba-12455, KPM-NA0012795; 茅野市 八ヶ岳赤岳, 1928. 7. 5, 大井, TNS-221550; 同 北沢湯の上, 1923. 8. 31, 小泉, TNS-535904; 同 美濃戸 alt. 1750m, 2010. 7. 26, 勝山・星野, KPM-NA0144594; 伊那市長谷黒河内 横岳 5 合目, 1923. 7. 30, 小泉, TNS-535902.

※標本庫の略号 KPM: 神奈川県立生命の星・地球博物館, TNS: 国立科学博物館, KY0: 京都大学博物館, PE: 中国科学院植物研究所

神奈川県産新生代脊椎動物化石チェックリスト(平成 29 年度まで)

〔研究期間〕平成 28~30 年度

〔研究担当者〕樽 創

〔研究内容〕

本報告では、神奈川県産の脊椎動物化石について、化石の報告例を元に整理を行った。そして生物群の哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、魚類の古生物を調べた。なお、時代は国際年代層序表(2014 年 2 月)の新生代第四紀完新世(1 万 1 千 700 年)より前の時代である。始めに各学会(日本古生物学会や日本地質学会など)の出版物を調べ、また神奈川県内の各博物館(神奈川県立生命の星・地球博物館や平塚市博物館など)の出版物を調べた。1990 年代に関東の 6 県の博物館が開館した関係から、他の博物館(例えば群馬県立自然史博物館など)の出版物についても確認を行った。各学会誌、博物館では主に英語で報告を行っていてもいる。そのため合わせて主に英文の報告を確認した。

その結果、以下のものが新たに確認できた。

Aoki, N. 1967. Some fossil Gobius from Japan. Transactions and proceedings of the Paleontological Society of Japan. New series, (67): 125-128.

Aoki, N. 1968. Some the Pleistocene Fish-Otoliths from Boso and Miura Peninsulas. Transactions and proceedings of the Paleontological Society of Japan. New series, (71): 296-307.

また、1. 標本が残っているか、2. 今でも学名が生きているか、3. 標本の記録写真を残しているかを確認したところ、上記 2 論文の標本と Matsumoto, (1926) の標本が行方不明だった。

Matsumoto, H. 1926. On Some Fossil Cetaceans of Japan.

Science reports of the Tohoku Imperial University.
2nd series, Geology, 10, 17-27, Pls. VIII-X.

島根県の高浦層から産出したイノシシ科臼歯化石の分類学的研究

〔研究期間〕平成30年度

〔研究担当者〕大島光春

〔研究内容〕

本研究では、島根県松江市美保関町に分布する高浦層から産出した、日本最古となるイノシシ科臼歯化石の分類学的な位置を検討する。既にユーラシア大陸の前期中新世イノシシ類10属(Harris & Liu, 2007)のうち、lophodontや下顎しか知られていないものを除いた *Hyotherium*、*Palaeochoerus*、*Pecarichoerus*、*Aureliachoerus*、*Conohyus*、*Taucanamo* の6属と比較を終えており、2011年に学会発表済みである。本標本は *Hyotherium* 属の右 M3 と考えられ、日本における *Hyotherium* 属の出現時期が前期中新世まで遡れる可能性が高い。しかし、*Hyotherium* 属の中で本標本のように M3 の 近心側最大頬舌径(W1) と遠心側最大頬舌径(W2) がほぼ同じと記載された種はなく、更に検討が必要と考えられる。

南関東域の新生代貝類化石群の概要 — 足柄層群産の貝化石 —

〔研究期間〕平成28～30年度

〔研究担当者〕田口公則

〔研究内容〕

いわゆる南部フォッサマグナにおける地史は、丹沢・伊豆の本州への衝突が強く影響し多岐にわたる検討が行われている。その中で、古環境推定の手がかりとなる貝化石の産出について、各地域の貝化石群をあらためて検討する必要がある。本研究では、すでに採集不可能となった産地の資料などを基に、各貝化石群について順次検討をすすめることを目的に、足柄層群の貝化石に関する整理を行った。

未整理資料を含む当館所蔵の足柄層群産貝化石の整理および各産地の状況調査をすすめた結果、おおよそ次のことが捉えられた。

- ・足柄層群塩沢層産の貝化石にいくつかの未報告種がある。
- ・足柄層群畑層において、漸深海性種を含む資料が多数収集された。また、塩沢層のカキ礁産地において、潮間帯干潟などの棲息種が新たに採取された。自生的産状での貝化石産出情報は、塩沢層の堆積環境(潮間帯における堆積プロセス)を探る手がかりとなるものである。
- ・「ハマグリ沢」として知られる南足柄市地藏堂の化石について、多くのハマグリ化石は合併ではなく離弁の状態で作出することが再確認できた。

以上の結果は、これまで知られてきた足柄層群堆積の形成プロセス(今永, 1999 など)を支持するものである。

各産地の詳細な調査は、産状の記録の面においても今後も続行する必要がある。とくに、南足柄市のハマグリ沢においては、市指定の天然記念物であることから現地での詳細調査には至っていない。調査許諾を得て、産状把握の調査継続をすすめていく。

輝石地質温度計による箱根火山後期中央火口丘溶岩のマグマ温度解析

〔研究期間〕平成29～30年度

〔研究担当者〕山下浩之

〔研究内容〕

箱根火山の後期中央火口丘(高橋ほか, 2006)は、カルデラ内に4万年前以降に形成された火山で、小塚山や台ヶ岳、駒ヶ岳、神山、二子山などが該当する。これらの中央火口丘を構成する溶岩は、噴火した年代は異なるが、主要元素の全岩化学組成や構成鉱物は類似する。本研究では、溶岩に含まれる単斜輝石と斜方輝石を用いた輝石地質温度計により、マグマの温度推定を行うことで、年代の経過によるマグマ温度の変化、各々の山体におけるマグマ温度の相違を解明することを目的とした。

2年間の研究期間で、7つの後期中央火口丘の火山、8点の資料について、温度推定を行った。温度推定のための輝石の化学分析は、国立科学博物館所有の電子線マイクロアナライザー(JXA-8230)を使用した。

単斜輝石と斜方輝石を用いた輝石地質温度計はWood & Banno (1973)を、ピジョン輝石を用いた輝石地質温度計は、Ishii (1975)を使用した。温度推定は、8点の資料について行っただけで、点数的にはまだ不十分であり、予察的な結果しか得られていないが、おおよそ以下のことが判明した。

- ・より初期の活動の小塚山や台ヶ岳の溶岩ドームは、活動の経過とともに温度が下がっていく。台ヶ岳の溶岩の温度は他の後期中央火口丘溶岩と比較して、極めて高い。
- ・駒ヶ岳、神山、二子山などでは、輝石が逆累帯構造を示しており、輝石が結晶化しつつあったマグマだまりに、より高温のマグマが混入したことが推定される。これは、マグマだまりで結晶分化して生じた低温のマグマがと高温のソレライト質マグマが混合し、カルクアルカリ岩を形成するという、石井(2011)のモデルを支持する結果となった。

今後の課題としては、分析点数を増やしより精度を高めることが挙げられる。また、駒ヶ岳や神山などは複数の溶岩流が確認されているので、いくつかの溶岩流間でのマグマ温度の相違を明らかにする必要がある。なお本研究は、2017年度より個別研究として開始したが、同年に開始した総合研究「現代的な視点による神奈川県地質史の構築」の

一部に相当すると判断したため、箱根火山を研究分担とする、箱根ジオミュージアムの山口珠美学芸員と合同で行った。今後は、総合研究の一環として研究を継続したい。

神奈川県東部三浦半島に分布する箱根三色旗テフラの層位的意義

〔研究期間〕平成 29～30 年度

〔研究担当者〕笠間友博

〔研究内容〕

箱根三色旗テフラは箱根火山前期中央火口丘爆発的噴火期のテフラで、その噴出年代は約 5 万 8 千年前とされている。神奈川県南部に分布する。執筆者のこれまでの調査によると、大磯丘陵以東の地域では 1 枚のテフラであるが、箱根山麓地域では、このテフラの上下に存在する諏訪原スコリアテフラ層と箱根中央火口丘第一テフラとの間に

明らかに複数のテフラが存在する。箱根三色旗テフラは三浦半島全域で顕著に見られるが、調査は延べ 300m にわたって箱根三色旗テフラが出現した横須賀市林の三浦縦貫道路延伸工事現場で行った。それらの総合的な観察では、層厚 15 cm の軽石層の上位 20 cm にわたって軽石が散在する部分が認められた。これらの間は比較的軽石の少ない火山灰土層が数 cm の厚さで存在する部分があった。よって、三浦半島では 2 枚の軽石質テフラからなる事が予想された。しかし、斜方輝石の屈折率測定が協力者の都合で行えなかったため、鉱物学的な対比はまだ行っていない。なお、同露頭からは宮田層中に広域テフラが見出され（船久保タフ）、年代測定を行った。この結果については、博物館研究報告 48 号にまとめた。

4.1.2. 外来研究員による研究

本州中部の変形菌相の研究

〔研究担当者〕矢野倫子

〔研究内容〕

平成 30 年度も変形菌の採集記録が少ない本州中部の亜高山帯において調査を継続した。数年に亘り、主に富士山、妙高山の変形菌を採集し標本データの収集に努めた。30 年度は特に富士山東面と南面（静岡県域）の亜高山帯において、標高約 2,300 m（東面は除く）、約 2,000 m、約 1,700 m に 50 m x 50 m のコドラートを設定し、標高による発生状況を比較するための調査を行った。

その結果については、2019 年～2021 年まで計画している調査結果と合わせて富士山亜高山帯変形菌発生の特徴を分析発表する予定である。尚、昨年及び今年度調査した妙高山および 秋田・宮城両県境に位置する栗駒山での採集標本については、次年度にデータをまとめ報告を行う予定である。

平成 30 年度に行った調査は以下の通りである。

1. 富士山静岡県域変形菌調査：亜高山帯における調査を須走登山口（東面）、富士宮登山口（南面）において平成 30 年 7 月から 11 月にかけて計 5 回行った。
2. 新潟県妙高市妙高山周辺での調査：平成 30 年 5 月から 11 月まで計 7 回調査を行った。

秋田、宮城両県の栗駒山周辺国有林での調査：平成 30 年 5 月、6 月、9 月に計 3 回行った。

ウマノオバチ (*Euurobracon yokahamae* Dalla Torre) の生活史について

〔研究担当者〕加賀玲子

〔研究内容〕

研究対象としたウマノオバチ *Euurobracon yokahamae* (Dalla Torre, 1898) の生態は近年急速にその実態が解明

されつつある。特にその寄主については定説とされてきたシロスジカミキリ幼虫ではなく、ミヤマカミキリであり、齢期は蛹であるとする事で、本種の生活史を矛盾なく説明できる（加賀ほか, 2018）。しかし、以下の点、一つはミヤマカミキリが坑道と蛹室の間に作る石灰質の仕切りをどのように越えて、蛹室の中の蛹に到達するのか、もう一点は、ミヤマカミキリの様々な齢期の幼虫が存在する木の中で、どのようにして産卵に適した蛹であることを本種メスが知るのか、が大きな未解明な部分として残っていた。本年度の研究では、工業用内視鏡（IPLEX TX）を使った観察を行うことにより、産卵中の本種と同時にカメラを入れて、産卵管の位置を直接観察することに成功した。このことにより、本種はミヤマカミキリ幼虫が作った仕切りと坑道壁面のわずかな隙間に産卵管を差し込んで産卵していることが明らかになった。材中の捕食性の昆虫や、他の寄生性の昆虫から、動けぬ蛹を護るために進化したであろうこの仕切りは、蛹室内に産卵されミヤマカミキリ蛹に寄生した本種の幼虫をもこれらの捕食から護ることとなり、本種メスが産卵する際の指標ともなっていることが推測される。

同じく工業用内視鏡を用いた観察により、産卵部位を正確に特定できたことから、後日その部分を慎重に伐りだし、本種幼虫の様子を動画撮影し、さらに飼育下において観察を続けた。本種幼虫がミヤマカミキリ蛹室を裏打ちするような共同の繭を作り、その中に個々の繭を形成して、蛹化、成虫となって羽脱するところまでを観察した。これらの観察から、5 月初旬に産卵され、孵化した幼虫は短期間で成長し、5 月末には終齢幼虫となり、6 月中旬には蛹となって、7 月中旬から下旬には成虫となり、そのまま翌年の発生時期までの約 10 か月間を材中で過ごす生活史のほぼ全容が解明された。

以上の結果を研究報告（加賀・荻部, 2019. 神奈川県立

博物館研究報告（自然科学），（48）：69-74.）に報告し、撮影した動画を含めた成果を第 66 回日本生態学会，2019 年神戸大会にて口頭発表した。

ミミズのエコ分類学

〔研究担当者〕 ロバート ブレクモア

〔研究内容〕

IUCN Red listing of all Japanese native earthworms was finalized and published. Proposals for collaborative work with MOA Organic farms (Atami) were made. On 5th December a proposal display for World Soil Day at KPMNH was made. Several earthworm specimens from Nodai (Tokyo) and from Nagasaki (Kyushu) were brought to the museum, identified and deposited. DNA tissue samples are awaiting funds for barcoding. Several publications were completed as listed below, others are in progress.

（訳）

IUCN（国際自然保護連合）のレッドリストに掲載されている日本の在来ミミズの全種について確認と報告を行った。

熱海の MOA 美術館の提携農場である MOA 自然農法ファームにおける共同調査の計画を立案した。12 月 5 日には当博物館で「世界土壌デー」に関連するポスターを掲示した。

東京農業大学および長崎から採集されたミミズの標本を当博物館に登録した。DNA 解析のための資料については、助成金待ちの状況である。

以下の論文・学術著作を出版した。

*Blakemore, R. J. (2018a). Critical Decline of Earthworms from Organic Origins under Intensive, Humic SOM-Depleting Agriculture. *Soil Systems*. 2(2): 33. [http://www.mdpi.com/2571-8789/2/2/33: PDF: http://www.mdpi.com/2571-8789/2/2/33/pdf. DOI : https://doi.org/10.3390/soil systems2020033.

Blakemore, R. J. (2018b). Box 12. Earthworm depletion under palm oil plantations in Malaysia, and a possible remedy. In: *Oil palm and biodiversity: a situation analysis by the IUCN Oil Palm Task Force*.
https://portais.iuen.org/library/sites/library/files/documents/2018-027-En.pdf.

**Blakemore, R. J. (2018c). Non-Flat Earth Recalibrated for Terrain and Topsoil. *Soil systems*. 2(4): 64. https://www.mdpi.com/2571-8789/2/4/64.

Blakemore, R. J. (2019a). Extinction of Japan's first formally described earthworm *Amyntas japonicus* (Horst, 1883) (Annelida, Oligochaeta, Megadrilacea, Megascolecidae). *Bull. Kanagawa Prefect. Mus. (Nat. Sci.)*. 48: 55-60.

Blakemore, R. J. (2019b). Redescription of extinct New

Zealand earthworm: *Tokea orthostichon* (Schmarda, 1861) (Annelida, Oligochaeta, Megadrilacea, Megascolecidae). *Bull. Kanagawa Prefect. Mus. (Nat. Sci.)*. 48: 61-68.

*This paper has 8,500 “reads” by March, 2019.

**This paper has 2,500 “reads” by March, 2019.

水生動物に対するアメリカザリガニの影響調査

〔研究担当者〕 丸野内淳介

〔研究内容〕

2015 年 7 月 18 日から 8 月 3 日にかけて、新潟県十日町市松之山、松代地区のアメリカザリガニが未確認である 5 地点、アメリカザリガニが採集されたか、痕跡や生息情報が確認された 14 地点、合計 19 地点において、アナゴカゴとタモ網により水生動物を採集した。対象はアメリカザリガニ、両生類、魚類、貝類、ヒル類、水生昆虫（トンボ目幼虫、アメンボ科を除くカメムシ目、コウチュウ目）とし、採集された種構成より地点間の Sorensen の類似度を求め、UPGMA によるクラスター分析を行った。

アメリカザリガニは、調査地点に痕跡（死体や巣穴）のみが確認された場合も採集種と合わせて分析した。両生類は幼生と、変態後の段階（未成熟の幼体または成体）を、水生昆虫では幼虫と成虫をそれぞれ別にし、コミズムシ属数種の成虫と、アカネ属数種の幼虫はそれぞれ 1 つにまとめて計数した。

アナゴカゴによる採集結果の解析対象は、設置条件が一致しない 5 地点をアメリカザリガニ確認地点から除いた 14 地点とした。類似度の最大値は、アメリカザリガニ確認 8 地点間において 1.00、未確認 2 地点間において 1.00 を示した。確認 8 地点のクラスターは、確認 1 地点と結合して、未確認 2 地点のクラスター、さらに未確認 2 地点と結合した。残る未確認 1 地点、アメリカザリガニ生息情報があり、コイの生息する 1 地点は、他地点といずれも類似度が 0.00 であった。

タモ網による採集結果の解析対象である 19 地点において、類似度の最大値は、アメリカザリガニ確認 2 地点間において 0.86、未確認 2 地点間において 0.55 を示した。アメリカザリガニ未確認 4 地点のクラスターと、確認 3 地点と未確認 1 地点のクラスターが結合して、コイ生息地点と結合し、確認 10 地点のクラスターと結合した。

2 つの採集結果のクラスター分析は、アメリカザリガニ確認地点と未確認地点を明確に二分まではしないが、概ね分ける傾向を示し、生息種に対するアメリカザリガニの影響を示唆するものとなった。また、コイの生息も影響することを示唆した。

神奈川県産クモ類の調査と標本収集 (IV)

〔研究担当者〕 水山栄子

〔研究内容〕

今年度は以下の内容で調査研究を行った。

A. 神奈川県のカモの調査及び標本の採集

1. 横浜市緑区新治

30 年度は 8 回の野外調査を実施 採集標本は当館の収蔵標本として整理した。

2. 葉山町長柄

30 年度は 2 回の野外調査を実施 採集標本は当館の収蔵標本として整理した。

B. 標本の整理

神奈川県産カモ類のコレクション構築に向けて、採集標本の同定を行い、当館に約 200 種の標本を収蔵、ミュージアムにカテゴリーを作成し、順次登録中である。また、GBIF および S-Net に登録したカモ類データを提供した。

C. その他

1. カモの教材を作成し、昆虫少年少女のひろばで使用した。
2. 当館主催昆虫観察会においてカモの観察を指導した。
3. 当館主催昆虫採集講座においてカモの採集、同定、標本作成を指導した。
4. 国立科学博物館付属自然教育園の生物相調査に参加した。

神奈川県を基準産地とするササ類 4 種を含む県内産タケ亜科の比較分類学的研究および県内産タケ亜科の同定検索表の構築と分布の解明

〔研究担当者〕 支倉千賀子

〔研究内容〕

県内にはイネ科タケ亜科アズマザサ属が変種も含め 6 分類群分布するとされていた（城川・矢ヶ崎 2001）が、標本を精査した結果、2018 植物誌では 5 分類群であることがわかった。

また、アズマザサ属の一種の神奈川県産「シオバラザサ」の葉鞘と稈鞘の毛の状態を標本で精査した結果、『増補改訂版 日本タケ科植物図鑑』、鈴木（1996）のセンスによれば、シオバラザサではなくコガシアズマザサと同じであることがわかった。そこで、「神奈川県植物誌 2018」では、これまでシオバラザサとして扱われてきたものをコガシアズマザサとし鈴木（1996）ではシオバラザサ *Sasaella shiobarensis* (Nakai) Nakai ex Koidz. の異名とされていた神奈川県を基準産地とするセデンシノ *Arundinaria sedenicola* Koidz. をコガシアズマザサ *S. kogasensis* (Nakai) Nakai ex Koidz. の異名とした。

丹沢山地と伊豆半島の中新統の石灰岩より産出する化石群集から古環境を復元する

〔研究担当者〕 門田真人

〔研究内容〕

丹沢山地の古環境復元の資料となる枕状溶岩の分布の追加調査で新たに 3 地点に露頭が確認できた。また近年の短

時間局地豪雨はいくつかの露頭状況を大きく変えている傾向がある、既報告の石灰岩（含む結晶質石灰岩）露頭についても再確認で探査行を 4 回実施した。更に引き続き既存の露頭の再観察を進めてその状況を 31 年度末までにはまとめ報告をする。

社会福祉法人「こどもの国」所在地横浜市、園地内には上総層群が分布している。H30 年度より神奈川地学会員の協力のもと 6 回の調査を実施した。広域テフラの供給源特定、産出した貝類化石の整理を進めている。

普及活動として学校機関へ 5 回の出前授業（内、大学 1 回）、巡検講師 2 回、講演並びに講座 6 回、有志で丹沢地学的遺産保全活動を 2 回実施した。

＊厚木市 2 件の委嘱を受けて活動中

1. 文化財保護審議委員会委員 8 年目
2. 同博物館設立検討会委員 5 年目副委員長に就任中

＊神奈川地学会、会誌編集部として活動

＊社会福祉法人「こどもの国」運営協議会員に就任し地学行事を立ち上げるための地質調査中

神奈川県における希少哺乳類の生息状況

〔研究担当者〕 山口喜盛

〔研究内容〕

県内においてヒナコウモリ (*Vespertilio sinensis*) の繁殖コロニーを発見し、繁殖状況及び季節変動について継続して調べている。種を同定するために 10 頭の捕獲（環境省及び神奈川県より学術捕獲許可）を試み、妊娠メスを確認した。また、繁殖場で幼獣 2 頭の死体を確認した。出産前の総個体数は 200 頭を超えるとみられる。神奈川県では、これまでヒナコウモリの冬眠集団や冬期の単独個体確認は数例あったが、繁殖コロニーは初めての記録になる。

神奈川県 RD 種の蝶類に関する調査研究

〔研究担当者〕 中村進一

〔研究内容〕

神奈川県内における蝶類のうち、RD 種（レッドデータ種）に選定されている種について、神奈川県内における寄主植物の確認など生態調査を行うとともに、生息状態の現状把握に努め、その衰亡の要因について調査している。

2018 年度は以下の調査を行い、RD 種のチョウ類についての知見を得た。

ヒメシロチョウの生息が近年シカによる食害で食草となるエビラフジが激減しているとのことで、2014-2015 年にエビラフジの繁茂地である県境の三国峠から明神山へ出向き現状把握をした。結果、目視での調査であったが三国峠南側斜面に多数自生していたエビラフジは、ほぼ壊滅状態で株を形成した自生は全く確認出来なかった。その経緯から 2018 年に本種の探索を目的に複数回の調査をしたが未確認のまま現在に至っている。

RD 種であり、本県の天然記念物でもあるギフチョウの

生息調査を継続し、2019 年春に 2 回調査を実施した。その調査時に感じたことは、食草であるカンアオイの著しい衰退であり、このことは今後のギフチョウの生息に大きな影響があることは否めないもので、県文化遺産課にその懸念を訴え、当館植物担当学芸員の方のお知恵とお力添いをいただくよう、お願いをした。

本研究成果に関連して、県内のチョウ類の記録を総括し、以下の報告としてまとめた。

中村進一, 2018. チョウ目(チョウ類). 神奈川県昆虫誌[III]. pp. 832-926. (神奈川県で 2018 年 1 月までに記録された 158 種のデータを掲載した。)

来年(2019 年)度については、下記の種を候補として調査を行う予定である。

シルビアシジミが 2018 年に三浦半島で確認された報告があり、今年(2019 年)は報告された地域周辺を訪れて、食草となるミヤコグサの自生地を確認する。ミヤコグサの自生する地は環境的に不安定な荒地で人的工事により消滅し易く、また海岸近隣な自生地は強風、台風等での塩害等の影響が受け易く安定して継続自生が難しいとされているため、現地調査を行う予定でいる。

神奈川県における野生動物と関係する接合菌類の分類学的研究

[研究担当者] 渡辺 舞

[研究内容]

接合菌類は初期に陸上進出した分類群であるという点で、菌類の系統進化上重要な菌群であるが、その分類学的研究は遅れている。動物の糞を基質として発生する、糞生接合菌についても、その実体は明らかになっていないものが多い。また、節足動物である水生昆虫の腸内生接合菌、ハルペラ目についても、国内では著しく研究が遅れているため、各地で分布状況を調査し多様性を把握してゆく必要がある。そこで、神奈川県下で糞生および節足動物腸内生接合菌類の分類学的研究を進めるため、本調査を行った。

今回、2018 年 11 月および 2019 年 3 月に入生田宮沢川においてハルペラ目について調査を行った。その結果、少なくとも 2 種のハルペラ目菌が認められた。カゲロウ目コカゲロウ科幼虫の後腸から、2018 年に新属新種記載された菌である *Zygopolaropsis sphaerica* が確認された。本種の特徴である丸い付着部が認められたが、接合胞子は観察されなかった。本種は茨城県から報告があるのみで、神奈川県では初記録である。また、カワゲラ目フサオナシカワゲラ属幼虫の後腸にも菌体が認められた。しかし菌体が若く種同定にはいたらなかった。今後時期を変えてさらに調査を行う必要がある。

糞生菌については、入生田においてタヌキ糞を採集し、湿室培養によって菌の発生を試みたが、接合菌は観察されなかった。菌類ボランティアによる過去の月例調査では、ウサギ糞の発見例もあるので、今後さらにこれら糞生菌の

調査を行っていききたい。

伊豆・小笠原弧における浅海性魚類の多様性解明

[研究担当者] 栗岩 薫

[研究内容]

本研究の目的は、日本周辺海域において数少ない海洋島環境である伊豆・小笠原弧上の島嶼群、伊豆諸島・豆南諸島・小笠原群島・火山列島について、(1) 網羅的サンプリングによる浅海性魚類相の作成から当該海域における浅海性魚類の種多様性を明らかにすること、および(2) ハタ科アカハタを用いた集団ゲノミクスによる遺伝的集団構造の形成史を明らかにすること、の二つであり、本年度は 3 年計画の 2 年目になる。

目的(1)については、昨年度に火山列島において採集した浅海性魚類(9 目 37 科 91 属 133 種・339 個体)の標本処理を完了し、これらのうち 3 目 15 科 15 属 25 種・36 個体を神奈川県立生命の星・地球博物館(以下、神奈川県博)に登録した。36 個体の火山列島各島における内訳は、北硫黄島産 18 個体・硫黄島 14 個体・南硫黄島 4 個体である。また、同海域において撮影した水中写真(9 目 44 科 108 属 202 種・930 点)を、神奈川県博の魚類写真資料データベースに登録した。本研究の最終年度には、火山列島における浅海性魚類相をまとめた論文を投稿予定である。

目的(2)については、伊豆・小笠原弧上の島嶼群で採集したハタ科アカハタ 495 個体を用い、mtDNA の Cyt b 遺伝子~調節領域の約 2.1 kbp および核 DNA マイクロサテライト 11 座位について集団遺伝学的解析を行った。より詳細な集団構造およびその形成史を解明するために、最終年度に次世代シーケンサーを用いた集団ゲノミクス解析を行う予定である。

瀬戸内海周辺のサヌキトイドの蛍光 X 線分析値から見た判別群

[研究担当者] 高橋 豊

[研究内容]

瀬戸内火山帯には、サヌキトイドと総称される特異な火山岩がみられる。これらは比較的斑晶鉱物に乏しく、多くの場合 10%以下で斜長石の斑晶を欠き、その外観は白い風化面と新鮮な黒色緻密なめんをみせ、鋭利な断口を示す火山岩で、サヌキトイドと総称される。

これらの火山岩は 1,300 万年前、新生代中新世の噴出と考えられている。高マグネシア安山岩(HMA)はその高い MgO と SiO₂ 含有量を反映して、MgO に富む斜方輝石(古銅輝石)が多い。Naumann(1885)はこの緻密でガラス質の安山岩の存在、瀬戸内の火山岩の特異性に気づいていた。その後 Koto(1916)によって、古銅輝石によって特徴づけられる瀬戸内の火山岩をサヌキトイド(sanukitoid)と総称した。

サヌキトイドは、近畿一四国一九州を貫く中央構造線の

北側に、平行に帯状に分布する。

一般に火山岩の MgO は SiO₂ の増加に伴って減少するが、高マグネシア安山岩は SiO₂ 量 (55~60 重量%) の安山岩相当だが、玄武岩以上の MgO 量 (6~20 重量%) を示している、玄武岩の平均値 (6~20%) 以上の MgO 含有量をみせる安山岩 (> 53% SiO₂) は高マグネシア安山岩 HMA と呼ばれる。

サヌキトイドこそ踏査を続けてきた岩体で、このサヌキトイドについて、2018 年度で踏査の区切りをつけ、2019 年度の蛍光 X 線分析による全岩化学組成の測定・分析値の統計処理等を行い、サヌキトイドが存在する意味を問うことを研究対象としたい。

神奈川県産不完全菌類の分類学的研究

〔研究担当者〕 杉本 泉

〔研究内容〕

本研究の対象地として、月例で菌類観察を行なっている神奈川県内の 2 地域 (小田原市入生田、横浜市瀬谷区周辺) では、これまでに様々な不完全菌類 (無性世代の菌類の総称) が見つかっている。

2018 年 4 月から 2019 年 3 月までの 1 年間で、小田原市入生田において 15 回、横浜市瀬谷区周辺で 11 回、これ以外の神奈川県内で 5 回、野外観察を行ない合計 150 点の不完全菌類を採集した。分生子果・剛毛・分生子柄の有無と

形態、分生子形成細胞・分生子の形態を観察し、写真撮影やスケッチによる記録を行なった。その結果、形態観察により同定できた分類群は以下の 28 属であった。一方、属まで同定できなかった試料も多く、属まで特定できた標本は全体のおよそ 31% に留まった。

Acrospermum, *Aegerita*, *Alternaria*, *Cladosporium*, *Codinaea*, *Costantinella*, *Dendryphiopsis*, *Dictyosporium*, *Exochalara*, *Fusarium*, *Fusicladium*, *Globoconidium*, *Helicosporium*, *Helminthosporium*, *Melanographium*, *Nodulisporium*, *Penicillium*, *Periconia*, *Peyronelia*, *Pleurothecium*, *Spinulosporea*, *Sporidesmium*, *Stachybotrys*, *Thielaviopsis*, *Trichoderma*, *Tripodospermum*, *Tubercularia*, *Uvarispora*

これらのうち、*Cladosporium*, *Nodulisporium*, *Periconia*, *Penicillium*, *Stachybotrys*, *Tubercularia* は複数の観察地において 3 回以上見られた。また、昨年に引き続き、11~12 月頃には剛毛の多い糸状不完全菌類が見られ、ドングリ殻斗上に発生した *Codinaea* が採集された。8 月末から 3 月末まで発生している *Uvarispora* sp. は様々な方法で分離したが発芽させることができなかった。今後は引き続き県内で採集・観察を行ない不完全菌類相を調査して標本を当博物館に登録してゆく予定である。

4.2. 研究成果 (外部資金助成等・共同研究等)

地球を理解するための岩石観察プログラムの開発

〔助成金の種類〕 日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究 (C)

〔課題番号〕 16K01053

〔研究期間〕 平成 28~30 年度

〔研究組織〕 山下浩之 (研究代表者)・川手新一・山口珠美 (研究協力者)

〔研究内容〕

岩石プレパラートの観察は、岩石を科学的に理解し、そこから固体地球を理解するための基礎となる有効な手段である。しかし、岩石プレパラートの作成には特殊な機器を要すること、観察するための偏光顕微鏡は、公立の学校には設置されていないこと、岩石プレパラートを観察する知識がないことなど、様々な問題点がある。そこで、我々のグループは、安価で簡単な岩石プレパラート作成方法の開発、偏光顕微鏡を用いない観察方法、岩石プレパラートの観察講座を開催することで問題点の解決を模索した。

安価で簡単な岩石プレパラート作成プログラムの開発は、岩石カッターやグラインダーなどは使用せずに、岩石をハンマーで小割し、石片を作製。各粒度の紙やすりで研磨し、二液混合型のエポキシを用いてホットプレート上でスライドガラスに貼りつけ、二次切断は行わずに、再び紙やすりで研磨し仕上げるプログラムをつくった。所要時間は概ね

1 時間から 2 時間 30 分程度で完成させる。

偏光顕微鏡を用いない岩石プレパラートの観察は、紙コップに偏光板を貼りつけて覗くものから、偏光板と顕微鏡モードを備えたデジタルカメラでの観察、透過ポジフィルが使用可能なスキャナーに偏光板を組み合わせたものの観察、スライド映写機に偏光板を組み込んで投影する方法、生物顕微鏡に偏光板を組み込んで観察する方法など、いくつかの方法を模索し実践した。

これらを基に、総計 12 回の講座を実施した。内容は時間と対象により、岩石プレパラートの作成、偏光顕微鏡を用いない岩石プレパラート観察、既存の岩石プレパラートを使用して造岩鉱物の観察を行うものまでを組み合わせた。講座終了時にはアンケート調査を実施し、理解度と感想を聞き取った。参加者からは、岩石プレパラートの観察により、岩石に対する理解度が深まったことが大多数の意見として得られた。特に教員からの評価が非常に高かった。なお、本研究の成果は、当館発行の「神奈川県立博物館研究報告 (自然科学) 48 号」および、「自然科学のとびら」vol. 25, No. 1」で報告した。

博物館体験の向上をめざす展示解説手法の研究ー自然史博物館でおこなう UXD の試みー

〔助成金の種類〕 日本学術振興会科学研究費補助金基盤研

究 (C)

〔課題番号〕 16K01206

〔研究期間〕 平成28～30年度

〔研究組織〕 大島光春 (研究代表者)・田口公則・加藤ゆき・石浜佐栄子 (研究分担者)

〔研究内容〕

一般に博物館では、展示物と見学者の関係を理解することが永遠の課題の一つである。本研究では、展示ラベルや解説を展示標本の UI としてとらえ、さまざまな来館者それぞれに最適な UI が何かを研究し、その博物館での体験を UXD という概念で構築し、提供することを試みた。

始めに博物館 (美術館・水族館・動物園を含む) に於ける情報提供について、欧州 20 館・園および国内約 50 館・園の視察・実態調査を行った。調査の項目は博物館の主な対象者、ラベルとパネルの大きさ、文字の大きさと字数、外国語対応の有無や言語の種類、音声ガイドの有無、展示の特徴などである。そのデータや経験を元にして、当館内で 2 つの試みを行った。

1. 多層立体展示解説

2017 年 7～11 月に開催した当館の特別展「地球を『はぎ取る』」では、一般市民の「地層」に対する地味な印象、「はぎ取り標本」の認知度の低さ、内容の理解の難しさなどが予測された。そのため、展示では調査の現場を博物館内で再現し、来館者が体験できるようデザインした。解説には 1 つの展示物に対して最大で 8 要素を組み合わせた立体的な手法を試みた。①章のタイトル、②節のタイトル+1 コマ漫画+100 字解説+露頭写真、③標本名+100 字解説+写真+五七五の表現、④デジタルフォトフレームの動画、⑤スケッチ+属性データ、⑥キャラクターによる会話的解説、⑦実験・体験的展示、⑧実物標本・模型による補足である。アンケート調査では、解説のわかりやすさについて高評価だった一方、より詳しい解説を求める意見もあった。

2. 「被写体認識基盤サービス」を利用した展示解説の実証実験

2018 年 10～11 月に NEC ネクサソリューションズ (株) の「被写体認識基盤サービス」を利用してタブレットで展示解説を提供する実証実験を行った。来館者は、タブレット端末 (個人のスマートフォンでも利用可) を用いて、関心を持った標本に向けて自ら撮影ボタンを押し、その標本に関する詳細な情報 (文字、画像、動画、クイズなど) を WEB から引き出すという体験をすることができる。これは能動的な行為であり、従来のそこにあるラベルを読むという受動的な展示見学体とは異なると評価している。12 月 23 日には当館で全日本博物館学会 博物館教育研究会「シャッターボタンが展示情報をつなげる」を開催し、実験の趣旨が説明された。博物館関係者にも体験の機会を提供した。そこではタブレットの画面に意識が集中してしまうという課題と、WEB の情報提供の仕方やレベルをどのようにするべきかなどについて議論が行われた。

伊豆諸島の地下生菌はいつ、どこからやってきたのか—海洋島の大型菌類の多様性解明と保全に向けた基礎的研究

〔助成金の種類〕 プロ・ナトゥーラ・ファン

〔研究期間〕 平成 28～30 年度

〔研究組織〕 島嶼菌類研究グループ (折原貴道 (研究代表者)・山本航平・大場由美子・阿部晴恵 (研究分担者))

〔研究内容〕

トリュフ類やショウロなどに代表される地下生菌は、きのこ (大型の子実体) を形成する菌類のさまざまな系統にわたって収斂的に進化している菌群である。地下生菌は子実体内部の胞子を自力で散布できず、主に小動物に摂食により胞子を広域散布していると考えられている。そのため、伊豆諸島などの海洋島への分散には不向きな形態と考えられるが、実際には、伊豆諸島の森林にも複数種分布している。本研究では、伊豆諸島の森林 (主にスダジイ林) における地下生菌の多様性を明らかにし、それらがいつ、どこから、どのように伊豆諸島へ分布を広げたのかを探るとともに、それらの種組成や遺伝的多様性から、伊豆諸島の森林の特殊性を評価することを目標とした。

野外調査は伊豆諸島 (大島、神津島、三宅島、御蔵島、八丈島) において複数回実施したほか、伊豆諸島に地理的に近い地域 (伊豆半島、関東地方) や国内の他地域での比較調査も実施した。

得られた標本から形態学的データおよび核 DNA 複数領域の塩基配列を得た。その結果、伊豆諸島から合計 12 属 22 種の地下生子菌・担子菌類が確認された。それらの種について他地域産標本との遺伝的分化の比較を行ったところ、供試したすべての種について、明瞭な遺伝的分化が確認されなかった。中には北琉球など地理的に離れたサンプルと遺伝的に近似しているものもあり、これらの地下生菌は、比較的近年に複数地域から広域分散により伊豆諸島に分布を広げた可能性が示唆された。

昭和期に記載された稀産シクエストレート菌の実体解明と保全対策の再検討

〔助成金の種類〕 発酵研究所 一般研究助成

〔研究期間〕 平成 29～30 年度

〔研究組織〕 折原貴道 (研究代表者)・山本航平・大前宗之

〔研究内容〕

トリュフ類やショウロのように、子実体 (きのこ) が外皮に覆われたまま成熟し、自力での胞子散布ができないシクエストレート菌 (地下生菌) は、担子菌類や子囊菌類の多岐にわたる系統から平行進化してきたことが知られている。日本におけるシクエストレート菌の基礎的研究は近年急速に進展しており、その高い多様性は世界的にも注目を集めている。しかし、昭和期に今井三子 (1900～1976)、小林義雄 (1907～1993)、吉見昭一 (1928～2003) などの菌学者により散発的に記載された種については、実体が不明なままであるものが多く残されている。

本研究では、これら過去に記載された「幻」の菌の実体を明らかにし、国内のシクエストレート菌の分類学的基盤を構築することを目的とした。さらに、実体が明確でないまま希少種・絶滅種とされてきた菌について、保全に資する基礎的知見を集積することを目指した。

本研究を進めるにあたり、昭和期に今井三子、小林義雄、南方熊楠らの菌類研究者により記載もしくは記録されたシクエストレート菌について、過去の記録産地での野外調査やハーバリウムにおける標本調査を実施した。得られた標本の分類学的再検討を行うとともに、一部については核リボソーム RNA 遺伝子などの領域に基づく分子系統学的検討も行った。

その結果、長年所在不明であった、国内絶滅種とされているスナタマゴタケ *Chlorophyllum agaricoides* の国内唯一の標本の再発見や、同じく絶滅種とされるハハシマアコウショウロ *Circulocolumella hahashimansis* の実体解明に繋がる形態学的新知見、ハーバリウム調査における今井三子博士・小林義雄博士記載の多数の地下生菌標本の再発見、クロツチダンゴと思われる菌の再発見、原画・標本資料に基づく、熊楠が記録した菌の実体解明、オオショウロの実体解明、さらに、これまで「ニカワショウロ」として認知されていた菌が実は未知系統の菌であったことなど、これまで見過ごされてきた多数の菌の基礎的知見の集積に繋がった。研究成果は日本地下生菌研究会会報『Truffology』をはじめとする学術誌や日本菌学会、同関東支部、日本地下生菌研究会等の大会での発表等を通じて公表した。

博物館標本の変異解析に基づいた哺乳類の多様性を学習するための教材の開発

〔助成金の種類〕 笹川科学研究助成

〔課題番号〕 2018-8017

〔研究期間〕 平成 30 年度

〔研究組織〕 鈴木 聡

〔研究内容〕

当館では、これまでに哺乳類の骨標本が約 2,000 点収集され、調査研究や展示を含む教育普及活動など様々な博物館活動に活用されてきた。調査研究と教育普及を密接に連動させた標本の活用方法として、哺乳類標本の計測を行い、統計学的手法を用いて骨格の年齢や種などによる違いを記載し、それらのデータを基にして学校教材として利用可能なレプリカ・模型を作製し、それらを用いた学習プログラムを開発することを目指して、本研究を実施した。

本研究で扱った哺乳類の「共通性」と「多様性」に関する形態的指標となる「成長」「変異」に関しては、個々の種や目または科レベルいずれについても、すでに学術論文等で発表されている利用可能なデータは極めて限られている。そこで、まず基礎的データの収集と解析を行った。種内の変異および成長については、当館に多数の標本が収蔵されている神奈川県産のタヌキおよびニホンザルの頭骨標本を

用いて、大きさと形の関係および年齢変化に伴う形状の変化を解析した。種間レベルの変異については、ネコ科の頭骨における大きさと形の関係および多様な系統に属する哺乳類の大腿骨の形状について検討した。

学習プログラムの作成のために、計測・解析により得られたデータを参考にして、大きさの異なる近縁な哺乳類の種の頭骨を数点選び、3D モデルを作成し、3D プリンターを用いて最大長を同じ長さに揃えた拡大・縮小模型を作製した。計測・解析データ、実物標本、拡大・縮小模型を使用して、学習プログラム作成のための講座や展示における試行を行うことにより、プログラムの実行可能性や有効性について検討した。これらの実践に基づき、対象に応じて異なる内容のプログラムを作成した。

オープンサイエンスを拓く新しい自然史情報発信の実践的研究～地域植物誌の標本を軸に

〔助成金の種類〕 全国科学博物館活動等助成事業

〔課題番号〕 18010

〔研究期間〕 平成 30 年度

〔研究組織〕 大西 亘（研究代表者）・折原貴道（研究協力者）

〔研究内容〕

生命の星・地球博物館（以下、当館と呼称）及び前身の県立博物館が過去約 40 年間にわたって関わってきた地域植物誌『神奈川県植物誌』調査に関わる活動を、地域自然史情報に関するオープンサイエンスの事例として体系化してまとめ、展示としての発信を実施するとともに、他地域や他博物館等での参考となる形で、これらの活動の具体的な手法やノウハウを「地域植物誌マニュアル」の形で製作・刊行することを目指した。具体的には、当館の平成 31 年度夏季特別展示「植物誌をつくろう！ ～神奈川県植物誌のこれまでとこれから～」の展示において、「地方植物誌におけるオープンサイエンスの体系化と展示」を実現した。特に、本邦で最も古くその起源を 17 世紀に遡る県内産の植物標本や『神奈川県植物誌』調査に由来する県内博物館収蔵標本の情報が、オープンデータとしてインターネットを通じて社会に広く公開提供されていることの紹介、市民団体である「神奈川県植物誌調査会」によって調査・編纂されている『神奈川県植物誌』のシチズンサイエンスとしての側面の紹介、は神奈川県地域独自の取り組みであり、他地域では実現しえない内容かつ、過去の展示や発表機会では取り上げられなかった視点として、全国的にもユニークな内容を発信することができた。これにより同展示を、博物館における「収集・保管」「調査・研究」「教育・普及」の役割の理解とともに、博物館が果たすオープンサイエンスの役割について、一定の普及の機会とすることができた。同時に特別展展示図録には、「地域植物誌マニュアル」となる内容を収録した。地域植物誌として刊行されるまでの野外調査、標本作製と整理、標本調査、執筆と編纂、全体のマ

ネジメントまでを記述した。同図録については、当館のミュージアムショップで販売するとともに、県内の図書館・博物館、全国の博物館や自然環境系施設等に配布し、すでに各施設等の学芸員・職員及び利用者らによって、博物館が果たすオープンサイエンスの役割の理解に結び付く資料として活用されている。事業計画段階では、地方植物誌におけるオープンサイエンスの取組みを共有し、問題提起と課題整理を目的としたシンポジウムを実施する予定であったが、事業計画の一部を変更し、「オープンサイエンスの取組みを紹介するための展示用パッケージの作成」を実施し、あわせて県内各地の社会教育施設等において、関連展示を実施した。

5. 施設概要

5.1. 土地・建物

〔土地概要〕

	本館	連絡橋EV棟
所在地	小田原市入生田499番地	
敷地面積	22,460.90㎡	153.60㎡
現況	国道1号線と早川とはさまれ、交通の便、自然環境ともに恵まれた位置	

〔建物概要〕

	本館	連絡橋EV棟
構造	鉄骨鉄筋コンクリート造り	鉄筋コンクリート造り
規模	地下1階地上4階建て	地上2階建て
建築面積	8,218.11㎡	30.97㎡
延床面積	19,020.14㎡	43.86㎡
最高高さ	23.25m	

〔各階別面積〕

	面積	主要室
地下1階	5,852.14㎡	駐車場・機械室等
1階	7,427.00㎡	エントランスホール・ミュージアムシアター・常設展示室・特別展示室・収蔵庫・講義室等
2階	2,166.00㎡	ミュージアムライブラリー・事務部門等
3階	3,017.00㎡	常設展示室・ジャンボブック展示室・レストラン・実習実験室等
4階	506.00㎡	機械室等
塔屋	52.00㎡	
合計	19,020.14㎡	

〔用途別面積〕（本館）

エントランススペース	984.00㎡
展示スペース	5,075.00㎡
学習スペース	867.00㎡
収蔵スペース	1,433.00㎡
研究スペース	804.00㎡
管理・その他	5,057.00㎡
地下駐車場	4,800.14㎡
合計	19,020.14㎡

〔建物仕上げ〕外部（本館）

外部仕上げ	
屋根	(勾配屋根) カラーステンレス (陸屋根) アスファルト防水下地押えコンクリート
外壁	御影石ジェットバーナー仕上げ・二丁掛け磁器質タイル及びカラーアルミタイル張り
建具	カラーアルミサッシ・ステンレスサッシ・スチールサッシ

〔建物仕上げ〕内部（本館・主な箇所のみ）

エントランスホール	
床	御影石ジェットバーナー仕上げパターン張り
壁	大理石本磨き及びカラーアルミパネル張り
天井	カラーアルミ吸音パネル
展示室	
床	カーペットタイル敷
壁	P B 下地ガラスクロス E P
天井	メッシュ天井
シアター	
床	カーペットタイル敷
壁	銘木練付け C L 及び有孔ケイカル板張り
天井	繊維強化石膏ボード貼り
収蔵庫	
床	コンクリート金ゴテ下地エポキシ樹脂塗り
壁	コンクリート下地吹きつけコート
天井	デッキプレート O P

〔設計・施工〕（本館）

設計	
建築	(株)国設計
設備	(株)国設計
展示	(株)丹青社
造成	中野設計工務(株)
施工監理	
建築	(株)国設計
設備	(株)国設計
展示	(株)日本科学技術振興財団
造成	中野設計工務(株)
施工	
建築	清水・小田急・渡辺・田中特定建設工事共同企業体
電気	東芝プラント・安部・増子特定建設工事共同企業体
空調	トーヨー理研・ナミレイ・新陽特定建設工事共同企業体
衛生	ダイセツ・トウカイ特定建設工事共同企業体
昇降	(株)日立製作所
展示	(株)丹青社
造成	(株)杉山組・(株)若林組・箱根建設(株)・(株)加藤組 (株)吉沢組・日本鋼管工事(株)・(株)秋山組
外構	土谷建設(株)・(有)菊原建設
植栽	(株)加藤造園・(有)深谷造園・栄立造園土木 緑栄造園土木特定建設工事共同企業体
工事期間	
建築工事	平成4年10月10日～平成6年12月20日
展示工事	平成4年10月10日～平成7年3月1日

〔設計・施工〕（連絡橋EV棟）

設計・施工	中野設計工務(株)
建築	内田建設(株)
電気	(有)昭栄社
昇降機	日本オーチスエレベーター(株)

5.2. 設備

5.2.1. 一般設備

〔電気設備〕		〔昇降機設備〕	
受配電設備	受電電圧 3相3線式 6.6kV 50Hz 変圧器容量 2,175kVA (乾式モールド形) 進相コンデンサ 327kvar 高圧母線 5系統 低圧幹線 102系統	1号機 乗用 (展望用車椅子仕様) B1F, 1F, 2F, 3F 停止 13人乗り 45 m/min (ロープ式) 2号機 乗用 (車椅子仕様) B1F, 1F, 3F 停止 11人乗り 60 m/min (油圧式) 3号機 乗用 (車椅子仕様) 1F, 3F 停止 11人乗り 60 m/min (油圧式) 4号機 荷物用 1F, 2F, 3F 停止 3,000 kg 30 m/min (油圧式) 連絡橋 乗用 (車椅子仕様) 1F, 2F 停止 11人乗り 45 m/min (油圧式) エスカレーター (1200型・車椅子兼用) 1F～3F 30 m/min (電動式)	
自家発電設備	原動機 ガスタービンエンジン 360PS (48,738rpm) 発電機 ブラシなし交流発電機 300kVA Pф0.8 (1,500rpm) 起動方式 直流電動機起動式	〔防災設備〕	
太陽光発電設備	出力電気方式 三相3線式 210V 公称出力 7.5KW システム構成 システム連携型	自動火災報知設備 受信機 P型1級 70回線 防災連動制御盤 40回線 熱感知器・煙感知器 一式	
蓄電池設備	種類 シール形ポケット式アルカリ電池 公称電圧 103.2V (86セル) 容量 350Ah (5時間率) 用途 受配電機器操作用・非常灯用	消火設備 屋内消火栓 40箇所 屋内消火ポンプユニット 140ℓ/min 1台 屋外消火栓 6箇所 屋外消火ポンプユニット 700ℓ/min 1台 泡消火設備 (地下1階駐車場) 薬剤量 600ℓ, 泡ヘッド 696個 泡消化ポンプユニット 1,120ℓ/min 1台 移動式粉末消火器 (駐車場他) 9台 連結散水設備 (地下1階部分) ヘッド数 12個 誘導灯設備 (避難口・通路・階段) 165台 ガス漏れ警報器 検知器12個 受信機1台	
電話設備	交換機 デジタル交換機 局線 6回線 (12回線実装) 内線 120回線 (144回線実装)	非常用・業務用放送設備 (非常用電源内蔵) 電力増幅器 360W 2台 電力増幅器 240W 1台 スピーカー 232個	
電気時計設備	親時計 水晶発振式 (出力2回線) 子時計 アナログ式 29台 デジタル式 5台	排煙設備 排煙機 (廊下系統) 15,800m ³ /h 1台 排煙機 (一般系統) 38,000m ³ /h 1台	
駐車場管理設備	地下駐車場の満・空車表示一式	ITV設備 本館監視用 固定カメラ 8台 可動カメラ 8台 モニターテレビ 19型4台×2箇所 連絡橋EV監視用 固定カメラ 3台 モニターテレビ 19型3台×2箇所	
その他	身障者警報呼出表示装置・避雷針設備 インターホン設備・テレビ共聴設備	〔その他の設備〕	
〔空調設備〕		自動扉設備 エントランスホール等の出入口に設置 8台 自動散水設備 (人工地盤植栽部分の灌水用) 東側前庭 8系統・3階テラス11系統 カスケード設備 (人工滝) 間口 24m 高さ3m 水量 2.5m ³ /min 照明付き	
空調方式	中央式 定風量 (CAV) 単一ダクト方式 中央式 各階ゾーンユニット方式+2管式 FCユニット併用方式 パッケージ式個別空調方式 (特殊用途室)		
熱源機器	ガス吸収冷温水機 200RT 3台		
空調機等	ユニット型空調機 16台 ファンコイルユニット 53台 ビルマルチエアコン 37台 パッケージエアコン 11組		
換気設備	第1種及び第3種 給気ファン7台 排気ファン44台		
自動制御設備	中央監視装置一式		
〔衛生設備〕			
受水槽	75 t		
雨水槽	300 t		
中水槽	28 t		
中水処理装置	5t/h 1台 (上水用)		
加圧給水ポンプユニット	540ℓ/min 1組 (中水用)		
加圧給水ポンプユニット	1,470ℓ/min 1組		
汚水ポンプ	300ℓ/min 2台		
雑排水ポンプ	300ℓ/min 2台		
雨水ポンプ	1,000ℓ/min 6台		
雨水ポンプ	200ℓ/min 2台		
湧水ポンプ	200ℓ/min 2台		
〔ガス設備〕			
地下1階に都市ガス (I3A) を引き込み、ガス吸収冷温、レストラン、ともしびショップ等に供給			

5.2.2. 研究設備

【大型標本製作室】		
品名	型番（メーカー）	数量
ロックトリマー（岩石粉碎機）	(IWAMOTO)	1台
ジョークラッシャー（岩石粉碎機）	2002-EX（吉田製作所）	1台
大型岩石カッター（自動送り）	SC-14（ニチカ）	2台
中型岩石カッター	MC-442（マルトー）	1台
小型岩石カッター	MC-100（マルトー）	1台
旋盤	FS450A（TOYOAS）	1台
超音波洗浄器	B-62（Brainson）	1台
ふるい震とう器	NVS-200（C.M.T.）	1台
岩石研磨回転台	RP-5（マルトー）	2台
卓上帯のこ台	(PROXXON)	1台
遊星ボッド型ボールミル	LA-P04（伊藤製作所）	1台
解剖台		1台
【標本製作室】		
品名	型番（メーカー）	数量
マイクロカッター	MC-201（マルトー）	1台
自動メノウ乳鉢	（日本地科学社）	1台
撮影装置付き偏光顕微鏡	Optiphot2-Pol（ニコン）	1式
撮影装置付き双眼実体顕微鏡	SZH-10（オリンパス）	1台
プレパラップ（岩石薄片作成装置）	MG-300（マルトー）	1台
プラノボール（精密研磨台）	Planopol-V（Struers）	1台
ディスコプラン（岩石切断研磨装置）	Discoplan-TS（Struers）	1式
ポバク（岩石試料作成用真空装置）	Epovac（Struers）	1式
真空装置	G-50S（真空機工）	1式
自動染色装置	DRS-601（サクラ精機）	1台
ミクロトーム	HM340（カルツァイス）	1台
パラフィン伸展器	PS-52（サクラ精機）	1台
パラフィン溶融機	（アルプ）	1台
荷重計測器	FGS-50V-L（日本電産シンボ）	1式
デジタルフォースゲージ	FGX-R20, FGC-10（日本電産シンボ）	2台
デジタルマイクロスコープ	VHX-900（キーエンス）	1台
透過型/反射式微分干渉顕微鏡	BX50-33-DIC, BX51（オリンパス）	2台
位相差顕微鏡	BX50-33-PHD（オリンパス）	1台
実体顕微鏡	SZX12（オリンパス）	1台
実体顕微鏡	SZ61-1（オリンパス）	5台
デジタル顕微鏡撮影装置	DP-12（オリンパス）	1台
実体顕微鏡および描画装置セット	SMZ-10A（ニコン）	1式
ツルグレン装置	B-1（伊原電子工業）	1台
植物標本乾燥機	（入江製作所）	1台
燻蒸器	（特許理化興業）	1台
ドラフト	（ダルトン）	2台
ビデオマイクロスコープ	VMS-70（SCALAR）	1台
走査型電子顕微鏡	TM4000Plus（日立ハイテクノロジーズ）	1台
【化学分析室】		
品名	型番（メーカー）	数量
精密天秤	RC210P（Sartorius）	1台
化学天秤	LaboratoryLC4200S（Sartorius）	1台
免震台		2台
全自動蒸留水製造装置	GSR-200（Advantec）	1台
ビードサンブラー	NT-2100（東京科学）	1式
ピストンポンプ型高圧発生装置	A1型（トライエン지니어リング）	1式
マッフル炉	STR-11K（ISUZU 製作所）	1台
乾燥機（DryOven）	ANS-111S（ISUZU 製作所）	1台
超音波洗浄器	UT53N（SHARP）	1台
エアコンプレッサー	PA800S（日立製作所）	1台
電気泳動装置	Bio-Rad 他	1式
サブマリン型電気泳動装置	Mupid-exU（アドバンス）	1式
凍結乾燥機	VD-31 他（TAITEC 他）	1式
限外濾過器	XX80（MILLIPORE）	1台
HPLC 装置	PU-980 他（日本分光）	1式
吸光度計	MPR・4Ai（TOSOH）	1台
アルミブロック恒温槽	DTU-1B（TAITEC）	1台
冷蔵庫	SMR-120YAG（SANYO）	1台
遠心分離機	CFS-300, CFA-12（IWAKI）	2台
マルチポイントスターラー	F-6A（TAITEC）	1台
ディープフリーザー	BFH-110（ESPEC）	1台
オートクレーブ	LBS-245（トミー精工）	1台
ポータブルクリーンベンチ	APC4型（iuchi）	1台
乾熱滅菌器	DS-450（iuchi）	1台
サーマルサイ클ラー	TC-96GHbA（日本ジェネティクス）	1台
ドラフト	（ダルトン）	1台

【冷凍乾燥室】		
品名	型番（メーカー）	数量
大型冷蔵庫	ERA-Z30B	1台
中型冷蔵庫	RS-5203（日立フリーザー）	1台
インキュベーター	PCI-301（ASONE）	3台
凍結乾燥機	RLE II（KYOWAC）	1台
【試料分析室】		
品名	型番（メーカー）	数量
蛍光 X 線分析装置	Primus II（リガク）	1式
試料固結装置（BriquettingMachine）	MP-35（島津製作所）	1台
金蒸着装置	JFC-1200（日本電子）	1台
臨界点乾燥装置	JCPD-5（日本電子）	1台
炭素蒸着装置	SC-701C（サンヨー）	1台
一眼レフデジタルカメラ（ボディ）	D70（ニコン）	1台
デジタルプロジェクター	V-1100Z（ブラス）	1台
【写真室】		
品名	型番（メーカー）	数量
撮影装置付き偏光顕微鏡	Optiphot2-Pol（ニコン）	1式
軟 X 線非破壊検査装置	CMB-2（ソフテックス）	1台
中判カメラ	MamiyaRB67（マミヤ）	1式
カラー撮影用照明	HMI-575（brnccolor）	2台
マクロ撮影装置	（オリンパス）	1式
一眼レフカメラ	F70, F90（ニコン）	2台
レンズ用デシケーター		2台
紫外線撮影用レンズ	UV-Nikkor（ニコン）	1台
デジタル一眼レフカメラ	D1X（ニコン）	1式
フィルム用冷蔵庫	MR-18-H（三菱電機）	1台
暗室用具		1式
【化石ラボ】		
品名	型番（メーカー）	数量
コンプレッサー	（日立製作所）	1台
サンドブラスター	CH-4000（WULSUG）	1台
エアスクライパー（小型削岩機）	CP9361 他（ChicagoPneumatic 他）	4台
デンティストドリル	（Sverital）	2台
実体顕微鏡（エプーサススタンド付き）	SMZ-2B（ニコン）	2台
集塵機	VF-5（AMANO）	2台
【実習実験室】		
品名	型番（メーカー）	数量
実習・研究用生物顕微鏡	CHT（オリンパス）	15台
偏光顕微鏡	LABOPHOTO 2-POL（ニコン）	7台
実習用実体顕微鏡	SZ40（オリンパス）	24台
透過型落射光顕微鏡	BX60F（オリンパス）	2台
ツルグレン装置		1台
エアサンブラー	LV-100（横河電機）	1台
【収蔵庫】		
品名	型番（メーカー）	数量
電気炉	MAX1200℃（石塚電気製作所）	1台
電気炉	MAX1500℃（石塚電気製作所）	1台
ボルトスライダー（トランス）	S-260-20(200V)（YamabishiElectric）	1台
ボルトスライダー（トランス）	S-260-50(200V)（YamabishiElectric）	1台
パワーコントローラー	（石塚電気製作所）	1式
パワーコントローラー	MODEL-S（Uチノー）	1式
ロックトリマー（改）	A型（IWAMOTO）	1台
実体顕微鏡	SZH10（オリンパス）	1台
測微計測装置		1台
【学芸部】		
品名	型番（メーカー）	数量
夜間暗視スコープ	M-994（LittonElectricDevices）	1式
テレメトリー受信機	RX900（TELEVILT）	1台
テレメトリー受信機	FI-290MkII（ヤエス）	2台
実体顕微鏡	SZH10（オリンパス）	2台
実体顕微鏡	SMZ-10A（ニコン）	2台
実体顕微鏡	SZ61-1（オリンパス）	1台
実体顕微鏡	ファールブルフォト EX（ニコン）	1台
【その他】		
品名	型番（メーカー）	数量
水中撮影写真機材	（ニコン/アンティス）	1式
骨格標本作成槽		1式
大型脊椎動物骨格標本作成用砂場		1式
携帯型 GPS	FG-0210（エンベックス）	3台
大型体重計	TRU・TESTSR2000（フジヤ商会）	1式

5.3. 面積表

〔エントランススペース〕

室名	面積 (㎡)
エントランスホール	782
(救護室)	(15)
(幼児室)	(13)
(ミュージアムショップ)	(26)
(ともしびショップ)	(35)
(ロッカー室)	(17)
レストラン	202
小計	984

〔展示スペース〕

室名	面積 (㎡)
ミュージアムシアター	467
1階総合展示室	2,348
(化石ラボラトリー)	(32)
3階総合展示室	1,245
(CPUルーム)	(93)
ジャンボブック展示室	581
(ジャンボブック編集室)	(45)
特別展示室	434
(準備室1)	(74)
(準備室2)	(44)
小計	5,075

〔学習スペース〕

室名	面積 (㎡)
講義室	306
(講師控室)	(16)
実習実験室	139
ミュージアムライブラリー	211
書庫	211
小計	867

〔研究スペース〕

室名	面積 (㎡)
学芸員室	246
共同研究室	39
試料分析室	74
化学分析室	44
(化学天秤室)	(5)
クリーンルーム (1)	12
クリーンルーム (2)	8
標本製作室	173
燻蒸室	11
乾燥室	9
昆虫標本製作室	17
冷凍乾燥室	39
大型標本製作室	72
液浸標本製作室	13
液浸標本準備室	13
写真室	18
準備室	16
小計	804

〔収蔵スペース〕

室名	面積 (㎡)
収蔵庫1	1,260
収蔵庫2	77
液浸標本収蔵庫	96
小計	1,433

〔管理スペース〕

室名	面積 (㎡)
館長室	47
第1会議室	42
第2会議室	42
管理課事務室	91
企画情報部事務室	83
ボランティア・友の会事務局室	34
学習指導員室	49
司書室	39
電話交換室	13
更衣室	13
警備員室	29
(簡易宿泊室)	(14)
湯沸室	11
総合案内員室	24
中央監視室	29
機械室・電気室等	1,824
倉庫	119
トイレ	332
搬入口スペース	70
その他 (廊下・階段等)	2,166
小計	5,057

〔地下駐車場〕

室名	面積 (㎡)
地下駐車場	4800.14
(清掃作業室)	(32)
(トイレ)	(59)
(機械室)	(34)
小計	4800.14

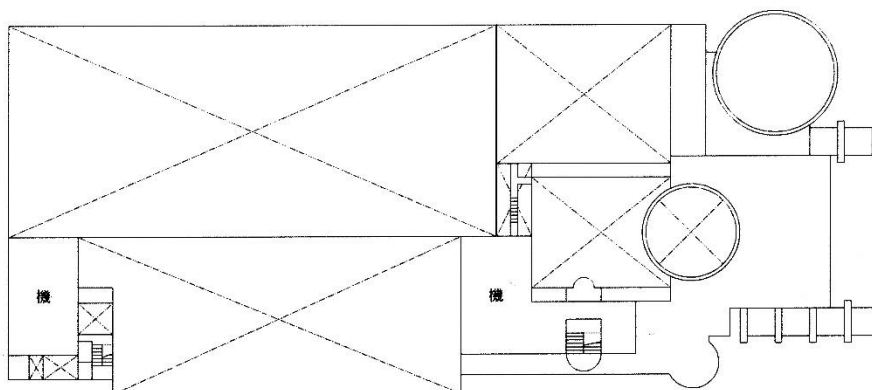
カッコ内の数字は内数

本館延床面積	19020.14 (㎡)
連絡橋EV棟	43.86 (㎡)
総延床面積	19064.00 (㎡)

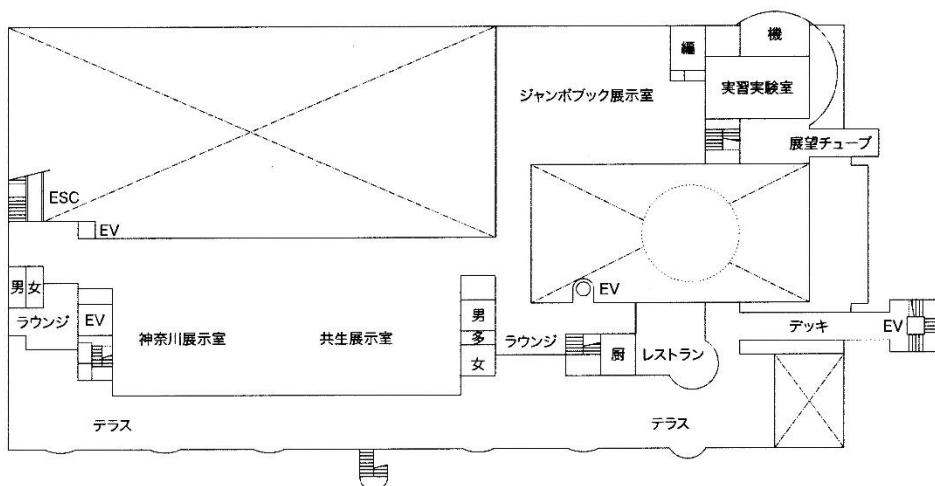
5.4. 平面図



4F

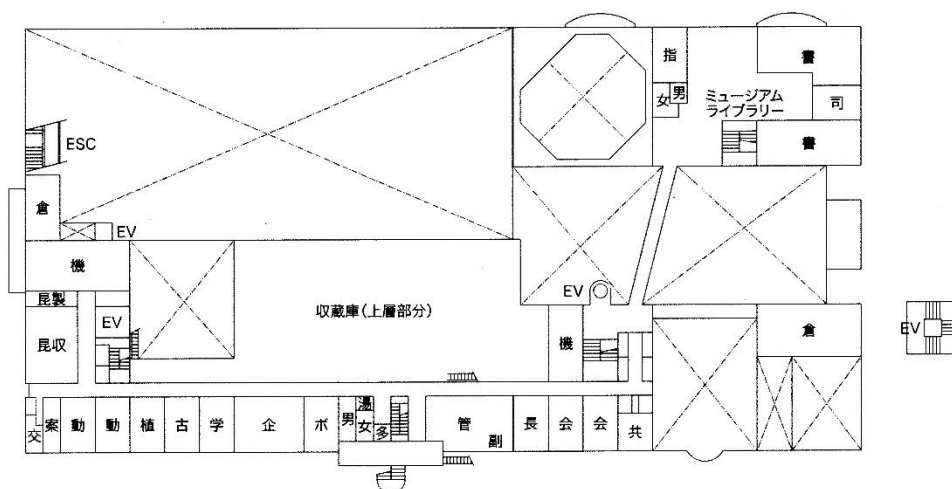


3F

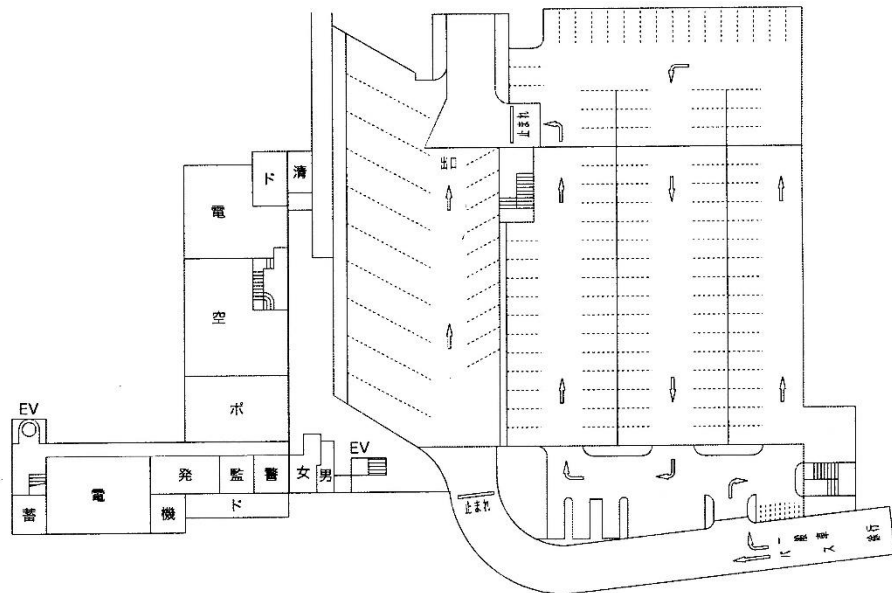


2F

61,000 (mm)



121,000 (mm)



略字	フロア	室名
乾	1	乾燥室
化	1	化学分析室
秤	1	秤量室
ク	1	クリーンルーム
試	1	試料分析室
写	1	写真室
暗	1	暗室
用	1	調査用具倉庫
準	1	準備室
警	B	警備員室
監	B	中央監視室
清	B	清掃作業員室
電	B	電気室
発	B	自家発電機室
蓄	B	蓄電池室
空	B	空調機械室
ボ	R	ポンプ室

神奈川県立生命の星・地球博物館年報 第24号(2018年度)

発行日	2019年6月28日
発行者	神奈川県立生命の星・地球博物館 館長 平田大二 〒250-0031 神奈川県小田原市入生田 499 電話 (0465)21-1515 FAX (0465)23-8846 http://nh.kanagawa-museum.jp/
印刷所	(株)あしがら印刷

編集担当	田村 哲 (管理課)・平賀保彦 (企画普及課)・樽 創 (学芸部)
------	-----------------------------------

Web版では8ページの「職員名簿」・48～55ページの「寄贈資料」について氏名を一部省略しています